クボタトラクタ

取扱説明書

KL

31Z·31ZH·34Z·34ZH
37Z·37ZH·40Z·40ZH
44Z·44ZH·48ZH·53ZH·58ZH

1AGACDAAP005A

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

K シリーズ

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	異常警告
	エンジン異常警告
	火気厳禁
	燃料（残量）
	アワーメータ （積算時間計）
	グロー
	バッテリ充電異常
	エンジンオイル圧力
	エンジン水温
	エンジン回転
	シートベルト
	メンテナンス
	ホーン
	ハザードランプ
	方向指示器

	ヘッドライト（下向）
	ヘッドライト（上向）
	駐車ブレーキ
	シャトル（前後進切換）
	高速又は高
	低速又は低
	３点リンク（上げ）
	３点リンク（下げ）
	作業灯（フロントサイド）
	作業灯（前）
	作業灯（後）
	ワイパ（前）
	ワイパ（後）

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。
なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は KL58ZH を基本とし，KL58ZH と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- エンジン出力（PS）によって ..... KL31Z (H) 仕様，KL34Z (H) 仕様
  KL37Z (H) 仕様，KL40Z (H) 仕様
  KL44Z (H) 仕様，KL48ZH 仕様
  KL53ZH 仕様，KL58ZH 仕様
- ミッション形式によって
  ノンクラッチトランスミッション ..... U シフト仕様
  ノンクラッチ高速トランスミッション ... U シフト〔ハイスピード(H)〕仕様
  無段変速トランスミッション ..... デュアルシフト仕様
  無段変速高速トランスミッション ..... デュアルシフト〔ハイスピード(H)〕仕様
- 安全キャブ付き ..... 安全キャブ仕様
- 安全フレーム付き ..... 安全フレーム仕様
- モンロ・オート付き ..... MA 仕様
- モンロ・オート／ドラフト付き ..... MAD 仕様
- パワクロ仕様 ..... PC 仕様（PC2：ハイラグ，PC3：幅狭）

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう，一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上，必要な情報の検索にご活用ください。

1. 目的目次　　困った事，知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。

2. 絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても，イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。

3. 索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば［エンジンオイルの交換のしかた］のページを調べたい場合，「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブ，安全フレームについて 1
運転前に 2
始動時に 3
運転時に 3
作業機使用時に 6
道路走行時に 7
駐車，格納時に 8
点検・給油・整備時に 8
パワクロ仕様の場合 11
運転時に 11
あゆみ板使用時に 12
表示ラベルと貼付け位置 13
表示ラベルの手入れ 18

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証 1
ご相談窓口 1
補修用部品の供給年限について 2
取扱説明書の収納 2
小型特殊自動車としての取扱い 4
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 4
運転免許 4
損害賠償保険について 4

運転のしかた

運転前の点検 5
エンジンの始動と停止 5
始動のしかた 6
停止のしかた 11
寒冷時の暖機運転 12
バッテリあがりの処置 12
ならし運転（最初の約 50 時間） 13
運転席周りの調節 13
シート 13
安全キャブ・安全フレームとシートベルト 14
チルトステアリングハンドル 15
バックミラー 16
灯火類の操作 16
ヘッドライトスイッチ 16
ウインカスイッチ 16
ハザードスイッチ 17
ホーンボタン 17
フロントサイド作業灯 17
バックランプ 18
ブレーキランプ 18
車幅灯・尾灯 18
外部電源取出端子 18
外部電源・信号取出端子 18
トレーラカプラ電源 19
発進・走行 19
発進・走行手順［デュアルシフト仕様］ 20
発進・走行手順［U シフト仕様］ 22
ブレーキペダル 24
クラッチペダル 24
主変速レバー 25
主変速レバー 25
副変速レバー 27
シャトルレバー 28
クリープレバー 28
走行モード切換スイッチ 29
アクセルレバーとアクセルペダル 31
駐車ブレーキ 31
停車・駐車 32
省エネ運転のしかた 33
メータパネル表示 33
省エネ運転操作 34
省エネ運転操作 35
省エネ運転操作 36
電子メータパネル 37
電子メータ 37
液晶表示 38
表示の切替え 41
電子メータメッセージのリセット法 42
電子メータパネル（その他表示） 43
メンテナンス表示 44
作業条件メモ 45
時刻合わせと表示・非表示の設定 45
運転中の作動確認 46
イージーチェッカ 46
燃料計 47
エンジン回転計 47
水温計 47
状況に応じた操作 48
デフロックの使い方 48
旋回のしかた 48
坂道での運転 48
ほ場への出入り時の注意 48
道路走行中の注意 49
トラックへの積み・降ろし 50
パワーステアリングの取扱い 51
パワクロ仕様の運転のしかた 52
ローダ作業 53

作業のしかた

作業機昇降装置 54
油圧（ポジションコントロール）レバー 54
三点リンク高さ規制ダイヤル 54
ポンパレバー 55
オートアップスイッチ 56
バックアップスイッチ 57
作業機落下速度の調整 58

目　次

モンローマチック・オート［MA・MAD 仕様］ 59
各部の名称 59
ワンタッチ耕うんモードスイッチ 60
3P 切換スイッチ..... 61
モンロスイッチ 62
切換スイッチ 64
モンロ角度調節ダイヤル 65
オートスイッチ［MA 仕様］..... 65
オートスイッチ［MAD 仕様］..... 66
耕深調節ダイヤル 66
モンロ手動スイッチ 67
作業機の取扱い 67
オートドラフト［MAD 仕様］ 68
各部の名称 68
ドラフトストッパピン 69
オートスイッチ 69
モンロ手動スイッチ 69
耕深調節ダイヤル 70
3P 切換スイッチ..... 70
モンロスイッチ 70
モンロ角度調節ダイヤル 71
切換スイッチ 71
ワンタッチ耕うんモードスイッチ 71
三点リンク 72
各部の名称 72
オートワイヤ 73
ロアーリンク取付け穴の選択 73
ロアーリンク取付け穴の選択 74
モンロー外部操作スイッチ 75
トップリンク 75
チェックチェーン 76
作業機を取付けないときの注意 76
けん引ヒッチ（別売）..... 77
けん引フック 77
PTO 78
あんしん PTO スイッチ 78
PTO 変速レバー..... 80
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 80
タイヤ 81
タイヤの空気圧 81
輪距の調整 81
前輪 81
後輪 81
後輪輪距 82
ウエイト（オプション）..... 84
前部ウエイト（オプション）..... 84
後輪ウエイト（オプション）..... 84
一般的な耕うん要領 85
隣接耕うんのしかた 85
一うねおき耕うんのしかた 85
トラクタの方向転換のしかた 85

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック 86
ドア..... 86
リヤウインド..... 87
クォータウインド..... 87
ルームランプ 88
ルームランプ..... 88
ワイパ 88
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ.... 88
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ..... 88
寒冷時のワイパの使用..... 89
作業灯 89
作業灯スイッチ..... 89
作業灯..... 89
その他のアクセサリ 89
サンバイザ..... 89
ルームミラー..... 90
オートエアコン 90
空気の流れ..... 90
風向調整..... 91
コントロールパネル..... 91
ヒータ使用上の注意..... 92
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ 93
共通部の操作のしかた..... 93
ラジオを聴くには..... 95
CD を聴くには 96
取扱い上の注意..... 97
お問合わせ..... 98
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方 98
アンテナ..... 98
インプルメントの装着 99
インプルメント用操作ボックスの取付.... 99

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 100
洗車時の注意 100
定期点検箇所一覧表 102
給油（水）一覧表 105
トラクタの給油（水)..... 105
推奨オイル・グリース一覧表 106
エンジンオイル・ミッションオイル..... 106
グリース..... 106
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方..... 107
ボンネットの開閉..... 107
サイドカバーの取り外し..... 108
フロントカバーの取り外し..... 108
日常点検 109
前日の異常箇所..... 109
トラクタの周りを歩いて..... 109
エンジンオイルの量及び汚れ..... 109

目　次

ミッションオイルの量及び汚れ 110
冷却水の量 110
セパレータの水の排出 111
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 111
バキュエータバルブの清掃 111
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点検・交換 112
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 112
防虫網の清掃 113
ブレーキペダルの遊び・点検 114
駐車ブレーキの作動点検 114
クラッチペダルの遊び・点検 114
メータ・ランプ類の作動 115
燃料の補給 116
エンジンの始動確認 116
エンジンの排気の状態 116
燃料給油時の便利な機能と装置 117
満タンお知らせブザーの取扱い 117
カンタン給油台の使い方 117
日常点検［パワクロ仕様］..... 118
日常点検箇所一覧 118
ゴムクローラの張り調整 119
30 時間ごとの点検・整備 119
グリースの注入 119
50 時間ごとの点検・整備 120
グリースの注入 120
エンジン始動システムの点検 122
タイヤ取付けボルトの点検 122
クラッチハウジングの水抜き 123
パワーステアリングホースの点検 123
燃料ホースの点検 123
100 時間ごとの点検・整備 125
エンジンオイルの交換 125
バッテリ電解液の点検 126
エアクリーナエレメントの清掃 128
ファンベルトの点検・調整 128
ブレーキペダルの点検・調整 129
クラッチペダルの点検・調整 129
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 ... 129
200 時間ごとの点検・整備 130
エンジンオイルの交換 130
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 131
ラジエータホースの点検 132
オイルクーラホースの点検 132
吸気ホースの点検 133
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 . 133
トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換 134
ステアリングジョイント部の点検 134
トーイン調整・タイロッドの点検 135
室内エアフィルタの清掃 136
外気フィルタの清掃 136
エアコンコンデンサの詰まり 137
エアコンベルトの張り 137
転輪・遊輪のオイルシール点検 138
300 時間ごとの点検・整備 139
前車軸ケースオイルの交換 139
400 時間ごとの点検・整備 139
ミッションオイルの交換 139
燃料フィルタカートリッジの交換 140
セパレータの清掃 141
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 ... 141
600 時間ごとの点検・整備 142
前部デフケースの前後遊びの調整 142
800 時間ごとの点検・整備 142
エンジンバルブクリアランスの点検 142
1500 時間ごとの点検・整備 142
インジェクタの点検 142
3000 時間ごとの点検・整備 142
ターボチャージャの点検 142
サプライポンプの点検 142
1 年ごとの点検・整備 142
エアクリーナエレメントの交換 142
ヒータ配管，ウォータホースの点検 142
エアコン配管，ホースの点検 142
2 年ごとの点検・整備 143
冷却水の交換 143
ラジエータの洗浄 144
ラジエータホースの交換 144
パワーステアリングホースの交換 144
吸気ホースの交換 144
燃料ホースの交換 145
モンローシリンダホースの交換 145
メインシリンダホースの交換 145
オイルクーラホースの交換 145
必要に応じた点検・整備 145
燃料の空気抜きのしかた 145
燃料の空気抜きのしかた 146
ヒューズの交換 147
スローブローヒューズの交換 147
ヘッドランプの交換 147
ランプ一覧 148
ホーン接点のグリース塗布 148
注油 148
ウォッシャ液の補充 148
冷媒（ガス）量の点検 149
スプロケットの交換手順 150
ゴムクローラの交換手順 151
格納 151
長期格納時の手入れ 151
長期格納後の運転 152
不調と処置 153
エンジンの不調と処置 153
トラクタの故障と処置 155
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置 160

付表

主要諸元 161

目　次

トラクタの主要諸元 161
走行速度表 167
標準付属品 171
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）..... 172
パワクロ仕様足回り交換部品一覧表 174
アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）..... 175
インプルメント一覧表 178
センサリンク取付要領 181
作業ごとの一般的な調整要領 182
オートドラフトコントロールによる作業要領［MAD 仕様］..... 184
インプルメントの大きさの上限について 185
検査成績表 186

索引

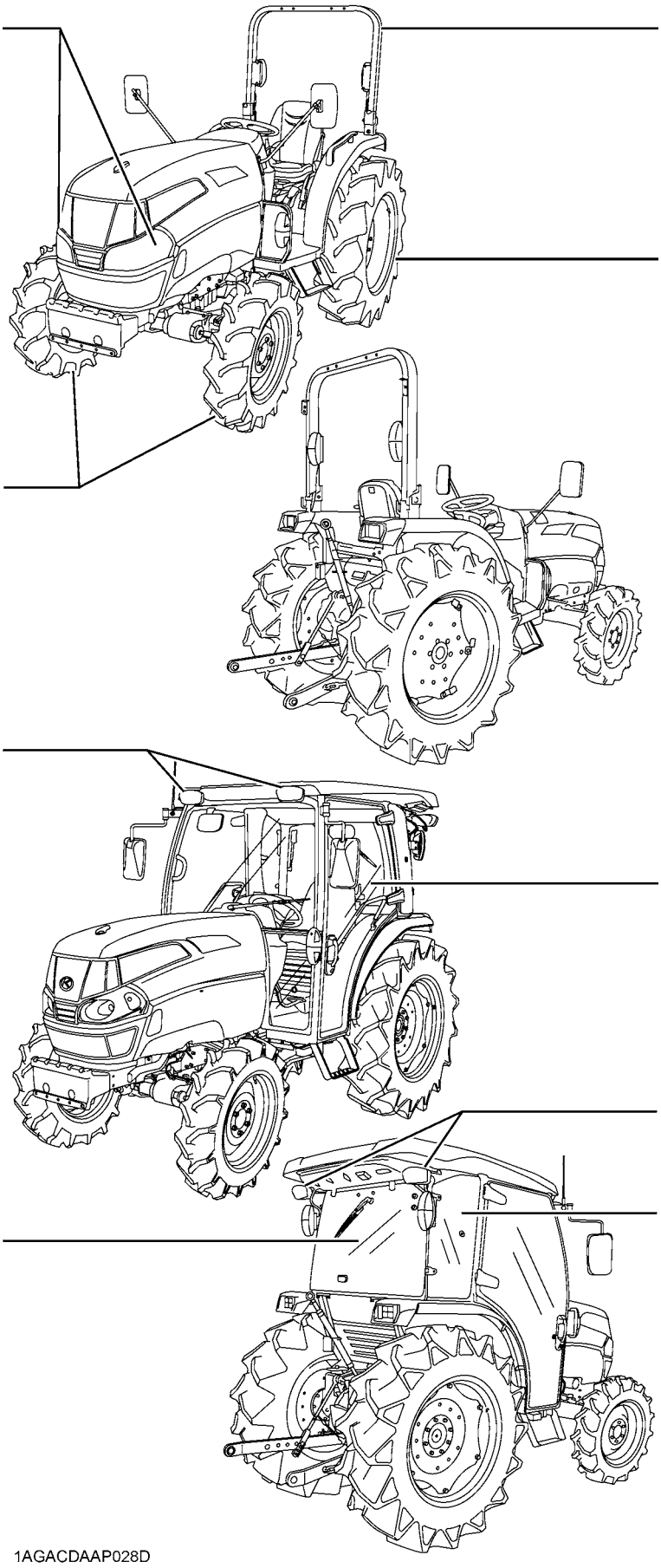
索引 191

困ったときには

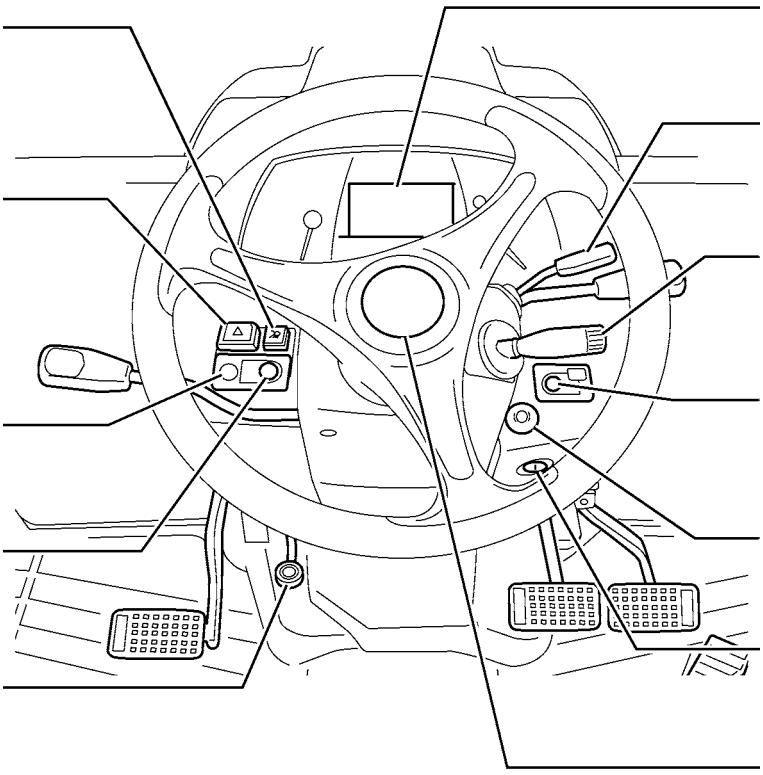
目的目次

	目的・場面	項目	参照ページ
エンジン始動時に	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	12
	スタータモータが回らない	エンジンの始動と停止	5
道路走行時に	2WD，4WD，倍速を切換えるには	走行モード切換スイッチ	29
	インプルメントの落下防止を施すには	作業機落下速度の調整	58
作業時に	省エネ運転をするには	省エネ運転のしかた	33
	PTO 回転数を変更するには	PTO 変速レバー	80
	インプルメントを取付けるには	三点リンク	72
	インプルメント用電源や車速信号を取出すには	外部電源取出端子	18
	インプルメント用操作ボックスを取付けるには	インプルメントの装着	99
	タイヤがスリップする	デフロックの使い方	48
	モンロ／オートをワンタッチで設定するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	60
	工場出荷時のモンロ／オートの設定を任意変更するには	ワンタッチ耕うんモードスイッチ	60
	モンロ／オートの一般的な調整要領を知りたい	作業ごとの一般的な調整要領	182
	ロータリカバーを上げた状態でオートを使うには	オートスイッチ	65,66
	プラウ作業を行なうには	オートドラフト	68
	作業機の上げ高さを規制するには	三点リンク高さ規制ダイヤル	54
	旋回時，自動的にロータリを上げるには	オートアップスイッチ	56
	後進時，自動的にロータリを上げるには	バックアップスイッチ	57
	ロータリを上げた時，自動的に回転を止めるには	あんしん PTO スイッチ	78
	電子メータにメッセージが表示された時には	電子メータパネル	37
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した時には	運転中の作動確認	46
	電子メータの表示内容を変更するには	表示の切替え	41
メンテナンス時に	ボンネットの開け方を知りたい	ボンネットの開閉	107
	日常点検ですべきことは	日常点検	109
	オイル，冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	105
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル・グリース一覧表	106
	電球が切れた時には	主な消耗部品一覧表	172
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の空気抜きのしかた	145,146
	トラクタのマイコンでメンテナンスの時間管理を行なうには	電子メータパネル（その他表示）	43
	時計の時刻を合わせたい	電子メータパネル（その他表示）	43

■ 外観


フロントサイド作業灯
（17 頁）
安全フレーム
（14 頁）
後輪タイヤ
（81 頁）
前輪タイヤ
（81 頁）
作業灯（前）
（89 頁）
ドア
（86 頁）
作業灯（後）
（89 頁）
クォータウインド
（87 頁）
リヤウインド
（87 頁）
1AGACDAAP028D

■ ハンドル部



フロントサイド作業灯スイッチ
(17 頁)

ハザードスイッチ
(17 頁)

表示切換スイッチ
(41 頁)

走行モード切換スイッチ
(29 頁)

チルトペダル
(15 頁)

電子メータパネル
(37 頁)

ポンパレバー
(55 頁)

ヘッドライトスイッチ ウインカスイッチ
(16, 16 頁)

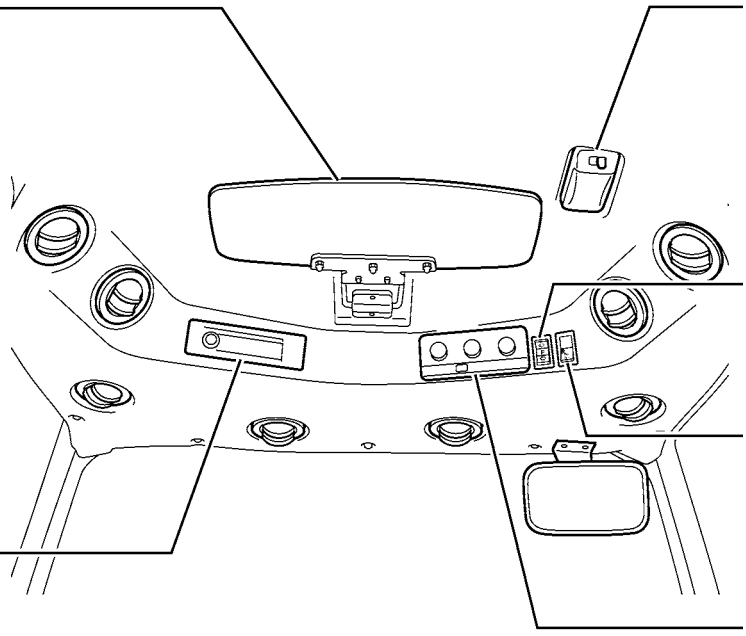
ワンタッチ耕うんモードスイッチ
(60 頁)

駐車ブレーキグリップ
(32 頁)

キースイッチ
(7 頁)

ホーンボタン
(17 頁)

■ 安全キャブ部



サンバイザ
(89 頁)

AM/FM ラジオ付き CD プレーヤ
(93 頁)

ルームランプ
(88 頁)

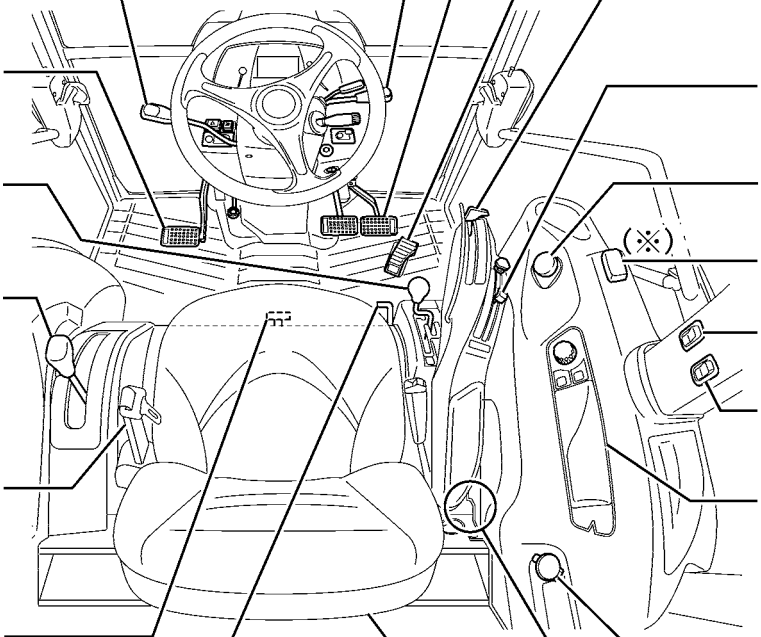
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
(88 頁)

リヤワイパ・ウォッシャスイッチ
(88 頁)

オートエアコンコントロールパネル
(91 頁)

1AGACDAAP004L

■ 操作レバー・ペダル
[デュアルシフト仕様]



シャトルレバー
(28 頁)

クラッチペダル
(24 頁)

PTO 変速レバー
(80 頁)

副変速レバー
(27 頁)

シートベルト
(14 頁)

落下速度調整グリップ
(58 頁)

デフロックペダル
(48 頁)

アクセルレバー
(31 頁)

ブレーキペダル
(24 頁)

アクセルペダル
(31 頁)

主変速レバー
(25 頁)

油圧（ポジションコントロール）レバー
(54 頁)

あんしん PTO スイッチ
(78 頁)

ｅ クルーズスイッチ
(34 頁)

作業灯（前）スイッチ
(89 頁)

作業灯（後）スイッチ
(89 頁)

MA スイッチ
[MA・MAD 仕様]
(59 頁)

外部電源
(シガライタタイプ)
(18 頁)

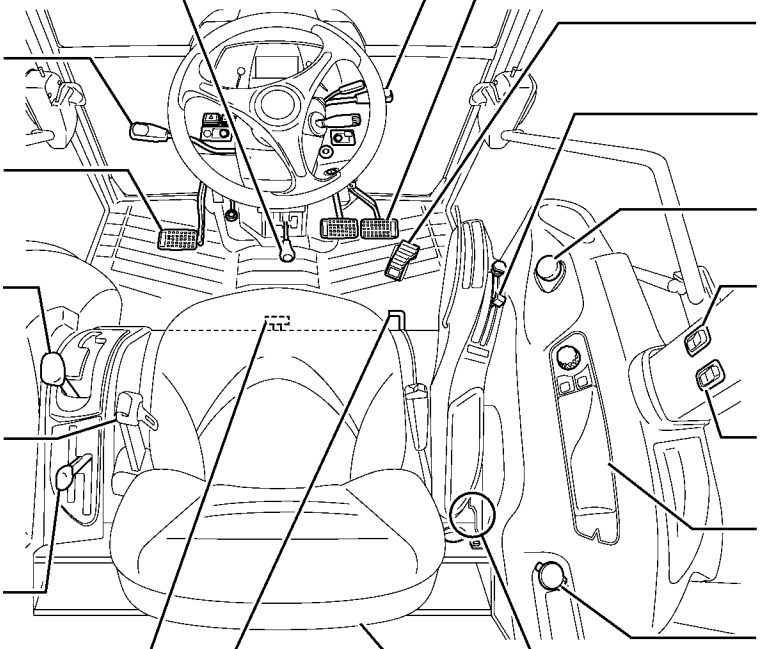
外部電源・
信号取出端子
(18 頁)

シート
(13 頁)

(※) KL31Z(H･-PC)･34Z(H)仕様にｅクルーズスイッチは装備されていません。

1AGACDAAP004P

■ 操作レバー・ペダル
[U シフト仕様]



PTO 変速レバー
(80 頁)

シャトルレバー
(28 頁)

クラッチペダル
(24 頁)

主変速レバー
(25 頁)

シートベルト
(14 頁)

クリープレバー
(28 頁)

落下速度調整グリップ
(58 頁)

デフロックペダル
(48 頁)

アクセルレバー
(31 頁)

ブレーキペダル
(24 頁)

アクセルペダル
(31 頁)

油圧（ポジションコントロール）レバー
(54 頁)

あんしん PTO スイッチ
(78 頁)

作業灯（前）スイッチ
(89 頁)

作業灯（後）スイッチ
(89 頁)

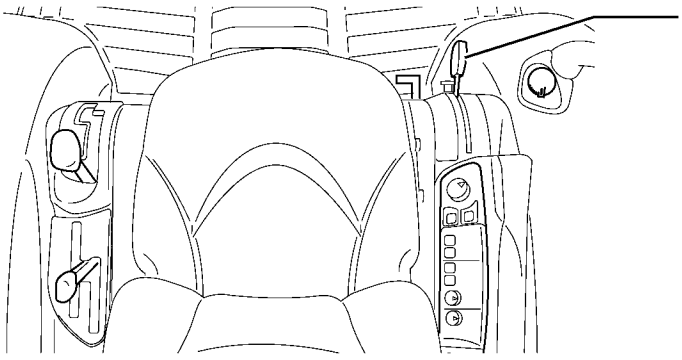
MA スイッチ
[MA・MAD 仕様]
(59 頁)

外部電源
（シガライタタイプ）
(18 頁)

外部電源・
信号取出端子
(18 頁)

シート
(13 頁)

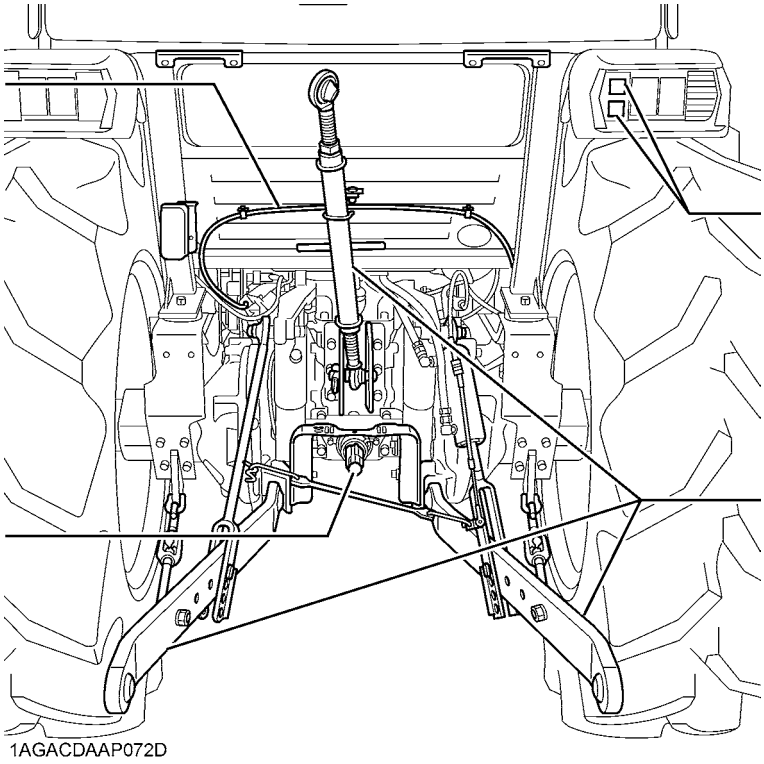
[U シフト・安全フレーム仕様]



油圧（ポジションコントロール）レバー
(54 頁)

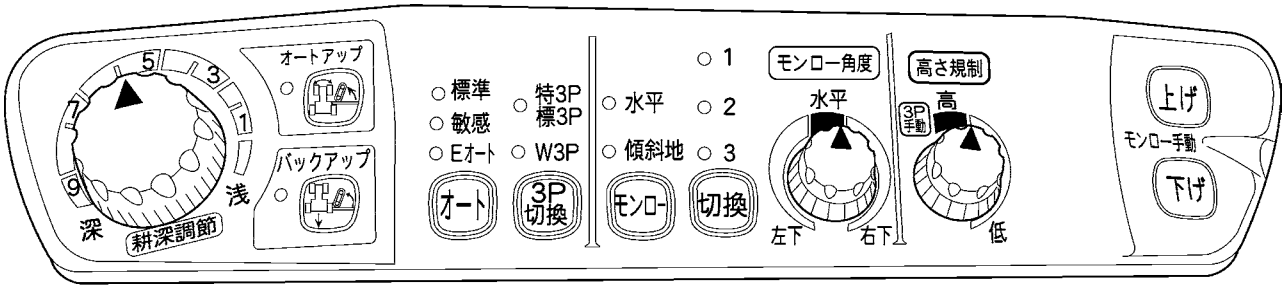
1AGACDAAP036E

■ 三点リンク



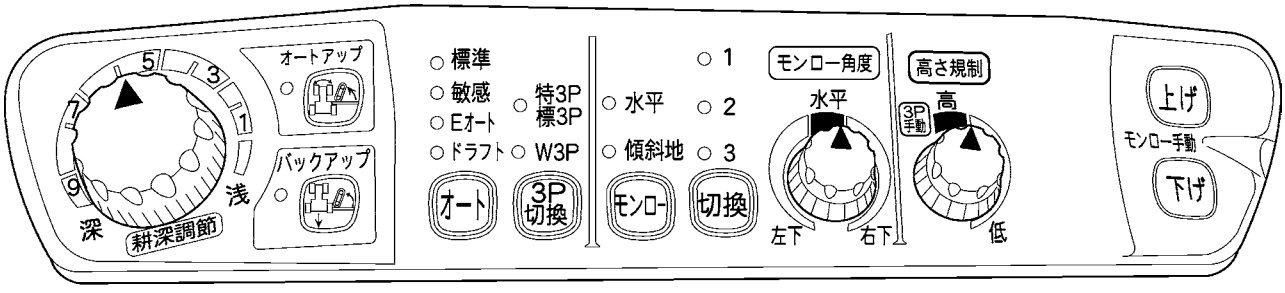
■ モンロー操作パネル

詳細は［モンローマチックオートの取扱い］の項参照（59 頁）



[MAD 仕様]

詳細は［オートドラフトの取扱い［MAD 仕様]］の項参照（68 頁）

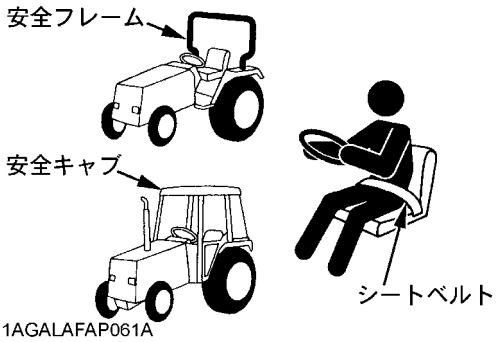


⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

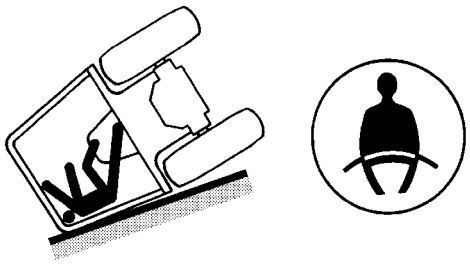
安全キャブ，安全フレームについて

安全キャブ，安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

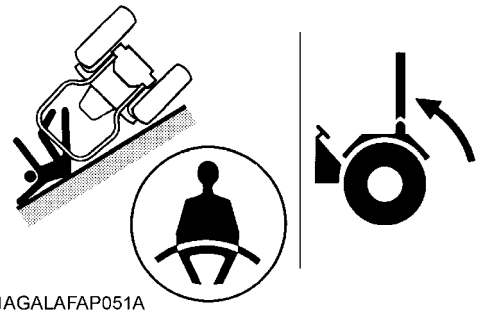


1AGALAFAP061A

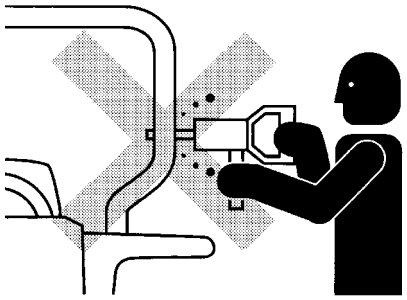
1. 運転時は安全キャブ又は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP050A

2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋への出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

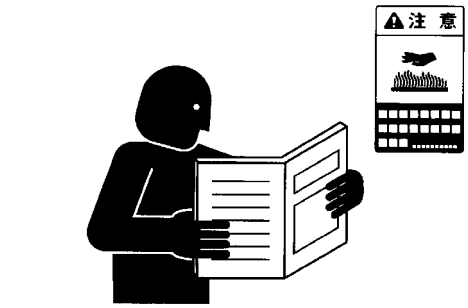

1AGALAFAP051A

6. 安全キャブ又は安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP034B

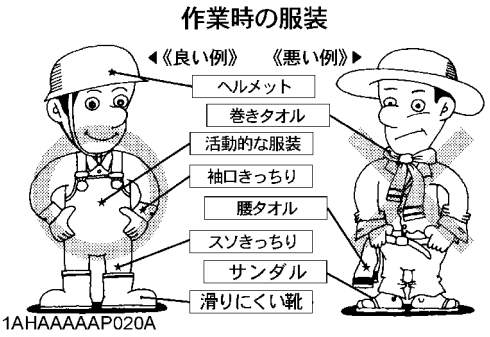
運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP035A

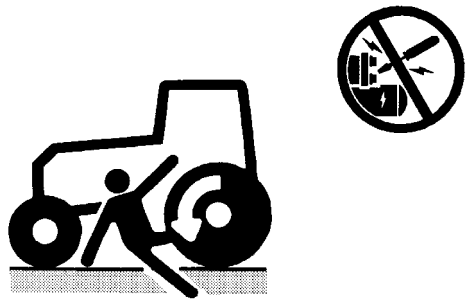
5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護めがねや手袋などを使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。



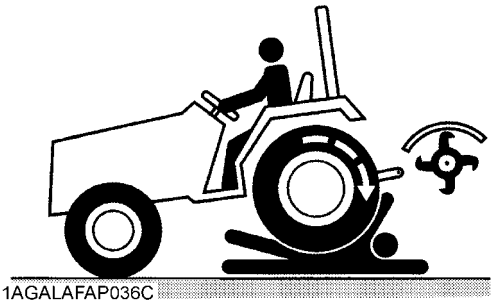
1AHAAAAAP020A

始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー・PTO 変速レバーが**【中立】**かどうか，あんしん PTO スイッチが**【切】**かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出すおそれがあります。

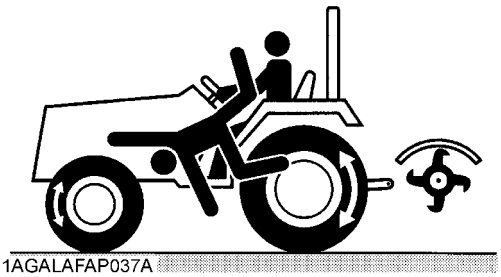


3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
   又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

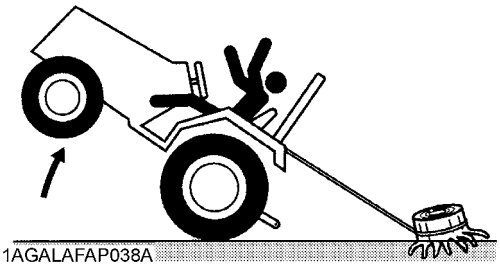


運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。



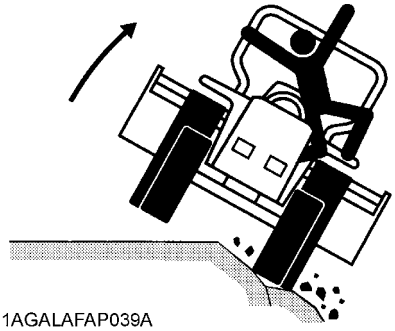
2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。



3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

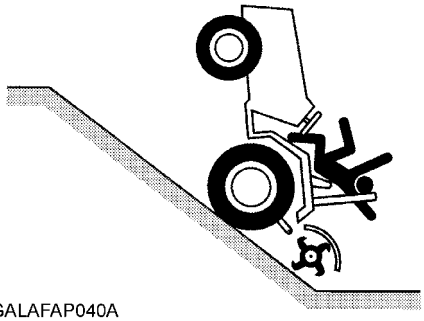
1AGALAFAP052A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



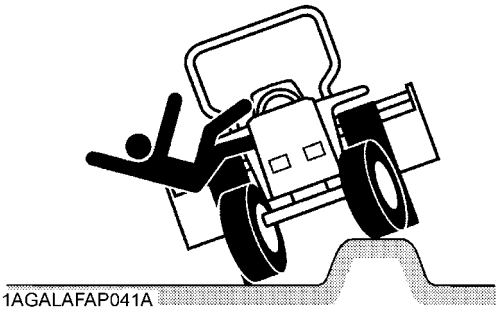
1AGALAFAP039A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



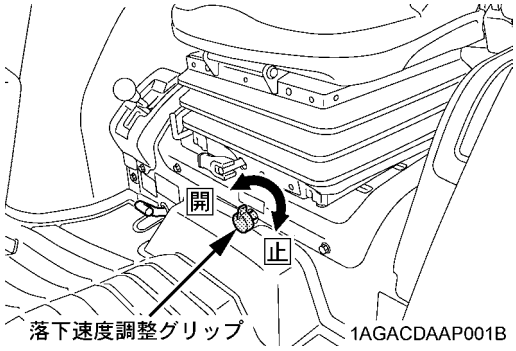
1AGALAFAP040A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを**【連結】**し，デフロックの解除を確認してください。

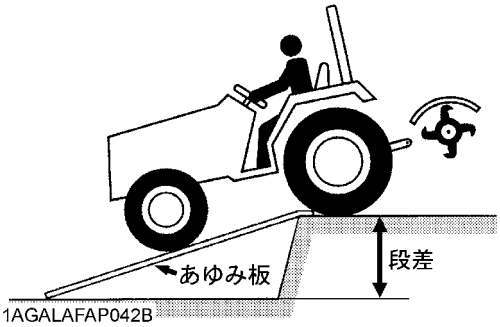


1AGALAFAP041A

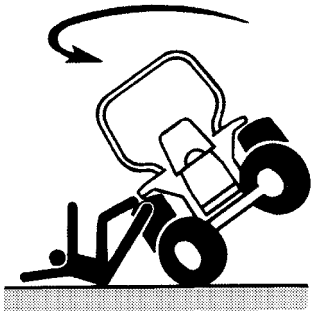
8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
【遅い】方向に締めきるとロック（停止）します。



9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

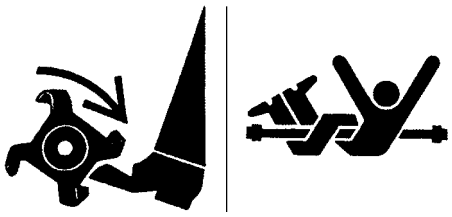


11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターン及び AD 倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こすおそれがあります。
必ず走行モード切換スイッチを**【2WD】**又は**【4WD】**に切換えてください。


1AGALAFAP059A

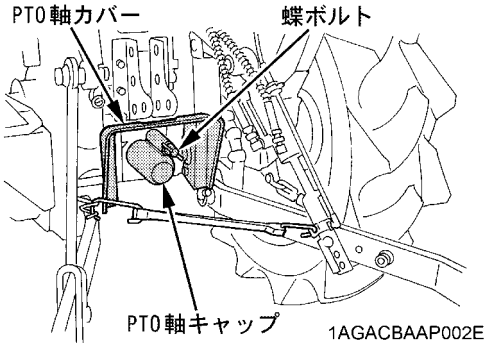
作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。



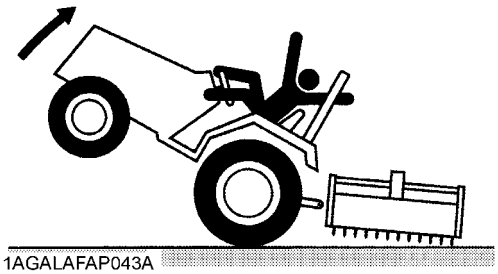
1AGALAFAP054A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
   機械の破損や人身事故のおそれがあります。



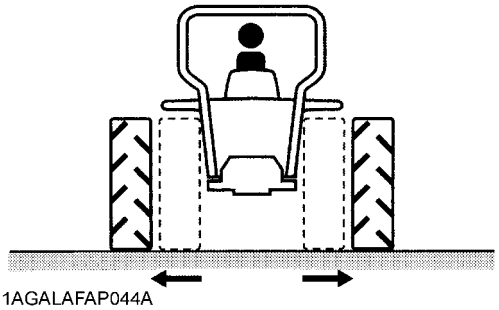
1AGACBAAP002E

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
   前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
   大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
   詳細は購入先にご相談ください。



1AGALAFAP043A

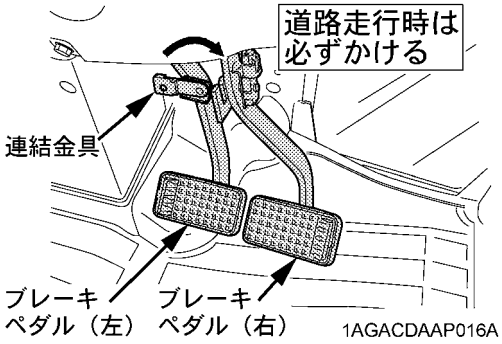
8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

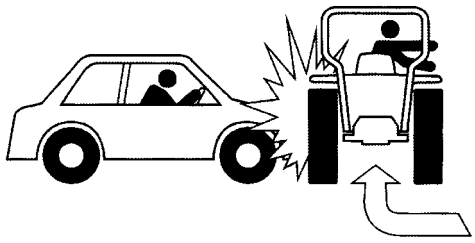


1AGALAFAP044A

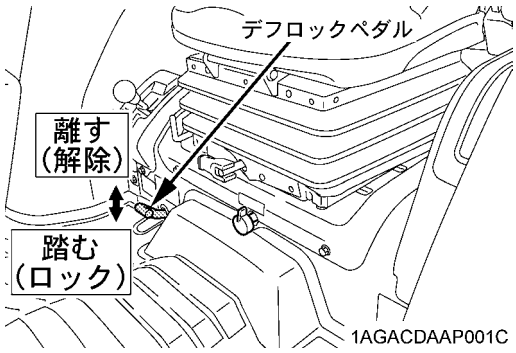
道路走行時に

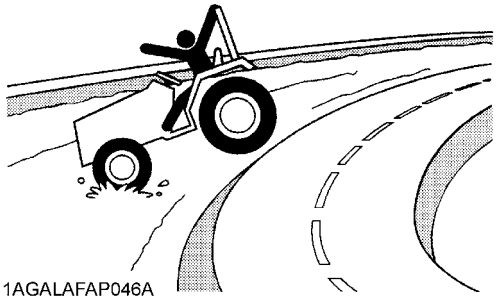
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを**【連結】**してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。
2. 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。



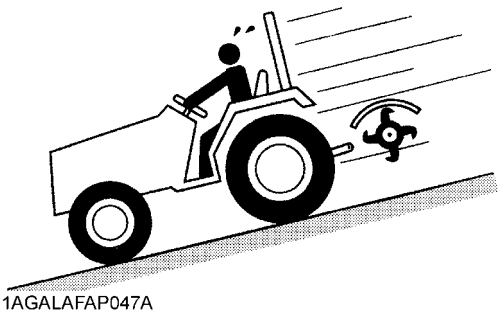

1AGALAFAP045A

3. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
4. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。



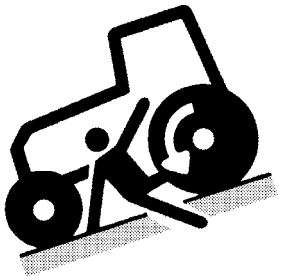

1AGALAFAP046A

5. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
操縦ができなくなるおそれがあります。
6. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。
(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
7. 交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。


1AGALAFAP047A

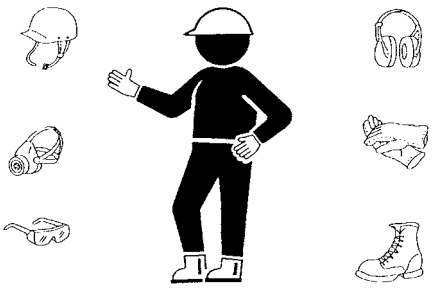
駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**［切］**，作業機を**［下げ］**，各変速レバーを**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを**［抜いて］**ください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

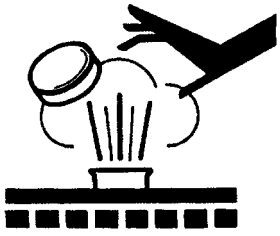

1AGALAFAP053A

点検・給油・整備時に

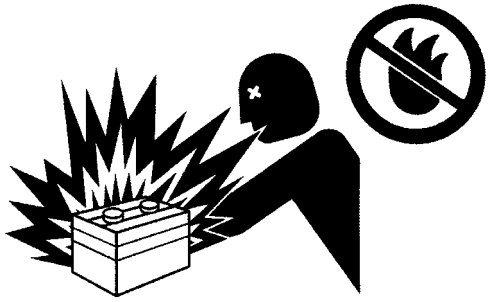
1. 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。
作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
各保護具は使用前に機能を確認してください。


1AGADAPAP122A

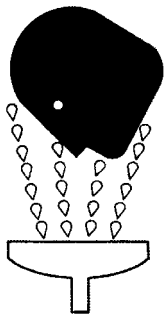
2. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，各変速レバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを**［停止］**してください。
3. エンジン・マフラ・ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1AGALAFAP055A

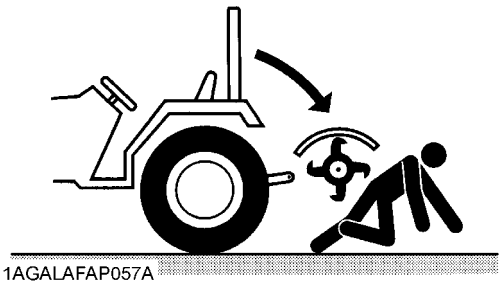
4. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
5. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
（**［運転のしかた］**の章の**［バッテリあがりの処置］**の項を参照）


1AGALAFAP048A

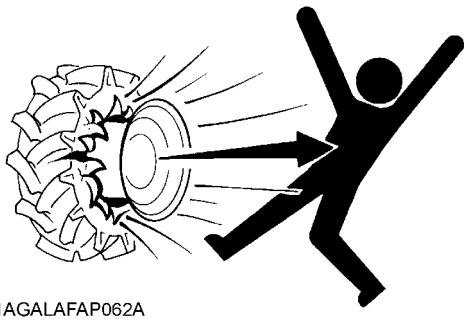
6. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
7. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
8. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP014B

9. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP057A

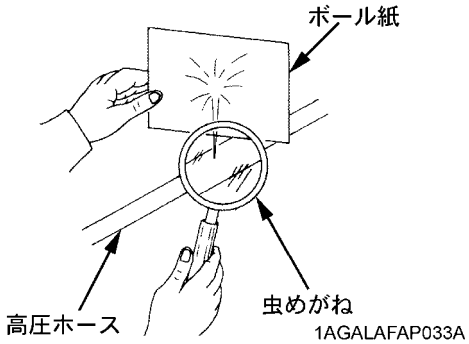
10. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
11. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
12. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP062A

13. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

1BAACAAAP010D

14. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP033A

15. 点検・整備時に，後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し，トラクタが動き出すおそれがあります。

16. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018D

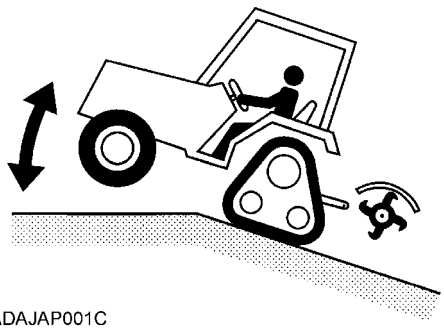
17. コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
次の注意事項を守らないと，感電事故や高圧燃料のもれによるケガをするおそれがあります。
＊ 掃除などでエンジンを制御する電子部品や，そのコネクタ，ハーネスをさわる場合は，キースイッチを**［切］**にしてください。
＊ エンジンの高圧燃料が通る部品は，分解や修理を行なわないでください。
付近のボルト・ナット類もゆるめないでください。
高圧燃料が通るのは，燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
＊ エンジンの不調時は，購入先にご相談ください。

パワクロ仕様の場合

以下の内容は**［パワクロ仕様］**の場合の特別な注意事項を記載しています。前述の注意事項と合わせてよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。

■運転時に

1. 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
2. クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。

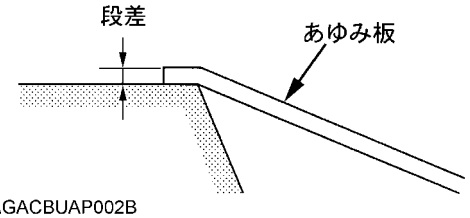

1AGADAJAP001C

■あゆみ板使用時に

1. あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
2. あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
3. 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
4. あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

◆ ほ場への出入り

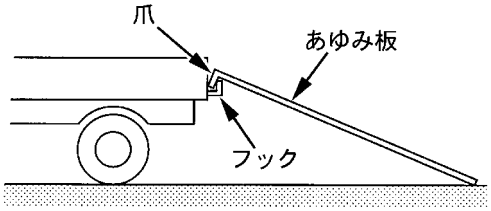
1. クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



1AGACBUAP002B

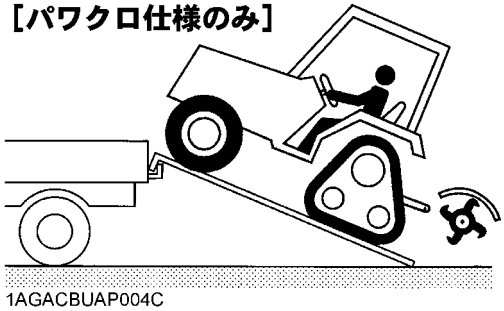
◆ トラックへの積み・降ろし

1. トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。
2. トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを**［連結］**し，**前進で積み込み，後進で降ろして**ください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。



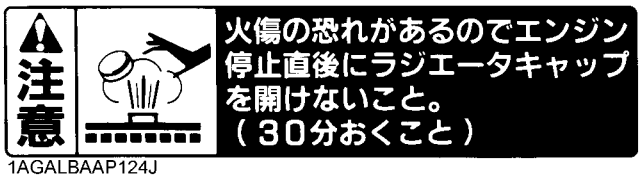
1AGACBUAP003B

前進で積み込み，**後進**で降ろす
［パワクロ仕様のみ］


1AGACBUAP004C

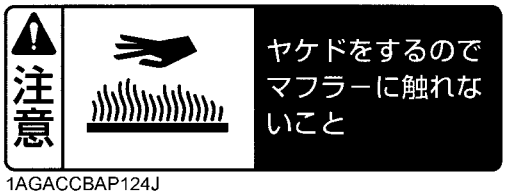
表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番　T1060-4954-0



1AGALBAAP124J

(2) 品番　T1850-4958-0

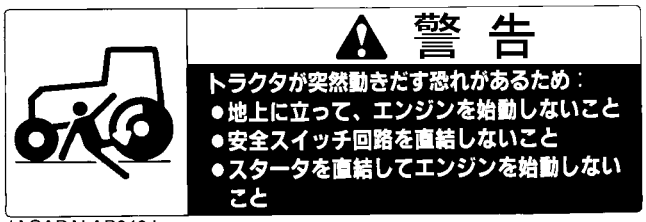


1AGACCBAP124J

(3) 品番　TC260-5542-0 [MF(メンテナンスフリー)バッテリ]

1AGASABAP073J

(4) 品番　T0180-4965-2



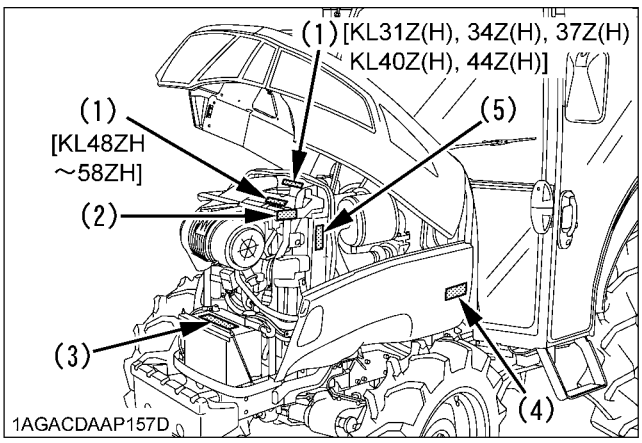
1AGADALAP249J

(5) 品番　T1850-4955-2

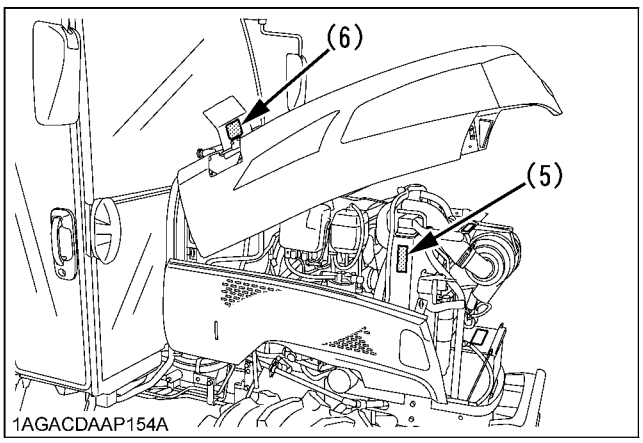
1AGACCBAP125J

(6) 品番　T1850-4908-2

1AGACCBAP123J

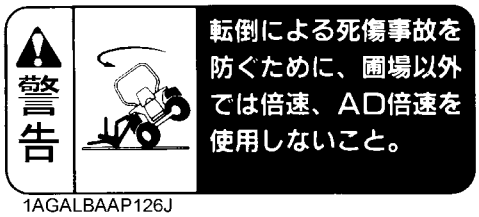


1AGACDAAP157D



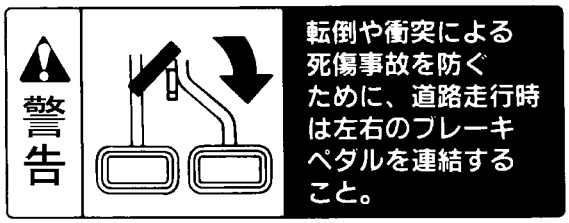
1AGACDAAP154A

(1) 品番　T1060-4905-0



1AGALBAAP126J

(3) 品番　T1060-4903-0

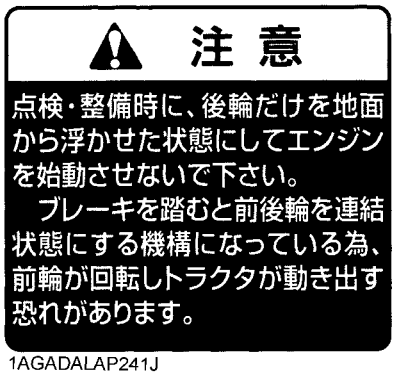


1AGADALAP238J

(5) 品番　T3688-4922-1 [デュアルシフト仕様]

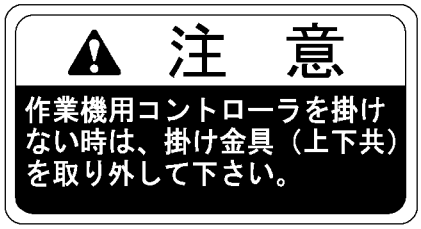
1AGACDAAP163A

(2) 品番　3M740-9821-0 [ハイスピード仕様 (KL31ZH・34ZH・31ZH-PCを除く)]



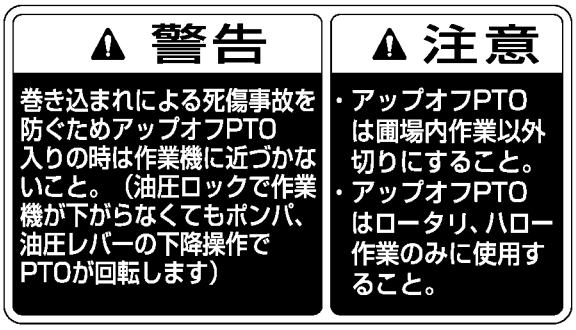
1AGADALAP241J

(4) 品番　T3635-4918-1 [安全キャブ仕様]

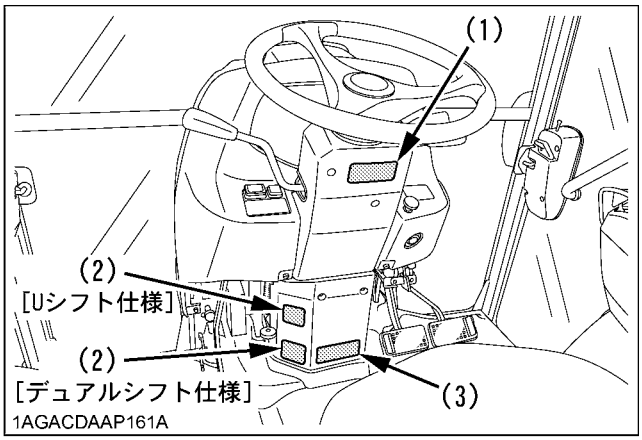


1AGACCOAP033J

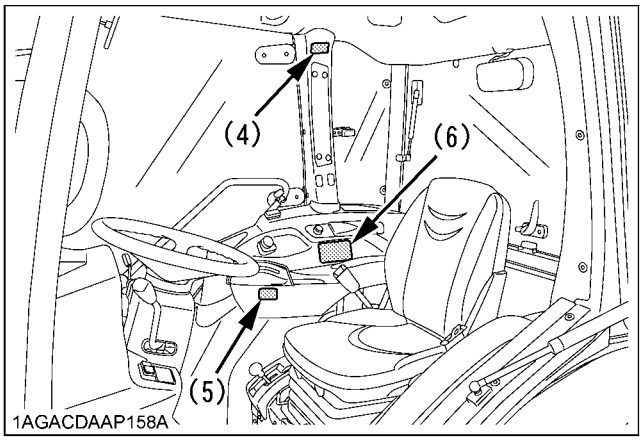
(6) 品番　T3685-4934-0 [安全キャブ仕様]



1AGACDAAP165A



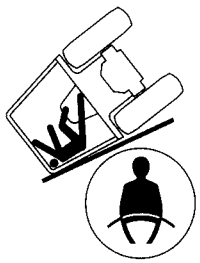
1AGACDAAP161A



1AGACDAAP158A

(1) 品番　T1855-4902-0
[安全キャブ仕様]

⚠警告



転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること。

1AGACCBAP126J

(2) 品番　T1859-4933-2
[安全キャブ付きUシフト仕様]

⚠注意

低温始動時
Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと。遅れて動き出してキケンです。

傾斜面での
Uシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走するおそれがあるので低速で走行し途中変速しないこと。

1AGACCBAP127J

(3) 品番　T1855-4901-0
[安全キャブ仕様]

⚠注意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
・シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
・前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
・運転者以外に人を乗せないこと
・排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
・溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
・急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
・道路走行時はデフロックを使用しないこと
・道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
・PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
・エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
・3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGACCBAP128J

(4) 品番　T1063-4932-2

⚠警告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること。
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません。

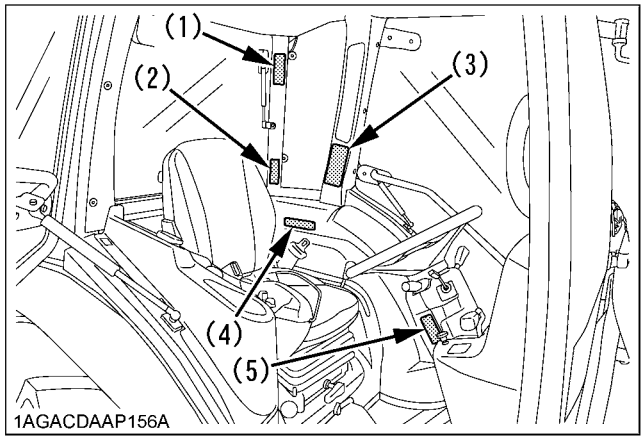
1AGALBAAP093J

(5) 品番　T1060-4964-0

⚠注意

ポンパは圃場内作業のみに使用すること。作業時以外は作業機の昇降を油圧レバーで行うこと

1AGALBAAP133J



1AGACDAAP156A

(1) 品番　T1841-4934-0
［安全フレーム仕様］

⚠ 警告
巻き込まれによる死傷事故を防ぐためアップオフPTO入りの時は作業機に近づかないこと。（油圧ロックで作業機が下がらなくてもポンパ、油圧レバーの下降操作でPTOが回転します）

⚠ 注意
・アップオフPTOは圃場内作業以外切りにすること。
・アップオフPTOはロータリ、ハロー作業のみに使用すること。

1AGACCBAP130J

(2) 品番　T0273-6497-0
［安全フレーム付きUシフト仕様］

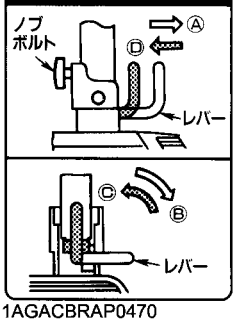
⚠ 注　意
低温始動時Uシフトでの発進遅れ
・異常ではないので変速を入れたまま降りないこと
遅れて動き出しキケンです
傾斜面でのUシフト変速
・急斜面でUシフト変速を行うと、滑走する恐れがあるので、低速で走行し、途中変速しないこと

1AGACCBAP114J

(3) 品番　T1150-4927-0
［安全フレーム仕様］

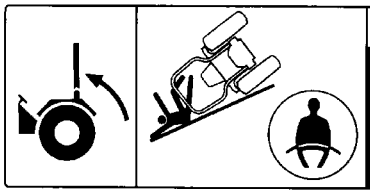
⚠ 注意
安全フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンジンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車ブレーキをかける

レバーの操作方法
・安全フレームを折りたたむ時はノブボルトを緩めⒶⒷの順にレバーを倒して下さい。（左右とも外側へ）
・立てる時はⒸⒹの順にレバーを操作し、確実に前方へ押し込んでからノブボルトを締めて下さい。
・詳しくは取扱説明書をお読み下さい。



1AGACBRAP0470

(4) 品番　T1060-4901-0 ［安全フレーム仕様］



⚠ 警　告
転倒、転落による死傷事故軽減のために：
●納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
●安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
●安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。

⚠ 注意
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
●シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
●前後左右に人かいないことを確認すること

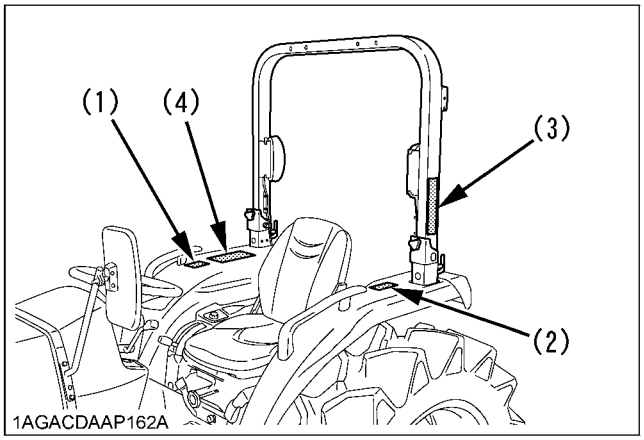
運転時
●運転者以外に人を乗せないこと
●排気カスによる一酸化炭素中毒の恐れかあるので換気の不十分な所で使用しないこと
●溝や穴のちかく、路肩なと重みてくすれやすい所では運転しないこと
●道路走行時はデフロックを使用しないこと

運転時
●急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中て変速しないこと
●道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
●PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車フレーキを掛け、エンジンをとめること

点検、整備時
●エンジンをとめ、機械の各部か停止してから行うこと
●3点リンク作業機持ち上け時は油圧ロックをすること

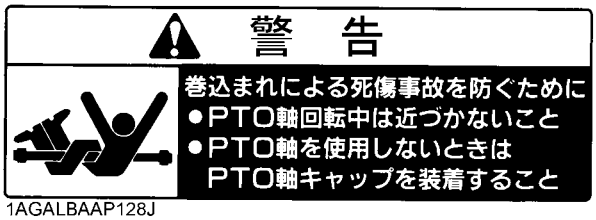
1AGACCBAP113J



1AGACDAAP162A

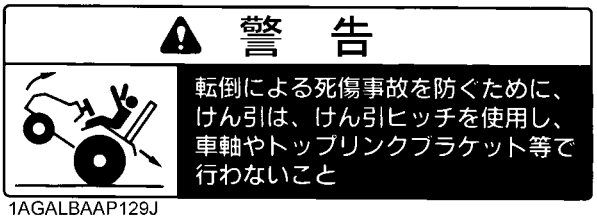
1AGACDAAP153A

(1) 品番　T1060-4959-0



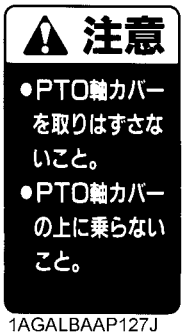
1AGALBAAP128J

(2) 品番　T1060-4904-0



1AGALBAAP129J

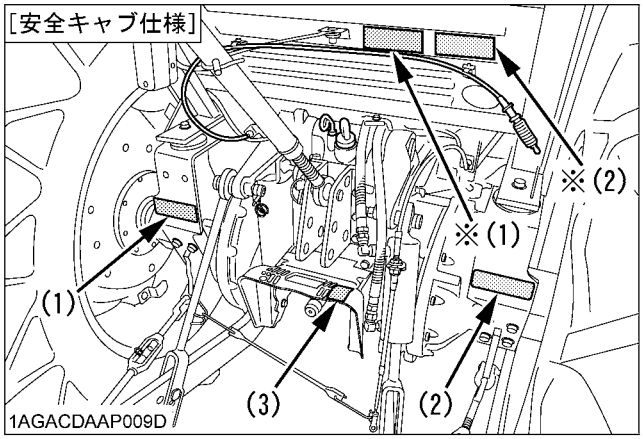
(3) 品番　T1060-4968-0



1AGALBAAP127J

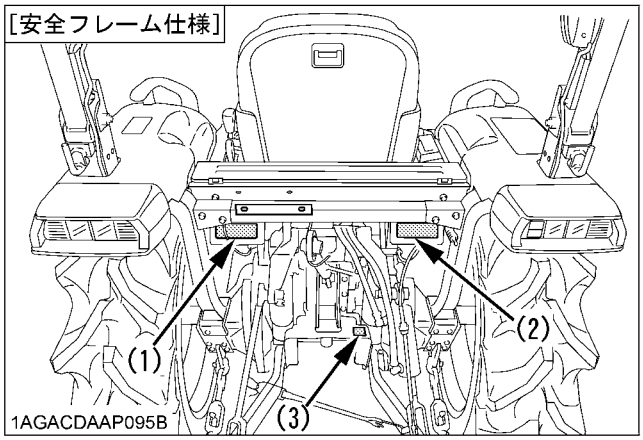
(4) 品番　6A900-5466-2
[KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様]

1AGATAHAP0430

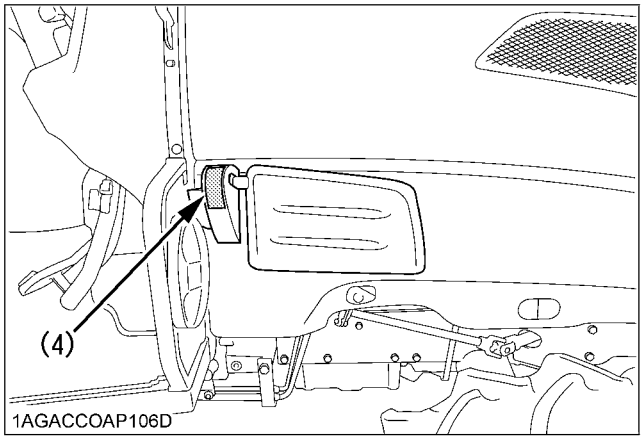


1AGACDAAP009D

※はKL31Z・KL34Zのみの貼付け位置です。



1AGACDAAP095B



1AGACCOAP106D

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

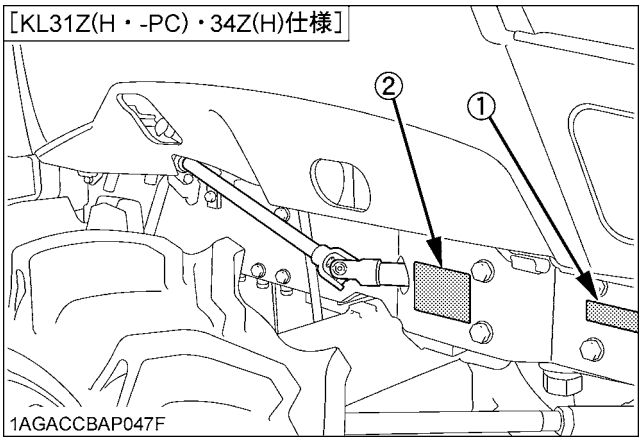
■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 車台（製造）番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

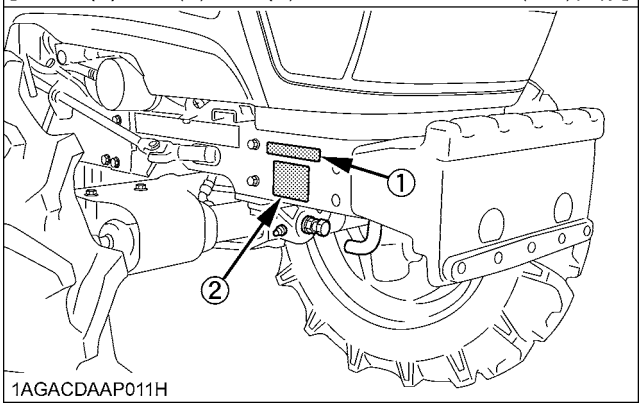
警　告

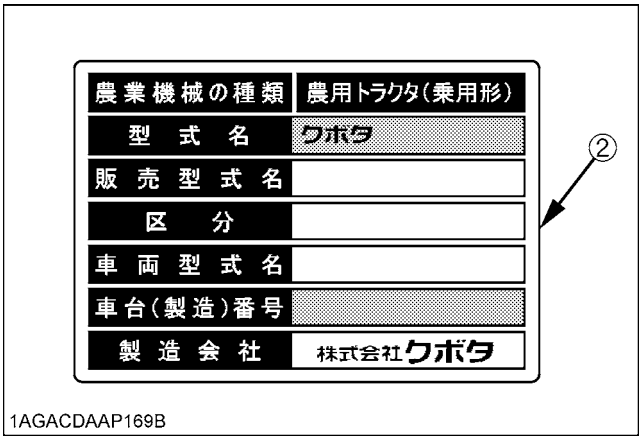
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］

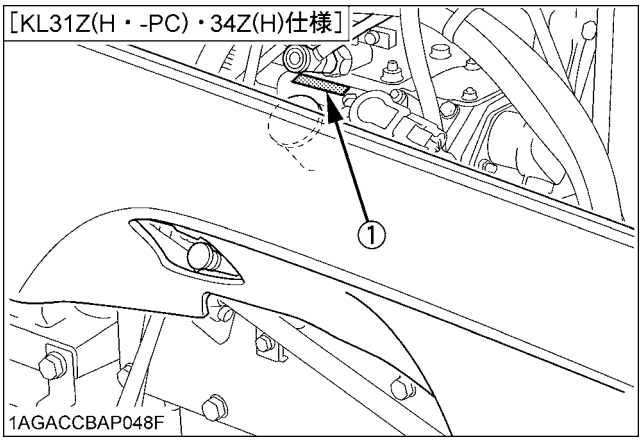


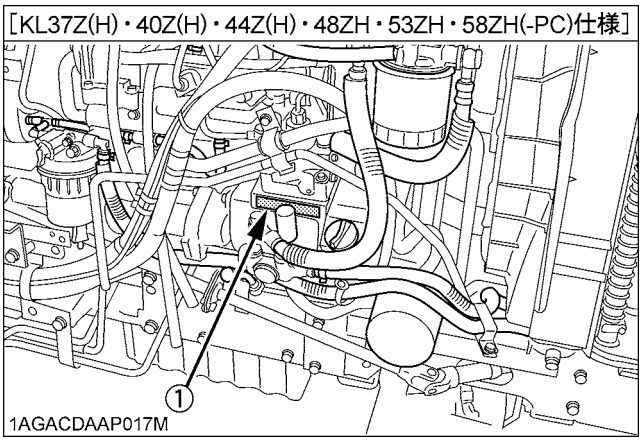
［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］





①車台（製造）番号
②銘板





①エンジン番号

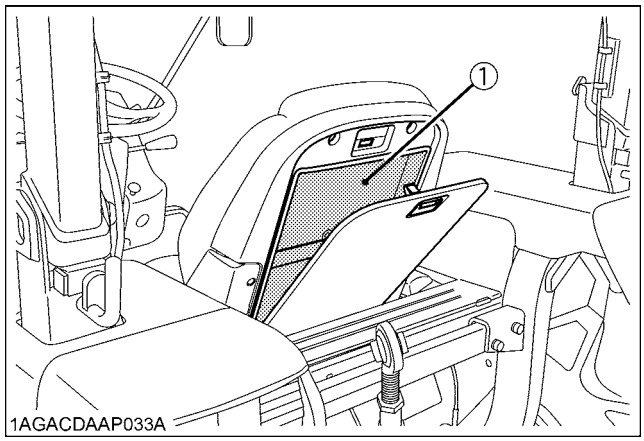
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

■取扱説明書の収納

取扱説明書類は付属のビニール袋に入れ，取扱説明書収納場所に収納し，常時携帯してください。

＊ 収納場所近辺を洗車する場合は，冊子を取出してから洗車をしてください。
＊ 紙類は吸湿により変形や変色が生じ易いため，長期格納時は室内に保管することをお奨めします。



①取扱説明書収納場所

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

農 機 型 式 名	型式検査（国検）合格番号
クボタ KSQ34ZC（安全キャブ）	212014
クボタ KSQ44ZF（安全キャブ）	211005
クボタ KSQ44ZC（安全キャブ）	212022
クボタ KSQ58ZF（安全キャブ）	211007
クボタ KSQ58ZC（安全キャブ）	211006
クボタ KSQ58ZC-PC（安全キャブ）	212023
クボタ KSQ58ZF-PC（安全キャブ）	211017
クボタ KSF41（安全フレーム）	211008
クボタ KSF50（安全フレーム）	211009

型式名（商品名）	安全鑑定適合番号		型式認定番号 又は新型自動車登録番号	
	農機型式名	適合番号	車両型式名	型式認定番号
KL31ZCQ	クボタ KL31ZC	37075	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号 改造型
KL31ZHCQ	クボタ KL31ZC	37075	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号 改造型
KL31ZCQ-PC	クボタ KL31ZC-PC	37076	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号 改造型
KL31ZHCQ-PC	クボタ KL31ZC-PC	37076	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号 改造型
KL34ZCQ	クボタ KL34ZC	37074	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号 改造型
KL34ZHCQ	クボタ KL34ZC	37074	クボタ EDM-KL3N	農 3319 号
KL37ZCQ	クボタ KL37ZC	37014	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL37ZHCQ	クボタ KL37ZC	37014	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL37ZHCQ-PC	クボタ KL37ZC-PC	37015	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZF	クボタ KL40ZF	36024	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZHF	クボタ KL40ZF	36024	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZHFQ	クボタ KL40ZF	36024	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZCQ	クボタ KL40ZC	36019	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZHCQ	クボタ KL40ZC	36019	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZHFQ-PC	クボタ KL40ZF-PC	36044	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL40ZHCQ-PC	クボタ KL40ZC-PC	36040	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL44ZF	クボタ KL44ZF	36023	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL44ZHF	クボタ KL44ZF	36023	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号
KL44ZHFQ	クボタ KL44ZF	36023	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL44ZCQ	クボタ KL44ZC	36018	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL44ZHCQ	クボタ KL44ZC	36018	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号
KL44ZHFQ-PC	クボタ KL44ZF-PC	36043	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL44ZHCQ-PC	クボタ KL44ZC-PC	36039	クボタ EDM-KL3K	農 3298 号 改造型
KL48ZHF	クボタ KL48ZF	36022	クボタ EDM-KL3L	農 3297 号
KL48ZHFQ	クボタ KL48ZF	36022	クボタ EDM-KL3L	農 3297 号 改造型
KL48ZHCQ	クボタ KL48ZC	36017	クボタ EDM-KL3L	農 3297 号
KL48ZHFQ-PC	クボタ KL48ZF-PC	36042	クボタ EDM-KL3L	農 3297 号 改造型
KL48ZHCQ-PC	クボタ KL48ZC-PC	36038	クボタ EDM-KL3L	農 3297 号 改造型
KL53ZHF	クボタ KL53ZF	36021	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL53ZHFQ	クボタ KL53ZF	36021	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL53ZHCQ	クボタ KL53ZC	36016	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL53ZHF-PC	－	－	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL53ZHFQ-PC	クボタ KL53ZF-PC	36041	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL53ZHCQ-PC	クボタ KL53ZC-PC	36037	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL58ZHFQ	クボタ KL58ZF	36020	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型
KL58ZHCQ	クボタ KL58ZC	36015	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号
KL58ZHCQ-PC	クボタ KL58ZC-PC	36036	クボタ KDN-KL3M	農 3299 号 改造型

小型特殊自動車としての取扱い

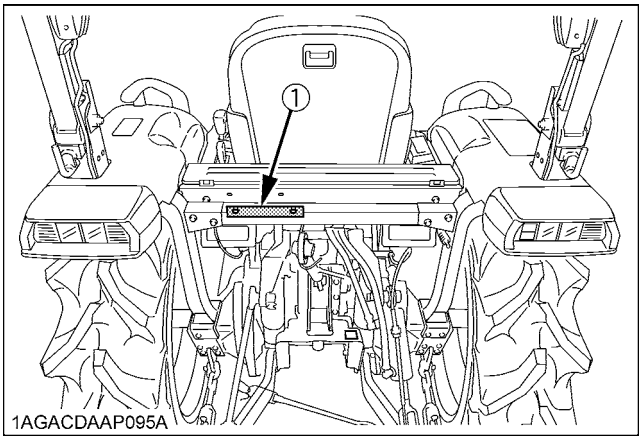
このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

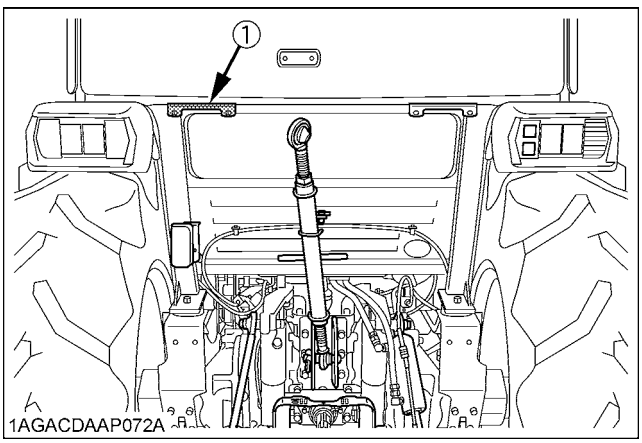
1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。

◆ 安全フレーム仕様



①標識（ナンバープレート）取付け位置

◆ 安全キャブ仕様



①標識（ナンバープレート）取付け位置

■運転免許

公道を走行する場合は，次の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

型　　式	免　許　証
KL31Z,34Z,37Z,40Z,44Z,31Z-PC	小型特殊自動車を運転できる免許証
KL31ZH,34ZH,37ZH,40ZH,44ZH,48ZH,53ZH,58ZH KL31ZH-PC,37ZH-PC,40ZH-PC,44ZH-PC,48ZH-PC,53ZH-PC,58ZH-PC	大型特殊自動車を運転できる免許証

重　要

＊ KL31ZH,34ZH,37ZH,40ZH,44ZH,48ZH,53ZH,58ZH（含むパワクロ仕様）は道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**［道路交通法］**では，大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は，**［大型特殊自動車の運転免許証］**が必要です。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

補　足

＊ インプルメントやアタッチメントを装着した状態では**［道路運送車両法の保安基準］**を満たしませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
(2) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換

＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**［クボタ純オイル］**を使用してください。

エンジンの始動と停止

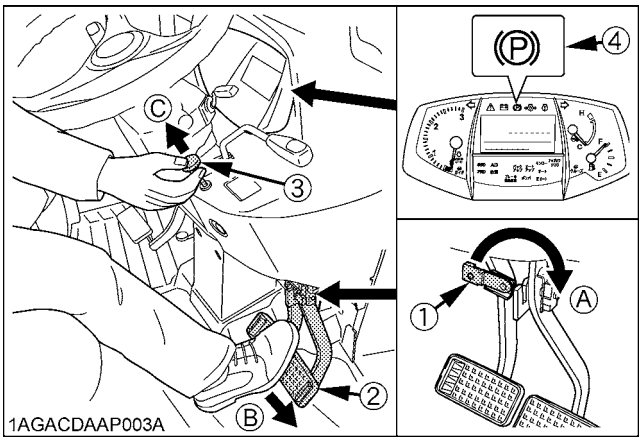
警　告

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーや PTO 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊ あんしん PTO スイッチを［切］にしてください。
＊ トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊ 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキをかけます。

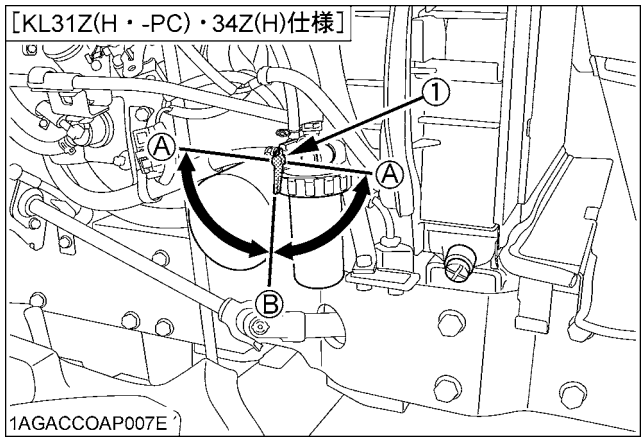
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，グリップを**【引い】**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。
キースイッチ**【入】**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の Ⓟ ランプが点灯します。



①連結金具
②ブレーキペダル
③駐車ブレーキグリップ
④駐車ブレーキランプ
Ⓐ“連結（ロック）”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“引く”

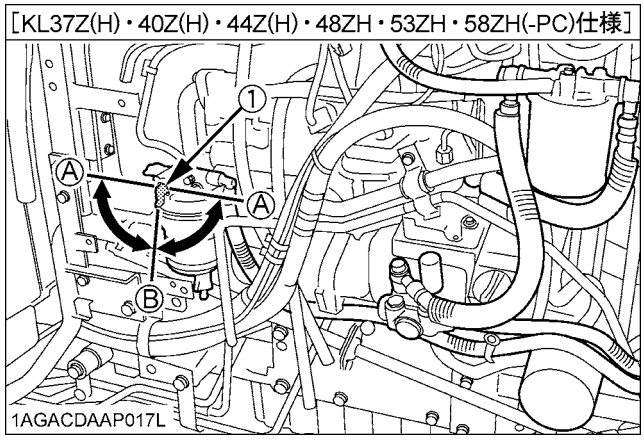
2. 燃料コックを［開］にします。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



①燃料コック
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

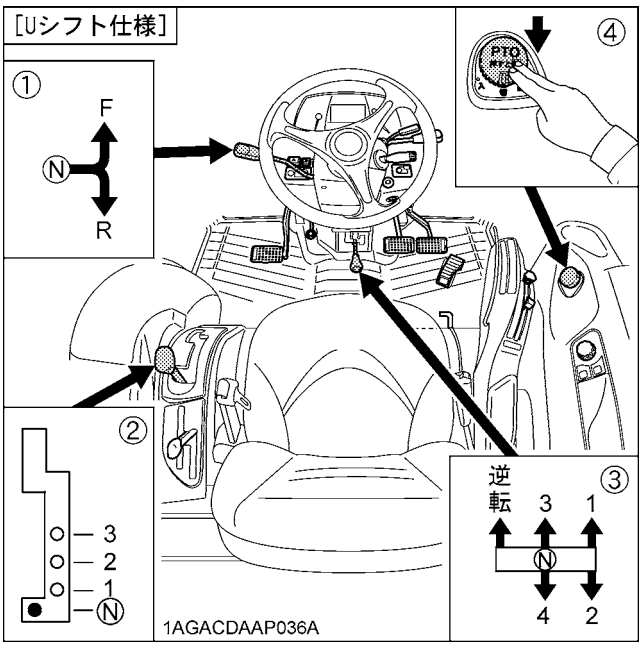
［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



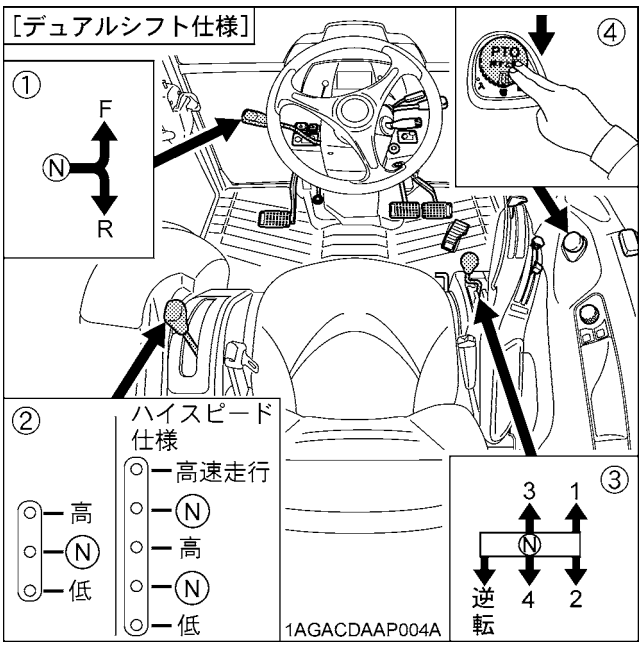
①燃料コック
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

3. 変速レバーを［中立］(N) にします。あんしん PTO スイッチを［切］にします。

あんしん PTO スイッチはスイッチを軽く押すと**［切］**に戻ります。



①シャトルレバー
②主変速レバー
③ PTO 変速レバー
④あんしん PTO スイッチ
Ⓕ“前進”
Ⓝ“中立 (N)”
Ⓡ“後進”



①シャトルレバー
②副変速レバー
③ PTO 変速レバー
④あんしん PTO スイッチ
Ⓕ“前進”
Ⓝ“中立 (N)”
Ⓡ“後進”

補　足

＊ シャトルレバーを**［中立］(N)**，あんしん PTO スイッチを**［切］**にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

4. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

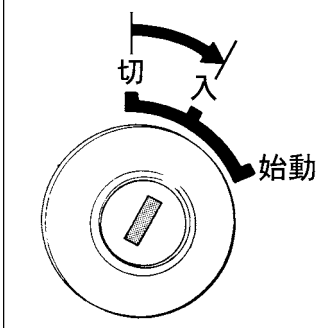
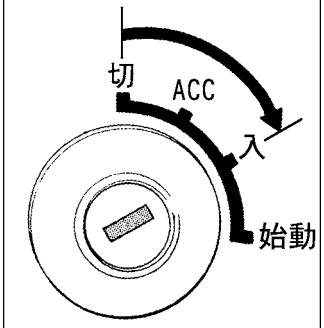
■ キースイッチ

切 . . . . . エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC. . . . . **(安全キャブ仕様)** エンジン停止中，ラジオ付き CD プレーヤが使えます。(この位置で，長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。)

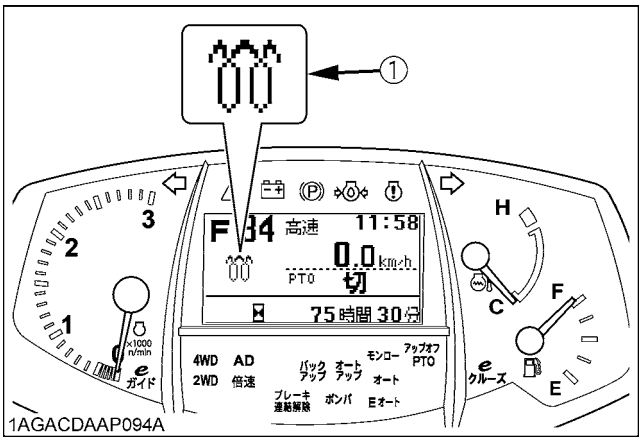
入 . . . . . 燃焼室内を予熱する位置。エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

始動 . . . . . エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に**［入］**に戻ります。

安全フレーム仕様	安全キャブ仕様
	

■ オートグロー

冷却水温が低いとき，キースイッチを**【入】**にすると，エンジン予熱ランプが点灯し，予熱が完了すると，自動的に消灯します。
寒冷時はエンジン予熱ランプが**【消灯】**したことを確認し，セルモータを回してください。



①エンジン予熱ランプ

■ モニタランプ

キースイッチ**【入】**時，下記ランプが点灯又は消灯しているか確認してください。

点灯ランプ…… ②③④
1. ③ランプが消灯しているときは，駐車ブレーキを掛けてください。

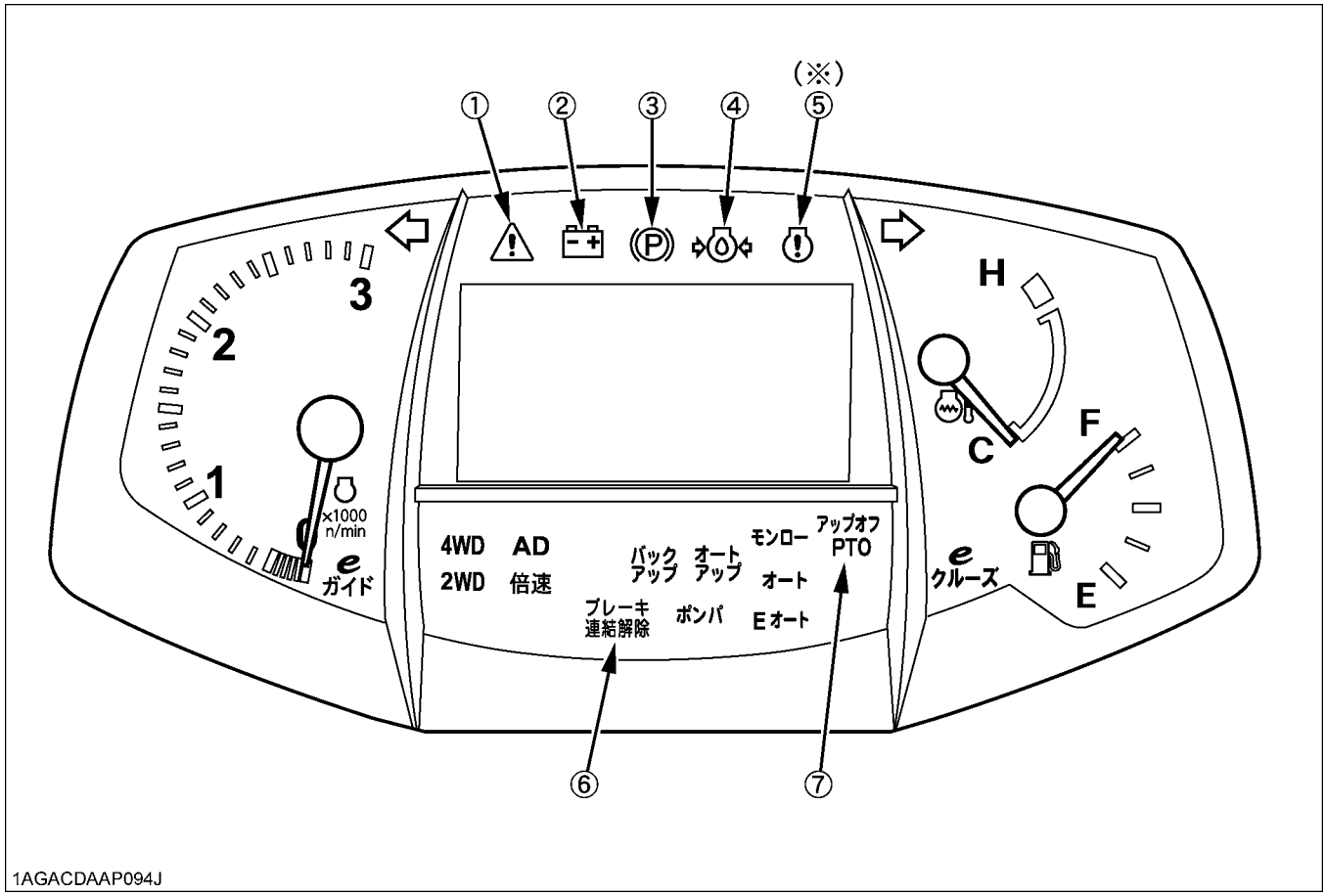
消灯ランプ…… ①⑤⑥⑦
1. ⑥ランプが点灯しているときは，ブレーキペダル連結金具を掛けてください。
2. ⑦ランプが点灯しているときは，PTO スイッチを**【切】**にしてください。

重　要

＊ ランプに異常がある時は，購入先に点検・整備を依頼してください。

補　足

＊ レバーやスイッチの位置により，点灯又は点滅するランプもあります。(仕様により異なります)



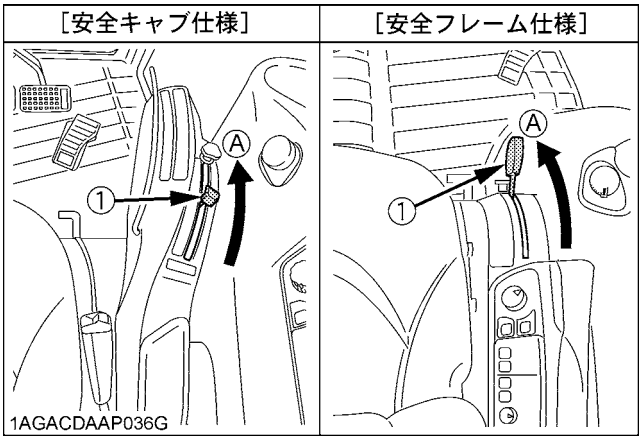
1AGACDAAP094J

①警告灯
②充電異常警告灯（チャージランプ）
③駐車ブレーキ警告灯
④エンジンオイル油圧警告灯
⑤エンジン異常警告灯
⑥ブレーキ連結解除警告灯
⑦アップオフ PTO ランプ

(※) KL31Z (H・-PC), 34Z (H) 仕様は，エンジン異常警告灯⑤と e クルーズランプが点灯しません。

5. 作業機を下げます。

油圧レバーを前方に倒すと作業機が下がります。



①油圧レバー　　Ⓐ“下げ”

補　足

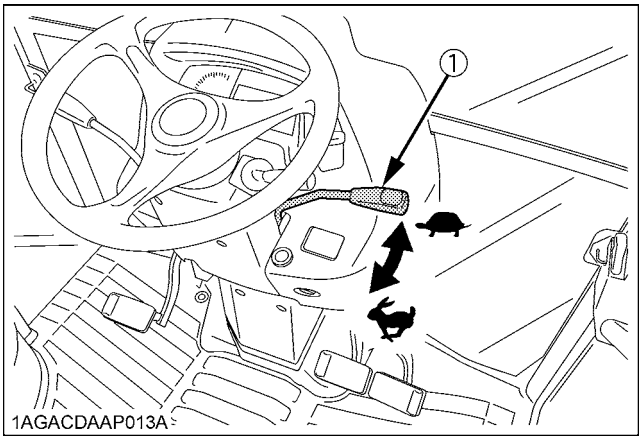
＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）

［KL37Z (H) ・ 40Z (H) ・ 44Z (H) ・ 48ZH ・ 53ZH ・ 58ZH (-PC) 仕様］

6. アクセルレバーを［低速］側に合わせます。

［KL31Z (H ・ -PC) ・ 34Z (H) 仕様］

6. アクセルレバーを［中程］まで引きます。



①アクセルレバー　　：“高速”
：“低速”

7. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

8. キーを［始動］位置に回します。

電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時，下記のメッセージが表示されると，エンジンは始動できません。メッセージに従って操作してください。

PTOスイッチを
「切」にして下さい

シャトルレバーを
「中立」にして下さい

PTOスイッチを「切」に
シャトルレバーを
「中立」にして下さい

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

9. エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

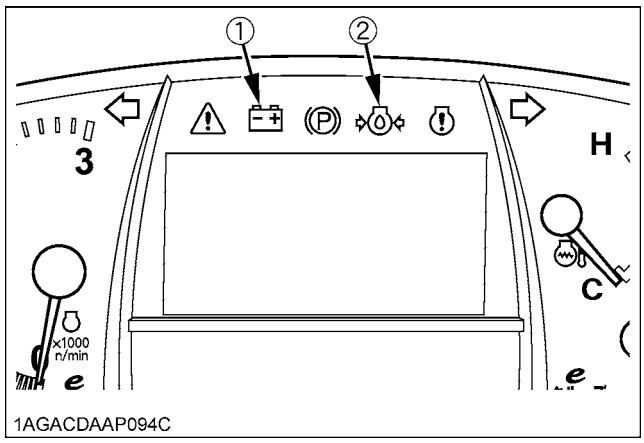
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

10. 以下のランプが［消灯］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。



エンジン始動後消灯するランプ：①，②

11. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。

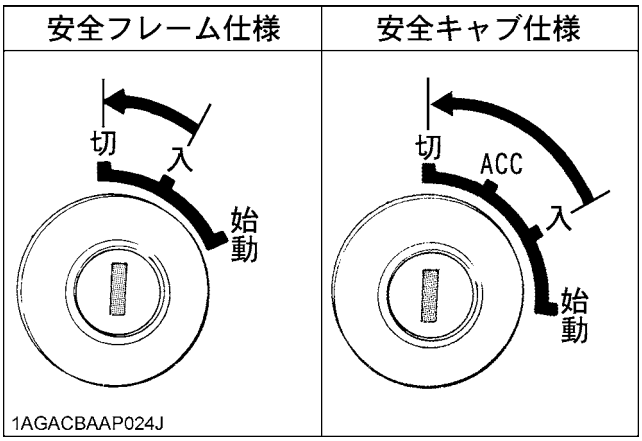
重　要

＊ エンジン回転中にキーを**［入→切→入］**と素早く操作するとエンジンは**［停止せず］**，電源系のみが一瞬**［停止状態］**になるため，マイコンがスイッチなどの故障と判断し，PTO スイッチ，電子メータなどの作動に異常をきたすことがあります。
この場合機械の故障ではないので，いったんエンジンを**［停止］**したあと，エンジンを再始動してください。

■停止のしかた

1. アクセルレバーを前方に［押し］，アイドリング状態にします。

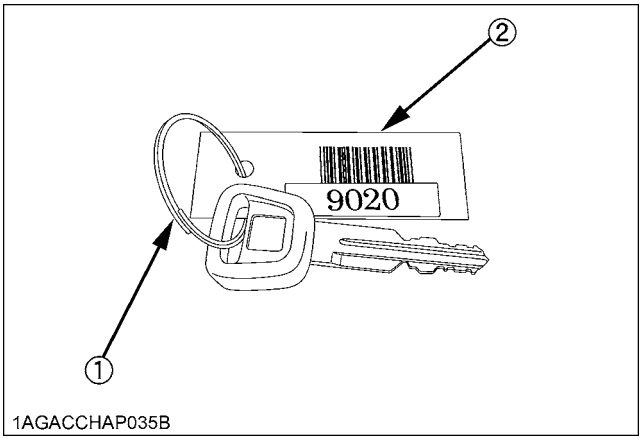
2. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。



重　要

＊ KL53Z・58Z 仕様のエンジンの停止は，５分間アイドリング運転してからにしてください。高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3. キーは必ず［抜き］ましょう。



①キーリング
②キーナンバー票

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーを**［抜いて］**ください。
＊ キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。**［安全キャブ仕様］**
＊ バッテリあがりの原因になりますので，ルームランプは消灯してください。**［安全キャブ仕様］**

■寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルに充分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は，アクセルレバーを**［低速］**側にして必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　　温	暖機運転時間
-10 ℃以上	5 分間
-10 ～ -20 ℃	5 ～ 10 分間
-20 ℃以下	20 分間以上

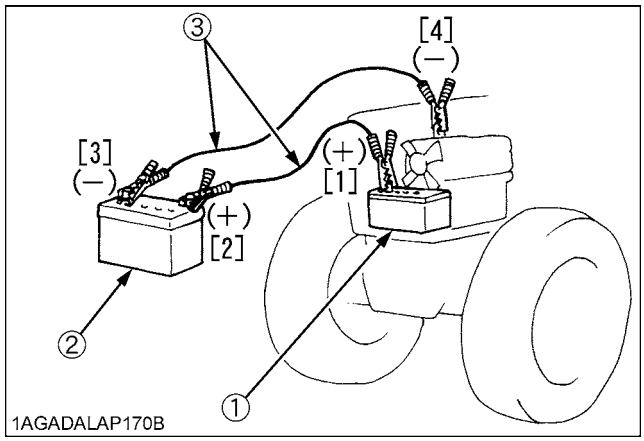
補　足

＊ エンジン始動後，エンジン回転を安定させるため，自動的に回転数が上がることがあります。
＊ 寒冷時の暖機運転では，マフラパイプ内で結露した水分が，水滴となって飛散することがあります。
アイドリング以外で暖機運転をすると，水滴の飛散量が多くなります。

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ トラクタのキースイッチを**［切］**にします。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します
＊ マイナスケーブルの他端**［4］**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**［4］**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。）



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。

＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。
＊ 救援車にこのトラクタを使用する場合は，必ず作業機を降してください。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

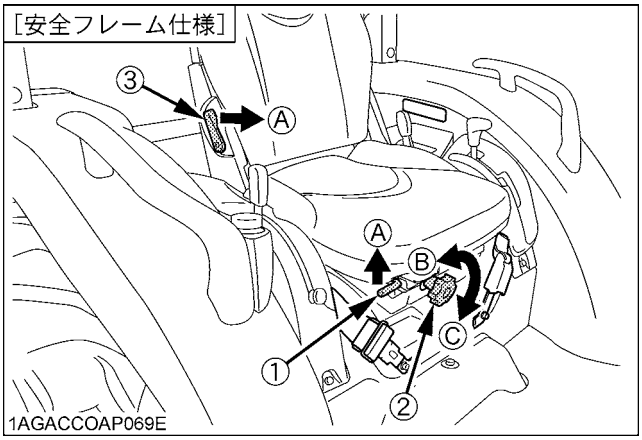
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンがじゅうぶん暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**【定期点検箇所一覧表】**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席周りの調節

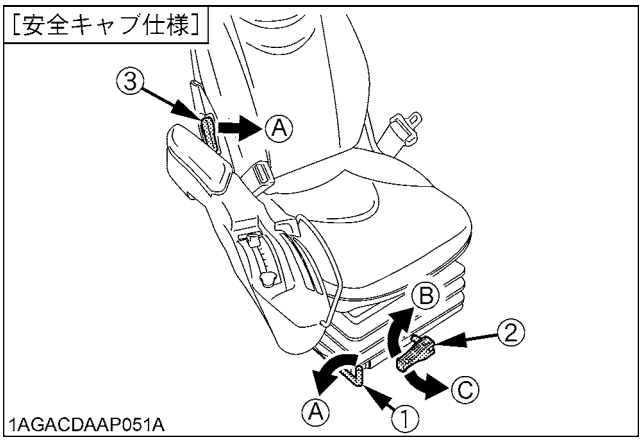
■シート

◆ 調整方法

1. 前後調節レバーでロックを**【解除】**すると，前後位置が調節できます。
2. リクライニング調節レバーを**【前に倒す】**と，背もたれの角度が調節できます。
3. 体重調整ハンドルを**【回す】**と，クッションの強さが調節できます。
4. 雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。**【安全フレーム仕様】**



①前後調節レバー　　**Ⓐ“解除”**
②体重調整ハンドル　　**Ⓑ“強くなる”**
③リクライニング調節レバー　　**Ⓒ“弱くなる”**



①前後調節レバー　　**Ⓐ“解除”**
②体重調整ハンドル　　**Ⓑ“強くなる”**
③リクライニング調節レバー　　**Ⓒ“弱くなる”**

補　足

＊ 体重調整ハンドルの回動が固い場合，ネジ部に少量のグリースを塗布してください。
＊ シートサスペンションのスムーズな作動のために，スプリングのフック部に適宜グリースを塗布してください。

■安全キャブ・安全フレームとシートベルト

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

- **＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。**
- **＊ 納屋の出入りやハウス作業など，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを取付けて立て，確実に固定し，必ずシートベルトを着用してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。**
- **＊ 安全キャブ又は安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。**
- **＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。**
- **＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。**
- **＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。**

補　足

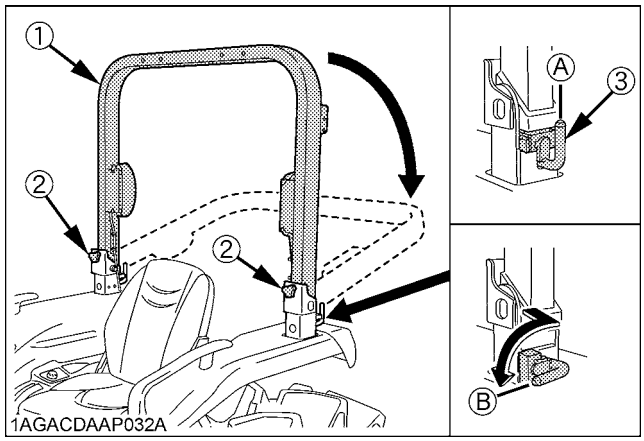
＊ 安全キャブや安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。

◆ 折りたたみ方法

1. ノブボルトを緩めます。
2. レバーを後方へ引き，そのまま外側に倒します。(左右共)
3. 安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたみます。

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては安全フレームと作業機が接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

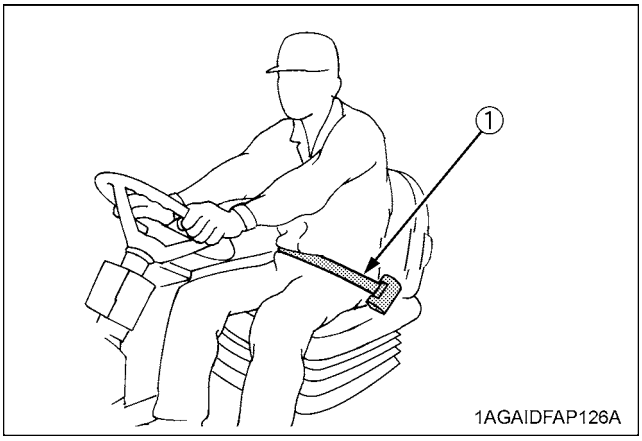


①安全フレーム
②ノブボルト
③レバー
Ⓐ“固定位置”
Ⓑ“折りたたみ位置”

◆ 起こす方法

1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. レバーを立ててそのまま前方へ確実に押し込みます。(左右共)
3. ノブボルトを締めます。
4. 安全フレームにガタがないか確認してください。

◆ シートベルト



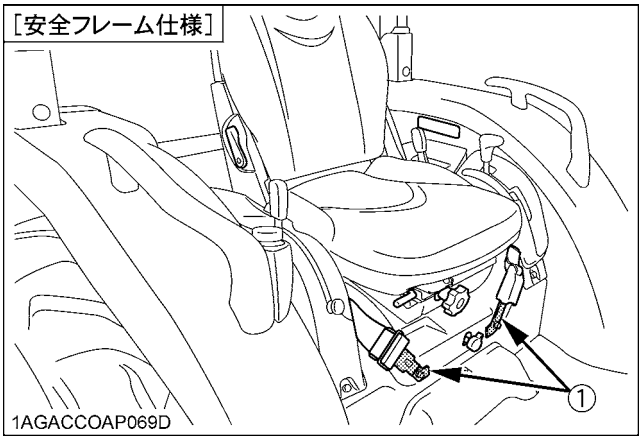
①シートベルト

電子メータメッセージ

＊ エンジン始動時下記のシンボルマークとメッセージが３秒間表示されます。シートベルトを正しく装着してください。

◆ シートベルトホルダ

降車後は，シートベルトをシートベルトホルダに収納してください。



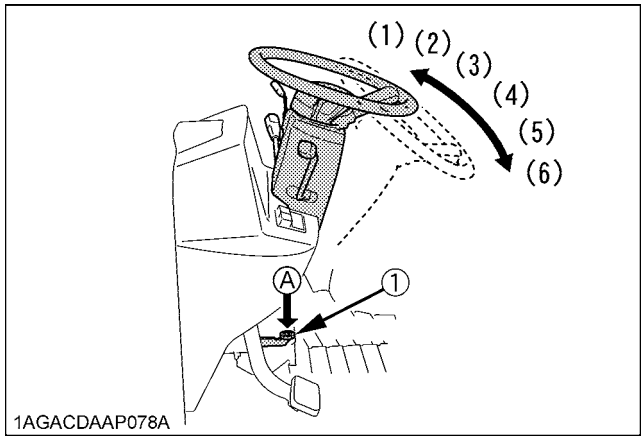
①シートベルトホルダ

■チルトステアリングハンドル

注 意

＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

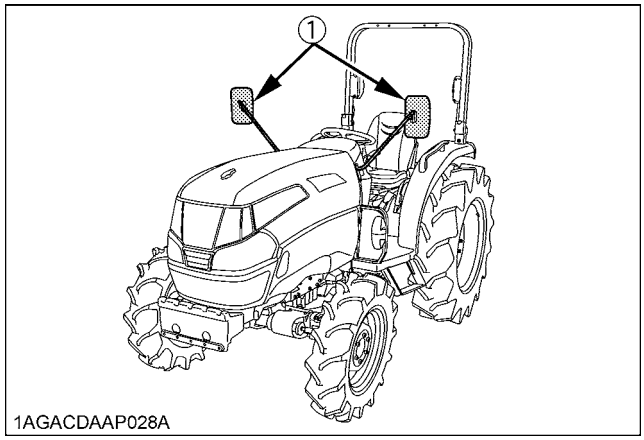
チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで (1) ～ (6) の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
(1)……乗り降り時の位置
(2) ～ (6)……運転操作位置

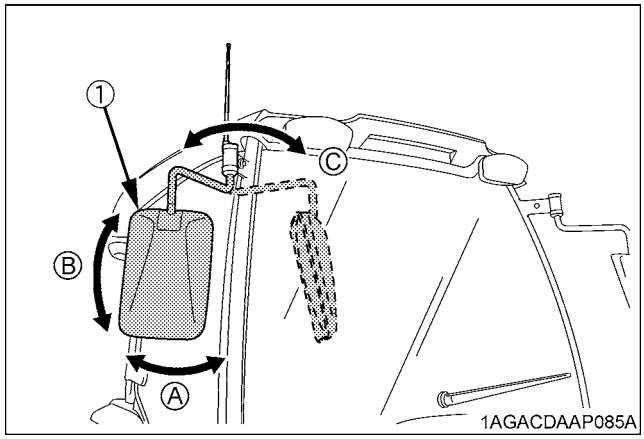


①チルトペダル　　Ⓐ“踏み込む”

■バックミラー

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できますので，運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. バックミラーは，格納できますので狭い場所ではぶつからないように格納してください。
   ［安全キャブ仕様］





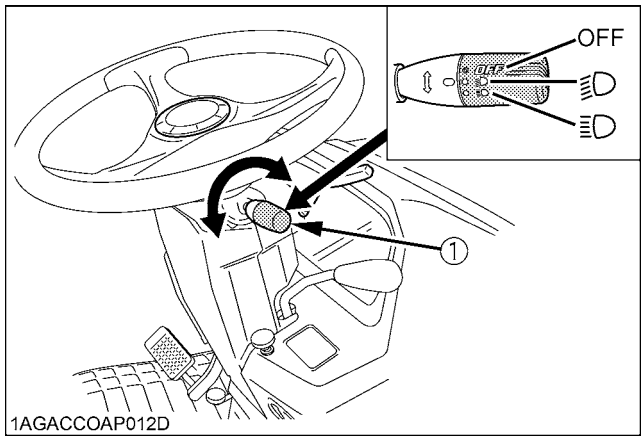
①バックミラー

Ⓐ“左右”
Ⓑ“上下”
Ⓒ“格納位置”

灯火類の操作

■ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。



①ヘッドライトスイッチ

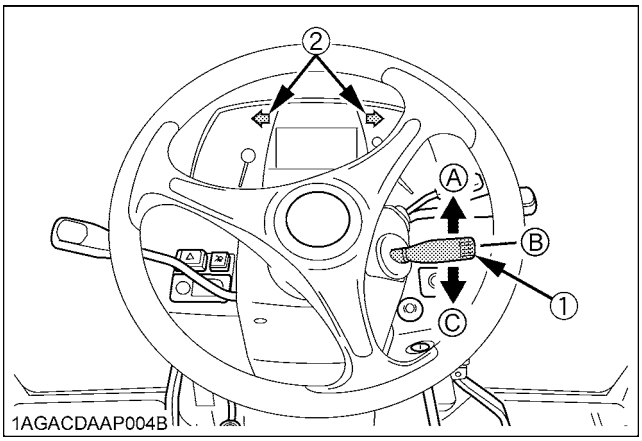
OFF……ヘッドライト消灯位置
≣D……ヘッドライト下向き照射位置
≣D……ヘッドライト上向き照射位置

補　足

＊ ヘッドライトスイッチを入れると，ウインカパイロットランプ，警告ランプ以外のランプ類，電子メータ液晶画面等の明るさが変化し暗くなります。

■ウインカスイッチ

1. スイッチを前後操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
   前……左折
   後……右折
2. スイッチはハンドルを戻すと，自動的に**［中立］**に戻る，オートリターン機構になっています。



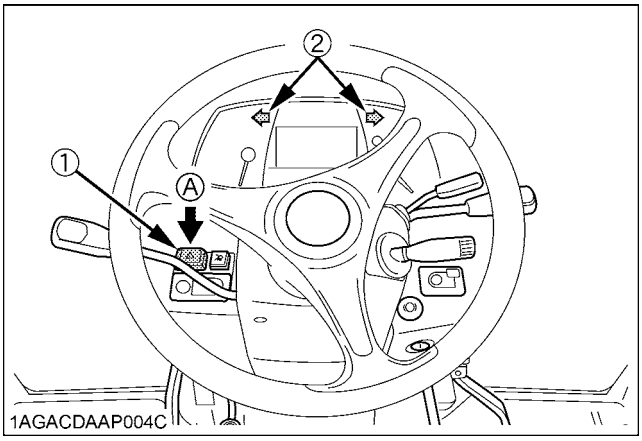
①ウインカスイッチ
②パイロットランプ
Ⓐ“左折”
Ⓑ“中立”
Ⓒ“右折”

補　足

＊ ハンドルを切る角度が小さいとレバーが**【中立】**に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。

■ハザードスイッチ

非常停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すと，ウインカ前後及びメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，非常停止中を知らせます。
再度スイッチを押すと消灯します。



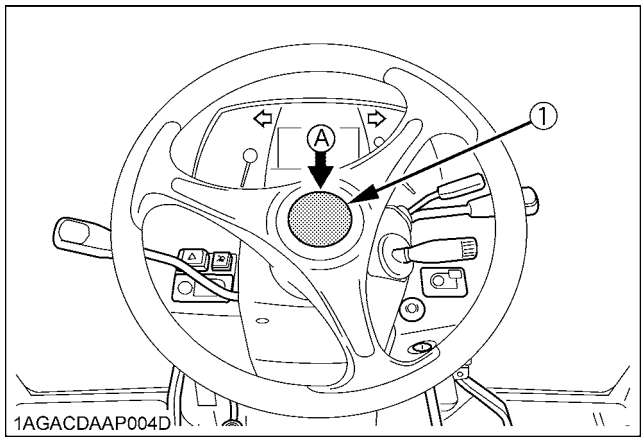
①ハザードスイッチ
②パイロットランプ
Ⓐ“ON/OFF”

補　足

＊ ハザードランプはキースイッチ**【切】【ACC】**位置では作動しません。

■ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



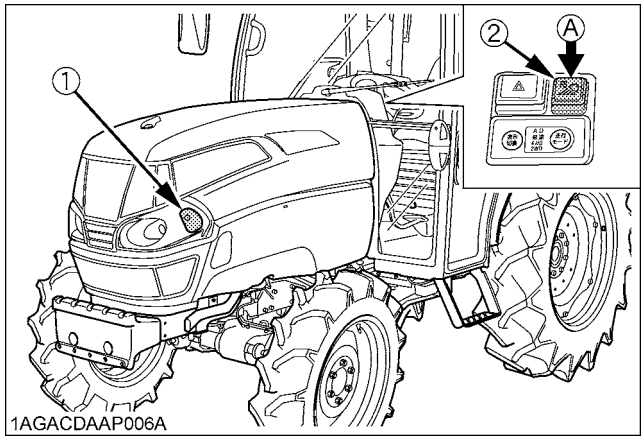
①ホーンボタン
Ⓐ“押す”

補　足

＊ ホーンはキースイッチ**【切】【ACC】**の位置では作動しません

■フロントサイド作業灯

スイッチを押すとフロントサイド作業灯が点灯します。再度スイッチを押すと消灯します。
作業灯の点灯を示すインジケータランプがスイッチに内蔵されています。



①フロントサイド作業灯
②フロントサイド作業灯スイッチ（インジケータランプ）
Ⓐ“ON/OFF”

補　足

＊ 作業灯はフロントサイド作業灯を含め**【道路運送車両法の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
道路走行時は消灯してください。

■バックランプ
シャトルレバーを**［後進］**の位置に入れると，バックランプが点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照）

■ブレーキランプ
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照）

■車幅灯・尾灯
ヘッドライトに連動して点灯します。
（**［日常点検］**の**［メータ・ランプ類の作動］**の項を参照）

外部電源取出端子

■外部電源・信号取出端子
各種電源取出しやインプルメントに車速信号を伝達する車速信号カプラを備えています。

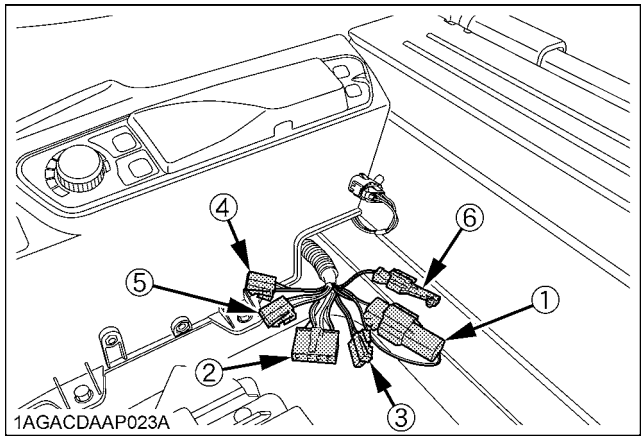
重　要

＊ 配線の損傷を防止するため，外部電源を使用する場合や，使用した場合には，可動部（シートなど）にケーブルが接触しないように配線してください。
＊ 配線の損傷を防止するため，トラクタから作業機を取外す際，インプルメント用ケーブルは必ずトラクタ側の電源取出しカプラ部から取外し，作業機側のケーブルをトラクタ側に持込まないでください。外部電源取出しが可動部に接触しないように，元の場所に収納してください。
＊ 損傷したケーブルは使用しないでください。短絡等により機械が故障する原因となります。

補　足

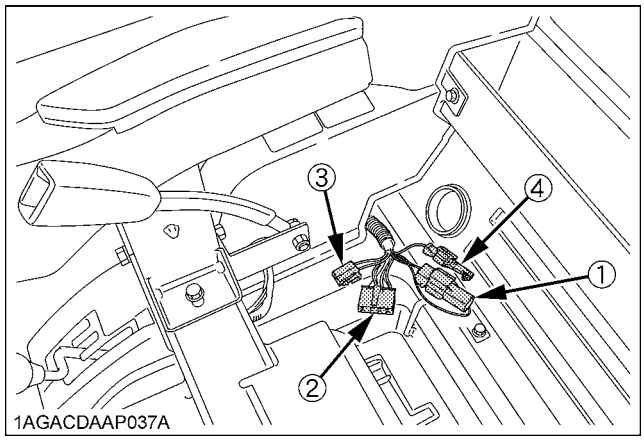
＊ 車速信号カプラにはキャップが付いています。故障を防ぐため使用しないときは必ずキャップを装着してください。

［安全フレーム仕様］

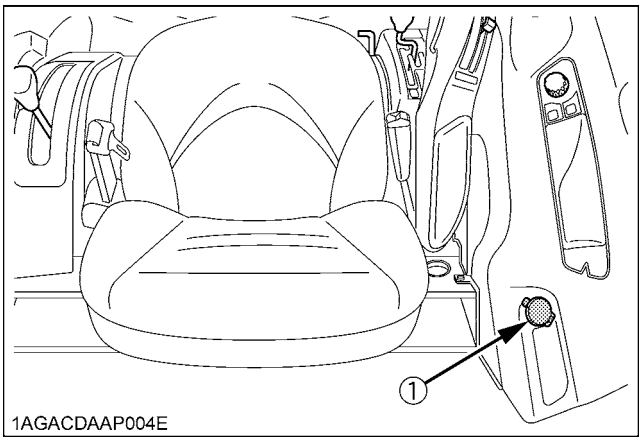


①	作業機用大容量コネクタ（30A）	2P カプラ（黒色）
②	トレーラ	8P カプラ（白色）
③	作業灯（5A）	2P カプラ（緑色）
④	作業機（ローダ）（20A）	2P カプラ（黒色）
⑤	予備電源（作業機電源と合わせて 20A）	2P カプラ（白色）
⑥	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）

［安全キャブ仕様］

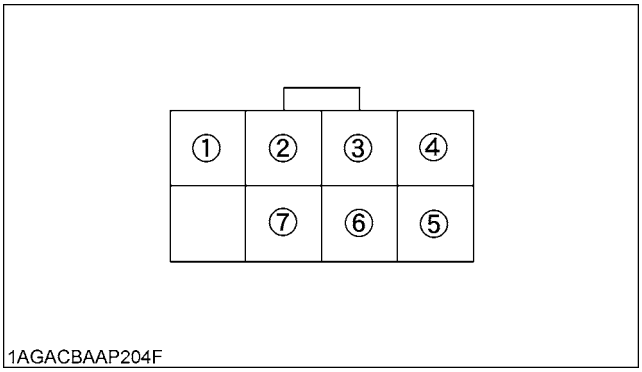


①	作業機用大容量コネクタ（30A）	2P カプラ（黒色）
②	トレーラ	8P カプラ（白色）
③	作業機（ローダ）（20A）	2P カプラ（黒色）
④	車速信号カプラ	1P カプラ（灰色）



①外部電源（シガライタタイプ）（10A）

■トレーラカプラ電源



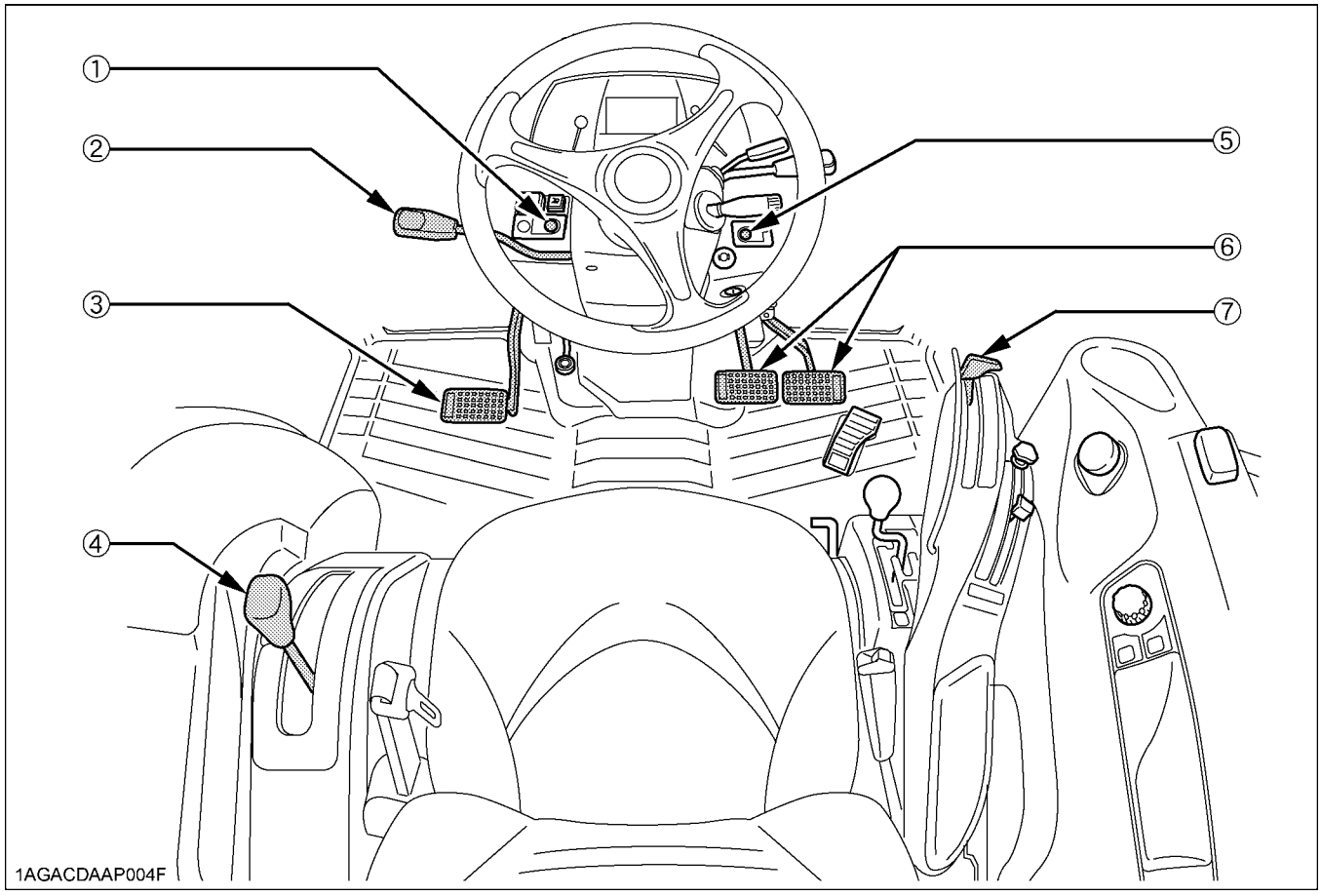
電源	配線色
①アース	黒
②駐車灯（8W）	青白
③フラッシャ左（23W）	緑青
④ブレーキランプ（23W × 2）	緑
⑤フラッシャ右（23W）	緑赤
⑥テールランプ（8W）	青白
⑦バックランプ（10W）	紫

発進・走行

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

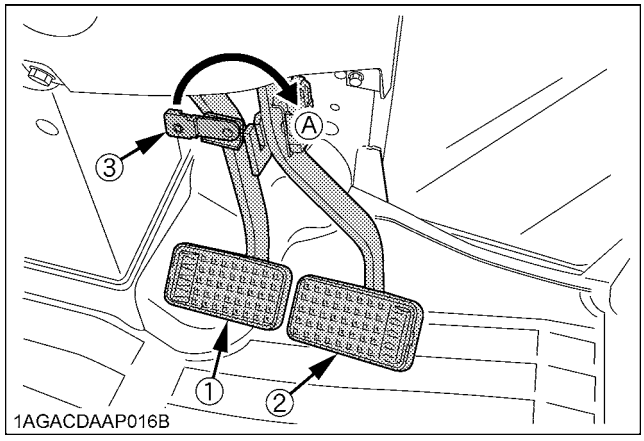
■発進・走行手順［デュアルシフト仕様］



①走行モード切換スイッチ　③クラッチペダル　⑤ワンタッチ耕うんモードスイッチ　⑦主変速レバー
②シャトルレバー　④副変速レバー　⑥ブレーキペダル

レバーやスイッチの操作説明は次ページ以降に記載しています。

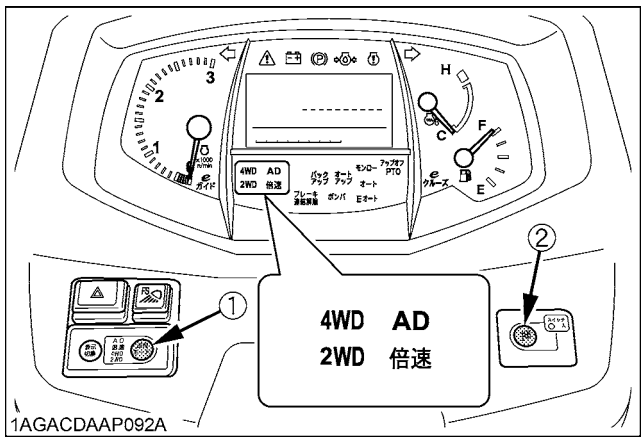
1. ブレーキペダルの連結状態を確認します。



①ブレーキペダル（左）　Ⓐ“道路走行時は必ずかける”
②ブレーキペダル（右）
③連結金具

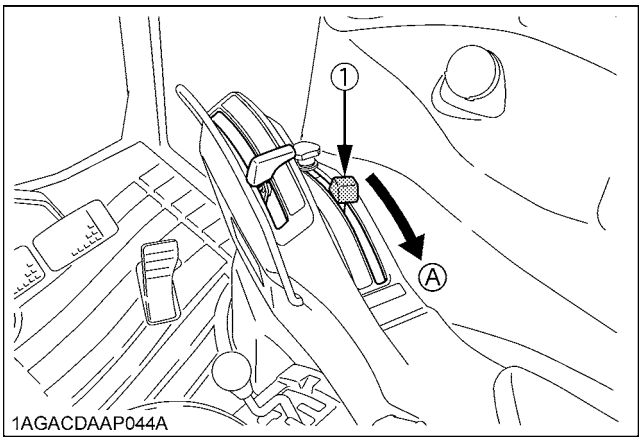
2. 走行モードを確認します。

通常道路走行時は［2WD］，ほ場への出入りや作業時は作業内容に応じ適切なモードを下記スイッチで選択してください。



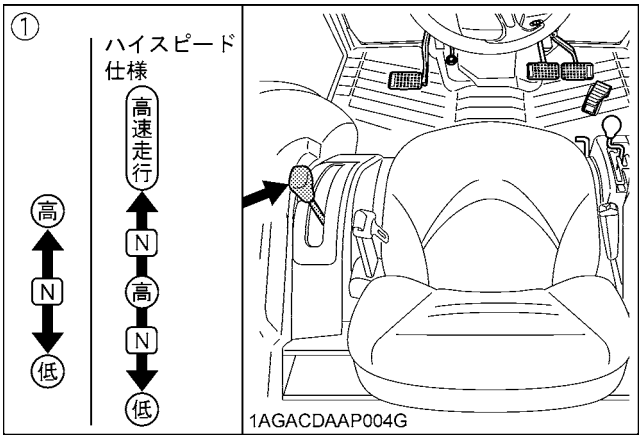
①走行モード切換スイッチ
②ワンタッチ耕うんモードスイッチ

3. 油圧レバーで作業機を上げます。



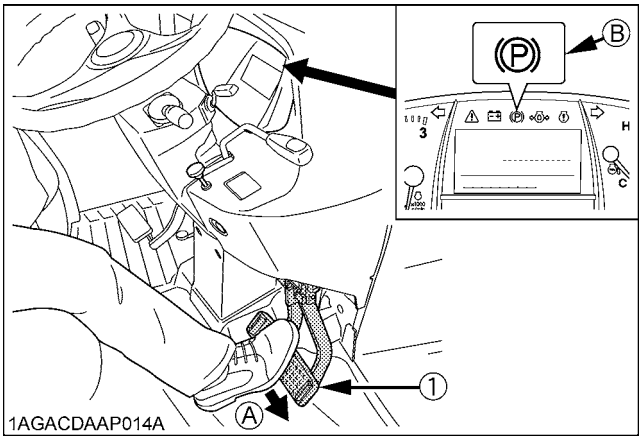
①油圧レバー　　Ⓐ“上げる”

4. クラッチペダルを踏み，副変速レバーで車速段を選択します。
クラッチペダルを離します。



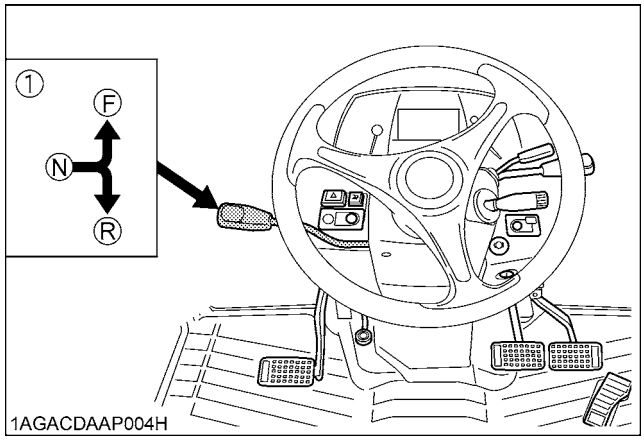
①副変速レバー

5. エンジン回転を調整します。
6. 駐車ブレーキを解除します。



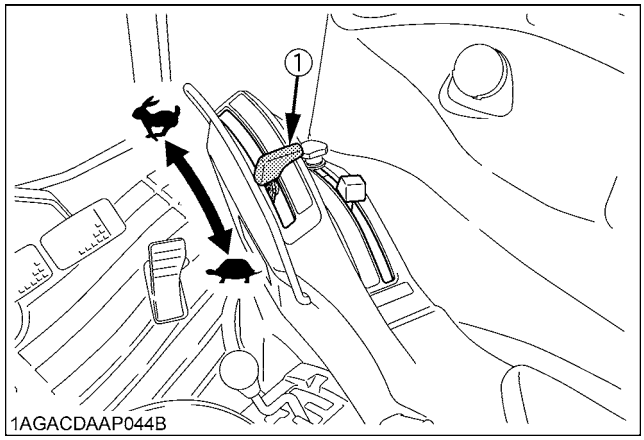
①ブレーキペダル　　Ⓐ“踏込む”
Ⓑ“駐車ブレーキランプ消灯”

7. シャトルレバーを前進又は後進に入れます。



①シャトルレバー　　Ⓕ“前進”
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

8. 主変速レバーを前方方向に倒すと，トラクタが動き始めます。
メータパネルで車速を確認しながら希望車速まで増速してください。



①主変速レバー　　“高速”　“低速”

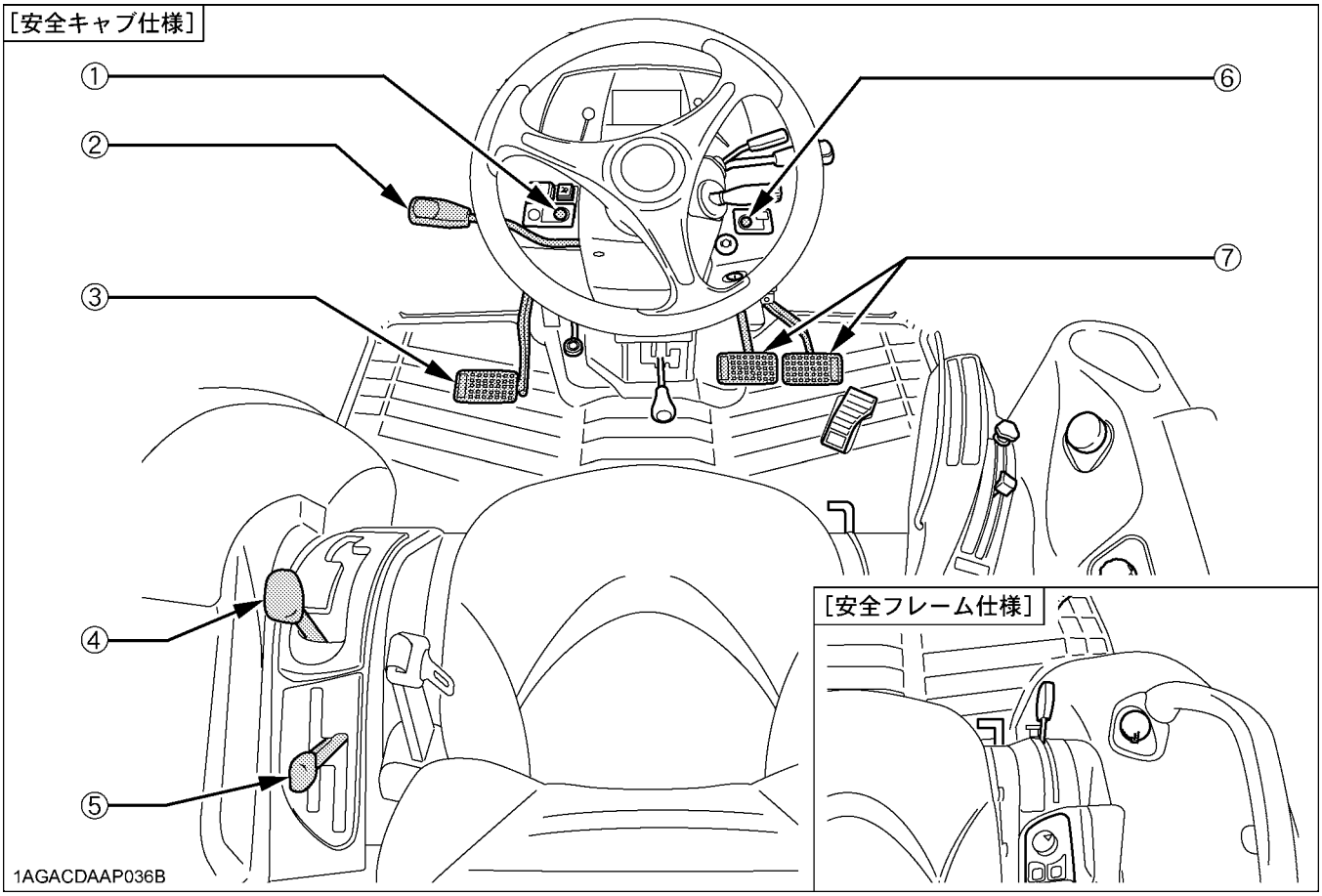
補　足

＊ 発進時より希望車速（高速）で走行したい場合，主変速レバー位置をメータパネルに表示される車速に合わせてから，クラッチペダルで発進してください。

◆ 発進・停車のヒント

デュアルシフト仕様では，ブレーキペダル操作のみで発進・停車が行なえます。ブレーキペダルより足を離すと，主変速レバーで設定した車速までスムーズな増速を行ないます。また，ブレーキペダル連結状態でペダルを踏込むと，ペダルの踏込み量に応じ減速や停車を行なうことができ，坂道発進もトラクタがバックすることなくスムーズに行なえます。

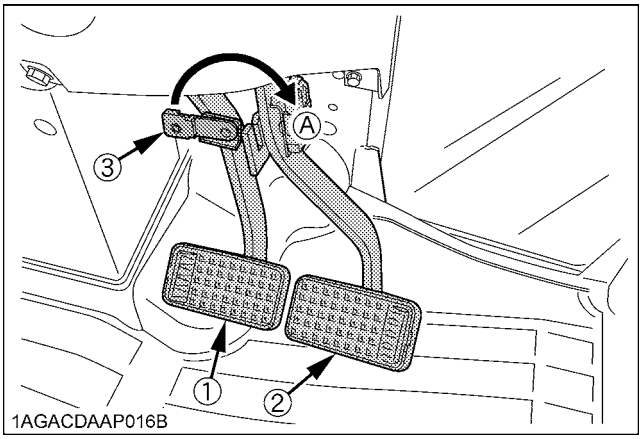
■発進・走行手順［U シフト仕様］



①走行モード切換スイッチ　③クラッチペダル　⑤クリープレバー　⑦ブレーキペダル
②シャトルレバー　④主変速レバー　⑥ワンタッチ耕うんモードスイッチ

レバーやスイッチの操作説明は次ページ以降に記載しています。

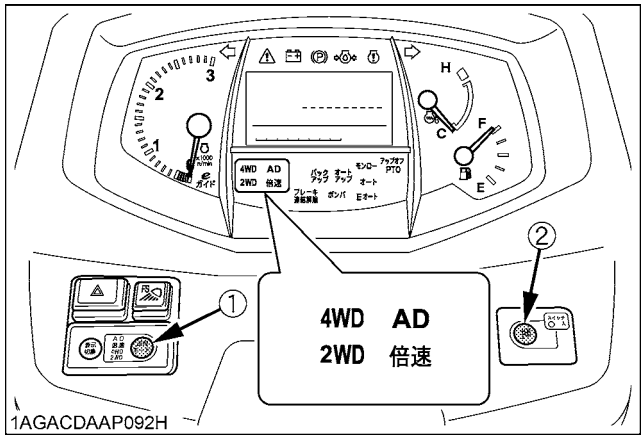
1. ブレーキペダルの連結状態を確認します。



①ブレーキペダル（左）　Ⓐ“道路走行時は必ずかける”
②ブレーキペダル（右）
③連結金具

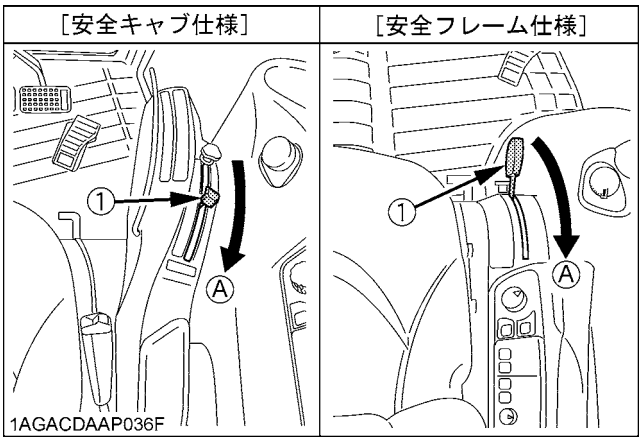
2. 走行モードを確認します。

通常道路走行時は［2WD］，ほ場への出入りや作業時は作業内容に応じ適切なモードを下記スイッチで選択してください。



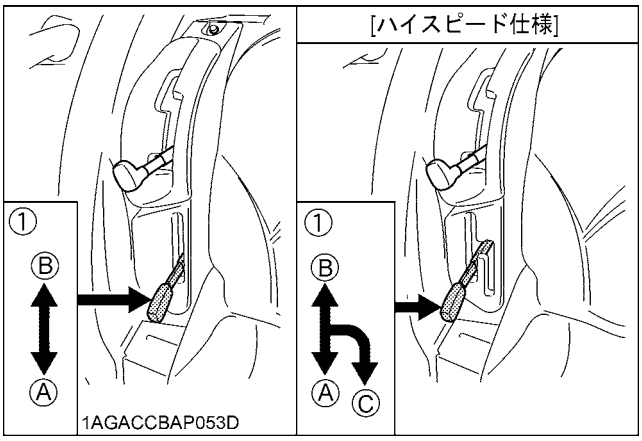
①走行モード切換スイッチ
②ワンタッチ耕うんモードスイッチ

3. 油圧レバーで作業機を上げます。



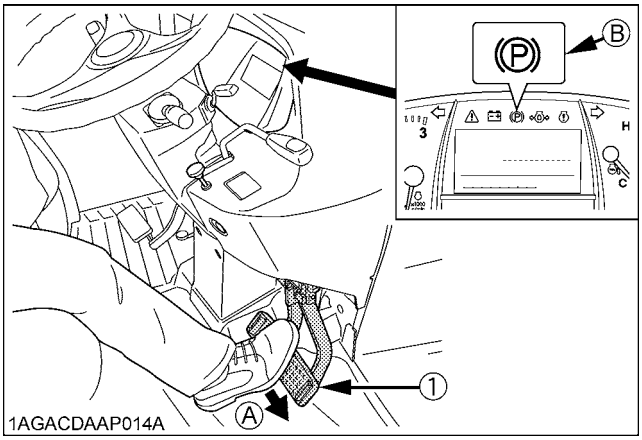
①油圧レバー　Ⓐ“上げる”

4. クラッチペダルを踏み，クリープレバーで車速段を選択します。



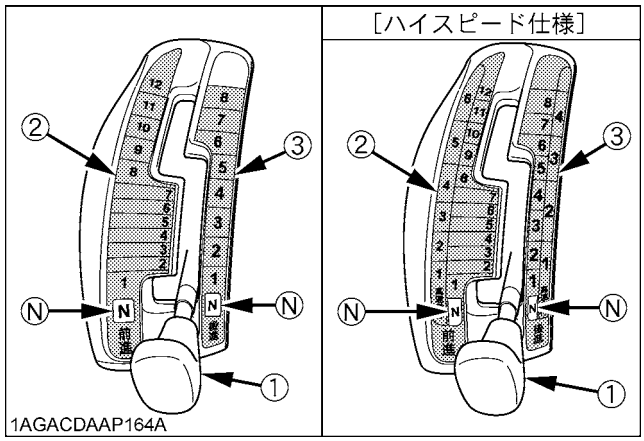
①クリープレバー　Ⓐ“高”
Ⓑ“低”
Ⓒ“高速走行”

5. エンジン回転を調整します。
6. 駐車ブレーキを解除します。



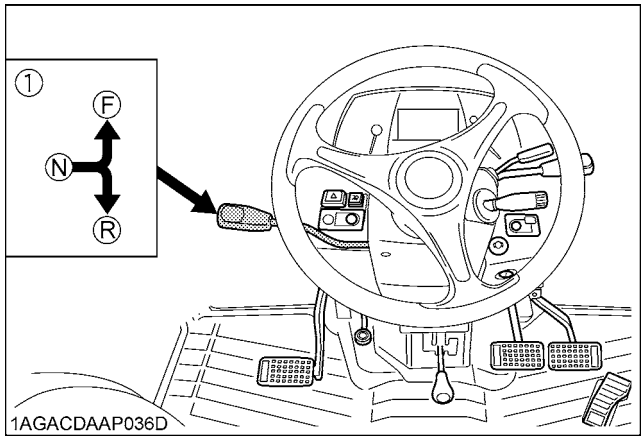
①ブレーキペダル　Ⓐ“踏込む”
Ⓑ“駐車ブレーキランプ消灯”

7. 主変速レバーを［1速］に入れます。



①主変速レバー　Ⓝ“中立”
②前進速度ラベル
③後進速度ラベル

8. シャトルレバーを前進又は後進に入れ，クラッチペダルをゆっくりはなすと，トラクタが動き始めます。



①シャトルレバー　Ⓕ“前進”
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

9. 主変速レバーを 1 段ずつ，メータパネルで車速を確認しながら希望車速まで変速してください。

補　足

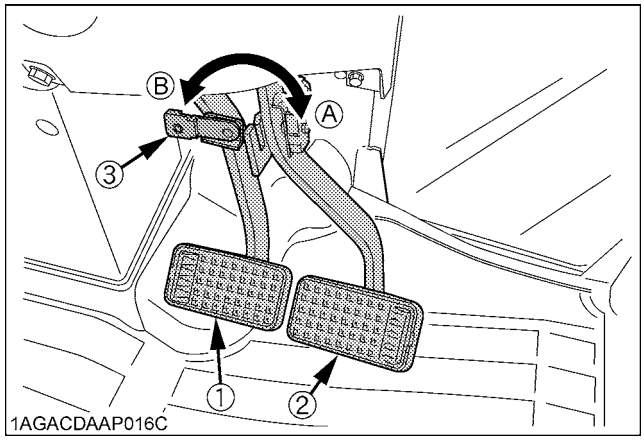
＊ 発進時より希望車速（高速）で走行したい場合，主変速レバーを希望車速段に変速後，クラッチペダルで発進してください。

■ブレーキペダル

警　告

＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

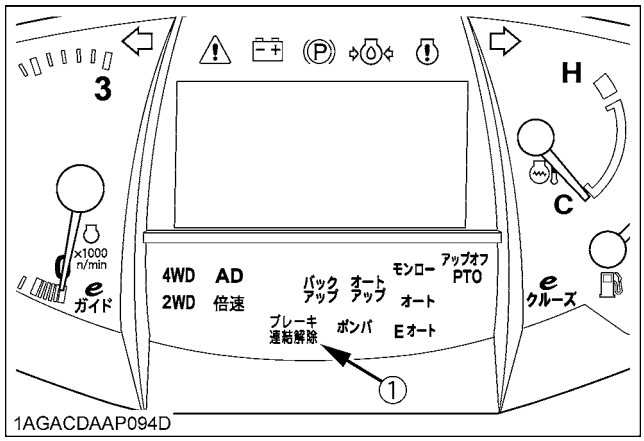
ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



①ブレーキペダル（左）　　**Ⓐ“連結（ロック）”**
②ブレーキペダル（右）　　**Ⓑ“解除”**
③連結金具

◆ ブレーキ連結解除警告灯

ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除警告灯**が点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ランプの消灯を確認してから，走行してください。



①ブレーキ連結解除警告灯

■クラッチペダル

注　意

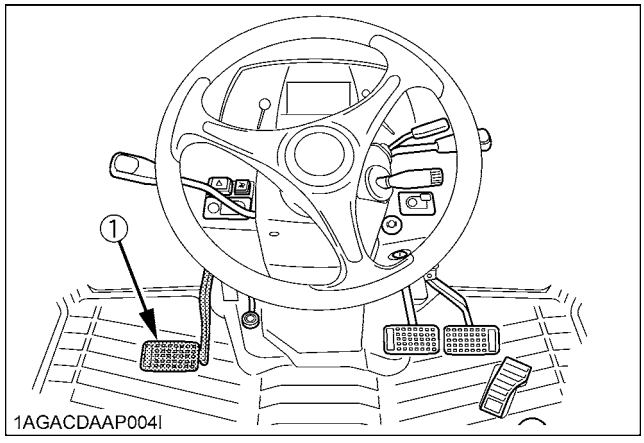
＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏み込む‥‥‥クラッチが切れる。
ペダルから足を離す‥‥‥クラッチがつながる。

補　足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。

- 副変速レバー**［デュアルシフト仕様］**
- PTO 変速レバー
- クリープレバー**［U シフト仕様］**



①クラッチペダル

重　要

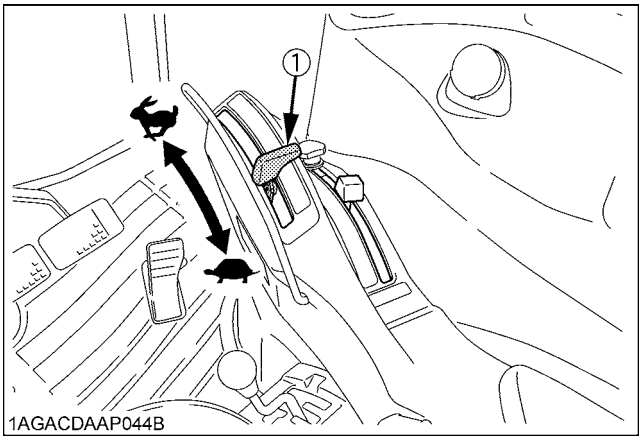
＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

■主変速レバー
[デュアルシフト仕様]

注　意

＊ 主変速レバーを手前にいっぱい引いても，トラクタは微速で動きます。トラクタを停車させるときは，シャトルレバーを［中立］にして必ず駐車ブレーキを掛けてください。
＊ シャトルレバーを［前進］や［後進］に入れたまま，ブレーキ停車状態（駐車ブレーキでトラクタの動きを止めること）でトラクタより降りないでください。
＊ 走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。不意にレバーを動かすと車速が変わり危険な場合があります。

主変速レバーはクラッチ操作なしで車速を無段階に変えることができ，あらゆる作業機を最適の速度で運転できます。レバーを前方に倒すと増速され，手前に引くと減速されます。
レバーはガイドラベルの中央付近で使うと効率よく運転できます。副変速レバーを上手に組合わせ，省エネ運転を心掛けてください。



①主変速レバー　　“低速”　“高速”

補　足

＊ メータパネルに表示される車速を参考に，レバー位置を決めてください。常に一定車速が得られます。（メータパネルの詳細は**【副変速レバー】**の項を参照ください。）

■主変速レバー
[U シフト仕様]

注　意

＊ 急発進はしないでください。
＊ 安全のため，急激な変速は避けてください。変速は 1 段ずつ行なってください。
＊ 緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊ 走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊ 急な坂道，車両への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊ 低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーで発進するとき，変速レバーを入れてから発進までに時間がかかる場合があります。（発進遅れ）
- **十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。**
- **低温時の発進遅れは異常ではないので，主変速レバーを変速に入れたままトラクタから降りないでください。遅れて動き出すおそれがあります。**

重　要

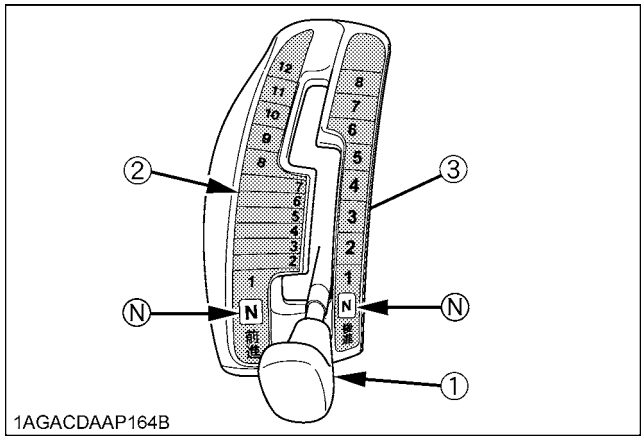
＊ 油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。

1. 作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。
2. 急激なシフトダウンは避けてください。
3. トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

◆ 変速操作

[KL40Z・44Z]

1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 24 段
   後進→ 16 段　の車速が得られます。



①主変速レバー　　**Ⓝ“中立”位置**
②前進速度ラベル
③後進速度ラベル

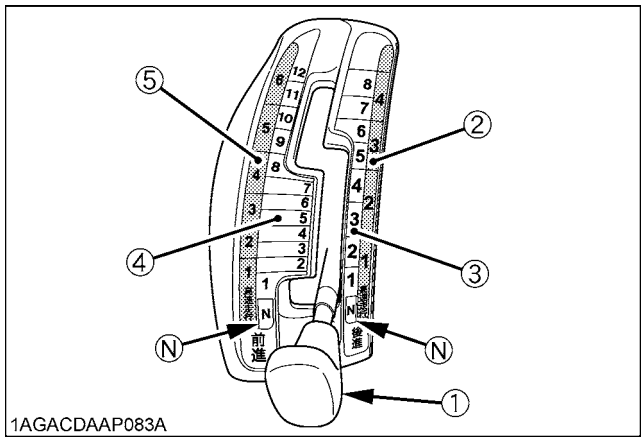
補　足

＊ 後進時，主変速レバーが後進ラベルの１速から４速の範囲内では，各２段階ありますが，後進速度は変化しません。

◆ 変速操作

[KL40ZH・44ZH・48ZH・53ZH・58ZH]

1. 主変速レバーは，停止・走行中に関係なくノンクラッチで変速できます。
2. シャトルレバーとクリープレバーの組合せにより
   前進→ 30 段
   後進→ 20 段　の車速が得られます。



①主変速レバー　　**Ⓝ“中立”位置**
②後進速度ラベル（高速走行用）
③後進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
④前進速度ラベル（クリープレバー低・高速用）
⑤前進速度ラベル（高速走行用）

補　足

＊ 主変速レバーの変速段数は，クリープレバーが **［低］**と**［高］**速位置では内側ラベル（3）（4）**［高速走行］**位置では外側ラベル（2）（5）を参考にしてください。

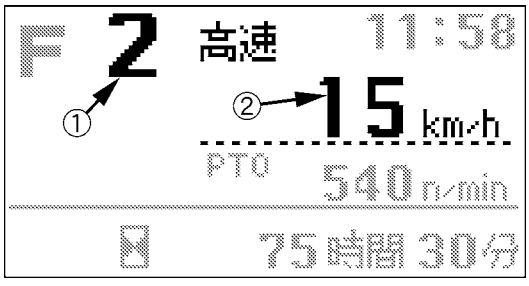
＊ 高速走行時，主変速レバーは各変速域とも各２段階ありますが，速度は変化しません。

＊ 後進時，主変速レバーが後進ラベルの１速から４速の範囲内では，各２段階ありますが，後進速度は変化しません。

電子メータメッセージ

＊ 運転中変速段数①や車速②が表示されます。

＊ ハイスピード仕様では，クリープレバーを**［高速走行］**の位置に変速すると，高速の文字が表示されます。



■副変速レバー

[デュアルシフト（ハイスピード）仕様]

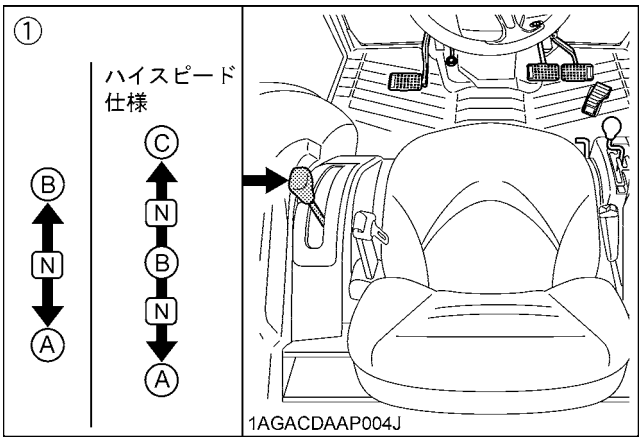
副変速レバーで車速を３段階**[低速・高速・高速走行]**に切換えることができます。作業に応じ適切な車速段を選択してください。

変速はクラッチペダルをいっぱい踏込み，トラクタを完全に停止させてから行なってください。なお，**[高速走行]**位置では，移動走行やトレーラ作業に便利な**[アクセル連動]**モードになります。

[デュアルシフト仕様]

副変速レバーで車速を２段階**[低速・高速]**に切換えることができます。作業に応じ適切な車速段を選択してください。

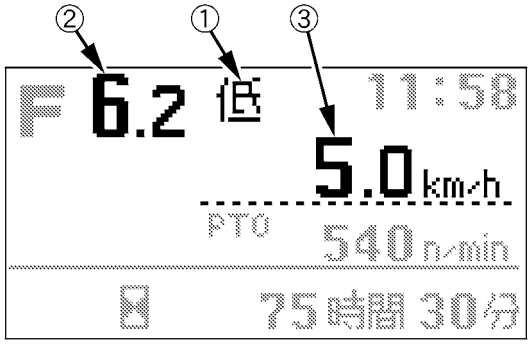
変速はクラッチペダルをいっぱい踏込み，トラクタを完全に停止させてから行なってください。



①副変速レバー　　**Ⓐ“低速”**　**Ⓒ“高速走行”**
Ⓑ“高速”　**Ⓝ“中立”**

補　足

＊ メータパネルには，下記３種類のデータが表示されます。
①副変速レバー位置を表示
（低速・高速・[高速走行]・中立）
②副変速レバーと主変速レバーの選択位置に応じた走行可能最高車速（KL31Z(H・-PC)・34Z(H)のデュアルシフト仕様のみは定格回転での車速）を表示
③走行実車速を表示（停止時は 0.0km/h，副変速［中立］時は ＊＊ km/h を表示）



◆ アクセル連動とは

[ハイスピード仕様のみ]

副変速レバーを**[高速走行]**位置にすると，**[アクセル連動]**モードになります。

アクセル連動とは，アクセルペダルの踏込み加減に応じエンジン回転と車速が同時に制御されます。

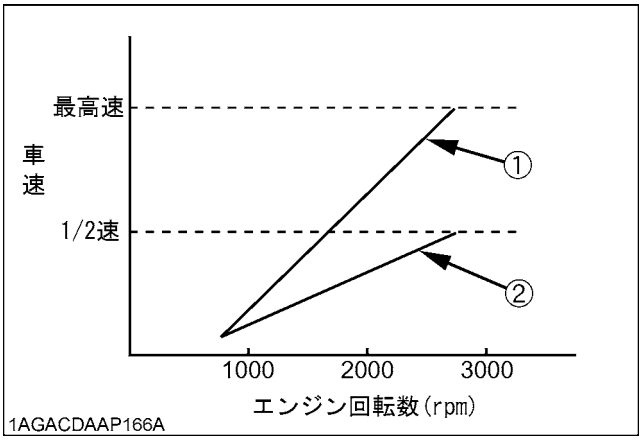
ペダルを踏込む・・・

エンジン回転の上昇に応じて車速も早くなる。

ペダルを離す・・・

エンジン回転が下がり車速も遅くなる。

なお，希望最高速度は主変速レバー位置で決めることができます。



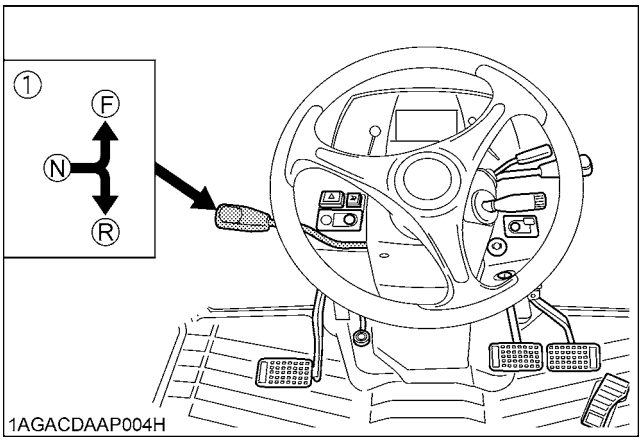
①主変速レバーを最高速位置にセット時の速度
②主変速レバーを中間位置にセット時の速度

■シャトルレバー

警 告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。
＊ 急傾斜地で前進・後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行なうと，前進・後進が切換わるときトラクタの自重で自走し，危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

レバーを持ち上げ，前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。レバー操作は，クラッチペダルを踏まなくても（ノンクラッチ）変速することができます。



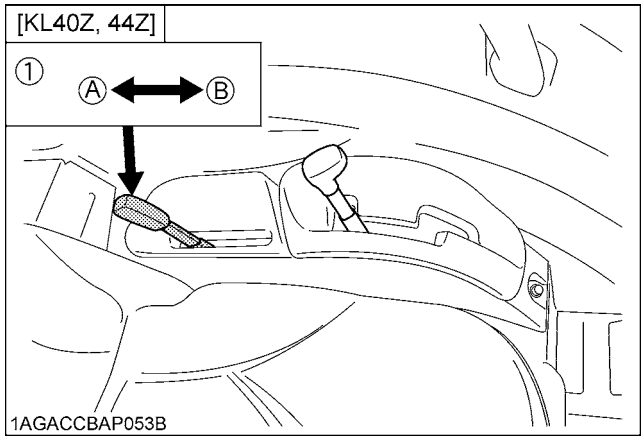
①シャトルレバー　　**Ⓕ“前進”**
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

■クリープレバー
［U シフト仕様］

注 意

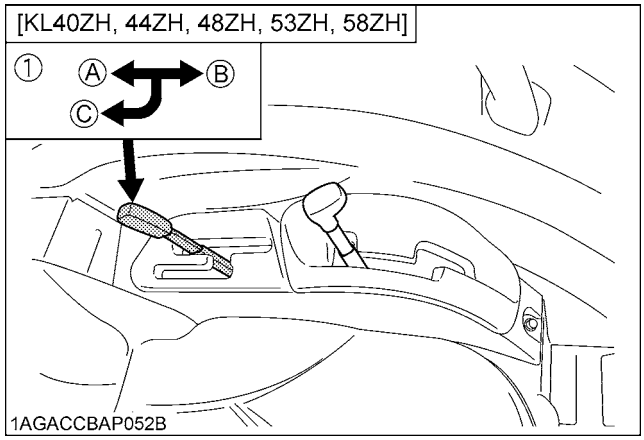
＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。

［低］位置で超低速（クリープ速度），**［高］**位置で高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。



①クリープレバー　　**Ⓐ“高”**
Ⓑ“低”

［低］位置で超低速（クリープ速度），**［高］**位置で高速が得られます。
［高速走行］位置では，移動走行に便利な高速が得られます。
クラッチペダルを踏込み操作します。



①クリープレバー　　**Ⓐ“高”**
Ⓑ“低”
Ⓒ“高速走行”

◆ クリープの使い方

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   - ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   - ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   - プランタによる移植作業。
   - 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
   - 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）。
   - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
   - けん引・トレーラ作業。
   - フロントローダ作業。
   - フロントブレード作業（除雪作業）。
   - 土木作業。
   - ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   - 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   - 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   - クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
     停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

＊ クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。
超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

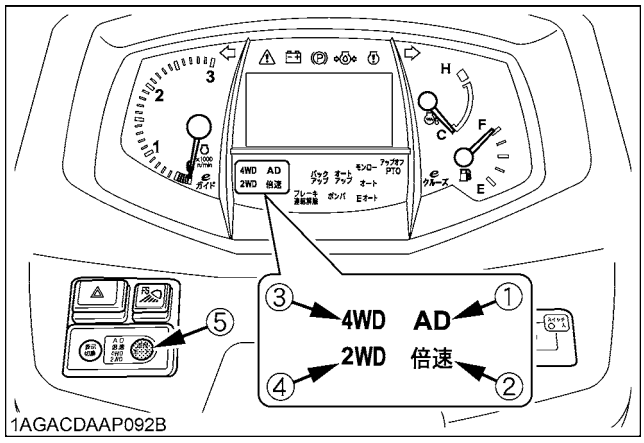
補　足

＊ クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。
そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバーを**【中立】**（N）にしてから操作してください。

■走行モード切換スイッチ

スイッチを押すごとに
【AD 倍速⇒ 2WD ⇒ 4WD ⇒倍速⇒ AD 倍速】
の順に切換わります。
選択状態はモニタランプで表示されます。
なおスイッチは，クラッチ操作や走行・停止中に関係なく操作できます。

	モニタランプ
AD 倍速	**【4WD】**，**【AD】**と**【倍速】**ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動すると同時に，AD も作動します。
倍　速	**【4WD】**と**【倍速】**ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動します。
4WD	**【4WD】**ランプが点灯し，４輪駆動になります。
2WD	**【2WD】**ランプが点灯し，２輪駆動になります。



① AD ランプ　**④ 2WD ランプ**
②倍速ランプ　**⑤走行モード切換スイッチ**
③ 4WD ランプ

◆ 4輪駆動の使い方

注　意

＊ 舗装道路や高速走行時の4輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。走行モード切換スイッチを［2WD］に切換えてから走行してください。
また,タイヤの摩耗を早める原因にもなります。

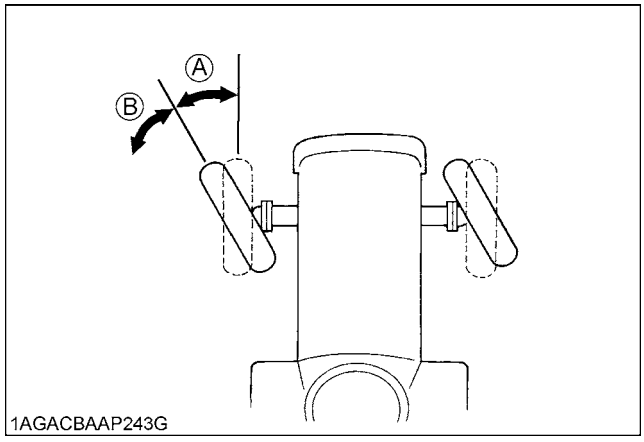
4輪駆動は,次のような場合に威力を発揮します。
1. 傾斜地,湿田,トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及び,あぜ越えを行なう場合。

◆ 倍速ターンの使い方

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを［2WD］又は［4WD］に切換えてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は下図のようになっています。**［倍速］**モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは,通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，倍速ターンが作動し,前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ“通常の 4 輪駆動”
Ⓑ“倍速ターン作動”

重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

＊ 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約0.2～5 km/hの範囲のときのみ作動します。
また，倍速旋回中は車速が変わっても，倍速の作動を保持します。

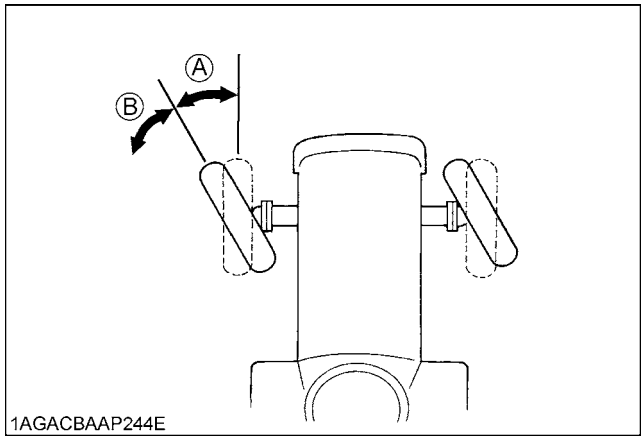
◆ AD 倍速ターンの使い方

警　告

＊ AD 倍速［入］のままでほ場以外を走行すると，旋回時急に回り事故の原因になります。ほ場から出る前に走行モード切換スイッチを［2WD］又は［4WD］に切換えてください。

隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回を小さくする操作が行なわれますが，AD 倍速はこの操作を自動的に行なうものです。

AD 倍速ターンの作動は下図のようになっています。
［AD 倍速］モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと前輪の切れ角が直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。
更にステアリングハンドルを切ると，AD が作動し，内側後輪に軽くブレーキがかかるとともに，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



Ⓐ“通常の 4 輪駆動”
Ⓑ“AD 倍速ターン作動”

補　足

＊ AD 倍速は，危険防止のため，旋回開始時の車速が約 0.2 ～ 3.5 km/h の範囲の時のみ作動します。(約 3.5 ～ 5km/h までは倍速のみ作動します。)
また，AD 倍速旋回中は車速が変わっても，AD 倍速の作動を保持します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

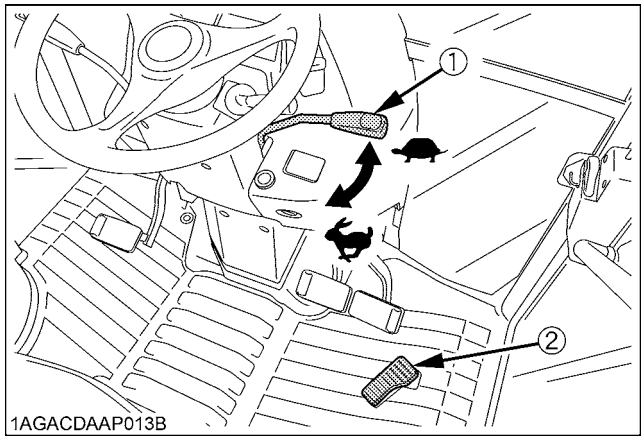
……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……　エンジン回転が上がる。

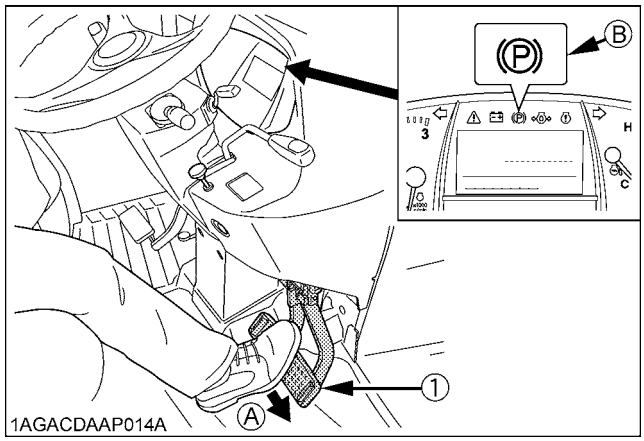
ペダルから足を離す…　アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。



①アクセルレバー　　**：“高速”**
②アクセルペダル　　**：“低速”**

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**［踏込む］**と駐車ブレーキが解除され，メータパネル内のⓅランプが消灯します。



①ブレーキペダル　　**Ⓐ“踏込む”**
Ⓑ“駐車ブレーキランプ消灯”

停車・駐車

警 告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキを［掛けて］ください。

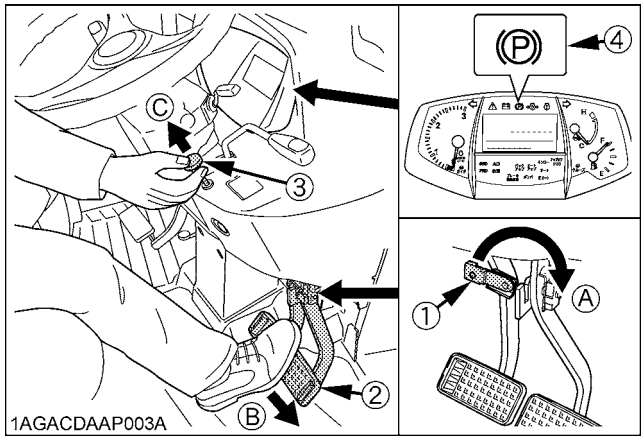
注 意

＊ 駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，変速レバーを［中立］(N)，あんしん PTO スイッチを［切］，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを［抜いて］ください。やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを**［踏込み］**ます。
3. **［デュアルシフト仕様］**
   主変速レバーを🐢位置，シャトルレバーと PTO 変速レバーを**［中立］**にします。あんしん PTO スイッチを**［切］**にします。
   ［U シフト仕様］
   主変速レバー，シャトルレバー，PTO 変速レバーを**［中立］**にします。あんしん PTO スイッチを**［切］**にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧レバーをゆっくり**［前方に倒し］**作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に掛けてください。
6. キースイッチを**［切］**にして，エンジンを停止します。

◆ 駐車ブレーキの掛け方

1. ブレーキ連結金具を掛ける。
2. ブレーキペダルを踏込む。
3. 駐車ブレーキグリップを引く。



①連結金具
②ブレーキペダル
③駐車ブレーキグリップ
④駐車ブレーキランプ
Ⓐ“連結（ロック）”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“引く”

注 意

＊ デュアルシフト仕様ではブレーキ操作のみで発進や停車が行なえますが，駐車するときは必ずシャトルレバーを［中立］にし，確実に駐車ブレーキを［掛けて］ください。駐車ブレーキのみで駐車させると，トラクタが動き危険です。

省エネ運転のしかた

メータパネルに表示される**［e ガイドランプ］**，**［距離燃費表示］**や**［瞬間燃費表示］**で現在の運転状態を確認することができます。
上手に取扱い，省エネ運転に心掛けてください。

■メータパネル表示

◆ e ガイドランプ

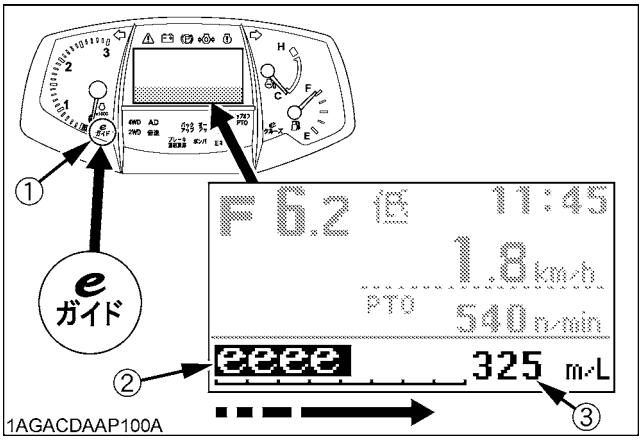
このランプの点灯は，省エネ運転ができる合図です。下記の省エネ運転操作を行なってください。省エネ運転が始まるとランプが消灯します。

補　足

＊ ランプは下記条件が揃ったとき点灯します。
1. エンジン回転数が2400回転以上で出力に余裕があるとき。
2. 副変速レバーが**［低］**又は**［高］**で，車速が10km/h 以下のとき。

◆ 距離燃費表示

燃料 1 リットル当たりの作業距離を，作業状態に応じ瞬時に**［燃費グラフ］**と**［数値］**で表示します。燃費グラフは右方向に伸びる程燃費が良いことを示します。



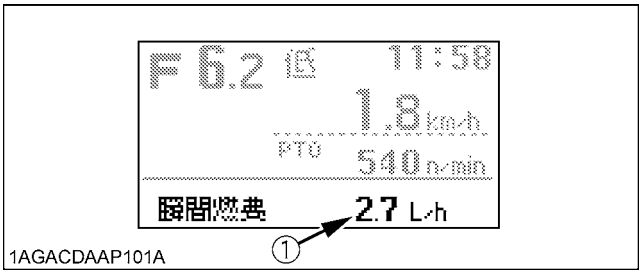
①e ガイドランプ
②距離燃費表示グラフ
③距離燃費（m/L）

補　足

＊ メータパネルに距離燃費を表示させたい場合は，**［運転のしかた］**の章の**［電子メータパネル］**の項を参照ください。
＊ トラクタが停止中のときには，距離燃費表示や瞬間燃費表示は**［*］**（アスタリスク）マークが表示されます。
＊ 副変速レバーを**［高速走行］**に入れると単位表示が m/L から km/L に切換わります。（ハイスピード仕様）

◆ 瞬間燃費表示

現在の作業状態を続けた場合，1 時間当たりの燃料消費量を**［数値］**で表示します。数値が小さい程燃費が良いことを示します。



①瞬間燃費（リットル / 時間）

補　足

＊ 瞬間燃費は給油タイミングなどの参考にしてください。燃料の節約を目的として確認するときは，距離燃費表示を参考にしてください。
＊ 燃料表示は運転状態からの推定値のため，実際の燃費と誤差が生じる場合もあります。表示データは参考値として活用ください。

■省エネ運転操作

デュアルシフト仕様
KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)

注 意

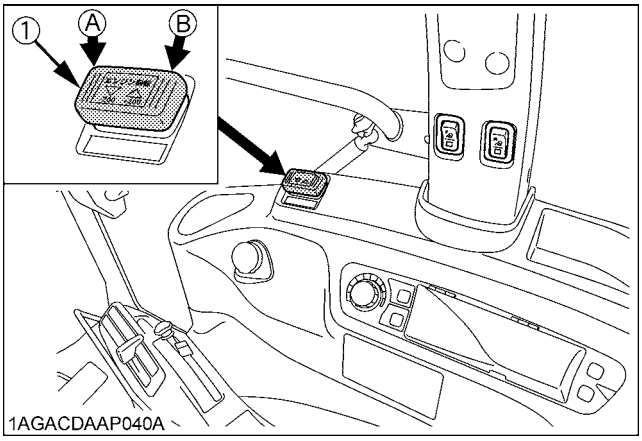
[デュアルシフトのハイスピード仕様]

＊ e クルーズスイッチでエンジン回転数を下げた状態で，副変速レバーを［高速走行］位置（含：高速側の［中立］）に入れると，アクセルレバーやペダルで設定している回転数まで自動的に上昇します。（自動上昇中は間欠ブザーが鳴ります。）
副変速レバー切り換え時は，トラクタを一旦停止させエンジン回転が安定した後，アクセルレバーやペダルで回転数を再調整し発進してください。

e クルーズスイッチのⒶ側を一回押すと，エンジン負荷が軽くなると自動で車速を一定に保ちながら，エンジン回転を下げ省エネ運転を始めます。
作業中，負荷が加わるとアクセルレバーで設定した回転まで自動で上昇します。
もし，頻繁にエンジン回転数が上下するときは，スイッチのⒷ側を押し，エンジン回転を上げてください。

◆ スイッチの取扱い

スイッチのⒶ側を 1 回押すと、エンジン回転が 200 回転下がり，最大で 4 回（計 800 回転）操作できます。
スイッチのⒷ側を押すと回転が復帰します。(200 回転上昇 / 回)



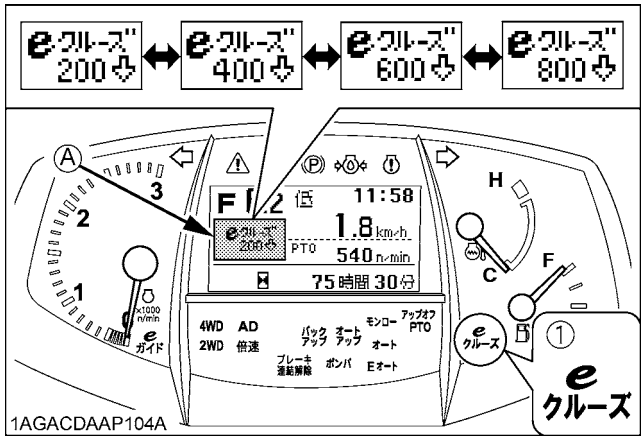
①ｅクルーズスイッチ　　Ⓐ“下降（200 回転 / 回）”
Ⓑ“上昇（200 回転 / 回）”

◆ ｅ クルーズの上手な使い方

1. ｅ クルーズスイッチで減速可能回転数は約 1600 回転迄です。従って 1800 回転付近で使用している場合は，スイッチでの操作可能減速回数は一段のみとなります。
2. ｅ クルーズを有効に作動させるには，主変速レバーは全ストロークの 3/4 以下で使用してください。レバーを高速側に近づける程，ｅ クルーズスイッチでの操作可能減速回数が少なくなります。
3. 副変速レバーが**［低］**又は**［高］**を選択時作動します。

◆ メータパネル

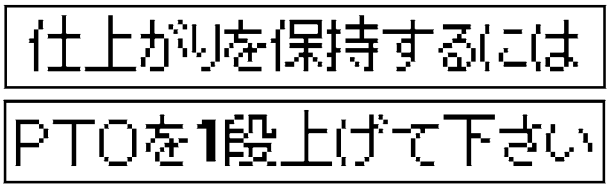
1. ｅ クルーズスイッチ操作による，減速回転数が表示されます。
2. ｅ クルーズランプは，副変速レバーで**［低］**又は**［高］**を選択した後，ｅ クルーズスイッチを**［入］**にしたとき点灯します。



①ｅクルーズランプ　　Ⓐ“減速エンジン回転数を表示”

補　足

＊ この省エネ運転は，負荷の軽いロータリ耕などの作業を想定して記載していますが，ほ場条件や作業内容によっては省エネ運転ができない場合もあります。
＊ 車速やエンジン回転を変更した場合，ロータリの耕うんピッチが変わるため仕上がりも変わります。耕うん精度を維持するには PTO 回転を上げてください。
＊ PTO回転の変動が作業精度に影響を与えるPTO回転数指定作業機（収穫機や播種機等）の省エネ運転操作は推奨しません。
＊ ｅクルーズスイッチでエンジン回転を 600 回転以上下げると液晶表示部に



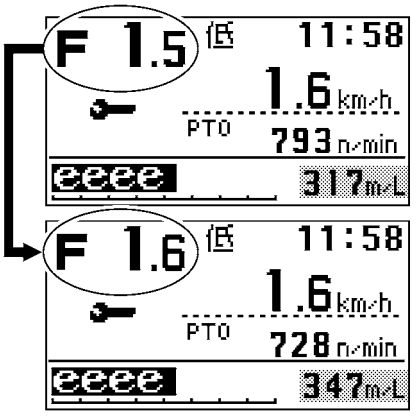
が交互に 20 秒間表示されます。仕上がりを保ちたい場合はメッセージに従って操作してください。

■省エネ運転操作

デュアルシフト仕様
KL31Z (H・-PC) ・ 34Z (H)

作業中eガイドランプが点灯していることを確認後，ランプが消灯するまで下記いずれかの操作を行なってください。省エネ効果は，距離燃費表示で確認できます。
①エンジン回転数を少し下げる。
②主変速レバーで車速を上げる。
③エンジン回転数を下げ主変速レバーで車速を上げる。

③の操作例



1AGACDBAP002A

補　足

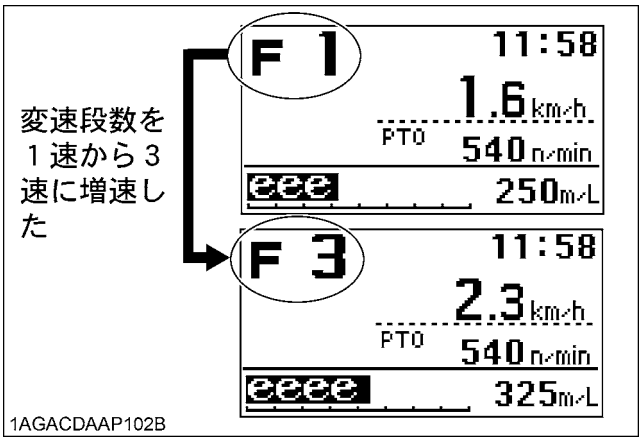
＊ この省エネ運転は，負荷の軽いロータリ耕などの作業を想定して記載していますが，ほ場条件や作業内容によっては省エネ運転ができない場合もあります。
＊ 車速やエンジン回転を変更した場合，ロータリの耕うんピッチが変わるため仕上がりも変わります。耕うん精度を維持するには PTO 回転を上げてください。
＊ PTO回転の変動が作業精度に影響を与えるPTO回転数指定作業機（収穫機や播種機等）の省エネ運転操作は推奨しません。

■省エネ運転操作

[U シフト仕様]

作業中eガイドランプが点灯していることを確認後，ランプが消灯するまで下記いずれかの操作を行なってください。省エネ効果は，距離燃費表示で確認できます。

①エンジン回転数を少し下げる。
②変速段数を 1 段速くする。
③変速段数を上げエンジン回転を下げる。



補　足

＊ この省エネ運転は，負荷の軽いロータリ耕などの作業を想定して記載していますが，ほ場条件や作業内容によっては省エネ運転ができない場合もあります。
＊ 車速やエンジン回転を変更した場合，ロータリの耕うんピッチが変わるため仕上がりも変わります。耕うん精度を維持するには PTO 回転を上げてください。
＊ PTO回転の変動が作業精度に影響を与えるPTO回転数指定作業機（収穫機や播種機等）の省エネ運転操作は推奨しません。

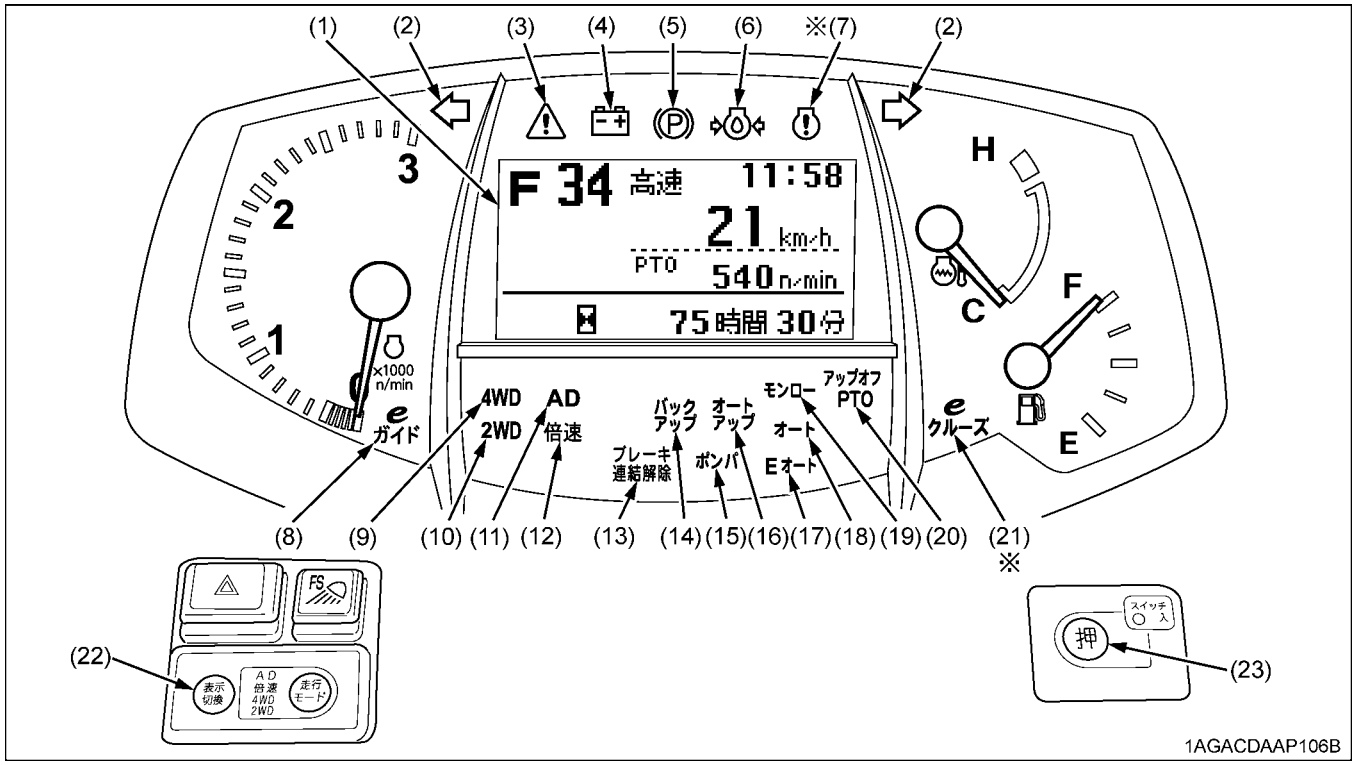
電子メータパネル

■電子メータ

電子メータは，トラクタの運転に必要な各種情報を的確なタイミングでオペレータに提供するとともに，誤操作時の操作指示，各種警報や万一故障した場合にも故障箇所や緊急使用時の取扱いなどを，メッセージとグラフィックで表示しますので，表示に従って正しく取り扱ってください。なお，次表のメッセージ以外が表示された場合は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［不調と処置］**の項を参照してください。

補　足

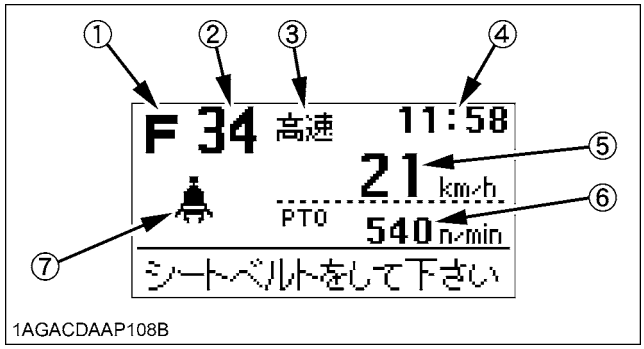
＊ メータパネルカバー（透明樹脂）を，市販のワックスで手入れすると表面が曇ってくる場合があります。ワックスは使用しないでください。



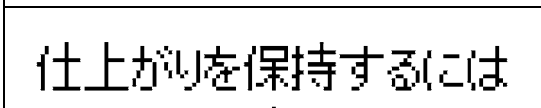
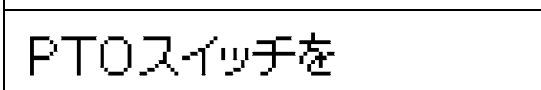
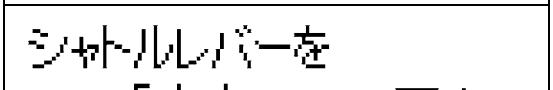
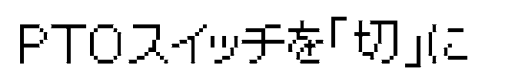
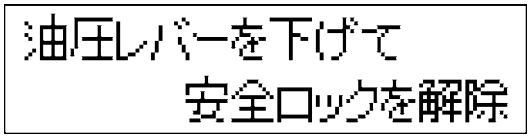
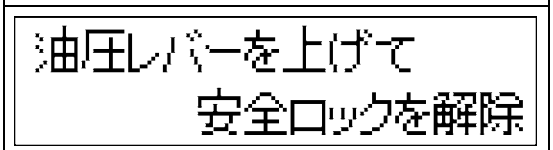
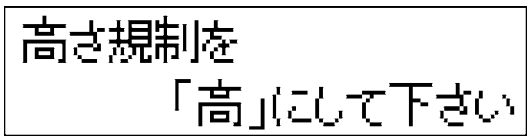
(1) 液晶表示部（メッセージ）
(2) ウインカパイロットランプ
(3) 警告灯
(4) 充電異常警告灯（チャージランプ）
(5) 駐車ブレーキ警告灯
(6) エンジンオイル油圧警告灯
(7) エンジン異常警告灯
(8) e ガイドランプ
(9) 4WD ランプ
(10) 2WD ランプ
(11) AD ランプ
(12) 倍速ランプ
(13) ブレーキ連結解除警告灯
(14) バックアップランプ
(15) ポンパランプ
(16) オートアップランプ
(17) E オートランプ
(18) オートランプ
(19) モンロランプ
(20) アップオフ PTO ランプ
(21) e クルーズランプ［デュアルシフト仕様］
(22) 表示切換スイッチ
(23) ワンタッチ耕うんモードスイッチ

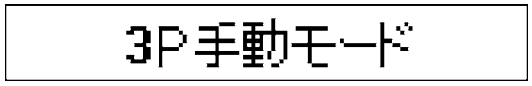
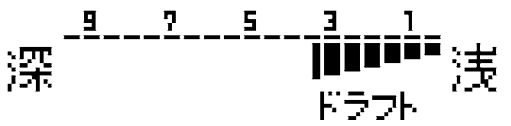
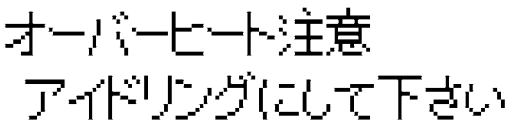
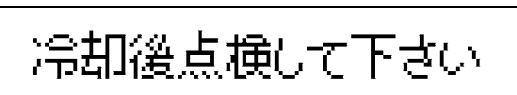
(※) KL31Z(H・-PC), 34Z(H) 仕様は，エンジン異常警告灯 (7) と e クルーズランプ (21) は点灯しません。

■液晶表示



No.	メッセージ	内容	参照ページ
①	F, R 又は N	シャトルレバー位置が表示されます。 前進→ F, 後進→ R, 中立→ N	28
②	N 又は 1 ~ 12	**[U シフト仕様]** 主変速レバーで選択した変速段数が表示されます。 中立時は N（変速段数は仕様により異なります）	25
	0.1 ~ 34	**[KL37Z (H) ・ 40Z (H) ・ 44Z (H) ・ 48Z (H) ・ 53ZH ・ 58ZH (-PC) のデュアルシフト仕様のみ]** 現在選択されている［副変速レバー］と［主変速レバー］位置での，走行可能最高車速が表示されます。 (車速は仕様により異なります)	25 27
	0.1 ~ 30	**[KL31Z (H・-PC) ・ 34Z (H) のデュアルシフト仕様のみ]** 現在選択されている［副変速レバー］と［主変速レバー］位置での，定格回転での車速が表示されます。 (車速は仕様により異なります)	25 27
③	高速	**[U シフト仕様]** クリープレバーで高速走行を選択時表示されます。(ハイスピード仕様のみ)	28
	低, 高, 高速 又は 中立	**[デュアルシフト仕様]** 副変速レバー位置が表示されます。 (高速はハイスピード仕様のみ表示)	27
④	0：00～11：59	時刻が表示されます。(時計) (－－：－－が表示されているときは，時刻設定を行なってください。非表示に設定されているときは何も表示されません。)	45
⑤	0.1 ~ 34	走行車速が表示されます。 (けん引作業などでタイヤがスリップしている場合の車速表示は実車速と異なります)	--
⑥	540, 切 又は 停止中	PTO の回転数が表示されます。 PTO 停止時→切, アップオフPTOモードでPTOが停止時→停止中と表示されます。	78

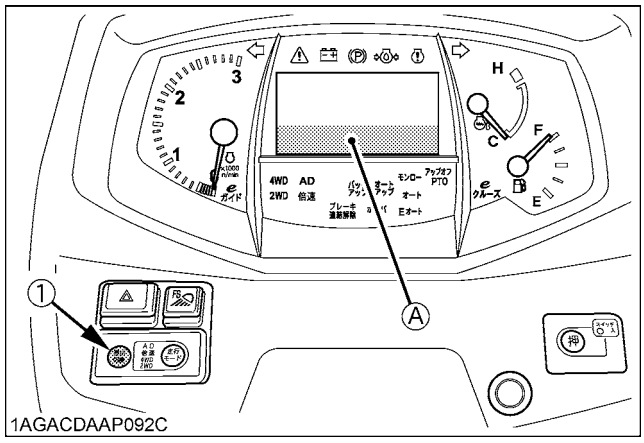
No.	メッセージ	内容	参照ページ
⑦		**[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) のデュアルシフト仕様のみ]** e クルーズスイッチでのエンジン下降回転数が表示されます。	34
		**[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) のデュアルシフト仕様のみ]** 省エネ運転時表示される場合があります。仕上がりを保ちたい場合はメッセージに従って操作してください。	34
		冷却水温が低いとき表示されます。 表示が消えてからエンジンを始動してください。	8
		エンジン始動時３秒間表示されます。 シートベルトを装着してください。	14
		燃料が約４Ｌ未満になると表示されます。 すぐ燃料を補給してください。 空にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。(**[トラクタの簡単な手入れと処置]** の章の **[燃料の空気抜きのしかた]** の項を参照)	116
		エンジン始動時左記メッセージが表示された場合，メッセージに従って操作してください。	78
			28
			28 78
		油圧安全ロック作動時に表示されます。 メッセージに従って操作してください。	54
			54
		エンジン始動時，三点リンク高さ規制ダイヤルが **[3P 手動]** にセットされていれば表示されます。メッセージに従って操作してください。	54

No.	メッセージ	内容	参照ページ
⑦		エンジン始動後，三点リンク高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にセットすると表示されます。	54
		駐車ブレーキを掛けたまま走行し，車速が 0.1km/h を超えると表示されます。メッセージに従って操作してください。	31
		車速が 10km/h 以上時，左記レバー類が正しくセットされていないとき表示されます。メッセージに従って操作してください。	24 49
			78
			54
		アップオフ PTO モード **[入]** でポンパレバーを **[上げ]** 又は油圧レバーを **[最上昇位置]** にすると，PTO が停止しメッセージが表示されます。	54
		耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，約５秒間表示されます。	66
	[MAD 仕様] 		70
		エンジンがオーバーヒートすると，メータパネルに⚠警告灯（赤色）が点滅し，メッセージが表示されます。メッセージに従って操作・点検してください。	47
			110

（上記メッセージ以外が表示された場合は，巻末の**［不調と処置］**の章を参照してください。）

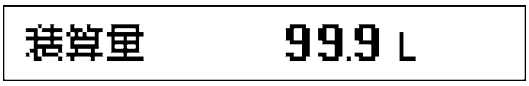
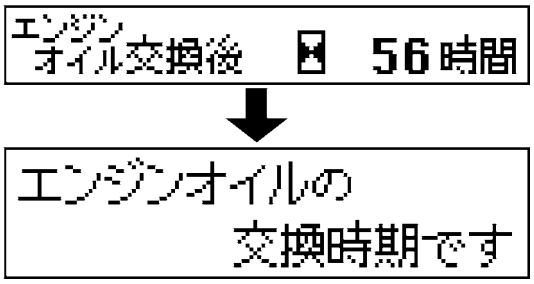
■表示の切替え

電子メータパネルの液晶表示部（下部）は，表示切換スイッチを押すごとに表示が下表の順に切換わります。省エネ運転やメンテナンスの参考等に応じ，適切な表示に切換えてください。



①表示切換スイッチ　　Ⓐ“液晶表示部（下部）”

No.	メッセージ	内容	参照ページ
表示１ アワーメータ	75時間 30分	トラクタの総使用時間を表示します。 (リセットはできません)	--
表示２ トリップ時間	トリップ 71時間 47分	リセットしてから今現在までの使用時間を表示します。 表示切換スイッチを２秒間押すとトリップ時間はリセットされます。	--
表示３ 距離燃費	325m/L	燃料１Ｌ当たりの作業距離を表示します。	33
表示４ 作業可能時間	作業可能時間 26.1時間 ↓ 残り 9 L 2.0時間	**[KL37Z (H)・40Z (H)・44Z (H)・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ]** 燃料タンク内残量での作業可能予測時間を表示します。タンク内残量が 10L 以下になると，残量と運転可能予測時間表示に切換わります。 燃料補給タイミングの参考として活用してください。 [メッセージは下記①～③で運転時のみ表示されます] ①オート（標準・敏感・E オート・ドラフト）を選択し，三点リンクが下降位置又は PTO が回転時。 ②エンジン回転が 1600 回転以上。 ③ 10km/h 未満の車速で走行中。	--
表示５ 瞬間燃費	瞬間燃費 2.7 L/h	今現在の瞬間的に消費している燃費を１時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。	33

No.	メッセージ	内容	参照ページ
表示６ 平均燃費		**[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) 仕様のみ]** リセット後，今現在までに消費した総燃料を１時間当たりの燃料消費量に換算し表示します。 表示切換スイッチを２秒間押すと平均燃費はリセットされます。	--
表示７ 積算量		**[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) 仕様のみ]** リセット後，今現在までに消費した総燃料を表示します。(最大表示は 999.9L まで) 表示切換スイッチを２秒間押すと積算量はリセットされます。	--
表示８ エンジン オイル交換用 トリップ時間		前回エンジンオイル交換後の運転時間を表示します。 オイルの交換時期に達すると，左記メッセージが表示されます。 (初回 50 時間以降 200 時間ごとに表示)	42 43
表示９ パワクロ グリス アップ用 トリップ時間		前回グリスアップ後の運転時間を表示します。 グリスアップ時期に達すると，左記メッセージが表示されます。 (30 時間ごとに表示)	42 43

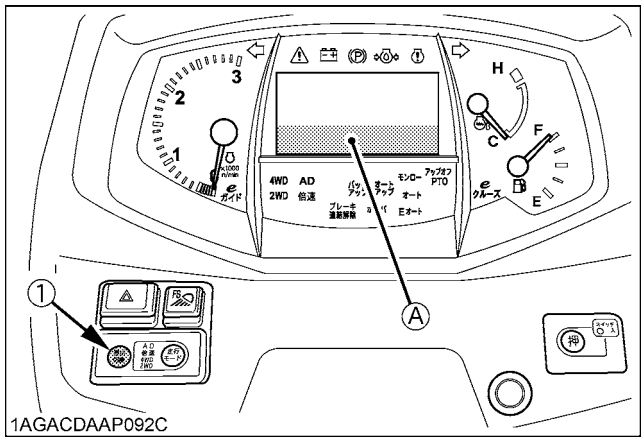
■電子メータメッセージのリセット法

エンジンオイル交換時又は，パワクロのグリスアップメンテナンス時，下記手順でメッセージ表示時間を**０時間**に戻してください。
正しくリセットしておくと，オイル交換時期又はパワクロのグリスアップメンテナンス時期に達すると，電子メータメッセージが表示され大変便利です。(表示例１)

1. 表示切換スイッチを押し，**[エンジンオイル交換用トリップ時間]** 又は，**[パワクログリスアップ用トリップ時間]** 表示モードにする。(表示例２)
2. 表示例２の状態で表示切換スイッチを２秒間押すとメッセージ表示が**０時間**にリセットされます。(表示例３)

補　足

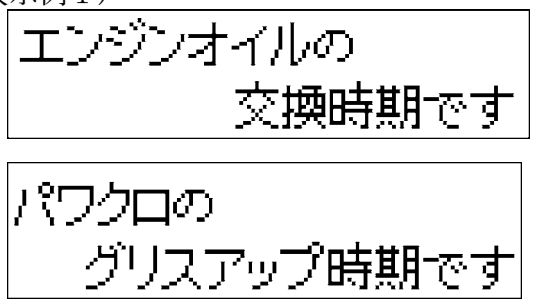
＊ 新車時，アワーメータの表示時間が 20 時間未満で**[エンジンオイルの交換後トリップ時間]** をリセットすると，50 時間運転後メッセージが表示されます。(表示例１)
＊ 正しくリセットしないと，エンジン始動後５秒間，表示例２のメッセージが表示されます。



①表示切換スイッチ　　Ⓐ“液晶表示部”

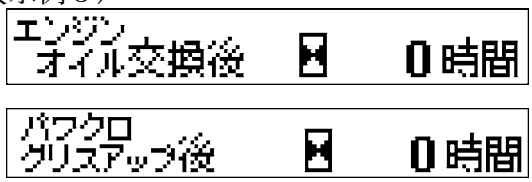
電子メータメッセージ

（表示例１）



（表示例２）

（表示例３）



電子メータパネル（その他表示）

下記スイッチ操作により
1. エンジンオイルフィルタ等 6 項目のメンテナンス管理
2. 運転に必要な PTO 回転や車速等作業メモの記憶
3. 時計の時刻合わせ

ができます。

重　要

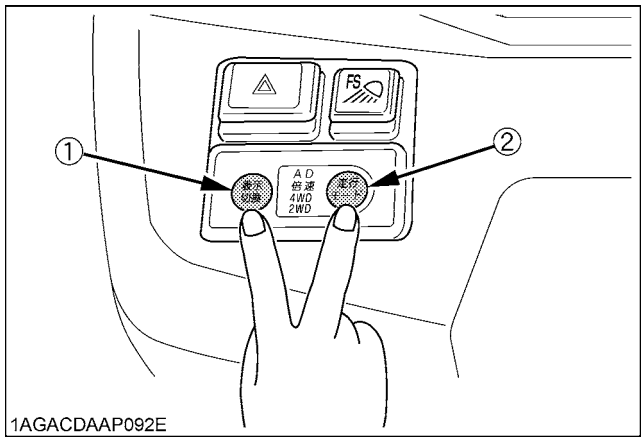
＊ 取説表記と異なる操作を行なうと，下記選択画面と異なる表示が出る場合があります。下記設定以外の操作は行なわないでください。誤って操作すると電子メータ液晶ディスプレイに正しく表示されないだけでなく，故障の原因になります。

◆ 操作手順

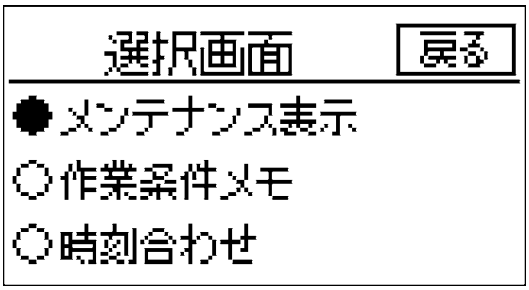
1. キースイッチ**【入】**後，下記スイッチを同時に長押し（約 3 秒）すると，液晶モニタに下記選択画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチを押すごとに**【●】**が移動します。必要項目を選択後，スイッチを長押しで確定させます。
3. **【戻る】**を選択後，スイッチを長押しする。又は，キースイッチを**【切】**にするとリセットされます。

補　足

＊ スイッチを押すごとにブザーが鳴ります。
＊ バッテリを外すと時計がリセットされますので，再セットが必要です。



①表示切換スイッチ
②走行モード切換スイッチ



■メンテナンス表示

下記表示画面で示す6項目のメンテナンス時間の管理を行なうことができます。

◆ 操作手順

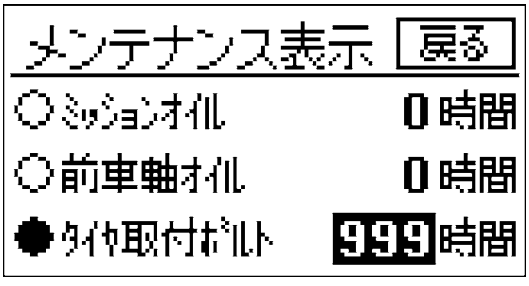
1. 選択画面で**【メンテナンス表示】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチを押すごとに**【●】**が下方向へ移動し，項目が順次表示されます。

◆ 表示画面の見方

メンテナンス項目ごとに表示される時間は，前回交換後の使用時間です。
数字部が白黒反転している項目は，点検や交換時間に達しています。速やかに点検・交換作業を行なった後，リセットしてください。

補　足

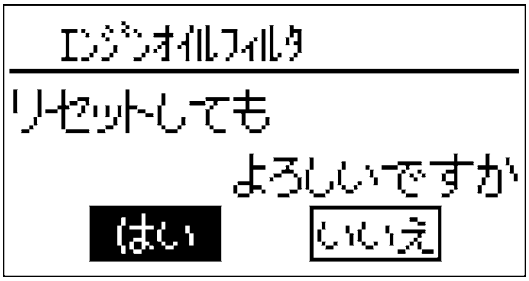
＊ 交換後リセットしなかった場合正しく表示されません。(表示時間は 999 で停止します)



◆ 表示時間のリセット方法

点検や交換を行なった項目は下記手順でリセットしてください。

1. 表示切換スイッチでリセットさせる項目に●を移し，再度スイッチを長押しで確定させると下記画面が表示されます。



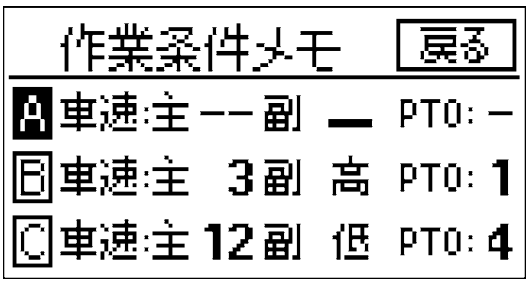
2. 表示切換スイッチで**【はい】**を選択後，再度スイッチを長押しすると，時間が**【0】**にリセットされます。**【いいえ】**を選択後，再度スイッチを長押しするとメンテナンス画面に戻ります。

■作業条件メモ

トラクタでの作業条件を3種類記憶させることができます。例えば，春起こし・代かき・秋起こしの作業条件を入れておけば便利です。

◆ 設定手順

1. 選択画面で**【作業条件メモ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで，入力したいメモに■を移し，再度スイッチを長押しで確定させます。
3. 表示切換スイッチで，メモの項目（主変速・副変速・PTO）を選択します。
4. 走行モード切換スイッチで，メモする値を選択します。（下記補足を参照）
5. 全てのメモを入力後，表示切換スイッチを長押しで確定させます。



補　足

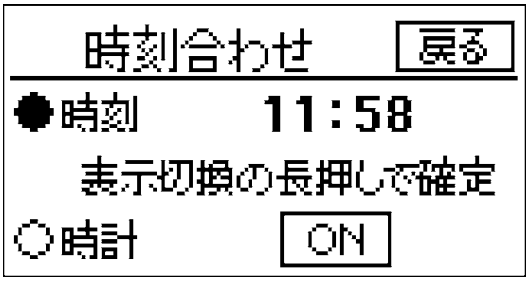
＊ 作業メモは**【走行モード切換スイッチ】**を押すごとに，下表の値が繰返し表示されます。
＊ 主変速の作業メモは下記を表示しています：
　U シフト仕様‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥変速段数
　デュアルシフト仕様‥‥‥‥‥‥‥‥車速

メモの項目	初期状態	選択値
主変速	--	1 ～ 35，--
副変速	-	低，高，高速，-
PTO	-	1,2,3,4，逆，-

■時刻合わせと表示・非表示の設定

◆ 時刻合わせ

1. 選択画面で**【時刻合わせ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，下記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで**【時刻】**に**【●】**を合わせ，再度スイッチを長押しで確定させます。
3. **【時】**表示部が反転します。走行モード切換スイッチで値を選択します。
4. 表示切換スイッチで**【分】**を選択後，走行モード切換スイッチで値を選択します。
5. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。



◆ 表示・非表示の切換え

1. 選択画面で**【時刻合わせ】**を選択後，再度表示切換スイッチを長押しで確定させると，上記画面が表示されます。
2. 表示切換スイッチで**【時計】**に**【●】**を合わせ，再度スイッチを長押しで確定させます。確定すると，ON 又は OFF が反転表示します。
3. 走行モード切換スイッチを押し（ON- 表示 / OFF- 非表示）のどちらかを選択します。
4. 表示切換スイッチを長押しで確定させます。

補　足

＊ 設定完了後，キースイッチを切り再度入りにすると，表示 / 非表示が切換わります。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

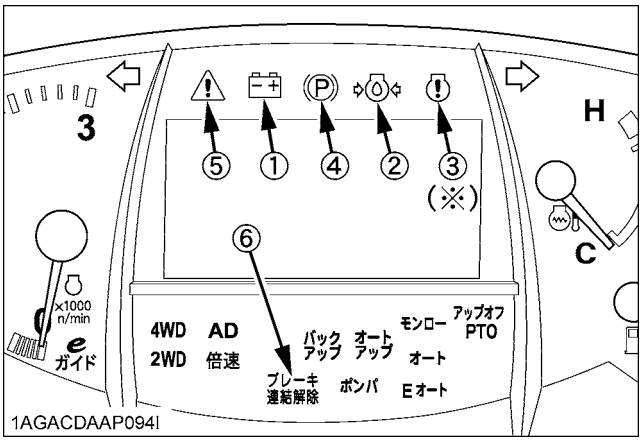
次の場合は，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



①充電異常警告灯（チャージランプ）
②エンジンオイル油圧警告灯
③エンジン異常警告灯
④駐車ブレーキ警告灯
⑤警告灯
⑥ブレーキ連結解除警告灯

(※) KL31Z(H・-PC)，34Z(H) 仕様は，エンジン異常警告灯③は点灯しません。

充電異常警告灯（チャージランプ）

充電系統に異常があれば，エンジン回転中にランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) 仕様のみ]

エンジン異常警告灯が点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。

重 要

警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

* エンジンが突然止まった。
* エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。
* エンジン出力が充分でない。
* エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。

エンジン出力が充分でない場合，ただちに作業を中断し，安全な場所にトラクタを移動させ，エンジンを止めてください。

ブレーキ連結解除警告灯

ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結金具をかけ警告灯の消灯を確認してから走行してください。

Ⓟ駐車ブレーキ警告灯

駐車ブレーキが掛かっているとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。

エンジンオイル油圧警告灯

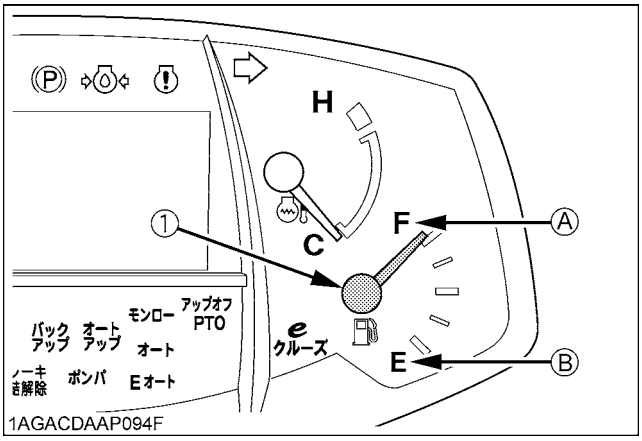
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

警告灯

エンジンのオーバヒートやエンジン，ミッションなどの制御部品関係に異常が生じるとランプが点滅して警告します。
再始動を行なっても回復しない場合，購入先にご相談ください。

■燃料計

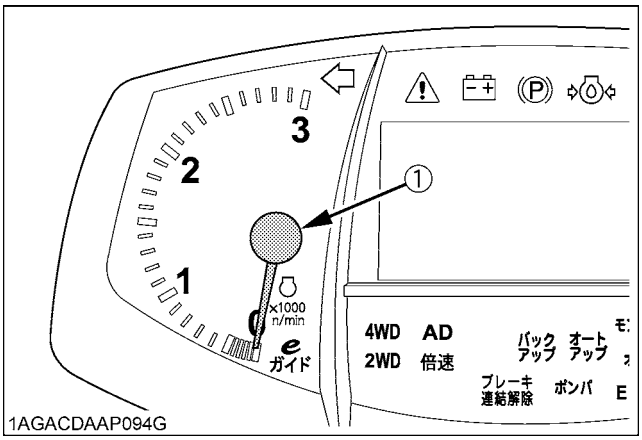
指針が**下方向**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



①燃料計　　Ⓐ“満タン”
Ⓑ“空”

■エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。



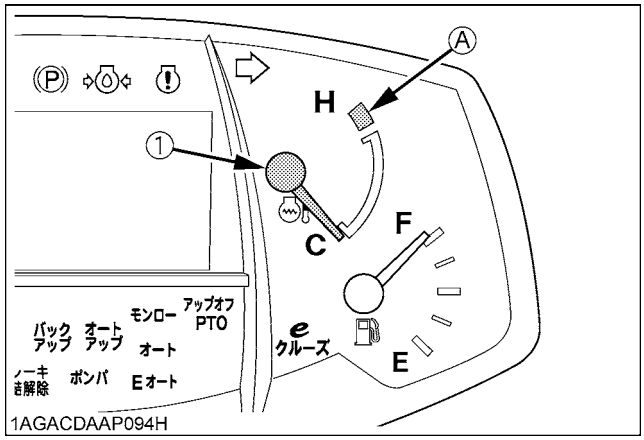
①エンジン回転計

■水温計

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**［レッドゾーン］**を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計　　Ⓐ“レッドゾーン”

◆ オーバヒートしたときの処置

オーバヒート（水温計の針が**［レッドゾーン］**を示す）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約５分間アイドリング回転にしてから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やごみが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊ ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記**［オーバヒートしたときの処置］**を行なってください。

状況に応じた操作

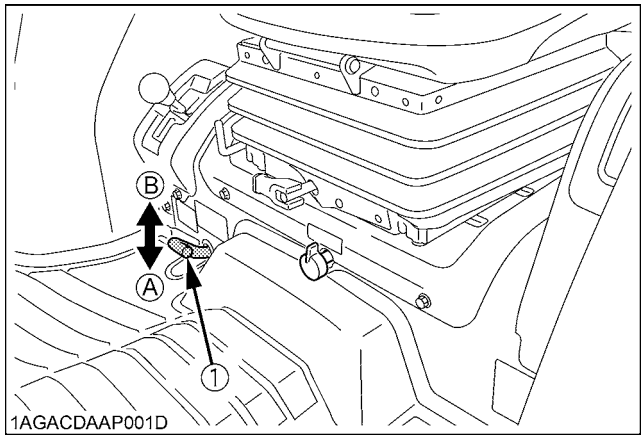
■デフロックの使い方

◆ デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む……ロックされる。

ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル　　**Ⓐ“踏む（ロック）”**
Ⓑ“離す（解除）”

◆デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注　意

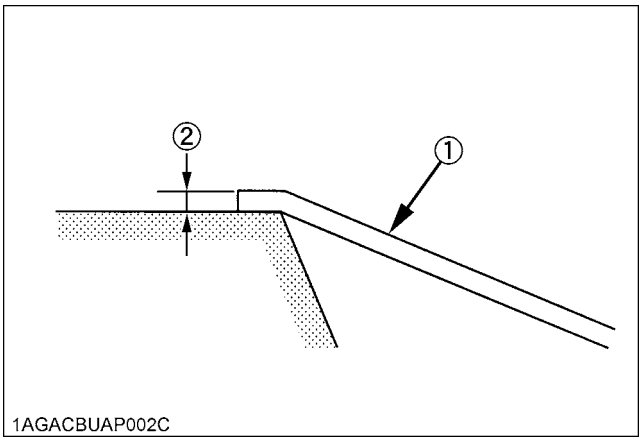
＊ 走行モード切換スイッチは［2WD］又は［4WD］にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

◆ パワクロ仕様の場合

注　意

＊ クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。

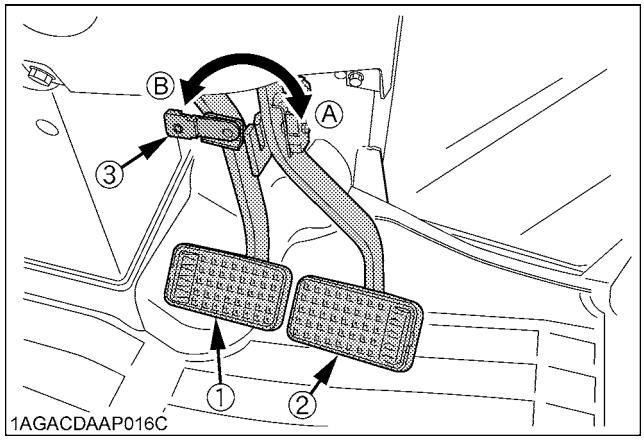


①あゆみ板
②段差

■道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず［連結］してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①ブレーキペダル（左）　**Ⓐ“連結（ロック）”**
②ブレーキペダル（右）　**Ⓑ“解除”**
③連結金具

注　意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
［道路運送車両法の保安基準］
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）
＊ 道路走行時にはモンロ・オートスイッチを必ず［切］にして走行してください。
＊ ポンパランプの消灯を確認してください。
＊ 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。
4. 公道走行中は作業灯を消灯してください。

補　足

＊ 作業灯は**【道路運送車両法の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

電子メータメッセージ

＊ 走行中下記のメッセージが表示されたときは，すみやかにトラクタを止め，メッセージに従って処置してください。
メッセージは車速が 10km/h を超えたとき表示されます。また，表示要因が 2 個以上の場合は，交互に表示されます。

◆ ブレーキ連結金具が連結されていないとき

◆ あんしん PTO スイッチが［切］でないとき

◆ ポンパで作業機を持ち上げているとき

＊ 下記のメッセージは車速が 0.1km/h を超えたとき表示されます。

◆ 駐車ブレーキが解除されていないとき

■トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

◆ タイヤ仕様の場合

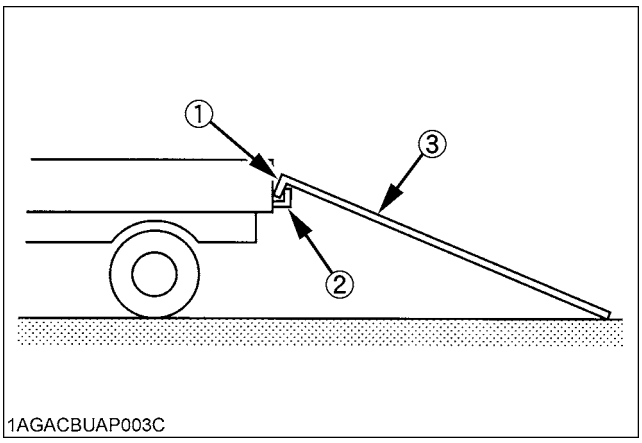
トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**【連結】**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

◆ パワクロ仕様の場合

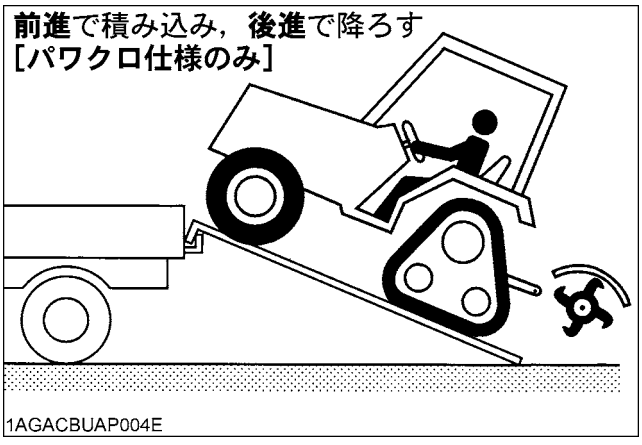
注 意

＊ トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いたものを使用してください。
＊ トラックへの積み・降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを［連結］し，［前進］で積み込み，［後進］で降ろしてください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。

万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。



①爪
②フック
③あゆみ板



■パワーステアリングの取扱い

注 意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重 要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転をじゅうぶん行なってから使用してください。

■パワクロ仕様の運転のしかた

パワクロ仕様の特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はタイヤ仕様のトラクタと同じです。

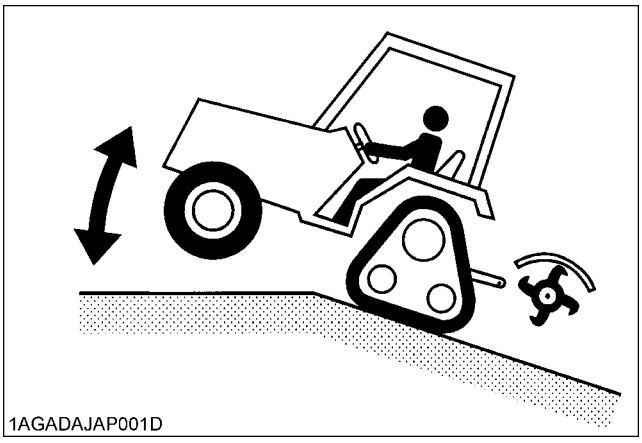
◆ 運転操作

警 告

＊ 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

注 意

＊ クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。



1. 走行速度は，タイヤ仕様とは異なります。**［付表］**の**［走行速度表］**を確認してください。
2. ほ場での旋回は速度を下げ，ハンドルとブレーキ（片ブレーキ）を併用してください。
   片側クローラをロックしての急旋回は，ほ場を荒らしますので，切返しでの旋回をお奨めします。

補 足

＊ パワクロは直進性に優れる分，旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は，必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば，小さい旋回半径で旋回できます。

重 要

＊ プラウ作業など片側のクローラを溝に落として行なう作業の場合は，クローラの張りを確認してください。また段差から無理に出ようとしないでください。
＊ 溝引きプラウ作業ではクローラが完全に溝から上がった状態で旋回してください。
片側のクローラが溝に落ちた状態で旋回すると、ゴムクローラが外れる可能性があります。
＊ あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し，途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。
＊ 道路走行でカーブを曲がったり，右左折する場合は速度を落してください。
クローラは直進性が優れるために，曲がりきれなくなる場合があります。
＊ 標準パワクロ（PC2）にて，うねや排水溝があるほ場を耕うんする場合は，うねの上を走行しながら耕うんしてください。溝を走行すると，クローラを傷める場合があります。

補 足

＊ 長距離の移動の際には，前輪タイヤ及びゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで輸送することをお奨めします。
＊ クローラ部分に土がたまらないよう，定期的に清掃してください。
固まった土が遊輪，転輪のシールをいためる可能性があります。

◆ あゆみ板の使用

注 意

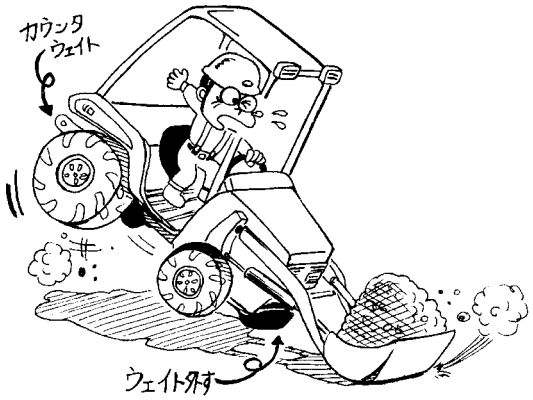
＊ あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
＊ あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
＊ 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの4倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

■ローダ作業

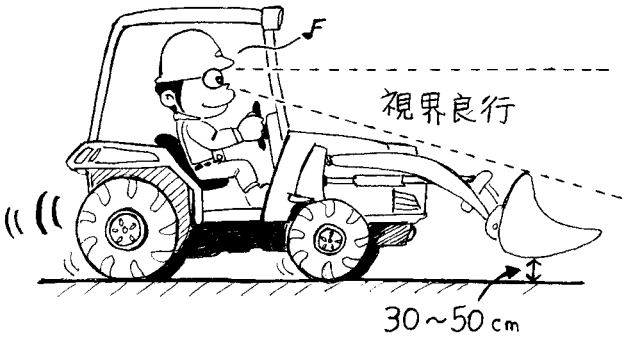
ローダ作業を安全に行なうために！

ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

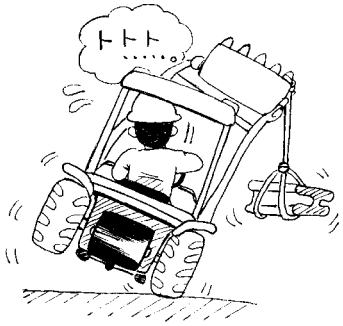
1.トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！
トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前後のバランスを保つようにしてください。



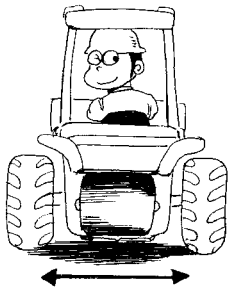
2.運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！
運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



3.片持ち作業をしない！
片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4.後輪トレッドはできるだけ広げる！
作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



5.フロントローダ作業中はADや倍速ターンを絶対に使用しないでください。

★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

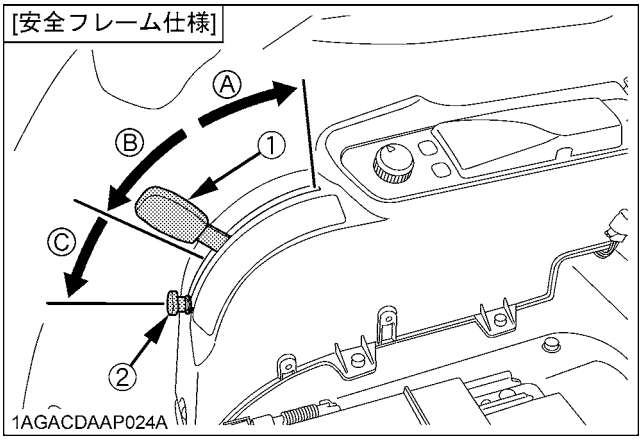
作業のしかた

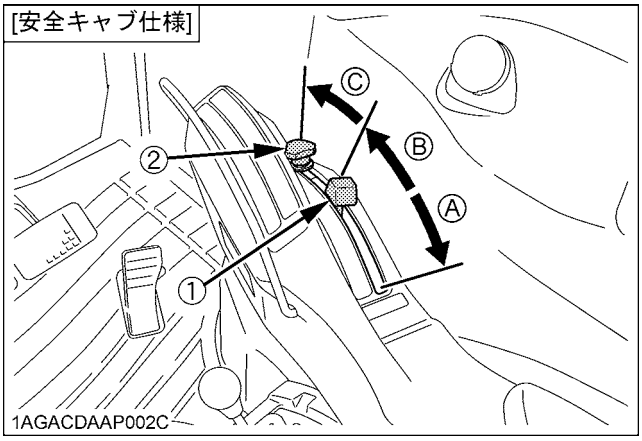
作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

1. ポジション範囲Ⓐ，Ⓑでは，作業機が任意の位置に保たれます。
2. フローティング範囲Ⓒでは，作業機がいっぱいに下がります。





①油圧レバー
②レバーストッパ
Ⓐ“上がる”
Ⓑ“下がる”
Ⓒ“フローティング”

◆ レバーストッパ（下降側）の使い方

1. 油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は，油圧レバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

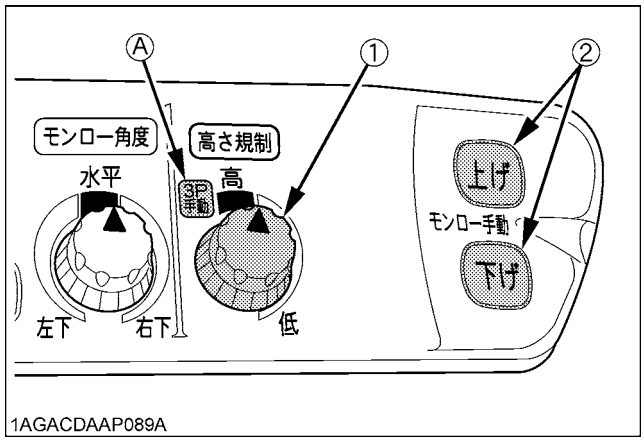
◆ 油圧レバーの取扱い特性

1. エンジン停止後，キースイッチを**［入］**にして，油圧レバーを**［前方に倒す］**と，作業機が下降します。(ポンパランプ点滅時は下がりません。電子メータメッセージに従って油圧レバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除してください。)
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルで上昇上限位置を規制している時は，制限位置までしか上昇しません。

■三点リンク高さ規制ダイヤル

三点リンクの上昇上限位置を変えるときに使用します。

1. ダイヤルを**［高］**にすると，三点リンクの上昇上限位置が高くなります。
2. ダイヤルを**［低］**方向に回すと，三点リンクの上昇上限位置が低くなります。



①三点リンク高さ規制ダイヤル
②モンロー手動スイッチ
Ⓐ“３Ｐ手動”

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルにより，ポンパレバー，油圧レバー，オートアップ及びバックアップでの上げ位置を任意の高さに規制できます。

◆ 3P 手動の使い方

ダイヤルを**［3P 手動］**にすると各種制御に関係なく，モンロ手動スイッチにて作業機を上げ下げできます。

1. ポンパレバー又は，油圧レバーで三点リンクを最上位置にし，モンローマチックを**［平行停止］**させます。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルを**［3P 手動］**位置にします。
3. 三点リンクの**［上げ－下げ］**は，モンロ手動スイッチで行ないます。

電子メータメッセージ

＊ エンジンを始動後，三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，下記のメッセージが表示されます。

＊ 3P 手動作業終了後は，**【3P 手動】**を解除し，上記メッセージの消灯を確認してください。

補　足

＊ 三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置にすると，**モンロ，オート，E オート，ポンパ，バックアップ，オートアップ**の各ランプが消灯します。
＊ **【3P 手動】**位置では，油圧レバー，ポンパレバー，モンローマチックオート，バックアップ，オートアップ，E オートは作動しません。
＊ **【3P 手動】**位置でエンジンを停止し，再度**【3P 手動】**作業を行なう場合は，エンジン始動後，**【3P 手動】**を解除し（ダイヤルを**【3P 手動】**位置から**【高】**又は**【低】**の方向へ回す），再度**【3P 手動】**位置にしてください。
＊ 3P 手動作業の終了後は，**【3P 手動】**を解除してください。

■ポンパレバー

注　意

＊ ほ場内作業以外では，ポンパを使用しないでください。
＊ ポンパアップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

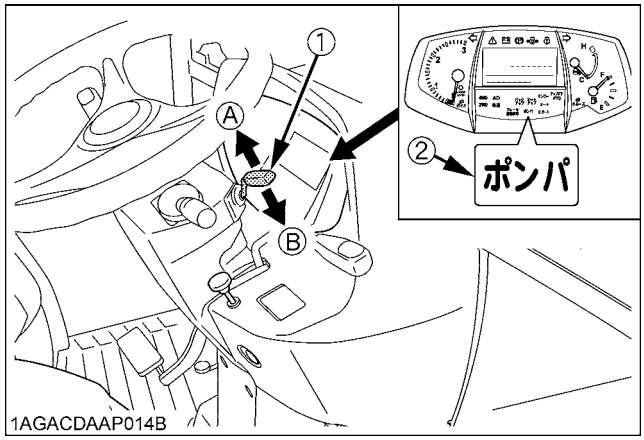
レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる（ポンパランプ点灯）… 作業機上昇
レバー下げる（ポンパランプ消灯）… 作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，油圧レバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され（ポンパランプ消灯），ポジション制御になります。

補　足

＊ ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
＊ 新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当らないことを確認してください。
＊ ポンパレバー操作時，ブザー音が 1 回鳴ります。

◆ ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。**【耕深位置制御】**



①ポンパレバー　　**Ⓐ“上げる”**
②ポンパランプ　　**Ⓑ“下げる”**

補　足

＊ ポンパランプが点滅している場合，油圧レバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの**【点滅を解除】**してから使用してください。
＊ あぜぎわなどほ場が平たんではないところでポンパを使用すると，ロータリなどの作業機に衝撃がかかり損傷するおそれがあります。このような場合は油圧レバーでゆっくりと作業機を下降させてください。

◆ 三点リンクの安全ロック機能

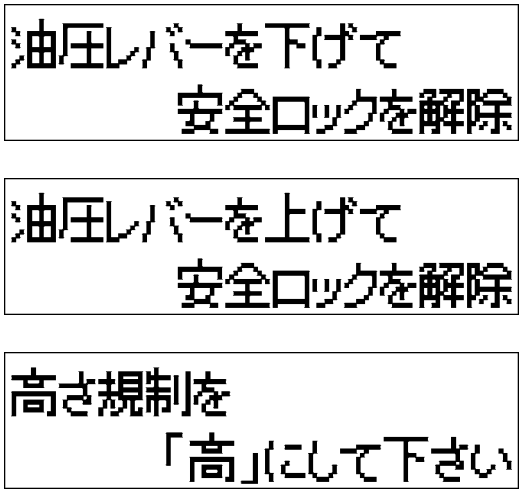
下記状態でエンジンを始動すると，安全ロックが作動し作業機は昇降しなくなります。

1. 作業機の高さと油圧レバー位置（エンジン停止時の位置）が異なっているとき。
2. 三点リンク高さ規制ダイヤルが**【3P 手動】**位置になっているとき。

安全ロックが作動すると，ポンパランプが点滅状態となり，解除方法は 電子メータメッセージとして表示されます。

電子メータメッセージ

＊ 安全ロックの解除は，下記の表示メッセージに従って解除してください。
安全ロック解除時，ブザー音が２回鳴ります。



（三点リンク高さ規制ダイヤルを**【3P 手動】**位置から**【高】**に戻す。）

補 足

＊ 安全ロックは，ポンパレバーで作業機を上げても解除できます。
＊ 電子メータメッセージの「油圧レバー下げて解除」は，車速が約 10km/h 以上のときは表示されません。

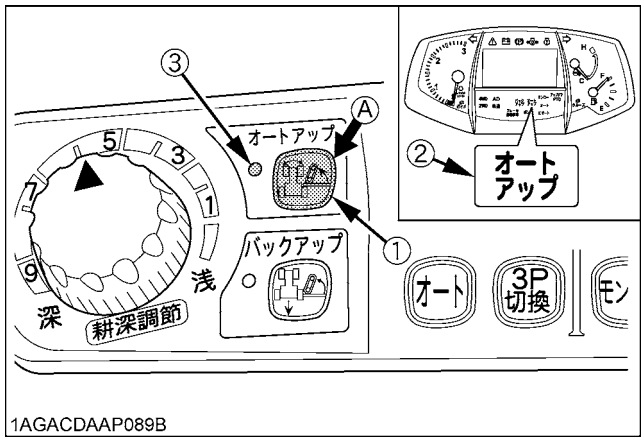
■オートアップスイッチ

注 意

＊ 危険防止のため，オートアップの使用は，ほ場内作業のみにしてください。
＊ オートアップで作業する場合は，ランプが点灯していることを確認してください。ランプが消灯しているときは，作業機は自動で上昇しません。この状態で旋回すると，作業機を引きずり，障害事故を引起すおそれがあります。
＊ スイッチの操作はエンジンを始動したあとに行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ オートアップの使い方

1. オートアップスイッチを押し**【入】**にします。
オートアップ**【入】**のとき，メータパネルのオートアップランプが点灯します。
2. 隣接耕うん作業での旋回時，ステアリングハンドルを回すと，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
（上昇時ブザー音が１回鳴ります。）
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. オートアップスイッチを再度押すと，オートアップが**【切】**となります。
（オートアップランプ消灯）



①オートアップスイッチ
②オートアップランプ
③スイッチランプ
（オートアップ入時点灯）
Ⓐ“押す”

補　足

＊ オートアップが点灯中でもシャトルレバーが**［中立］**,**［後進］**及びあんしんPTOスイッチが**［切］**の場合，オートアップは作動しません。
＊ 隣接耕うん作業以外では，オートアップスイッチを**［切］**にしてください。
＊ オートアップが作動するステアリングハンドルの操作角度は，条件により異なります。
ハンドル操作の速さ，車速などからマイコンが判断し，適切に制御しています。

■バックアップスイッチ

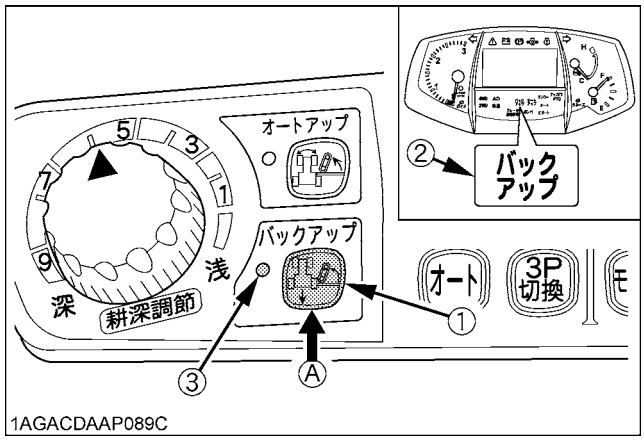
バックアップを**［入］**にしておくと，後進時，作業機が自動的に上昇し，**［うっかりバック］**からの作業機の損傷を防ぎます。

注　意

＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

◆ バックアップの使い方

1. バックアップスイッチを押し,**［入］**にします。
バックアップ**［入］**のとき，メータパネルのバックアップランプが点灯します。
2. シャトルレバーを**［後進］**に入れると，作業機が自動で上昇します。
3. 作業機を下げるときは，ポンパレバー又は油圧レバーで行なってください。
4. バックアップスイッチを再度押すと，バックアップが**［切］**となります。
（バックアップランプ消灯）



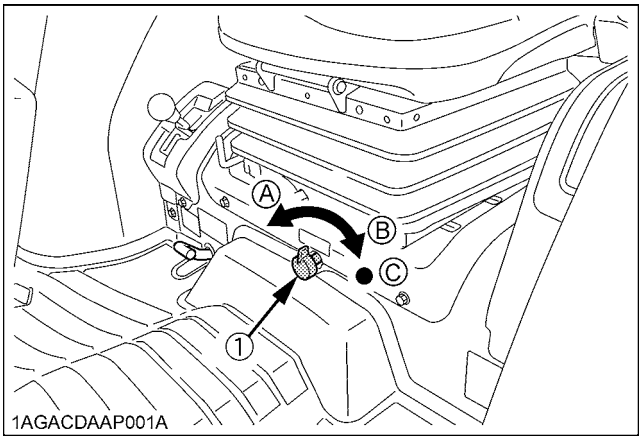
①バックアップスイッチ
②バックアップランプ
③スイッチランプ
（バックアップ入時点灯）
Ⓐ“押す”

■作業機落下速度の調整

注　意

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。（回転角 90°）



①落下速度調整グリップ　　**Ⓐ“速”**
Ⓑ“遅”
Ⓒ“停止”

［速］方向に回す：　油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。

［遅］方向に回す：　油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。

（**［停止］**位置まで回すと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで１～２秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。
（回転角 90°）

◆ 油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態で保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
(1) エンジンをかけた状態で落下速度調整グリップを**［停止］**位置まで回してください。
(2) 油圧レバーを前方に倒し，作業機が下がらないことを確認してください。
この操作を行うことで，油圧ロックの作動がより確実になります。
(3) エンジンを停止してください。
(4) 再度油圧レバーを上げてください。

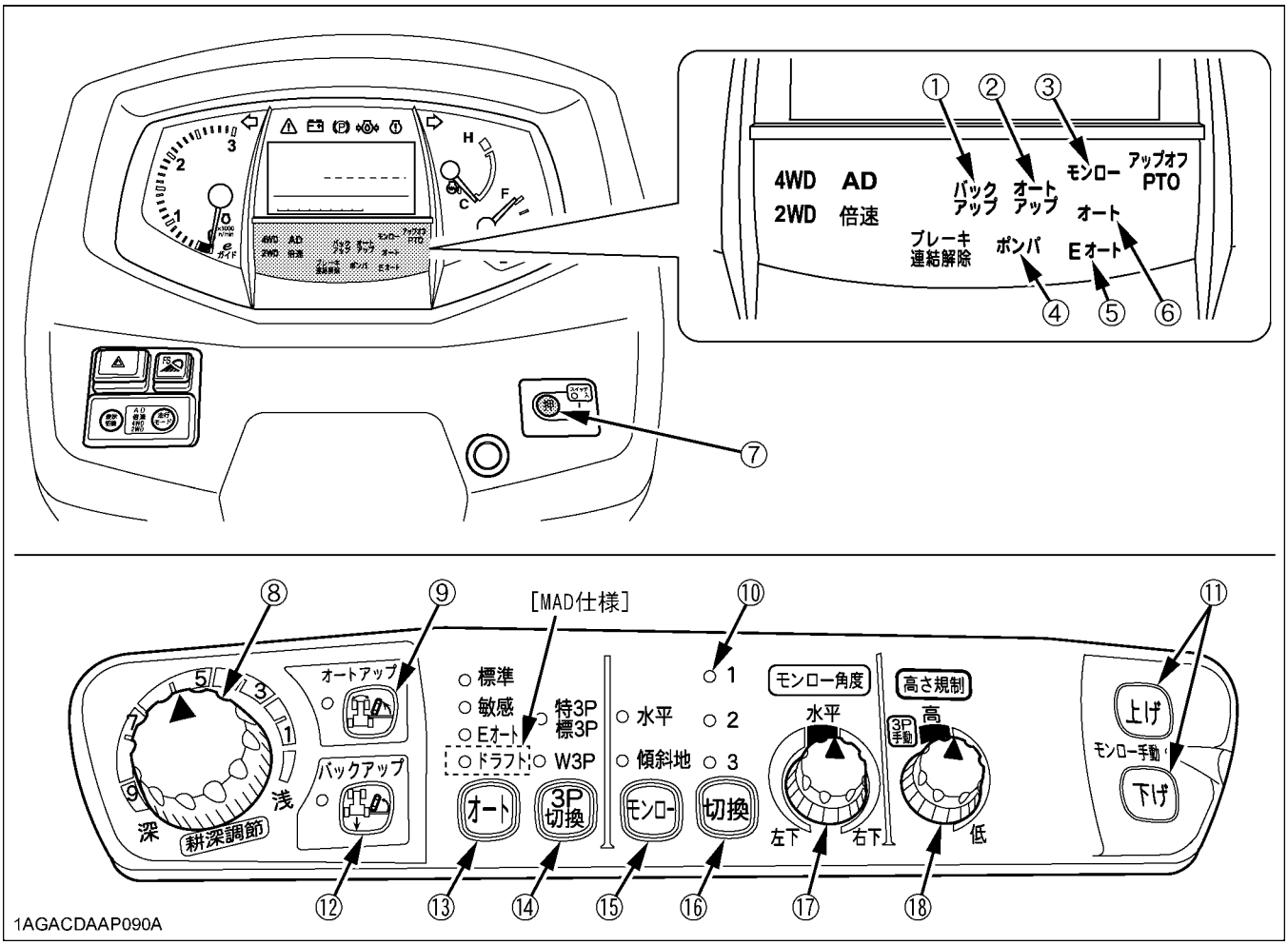
モンローマチック・オート［MA・MAD 仕様］

注 意

**＊ 各スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。
エンジンの始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチ操作が無効になる場合があります。**

■各部の名称

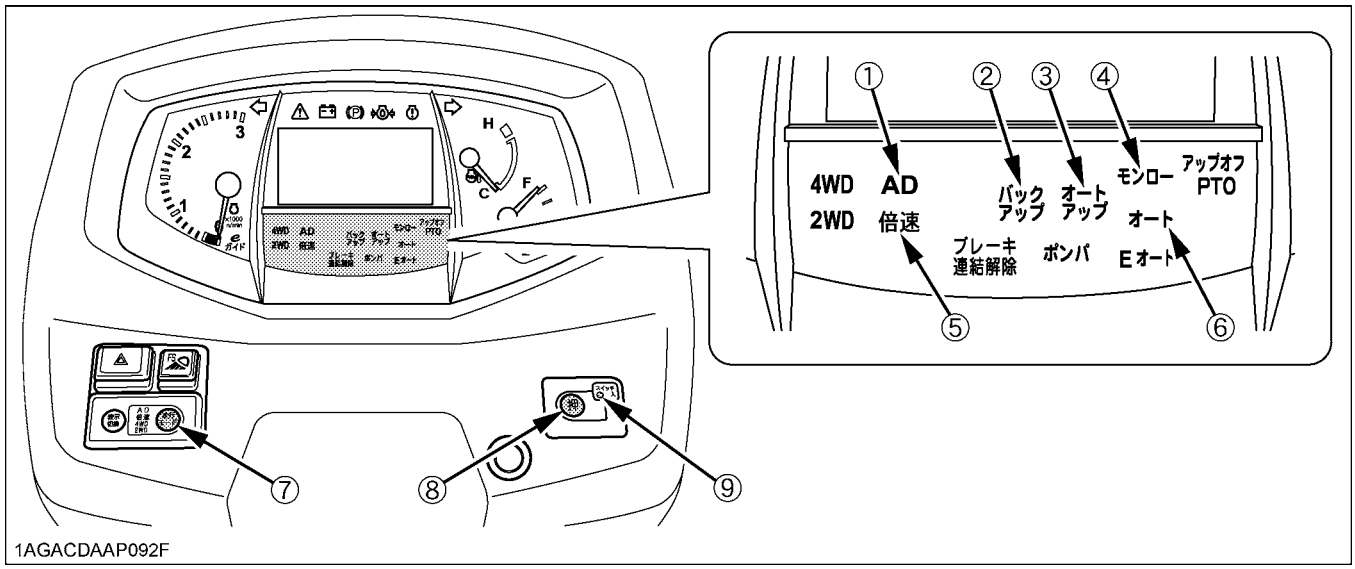
各操作スイッチには，スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切り換わるタッチ式スイッチを用いています。また，スイッチでの選択状態を，メータパネル内のモニタランプと各スイッチランプで表示します。



①バックアップランプ
②オートアップランプ
③モンロランプ
④ポンパランプ
⑤Ｅオートランプ
⑥オートランプ
⑦ワンタッチ耕うんモードスイッチ
⑧耕深調節ダイヤル
⑨オートアップスイッチ
⑩スイッチランプ
⑪モンロ手動スイッチ
⑫バックアップスイッチ
⑬オートスイッチ
⑭３Ｐ切換スイッチ
⑮モンロスイッチ
⑯切換スイッチ
⑰モンロ角度調節ダイヤル
⑱三点リンク高さ規制ダイヤル

■ワンタッチ耕うんモードスイッチ

1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押すとスイッチランプが点灯し，一般的なほ場で耕うん作業を行なう標準的な設定**［モンロ水平］［オート標準］［オートアップ入り］［バックアップ入り］［AD 倍速］**になります。
2. 作業終了後，再度スイッチを押すとスイッチランプが消灯し，自動装置はすべて**［切］**となり**［2WD］**の状態となります。
3. ワンタッチ耕うんモードの設定は，以下のように任意変更も行なえます。



① AD 倍速ランプ
②バックアップランプ
③オートアップランプ
④モンロランプ
⑤倍速ランプ
⑥オートランプ
⑦走行モード切換スイッチ
⑧ワンタッチ耕うんモードスイッチ
⑨スイッチランプ（選択時点灯）

◆ ワンタッチ耕うんモードの任意変更

1. 作業に応じ各操作スイッチで，下表に示す自動装置の設定変更ができます。
   設定を変更すると，ワンタッチ耕うんモードスイッチのランプが消灯します。ドラフトを選択したときは**［モンロ水平］**ランプは消灯し，モンロ**［切］**になります。
2. 初期設定状態に戻したいときは，ワンタッチ耕うんモードスイッチを押してください。

	操作スイッチ	操作方法
片ブレーキをかけたくない。 倍速を効かせたくない。	走行モード切換スイッチ	希望の状態に切換える。
オートを使用しない。	オートスイッチ	**［切］**にする。
オートを敏感にしたい。	オートスイッチ	**［敏感］**に切換える。
カバーを上げて耕うんしたい。	オートスイッチ	**［E オート］**に切換える。
モンロを使用しない。	モンロスイッチ	**［切］**にする。
傾斜地モンロを使用する。	モンロスイッチ	**［傾斜地］**に切換える。
オートアップ不要のとき。	オートアップスイッチ	**［切］**にする。
バックアップ不要のとき。	バックアップスイッチ	**［切］**にする。
ドラフトを使用する。**［MAD 仕様］**	オートスイッチ	**［ドラフト］**に切換える。
ドラフト使用時にモンロを使用したい。**［MAD 仕様］**	オートスイッチ モンロスイッチ	オートスイッチでいったん**［ドラフト］**に切換え，次にモンロスイッチを**［モンロ水平］**に入れる。

補　足

＊ 作業後または作業中にエンジンを停止しても，停止前の状態を記憶しています。

◆ ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法

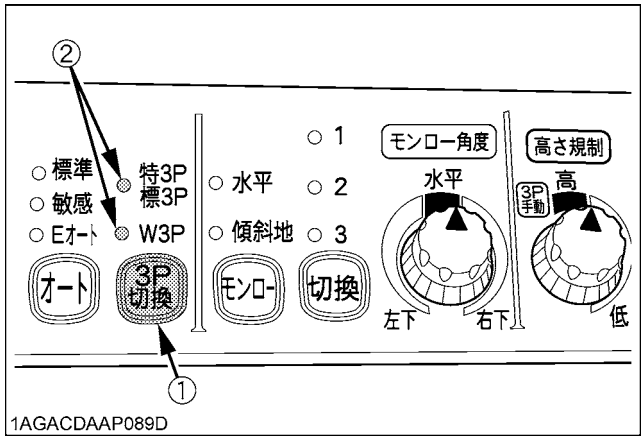
よく使用する設定をワンタッチ耕うんモードとして記憶させることができます。

1. ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し，スイッチランプを**【点灯】**状態にします。
2. ワンタッチ耕うんモードの設定を変更します。(例えばバックアップが不要な場合はバックアップスイッチを押して**【切】**にします。)
3. ワンタッチ耕うんモードスイッチを５秒間長押しします。
   ５秒後メータから「ピ」音が鳴れば設定が記憶されます。
4. ワンタッチ耕うんモードの設定を工場出荷設定に戻したい場合：
   (1) ワンタッチ耕うんモードスイッチを押し，スイッチランプを**【点灯】**状態にします。
   (2) スイッチを約５秒間押すと「ピ」音が鳴ります。
   (3) 更にスイッチを押し続けると約５秒後，２回目の「ピ」音が鳴り，初期設定の状態に戻ります。

■ 3P 切換スイッチ

スイッチを押すごとに
[特 3P・標 3P ⇒ W3P ⇒特 3P・標 3P]
に切換わります。
作業機装着時，下記を参考にスイッチを切換えてください。

特殊 3P 用オートヒッチフレーム付作業機
標準 3P 用作業機（含むインプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付）
……特 3P・標 3P を選択
W3P 用オートヒッチフレーム付作業機
……W3P を選択



① 3P 切換スイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯）

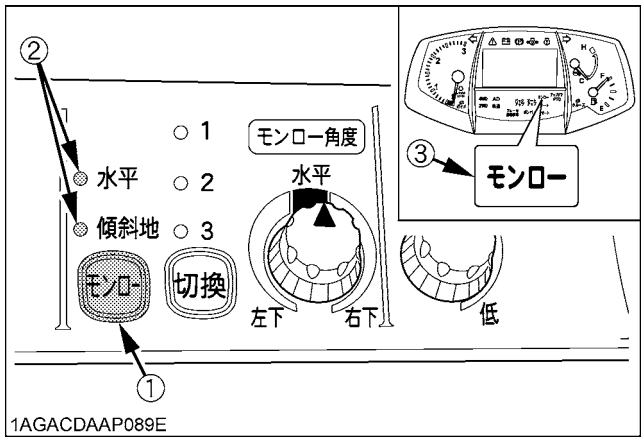
補　足

＊ W3P 仕様で，オートヒッチフレーム付き標準三点リンク式作業機を装着時，ジョイントの取付け位置やトップリンク長さなどを変更してください。(**ロータリ**の**【取扱説明書】**参照)
＊ モンロ及びオートを**【切】**にすると，3P 切換スイッチは操作できません。(スイッチランプも消灯)

■モンロスイッチ

スイッチを押すごとに
[水平⇒傾斜地⇒切（手動）⇒水平]
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

メータパネル
水平・傾斜地選択時……モンロランプ点灯
切（手動）選択時……モンロランプ消灯



①モンロスイッチ
②スイッチランプ（水平・傾斜地選択時点灯，切時消灯）
③モンロランプ

◆ 水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. モンロ角度調節ダイヤルが**[水平]**位置の場合
（作業機は常に水平に保たれます。）
＊ 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
＊ 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
＊ 畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. モンロ角度調節ダイヤルが**[水平]**位置以外の場合
（作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。）
＊ 広幅畝立て，その他

補　足

＊ モンロスイッチが**[水平]**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロスイッチ**[切]**で使用してください。

◆ 傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊適応作業： 傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業（マルチ・リッジャなど）

補　足

＊ モンロスイッチが**[傾斜地]**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ **[傾斜地]**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は**[切]**（手動）で使用してください。
＊ **[傾斜地]**選択時，斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは，モンロ手動スイッチにより，傾きの差が小さくなるように補正できます。トラクタが水平状態にあるときは調整できません。調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは，**[切]**又は**[水平]**で使用してください。エンジンを再始動すると，補正量は標準値に戻ります。
＊ 左右のオフセット量が大きく，左右の重量バランスが悪い作業機の場合は，モンロスイッチ**[切]**で使用してください。

◆ 切（手動）

モンローマチックの**[自動制御が解除]**され，**[位置制御]**になります。

補　足

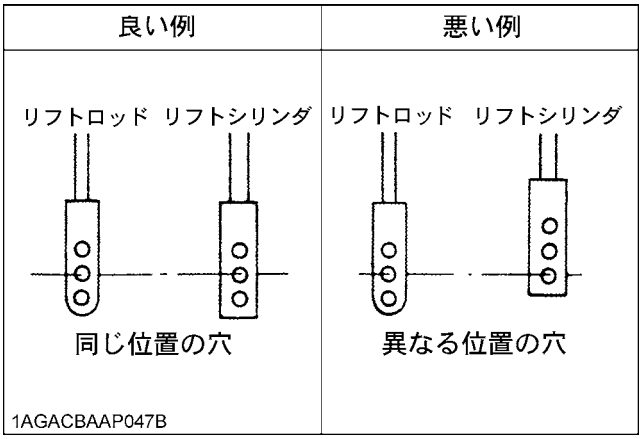
＊ モンロスイッチが**[切]**（手動）では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。
＊ **位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置（長さ）を一定に保ちたい場合に使用します。**モンロスイッチ**を**[切]**（手動）にすると，リフトシリンダの長さを**モンロ手動スイッチ**で設定した長さに保つ制御をします。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。
リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，リフトシリンダを**モンロ手動スイッチ**で適当な長さに合せて，耕起します。通常に耕起する場合には，**モンロスイッチ**を**[水平]**に入れ，油圧レバーを上げると，リバーシブルプラウは車体と平行になります。その状態で**モンロスイッチ**を**[切]**にしてください。

＊ モンロスイッチを**［切］**（手動）でエンジンを停止させた場合，トラクタはそのときの作業機の傾きを記憶しており，次のエンジン始動時に，記憶した作業機の傾きに戻ります。

重　要

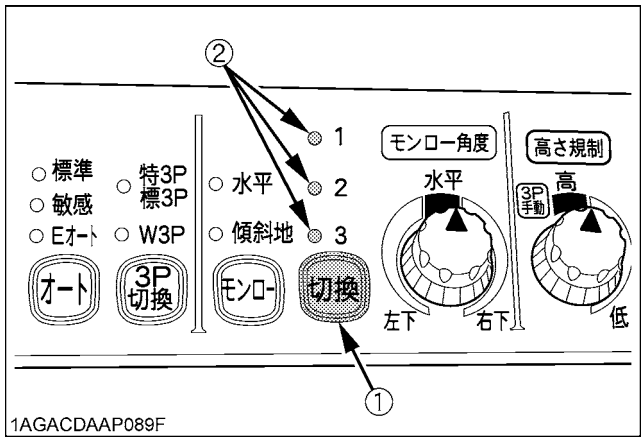
＊ モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**［切］**で作業してください。
＊ **［手動］**で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊ チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。



■切換スイッチ

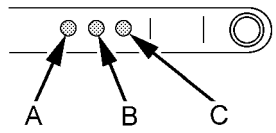
スイッチを押すごとに，**［1⇒2⇒3⇒1］**の順に切換わります。
作業機によって定まる三点リンクの取り付け状態（ロアーリンク幅及びロアーリンク穴）に応じて，下表を参考にスイッチを切換えてください。
選択状態はスイッチランプにより表示されます。



①切換スイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯）

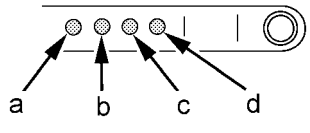
切換スイッチ	ロアーリンク	ロアーリンク穴位置 〈 〉内は KL31Z(H)-PC	作業機例
1	広	B 穴 c 穴 〈C 穴〉	オートヒッチフレーム付きロータリ（特殊 3P 仕様）
		B 穴又は C 穴 c 穴又は d 穴 〈C 穴〉	－
2	広	A 穴 a 穴 〈B 穴〉	オートヒッチフレーム付きロータリ（W3P 仕様）
			標準 3P 用作業機（含むインプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付）
3	狭	A 穴 b 穴（パワクロ仕様は a 穴）	－

ロアーリンク穴
[KL31Z(H)・KL34Z(H)・ KL31Z(H)-PC]
[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)]
[KL37ZH-PC・40ZH-PC・44ZH-PC]

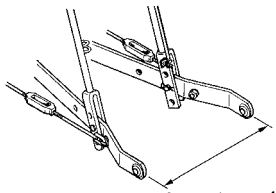


1AGACBRAP014B

[KL48ZH・53ZH・58ZH]
[KL48ZH-PC・53ZH-PC・58ZH-PC]



1AGACBRAP016G



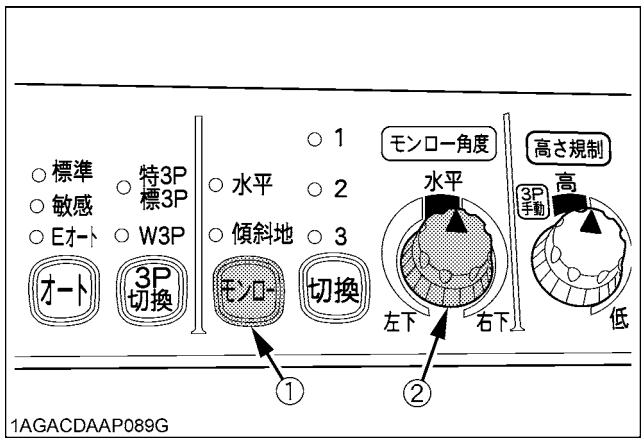
ロアーリンクの幅
［広］…718㎜ (JIS)
［狭］…590㎜ (参考)
1AGACBRAP015A

補　足

＊ 3P 切換スイッチが**【W3P】**を選択時，切換スイッチは自動的に**［2］**を選択します。KL31Z(H)-PC のみ**［1］**を選択します。
　このとき，切換スイッチを押しても切換えできません。
＊ モンロ**【切】**のとき，切換スイッチは，操作できません。（スイッチランプ消灯）
＊ パワクロ仕様のロアーリンクには，**C** 又は **d** 穴がありません。

■モンロ角度調節ダイヤル

モンロスイッチが**［水平］**の場合，作業機の姿勢を調節するときにモンロ角度調節ダイヤルを使用します。



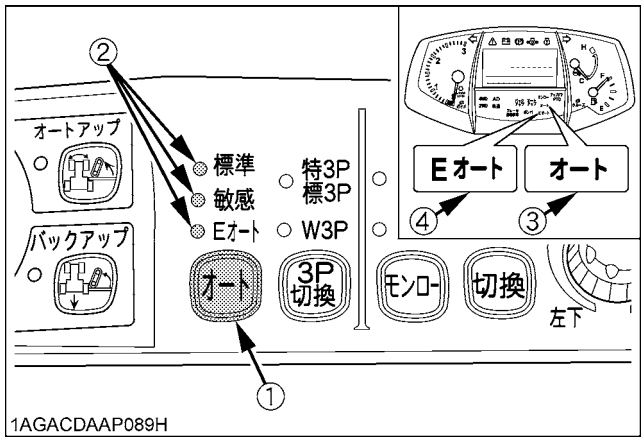
①モンロスイッチ
②モンロ角度調節ダイヤル

1. ダイヤルを**［水平］**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**［左下］**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**［右下］**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

■オートスイッチ［MA 仕様］

スイッチを押すごとに
［標準⇒敏感⇒E オート⇒切⇒標準］
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

	メータパネル
標準・敏感選択時……	**［オート］**ランプ点灯
E オート選択時……	**［E オート］**ランプ点灯
切 選択時……	**［オート］**，**［E オート］**ランプ消灯



①オートスイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯，切時消灯）
③オートランプ
④E オートランプ

◆ 標準
浅起しから深起しまで，一般的な作業に使用します。

◆ 敏感
湿田での作業，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。

◆ E オート
ロータリカバーを上げたまま荒起こしなどの作業を後２輪なしで行なうオート作業に使用します。

◆ 切
オートの自動制御が解除されます。

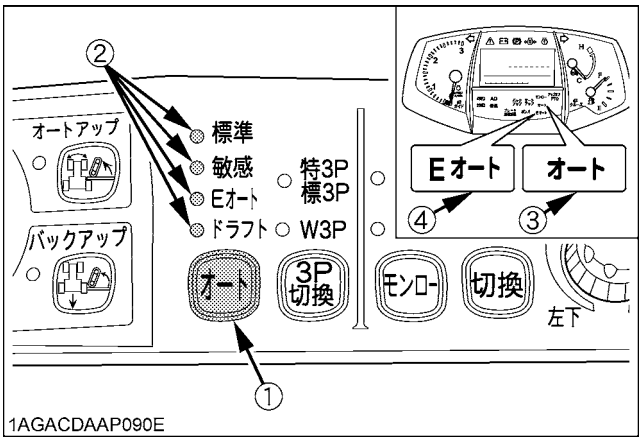
補　足

＊ ロータリカバーを上げて作業するときは，**［E オート］**または**［切］**にしてください。
＊ **［標準］［敏感］**選択時でも，ロータリなどの作業機が付いていない場合は，オートランプは消灯します。

■オートスイッチ［MAD 仕様］

スイッチを押すごとに
［標準⇒敏感⇒E オート⇒ドラフト⇒切⇒標準］
の順に切換わります。
次にあげた作業に応じ，いずれかを選択してください。

	メータパネル
標準・敏感選択時……	**［オート］**ランプ点灯
E オート選択時……	**［E オート］**ランプ点灯
ドラフト選択時……	**［オート］**ランプ点灯
切 選択時……	**［オート］**，**［E オート］**ランプ消灯



①オートスイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯，切時消灯）
③オートランプ
④E オートランプ

◆ 標準
浅起しから深起しまで，一般的な作業に使用します。

◆ 敏感
湿田での作業，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。

◆ E オート
ロータリカバーを上げたまま荒起こしなどの作業を後２輪なしで行なうオート作業に使用します。

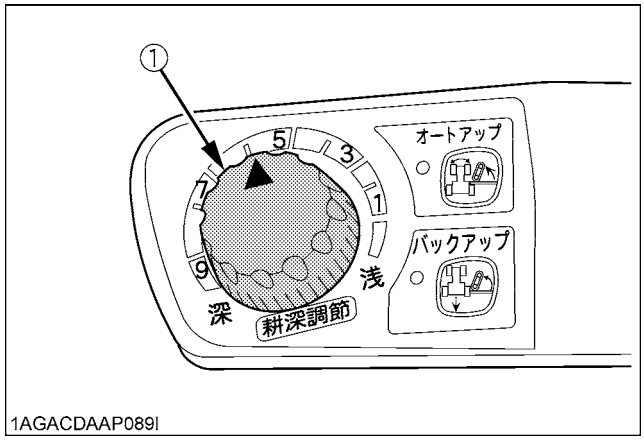
◆ ドラフト
ドラフト作業時使用します。

◆ 切
オートの自動制御が解除されます。

補　足

＊ ロータリカバーを上げて作業するときは，**［E オート］**または**［切］**にしてください。
＊ **［標準］［敏感］**選択時でも，ロータリなどの作業機が付いていない場合は，オートランプは消灯します。

■耕深調節ダイヤル



①耕深調節ダイヤル

オートスイッチが，**［標準・敏感・E オート］**の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

補　足

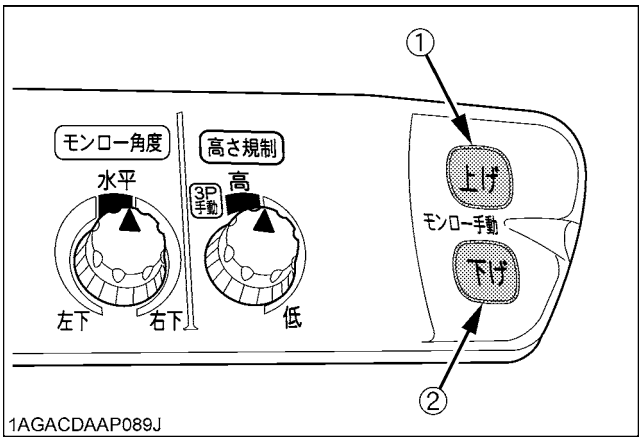
＊ **［浅］**から**［１］**付近まで作業機を吊り上げる制御となります。湿田や代かき作業に利用してください。
＊ ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が変化する場合は，ダイヤルで調節してください。

電子メータメッセージ

＊ 耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，ブザーが鳴りダイヤル調節に応じて下記メッセージが表示されます。操作終了後，約５秒間で元の表示にもどります。

■モンロ手動スイッチ

モンロスイッチが**［切（手動）］**の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



①モンロ手動スイッチ（上げ）
②モンロ手動スイッチ（下げ）

1. **［上げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **［下げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が下がります。

補　足

＊ モンロスイッチが**［傾斜地］**の場合，このスイッチにより斜面と作業機の傾きの差を補正できます。

■作業機の取扱い

◆ リフトシリンダを取付け，取外しする場合

購入先にご相談ください。

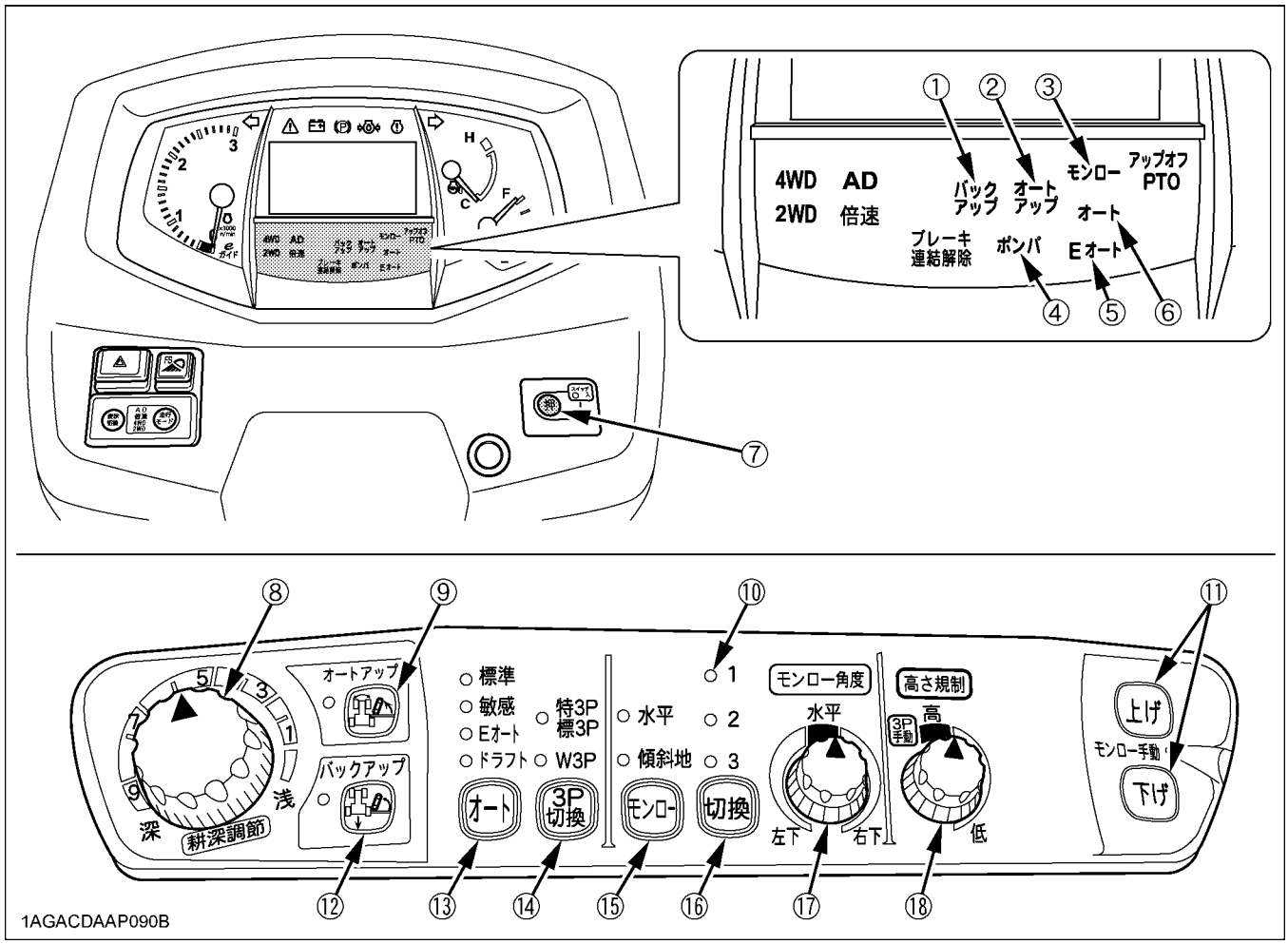
オートドラフト［MAD 仕様］

注 意

**＊ 各スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。
エンジンの始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチ操作が無効になる場合があります。**

■各部の名称

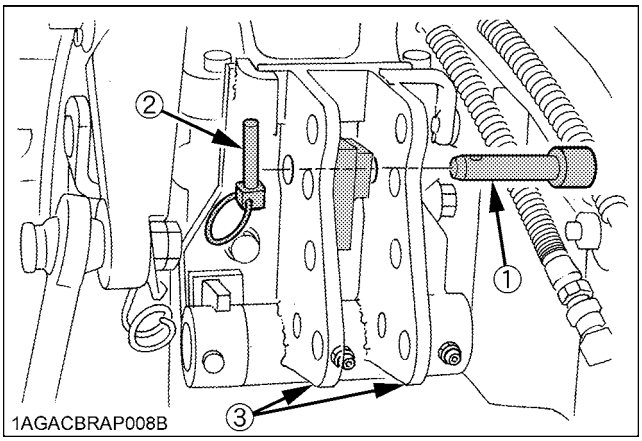
各操作スイッチには，スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切換わるタッチ式スイッチを用いています。また，スイッチでの選択状態を，メータパネル内のモニタランプと各スイッチランプで表示します。



①バックアップランプ
②オートアップランプ
③モンロランプ
④ポンパランプ
⑤ＥオートランプⅠ
⑥オートランプ
⑦ワンタッチ耕うんモードスイッチ
⑧耕深調節ダイヤル
⑨オートアップスイッチ
⑩スイッチランプ
⑪モンロ手動スイッチ
⑫バックアップスイッチ
⑬オートスイッチ
⑭３Ｐ切換スイッチ
⑮モンロスイッチ
⑯切換スイッチ
⑰モンロ角度調節ダイヤル
⑱三点リンク高さ規制ダイヤル

■ドラフトストッパピン

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。
また，ロータリ作業や一般作業機用としてポジションコントロールを使用する場合は，ストッパピンを入れてください。



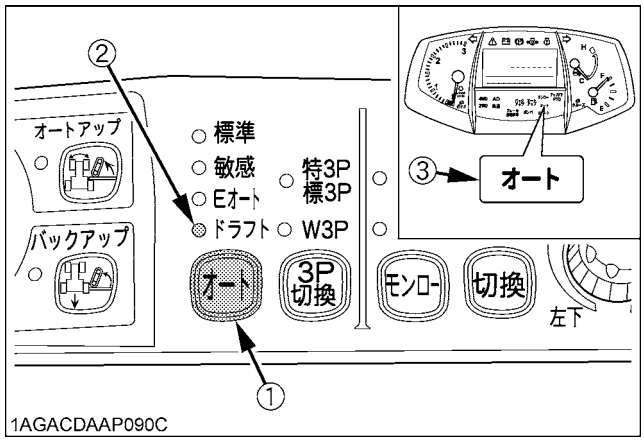
①ストッパピン
②ロックピン
③トップリンクブラケット

補　足

＊ トップリンク取付け位置により，ドラフト感度を調整することができ，上穴を使用する程感度が敏感となります。

■オートスイッチ

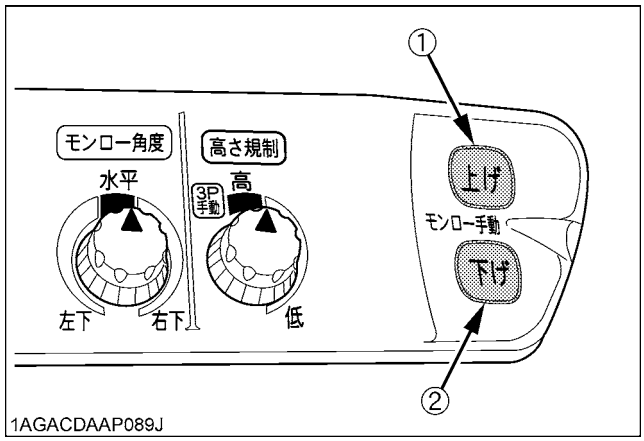
スイッチを押すごとに
[標準⇒敏感⇒Ｅオート⇒ドラフト⇒切⇒標準]
の順に切換わります。
ドラフト作業時は**［ドラフト］**を選択してください。
けん引負荷を感知して，自動的に作業機を上下させます。
ドラフト選択時，メータパネルに**［オート］**ランプが点灯します。



①オートスイッチ
②スイッチランプ（選択時点灯，切時消灯）
③オートランプ

■モンロ手動スイッチ

ドラフト作業時，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



①モンロ手動スイッチ（上げ）
②モンロ手動スイッチ（下げ）

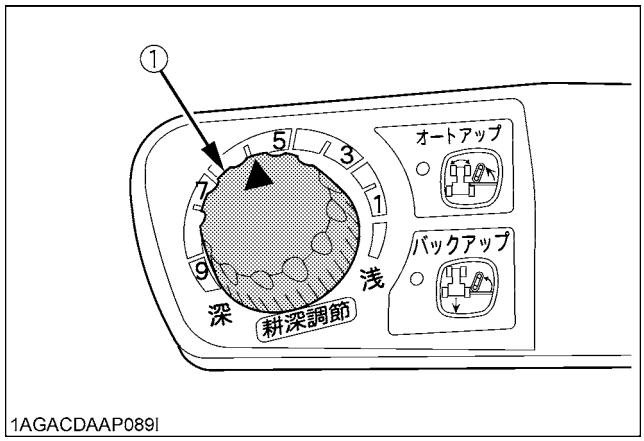
1. **［上げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が上がります。
2. **［下げ］**スイッチを押している間，作業機の右側が下がります。

補　足

＊ オートドラフト使用時，モンローマチックは**［位置制御］**となり作業機の傾きを一定に保ちます。
＊ エンジンを停止させた場合，トラクタはそのときの作業機の傾きを記憶しており，次のエンジン始動時に記憶した作業機の傾きに戻ります。

■耕深調節ダイヤル

プラウなどの耕深をこのダイヤルで設定してください。



①耕深調節ダイヤル

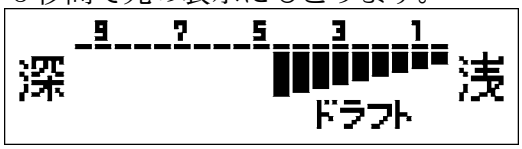
1. ダイヤルを**【浅】**方向へ回すと，プラウの耕深が浅く保持されます。
2. ダイヤルを**【深】**方向へ回すと，プラウの耕深が深く保持されます。

補　足

＊ ダイヤルを**【深】**方向へいっぱい回すと，フローティング範囲になります。また**【浅】**方向へいっぱい回すと作業機が上端まで上昇します。

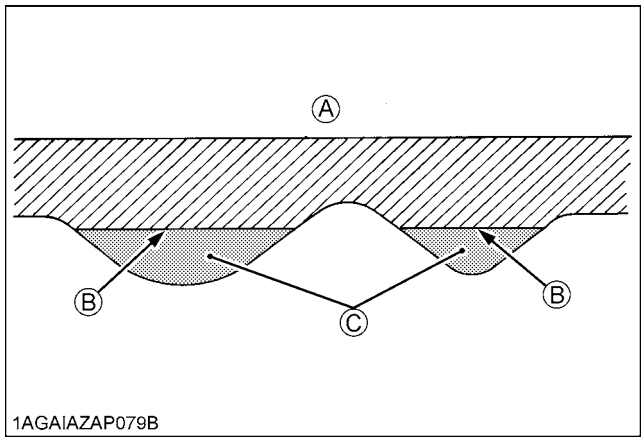
電子メータメッセージ

＊ 耕深調節ダイヤルで耕深を変更したとき，ブザーが鳴りダイヤル調節に応じて下記メッセージが表示されます。操作終了後，約５秒間で元の表示にもどります。



◆ ミックスコントロール

油圧レバーで作業機の降下位置を規制し，ドラフトコントロールでけん引抵抗に応じた制御をするという２つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ・サブソイラなどの作業に適しています。



Ⓐ“地表面”
Ⓑ“降下を制限する”
Ⓒ“軟弱で抵抗が小さい”

■ 3P 切換スイッチ

標準三点リンクが使えるように，**【特 3P・標 3P】**が自動選択されます。
スイッチを押すごとに，**【特 3P・標 3P ⇔ W3P】**に切換わります。
（**【モンローマチックオートの取扱い［MA・MAD 仕様］】**の**【3P 切換スイッチ】**の項を参照）

■モンロスイッチ

ドラフト使用時にモンローマチックを使用する場合は，いったんオートスイッチを**【ドラフト】**に切換えた後，モンロスイッチを**【水平】【傾斜地】**に切換えてください。
（**【モンローマチックオートの取扱い［MA・MAD 仕様］】**の**【モンロスイッチ】**の項を参照）

■モンロ角度調節ダイヤル

モンロスイッチ用スイッチランプ**［水平］［傾斜地］**が**［消灯］**している場合は，このダイヤルを回しても角度調整はできません。モンロスイッチを**［水平］［傾斜地］**に切換えれば，モンローマチックが使用できます。

（**［モンローマチックオートの取扱い［MA・MAD 仕様］］**の**［モンロ角度調節ダイヤル］**の項を参照）

■切換スイッチ

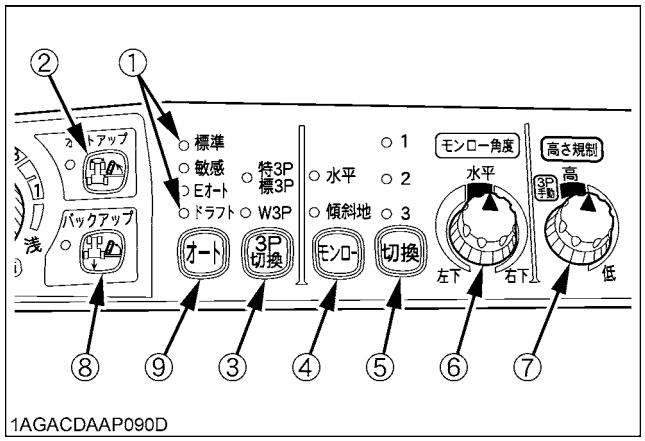
モンロスイッチを**［水平］［傾斜地］**に切換えたとき，使用します。

（**［モンローマチックオートの取扱い［MA・MAD 仕様］］**の**［切換スイッチ］**の項を参照）

■ワンタッチ耕うんモードスイッチ

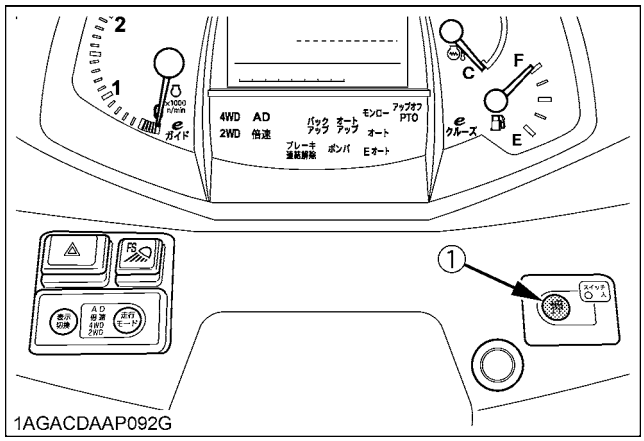
［ドラフト］を選択した状態でワンタッチ耕うんモードスイッチを押すと，スイッチランプは**［消灯］**し，ワンタッチ耕うんモードが**［切］**となります。

（**［モンローマチックオートの取扱い［MA・MAD 仕様］］**の**［ワンタッチ耕うんモードスイッチ］**の項を参照）



1AGACDAAP090D

①スイッチランプ
②オートアップスイッチ
③ 3P 切換スイッチ
④モンロスイッチ
⑤切換スイッチ
⑥モンロ角度調節ダイヤル
⑦三点リンク高さ規制ダイヤル
⑧バックアップスイッチ
⑨オートスイッチ



1AGACDAAP092G

①ワンタッチ耕うんモードスイッチ

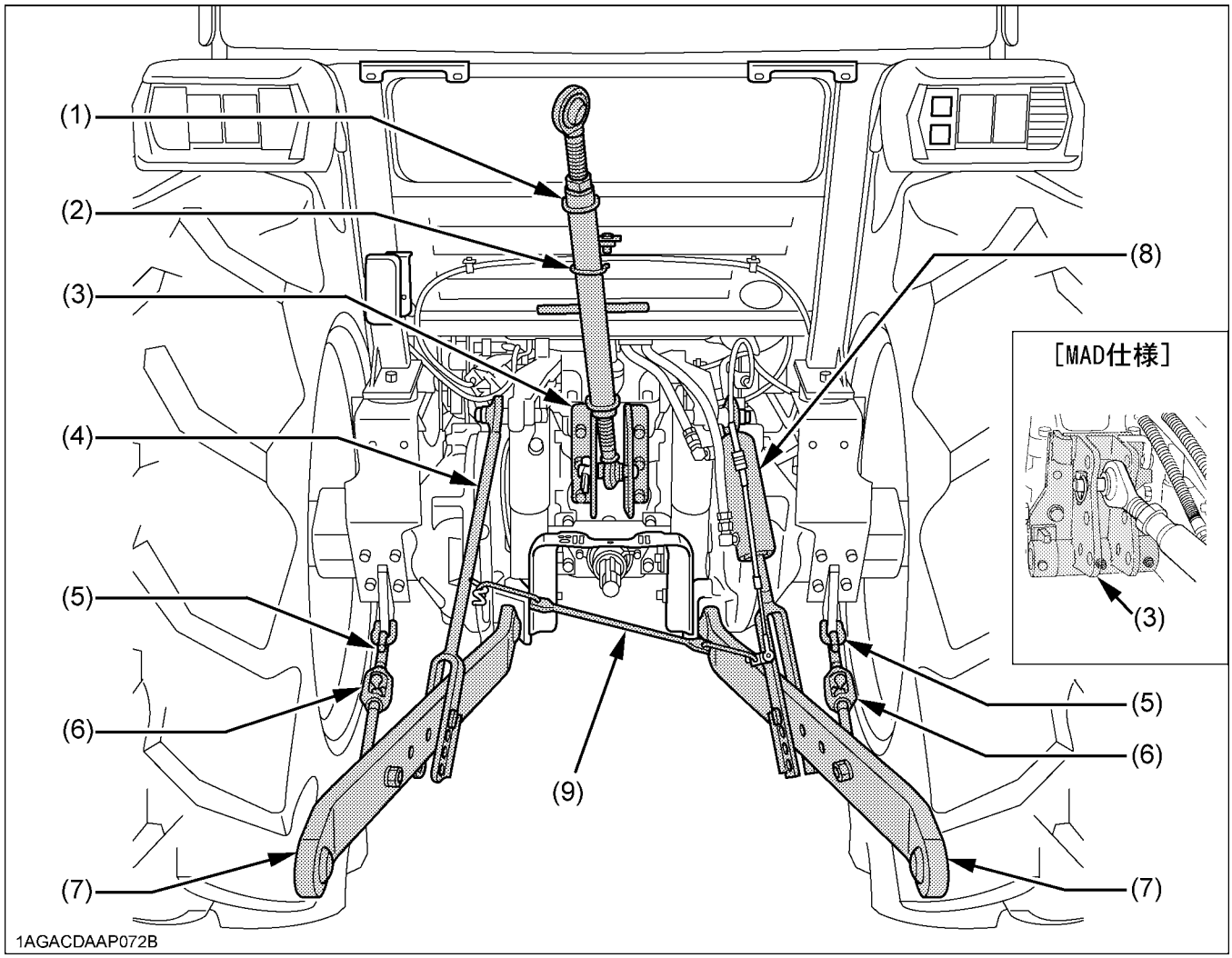
補　足

＊ 下記スイッチはドラフト作業時使用できます。（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）

1. 三点リンク高さ規制ダイヤル
2. バックアップスイッチ

三点リンク

■各部の名称



(1) トップリンク
(2) トップリンクフック
(3) トップリンクブラケット
(4) リフトロッド左
(5) チェックチェーン
(6) ターンバックル
(7) ロアーリンク
(8) リフトシリンダ
(9) 振止めゴム

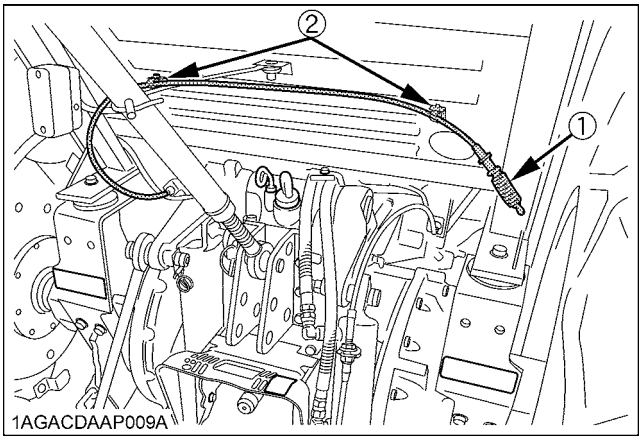
1. 三点リンクは，JIS 1形です。
2. 三点リンク用作業機を装着したとき，チェックチェーンやロアーリンクがタイヤと接触するおそれのある場合は，後輪輪距を広げてください。(**［作業のしかた］**の章の**［輪距の調整］**の項を参照)

1. インプルメント取付け前の準備

■オートワイヤ

◆ 格納

オートヒッチフレームを外した場合，オートワイヤを図のように格納してください。



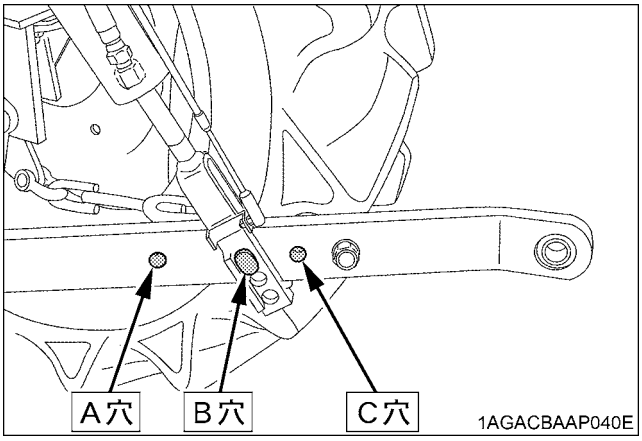
①オートワイヤ
②ホルダ

■ロアーリンク取付け穴の選択

[KL31Z(H・-PC)・KL34Z(H) 仕様]

下表を参考に正しい取付け穴を選択してください。

	ロアーリンク穴位置	
	KL31Z(H) KL34Z(H)	KL31Z(H)-PC
オートヒッチフレーム無しのとき (一般作業機装着時)	A穴	A穴
特殊三点リンク用オートヒッチフレーム付きのとき（ロータリ）	B穴	C穴
W3P用オートヒッチフレーム付きのとき [W3P仕様]（ロータリ）	A穴	B穴



補　足

＊ ロアーリンクのC穴を使用するときは，リフトロッドの上穴は使用できません。(パワクロ仕様以外)
＊ クボタロータリを使用する場合のリフトロッド穴位置は**ロータリ**の**［取扱説明書］**を参照してください。
＊ 他社インプルメントを使用する場合のリフトロッド穴位置は購入先に相談してください。

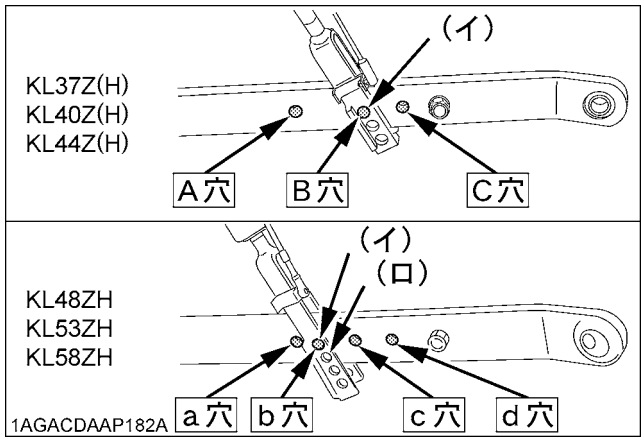
■ロアーリンク取付け穴の選択

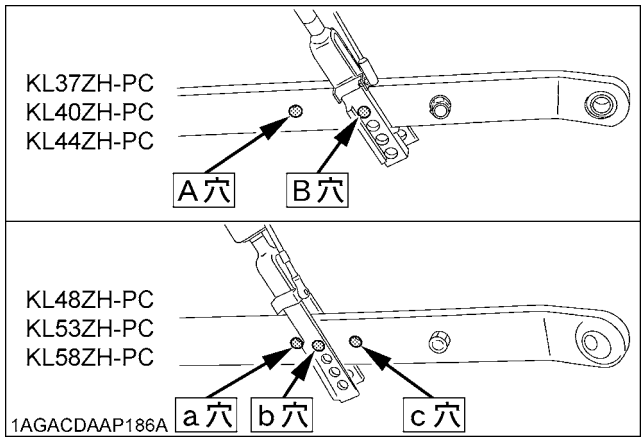
[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様]

下表を参考に正しい取付け穴を選択してください。

	ロアーリンク取付け穴	
	KL37Z(H) KL40Z(H) KL44Z(H)	KL48ZH KL53ZH KL58ZH
特殊3P用オートヒッチフレーム付きのとき（ロータリ）	B穴 （播種機装着時必要に応じC穴）	c穴 （播種機装着時必要に応じd穴）
W3P用オートヒッチフレーム付きのとき[W3P仕様]（ロータリ）	A穴	a穴
標準3P用作業機(含むインプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付)	A穴	a穴
オートヒッチフレーム無し一般作業機のとき（ロアーリンク幅[狭]590mm）	A穴	b穴

	ロアーリンク取付け穴	
	KL37ZH-PC KL40ZH-PC KL44ZH-PC	KL48ZH-PC KL53ZH-PC KL58ZH-PC
W3P用オートヒッチフレーム付きのとき[W3P仕様]（ロータリ）	A穴	a穴
標準3P用作業機(含むインプルメントメーカ製オートヒッチフレーム付)	A穴	a穴
オートヒッチフレーム無し一般作業機のとき（ロアーリンク幅[狭]590mm）	A穴	a穴





補　足

＊ タイヤ仕様のトラクタで，ロアーリンク最後部の**C**又は**d**穴使用時，リフトロッドの（イ）又は（イ），（ロ）穴は使用できません。

＊ クボタロータリを使用する場合のリフトロッド穴位置は**ロータリ**の**［取扱説明書］**を参照してください。

＊ 他社インプルメントを使用する場合のリフトロッド穴位置は購入先に相談してください。

2. 作業機の着脱

警 告

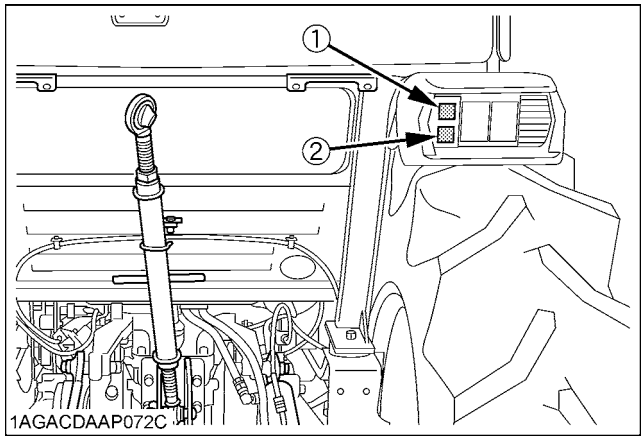
- **作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。**
- **駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。**
- **作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。**
- **作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。**

■モンロー外部操作スイッチ

注 意

- **作業機を装着しているときは，特に機械に巻き込まれるおそれがありますので，操作しないでください。**

作業機装着時，ロアーリンク高さを変えるときに使用します。
モンロー外部操作スイッチ①又は，②を押している間，モンロー用シリンダが伸縮します。



①モンロー外部操作スイッチ（上げ）
②モンロー外部操作スイッチ（下げ）

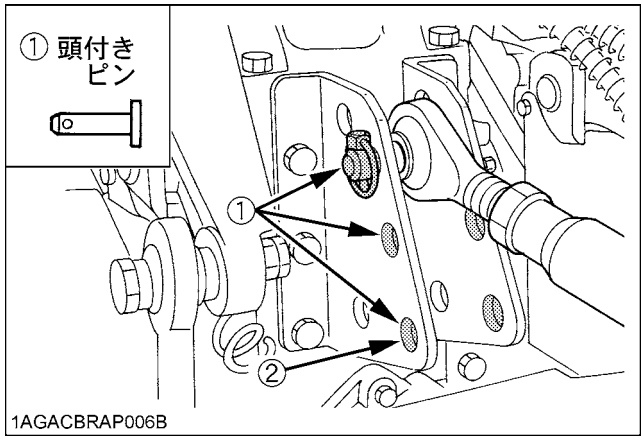
補 足

＊ モンロスイッチを**［切］**にした後，操作してください。モンロスイッチ**［入］**で操作する際は，スイッチから手を離すと元の水平位置に戻ります。

■トップリンク

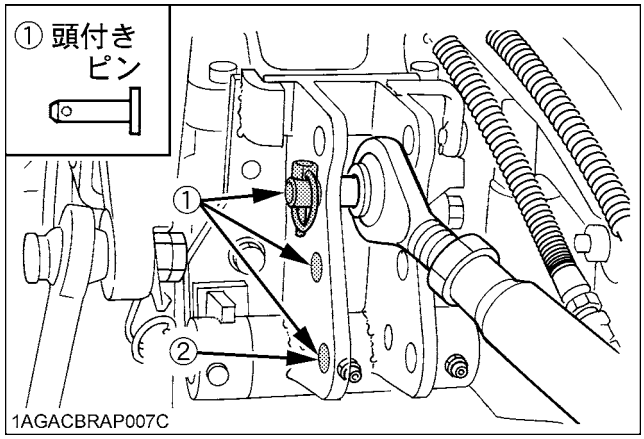
◆ 取付け穴の選択

使用する作業機によって取付け穴を選択してください。指定された取付け穴以外は使用しないでください。



①トップリンク取付け穴（頭付きピン使用）
② W3P 用オートヒッチフレーム使用時取付け穴

［ドラフト付き（MAD）仕様］



①トップリンク取付け穴（頭付きピン使用）
② W3P 用オートヒッチフレーム使用時取付け穴

◆ トップリンク長さの調整

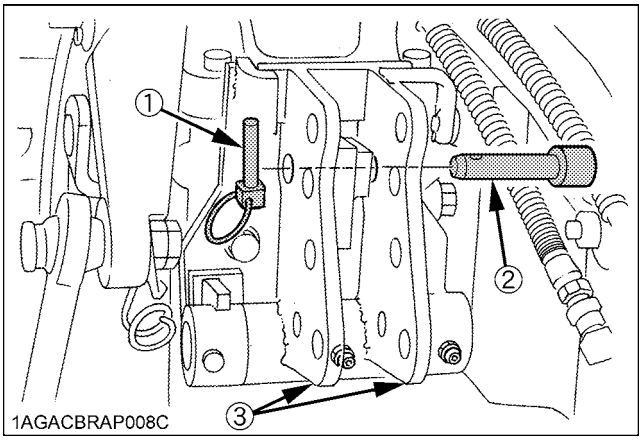
伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。調整後はトップリンクナットでロックしてください。

補 足

＊ トップリンクの取付け穴及び長さは，取付ける作業機の**［取扱説明書］**をご覧ください。

◆ ドラフトストッパピンの着脱
[MAD 仕様]

プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，トップリンクブラケットのストッパピンを抜いてください。また，ロータリ作業などポジションコントロールを使用する場合は，ストッパピンを入れてください。



①ロックピン
②ストッパピン
③トップリンクブラケット

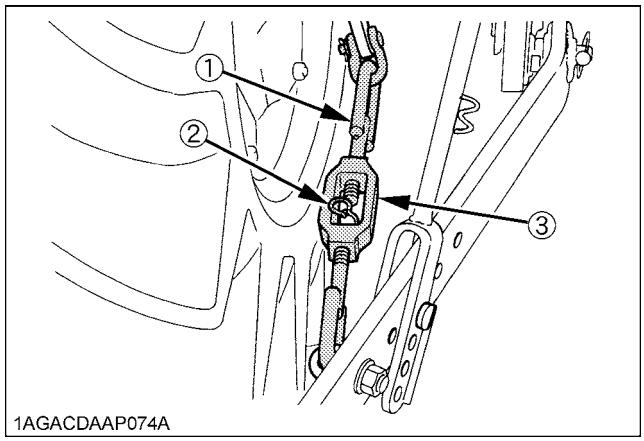
補　足

＊ ストッパピンを外したまま，ロータリ耕うんを行なうと，オートが正常に作動しない場合があります。

■チェックチェーン

スナップピンを抜き，ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンで，ターンバックルを固定してください。

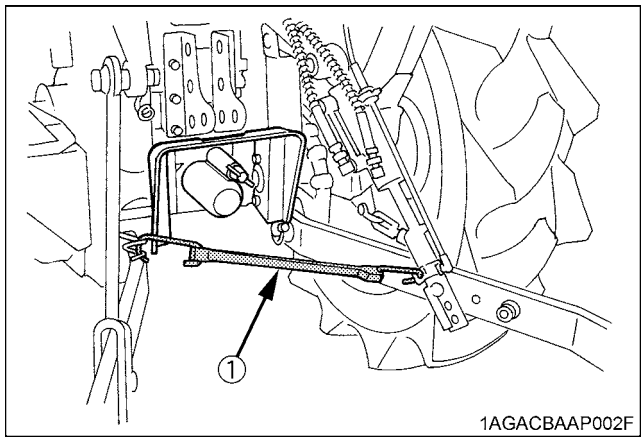
作業機	チェーンの張り具合
ロータリ	ロータリが横方向に１～２ cm 動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６ cm 動く程度（ロアーリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モーア， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める



①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振止めゴムをしてください。



①振止めゴム

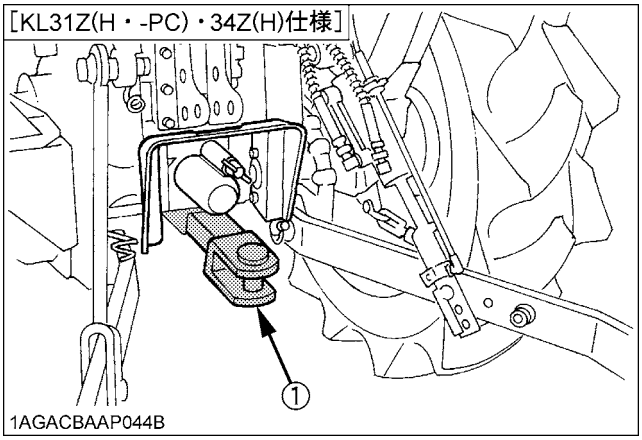
けん引ヒッチ（別売）

警　告

＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（別売）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチにあたって破損し，事故を起こすおそれがあります。

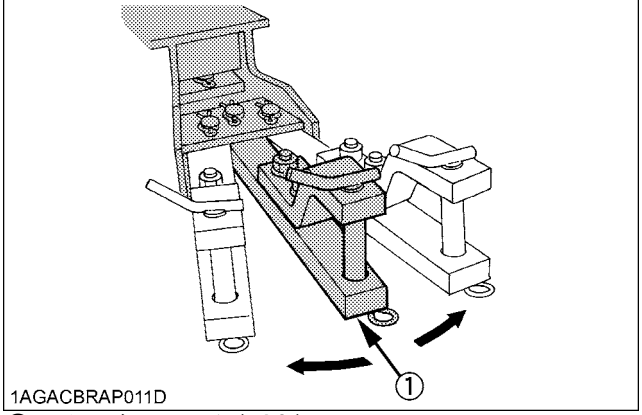
けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



①けん引ヒッチ（別売）

［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



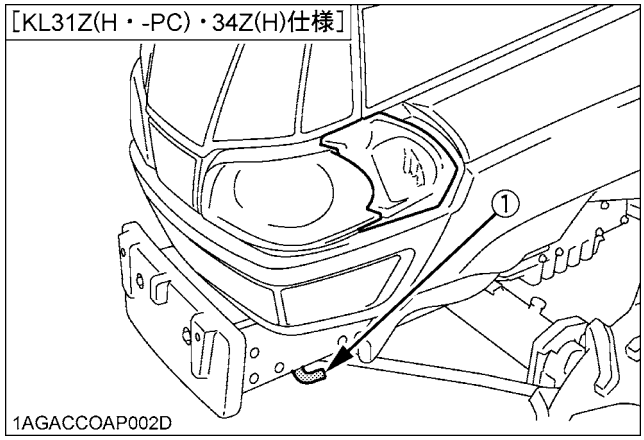
①スイングドローバ（別売）

■けん引フック

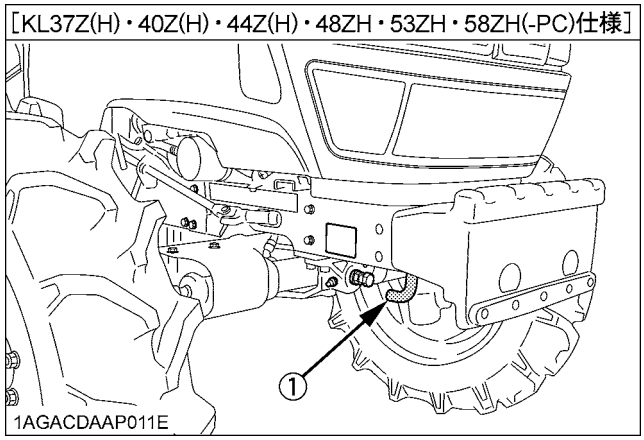
注　意

**＊ けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
横に引張ると，外れやすくフレームが曲るおそれがあります。**

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



①けん引フック

PTO

■あんしん PTO スイッチ

警 告

＊ 巻き込まれによる死傷事故を防ぐため，あんしん PTO スイッチが［入］のときは作業機に近づかないでください。

注 意

＊ アップオフ PTO モードは，ほ場作業以外のときは［切］にしてください。
＊ アップオフ PTO モードは，ロータリ，ハロー作業のみで使用してください。
＊ アップオフ PTO モードをロータリ，ハロー以外の作業に使うと作業機の破損，思わぬトラブルが起こるおそれがあるので使わないでください。
（ハーベスタの草わらつまり，バイブロサブソイラの地中でのロックなど。）
＊ あんしん PTO スイッチが［入］のときは，PTO 軸には触れないでください。レバー操作などで PTO 軸が回転し巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊［油圧レバー下げで回転］のメッセージが表示されているときは，作業機の昇降操作（ポンパ含む）で PTO が回転します。周囲の確認を十分に行なって作業をしてください。

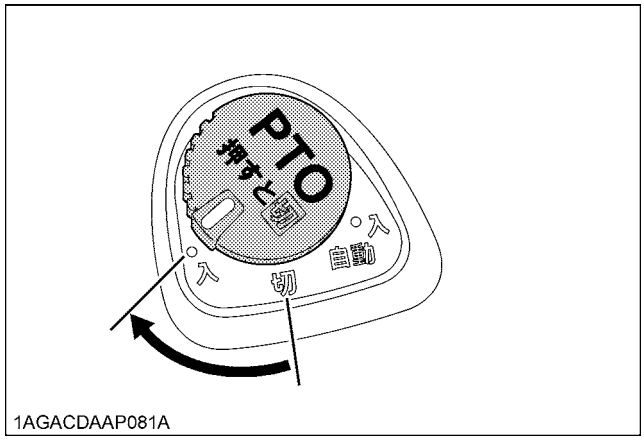
補 足

＊ あんしん PTO スイッチが**【切】**の位置でないとエンジンは始動できません。
＊ 走行クラッチを踏むと PTO は停止します。PTO を止めずに走行を停止したい場合は，クラッチを踏まずにシャトルレバーを操作してください。
なお，デュアルシフト仕様では，ブレーキペダル操作のみで PTO を止めずに発進・停車を行なうこともできます。

◆ あんしん PTO スイッチの操作

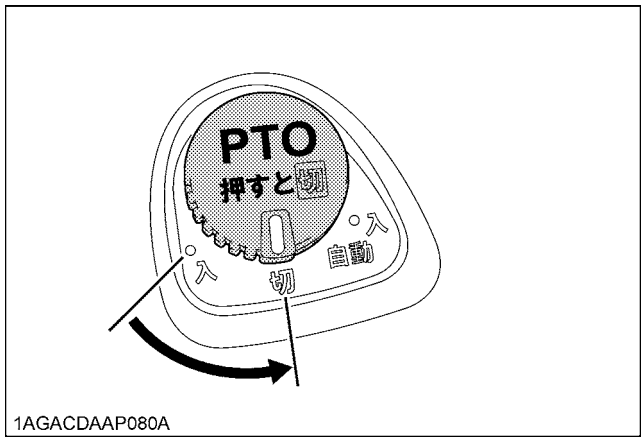
［PTO － ［入］］

1. スイッチを押しながら**【入】**方向に回すと PTO が**【入】**になります。



1AGACDAAP081A

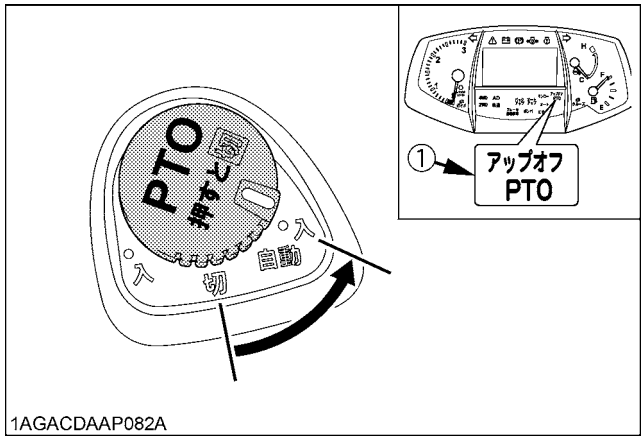
2. スイッチを押すと**【切】**に戻ります。



1AGACDAAP080A

［アップオフ PTO モード － ［入］］

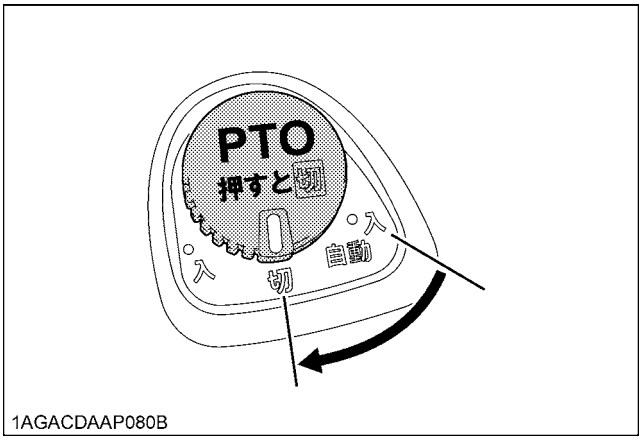
1. スイッチを押しながら**【入 自動】**方向に回すとアップオフ PTO モードが**【入】**になり，メータのアップオフ PTO ランプが点灯します。



1AGACDAAP082A

①アップオフ PTO ランプ

2. スイッチを押すと**【切】**に戻ります。



1AGACDAAP080B

◆ アップオフ PTO モード

ポンパレバー又は油圧レバーの**【上げ】**操作により PTO 回転が自動停止し，ロータリ，ハロー作業での旋回時における泥，ほこりの飛散，うっかりミスによる障害物の破損を軽減させることができます。
また，ポンパレバー又は油圧レバーの**【下げ】**操作により PTO 回転が始まります。

電子メータメッセージ

＊ アップオフPTO機能によりPTO回転が停止している間は，下記メッセージが表示されるとともに，ブザーが鳴り続けます。

＊ ポンパレバー又は油圧レバー**【下げ】**操作により，PTO 回転が始まります。

補　足

＊ 油圧レバーの位置によってはポンパレバーによる PTO の停止・回転が行なえない場合があります。

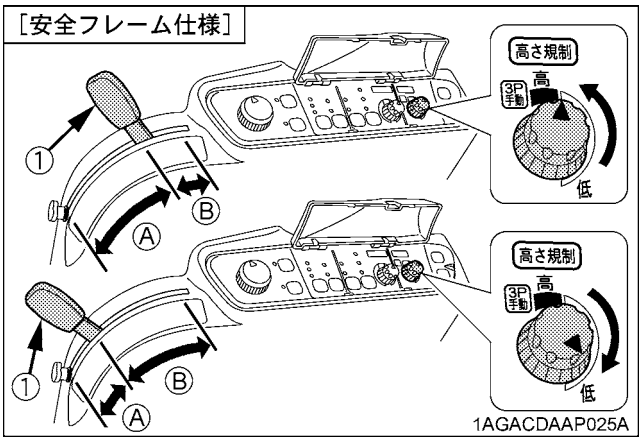
重　要

＊ アップオフ PTO モードが**【入】**で油圧ロックをしている場合，ポンパレバー又は油圧レバーの**【下げ】**操作により作業機が下がらなくても，PTO は回転します。(**【作業のしかた】**の章の**【作業機落下速度の調整】**の項を参照)
＊ アップオフ PTO の動作タイミングは，高さ規制ダイヤルにより下記のように変化します。

油圧レバーが図のように**【PTO 回転】**位置にあるときのみポンパレバーの**【上げ】**操作により PTO 回転が停止し，**【下げ】**操作により PTO 回転が始まります。

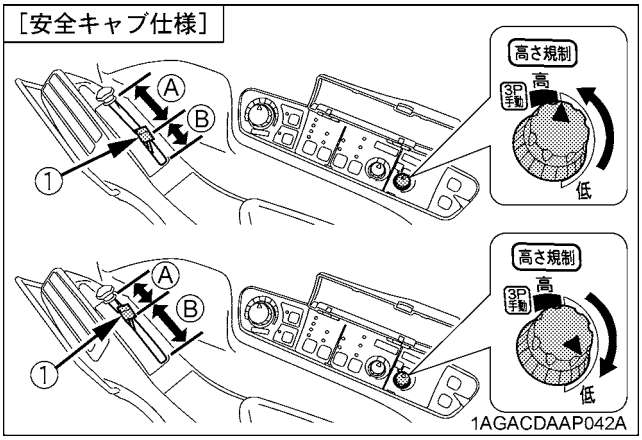
エンジン始動後，アップオフ PTO モードを**【入】**にしたときに PTO が回転するか停止するかは，エンジン始動時の三点リンクの高さで決まります。

［安全フレーム仕様］



1AGACDAAP025A

［安全キャブ仕様］



1AGACDAAP042A

①油圧レバー　　**Ⓐ“PTO 回転”**
Ⓑ“PTO 停止”

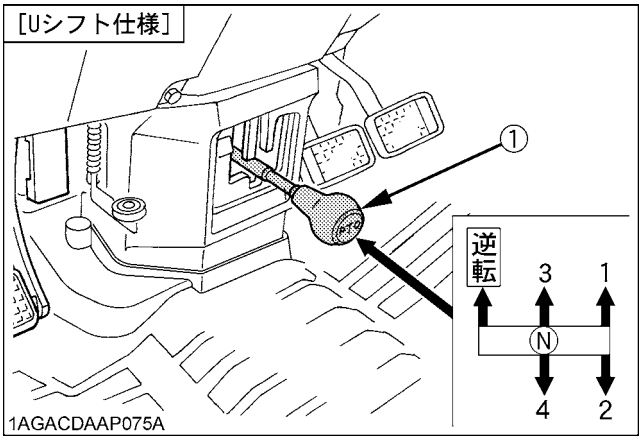
(高さ規制ダイヤルを**【低】**にすると，PTO 回転が始まる油圧レバー高さも低くなります。)

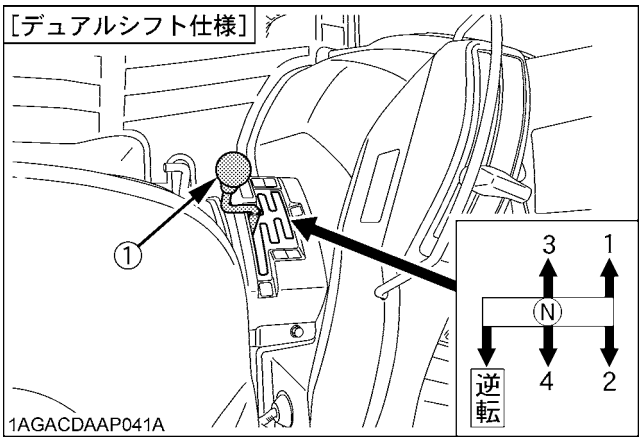
■ PTO 変速レバー

注　意

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度は，正転４段・逆転１段に変速できます。
変速操作は，必ずクラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
なお，デュアルシフト仕様では，あんしん PTO スイッチを**【切】**でも変速できます。





① PTO 変速レバー

◆ PTO［逆転］の使い方

1. 使用できる作業機
＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリ・インプルメントで使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
＊ 土寄せ作業
＊ 草やわらなどの巻きつきをほぐすとき

重　要

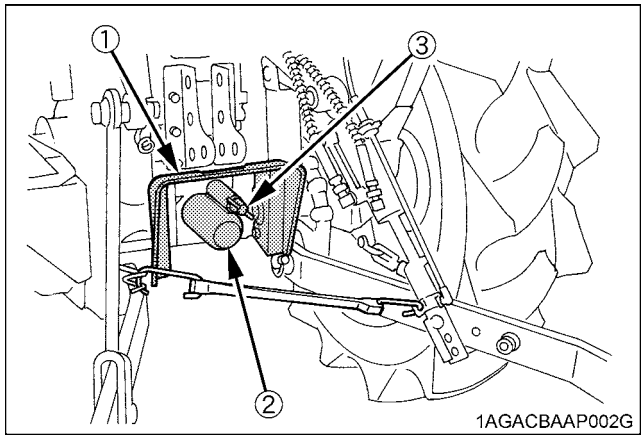
＊ オートスイッチは**【切】**にして油圧（ポジションコントロール）レバーで作業してください。（**【作業のしかた】**の章の**【モンローマチックオートの取扱い】**の項を参照）

3. 使用できない作業
＊ 未耕地での耕うん作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■ PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ

注　意

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



① PTO 軸カバー
② PTO 軸キャップ
③蝶ボルト

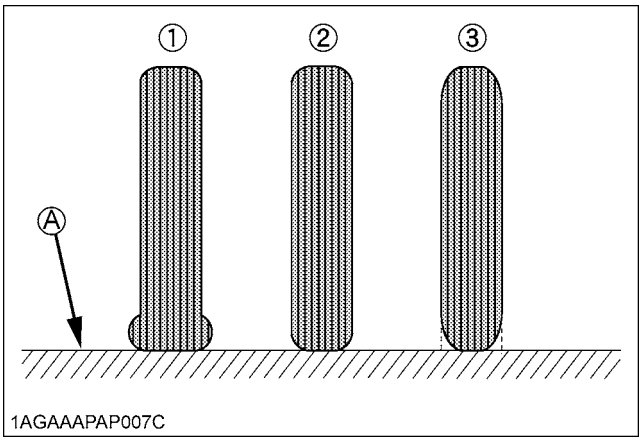
タイヤ

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い
Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

[　]内はフロントローダ装着時

	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	157(1.6)　[196(2.0)]
	137(1.4)　[196(2.0)] タイヤサイズ 230/60-16 のみ
後輪	98(1.0)
	120(1.2) タイヤサイズ 12.4-28，12.4-32 のみ

輪距の調整

注　意

＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

重　要

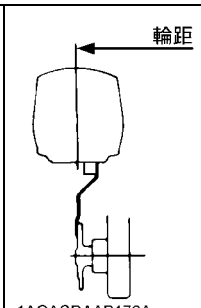
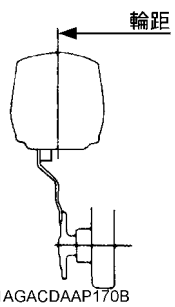
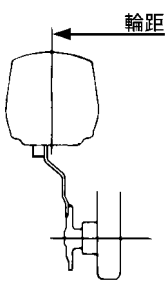
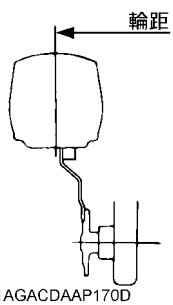
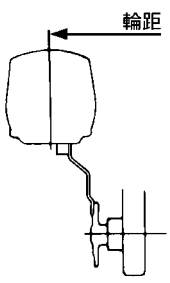
＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。
＊ 道路走行時は，出荷状態に戻してください。（PC3 仕様除く）

補　足

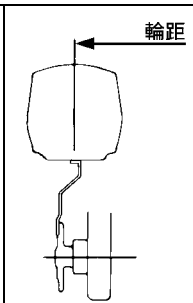
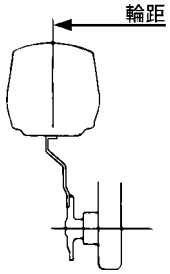
＊ タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

■後輪輪距

◆ リム・ディスク組換えタイヤ

型　式 (標準タイヤ)	 1AGACDAAP170A	 1AGACDAAP170B	 1AGACDAAP170C	 1AGACDAAP170D	 1AGACDAAP170E
KL31Z(H)・34Z(H) 13.6-24	{1205 mm} {出荷状態}	{1235 mm}	{1330 mm}	{1480 mm}	{1575 mm}
KL31Z(H)・34Z(H) 11.2-28	{1205 mm} {出荷状態}	{1235 mm}	{1335 mm}	{1400 mm}	{1495 mm}
KL37Z(H)・40Z(H) 12.4-28	[1140 mm] [出荷状態]	[1210 mm]	[1310 mm]	[1335 mm]	[1430 mm]
KL44Z(H) 13.6-26 12.4-28 (幅狭タイヤ)		{1210 mm} {出荷状態}	{1310 mm}	{1335 mm}	{1430 mm}
KL48ZH・53ZH・58ZH 13.6-28					

◆ リム・ディスク溶接タイヤ

型　式 (標準タイヤ)	 1AGACDAAP171A	 1AGACDAAP171B
KL31Z(H)・34Z(H) 13.6-24	{1205 mm} {出荷状態}	{1235 mm}
KL44Z(H) 13.6-26	[1140 mm] [出荷状態]	[1210 mm] {1210 mm} {出荷状態}

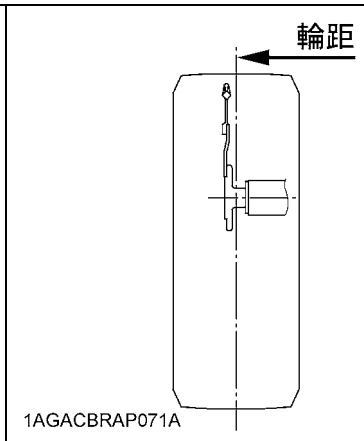
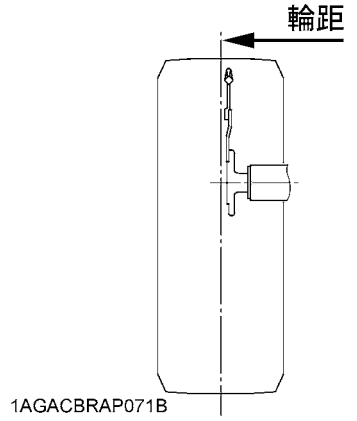
[　　] は安全フレーム仕様，{　　} は安全キャブ仕様を示します。

補　足

＊ 輪距によりディスクの組換えもあわせて行なってください。

◆ クローラ（PC3 仕様のみ）

クローラの輪距はゴムクローラの内外を入れかえることにより変更できます。
クローラの輪距はどちらの状態でも道路走行することができます。
(ゴムクローラの交換手順については**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［必要に応じた点検・整備］**の**［ゴムクローラの交換手順］**の項を参照してください。)

型　式	 1AGACBRAP071A	 1AGACBRAP071B
KL31Z(H)-PC	{1200 mm}（出荷状態）	{1340 mm}
KL37ZH-PC KL40ZH-PC KL44ZH-PC KL48ZH-PC KL53ZH-PC KL58ZH-PC	[1150 mm]{1200 mm}	[1290 mm]{1340 mm}（出荷状態）

(PC2 仕様は輪距の調整はできません。)
[　　] は安全フレーム仕様
{　　} は安全キャブ仕様

ウエイト（オプション）

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

■前部ウエイト（オプション）

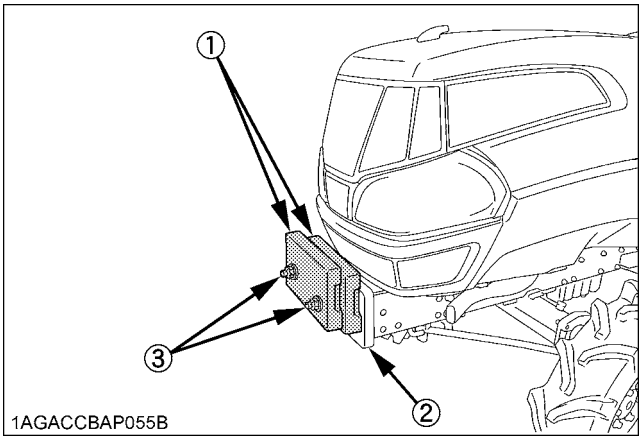
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆ 前部ウエイトの取付け方法

トラクタのフロントバンパに付属のボルト，ナットで固定します。

[KL31Z(H)・KL34Z(H)]

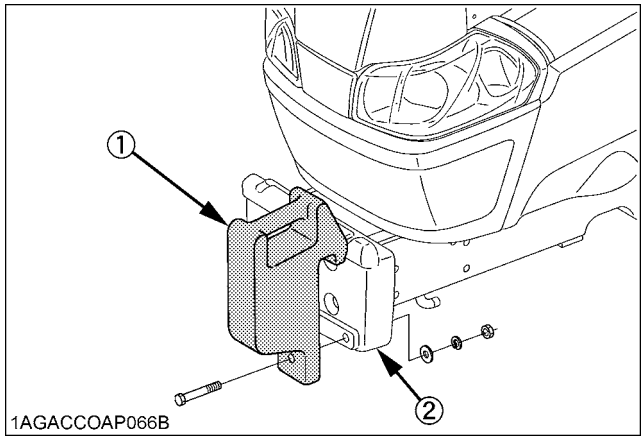
ウエイト１枚の重量は 28kg で１～３枚取付けできます。



①前部ウエイト　　③ボルト・ナット・座金
②フロントバンパ

[KL31Z(H)-PC]

ウエイト１枚の重量は 25kg で１～４枚取付けできます。



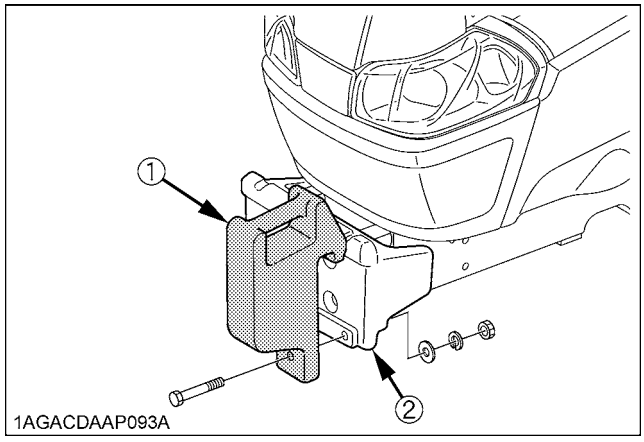
①ハンガウエイト
（99891-1100-0…ウエイト，キット）
②バンパ（20）

ハンガウエイト（99891-1100-0…ウエイト，キット）を KL31Z(H)，34Z(H) に取付けるには以下の部品が必要です。

バンパ（20）	(T3632-4976-0)
バンパ取付け用ボルト（４個）	(01133-51455)
バンパ取付け用ナット（４個）	(02176-50140)

[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)]

ウエイト１枚の重量は 25kg で１～５枚取付けできます。



①前部ウエイト
②バンパ（40）

■後輪ウエイト（オプション）

[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC) 仕様のみ]

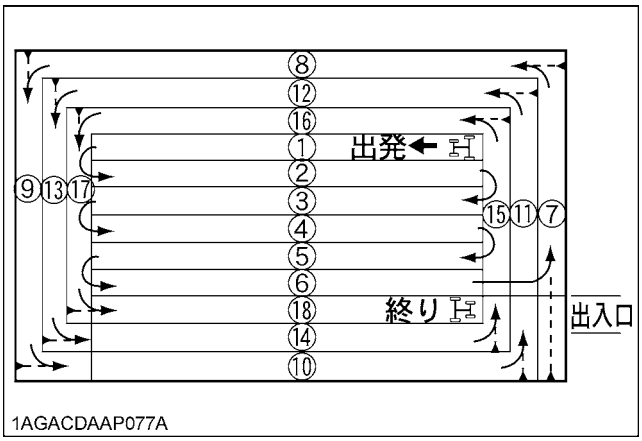
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

一般的な耕うん要領

■隣接耕うんのしかた

作業条件により，車速及びPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

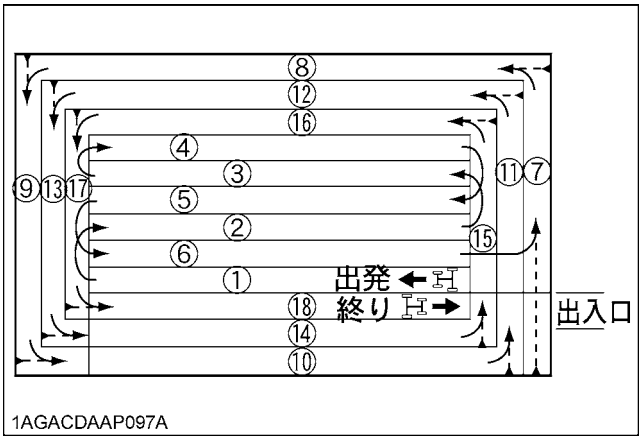
1. 図の長方形部分１枚が，直進１回で耕うんされる耕作地を示しています。
2. 図のような順序をとるのは，１度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための最善の方法です。
3. 枕地耕うんの開始点⑦は，トラクタが最後に外に出る出入口場所によって決まります。
4. 直進が終って，次の直進に移るまでは，ロータリを上げて旋回します。
5. サイドドライブロータリは，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。



1AGACDAAP077A

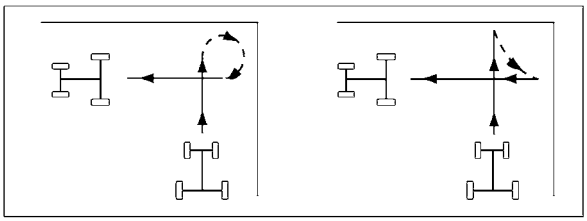
■一うねおき耕うんのしかた

一うねおき耕うんは，小回りの難しい場所に用いる方法で，その他は隣接耕うんと同じです。



1AGACDAAP097A

■トラクタの方向転換のしかた



1AGACCBAP036A

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

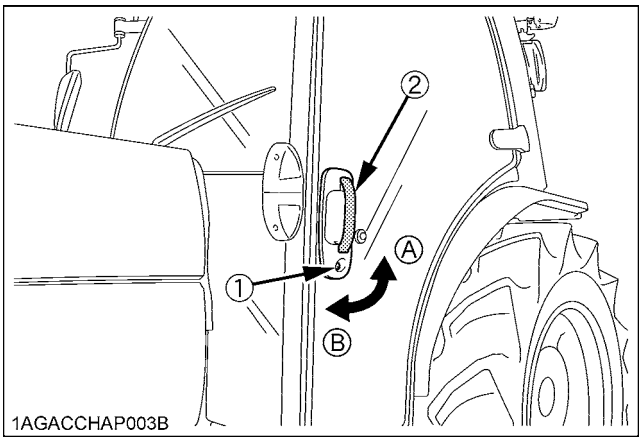
注　意

＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

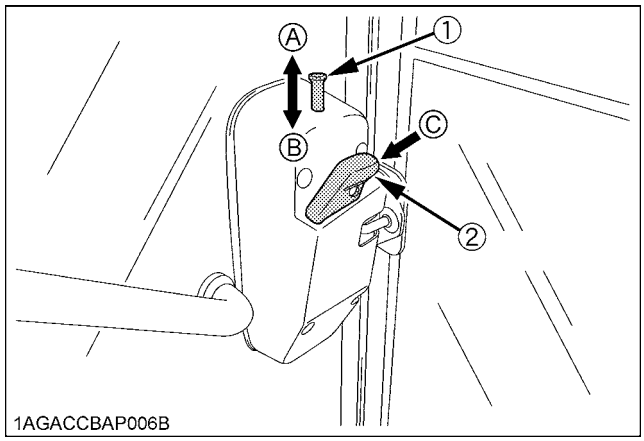
◆ ドアの開閉とロック

車外から……キーを回すと**［施錠］［解錠］**されます。ドアアウタハンドルを引き，開けます。

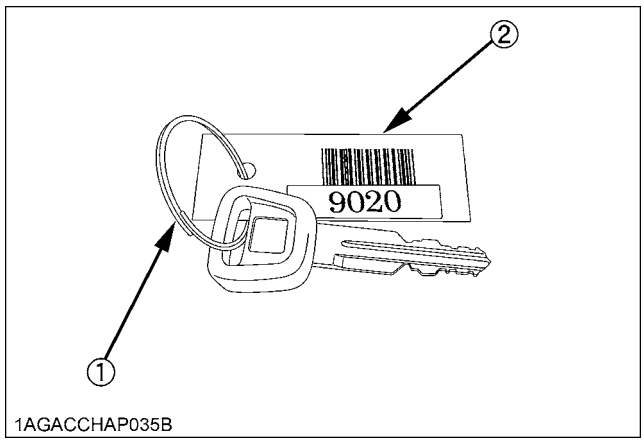


①ドアキー　　**Ⓐ“施錠”**
②ドアアウタハンドル　　**Ⓑ“解錠”**

車内から……ロックノブを下げると**［施錠］**，上げると**［解錠］**されます。インナハンドルを引き，開けます。



①ロックノブ　　**Ⓐ“解錠”**
②インナハンドル　　**Ⓑ“施錠”**
Ⓒ“開く”



①キーリング
②キーナンバー票

重　要

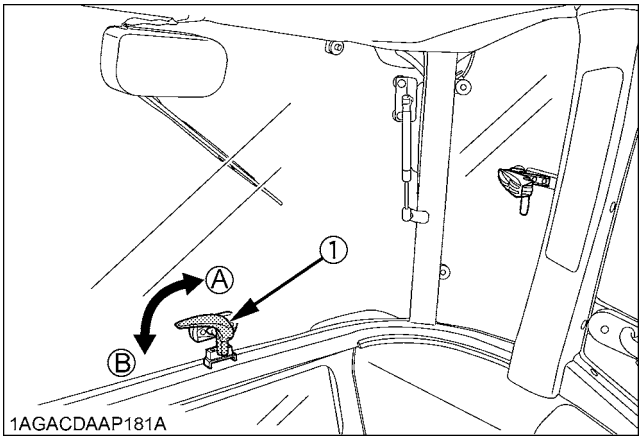
＊ キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙のおぼえに記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。

補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド

リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。



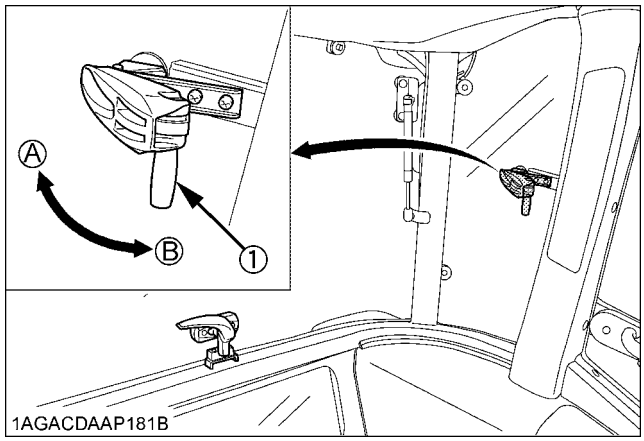
①リヤウインドハンドル　**Ⓐ“開”**　**Ⓑ“閉”**

重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときにはじゅうぶん確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので，作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド

ハンドル部を矢印方向に回し，窓を開閉してください。



①ハンドル　**Ⓐ“開”**　**Ⓑ“閉”**

重　要

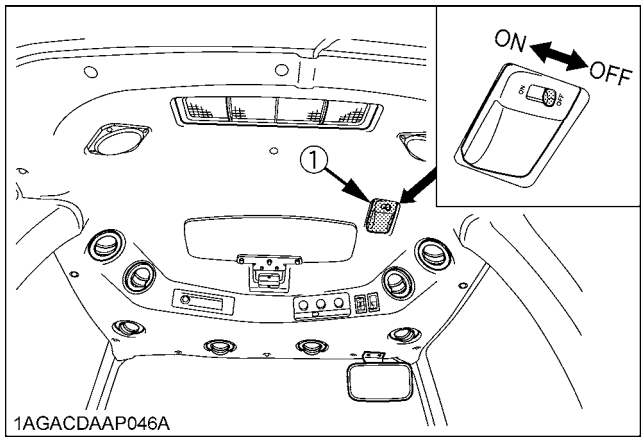
＊ クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

ルームランプ

■ルームランプ

ルームランプのスイッチを【ON】にすると点灯します。

【OFF】… ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。
【ON】… ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



①ルームランプ

重　要

＊ バッテリあがりの原因になりますので，キースイッチ【切】のとき，ルームランプのスイッチが【OFF】の位置にあるか確認してください。

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

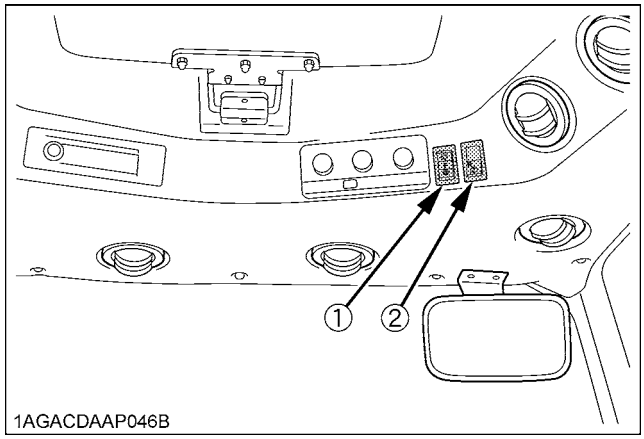
1. スイッチの下側を１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの上側を１段押すと，間欠ワイパが作動します。（少雨時使用）
   さらに２段目を押すと，押している間のみワイパが作動したまま，ウォッシャ液が噴射します。

■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの下側を１段押すとワイパが作動します。
   さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの上側を押込むと，ウォッシャ液が噴射します。

重　要

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
②リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

■寒冷時のワイパの使用

1. 寒冷時には，ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
2. ガラスに雪が積もっているときには，雪を取除いてからワイパを使用してください。
3. ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは，必ずキースイッチを**［切］**にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
4. 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は，標準装着品と同サイズか，それ以下のサイズのものを使用してください。

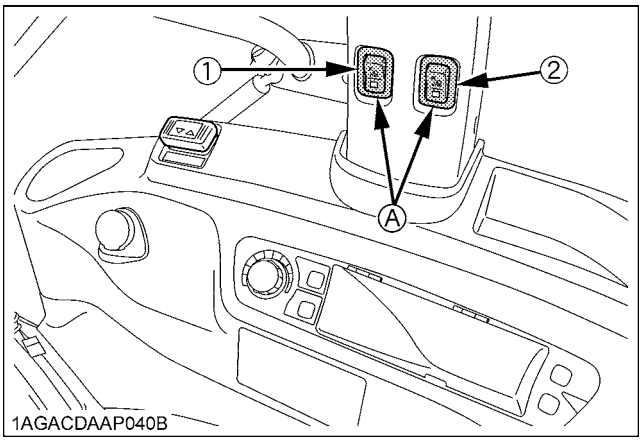
重　要

＊ 寒冷時には，ワイパブレード及びワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため，ワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため，上記のことを必ず守ってください。

作業灯

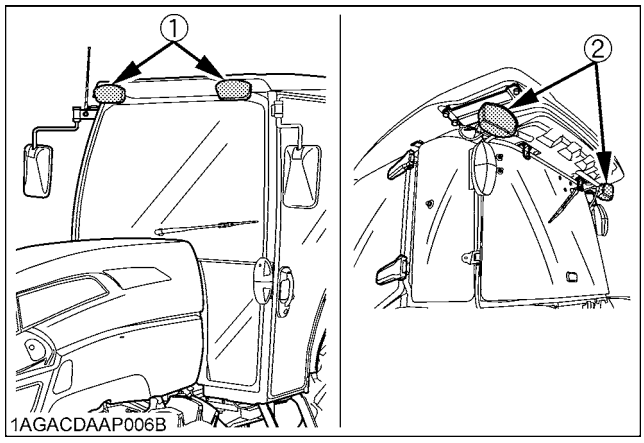
■作業灯スイッチ

作業灯スイッチの上側を押すと作業灯が点灯し，スイッチの下側を押すと消灯します。
またスイッチには，作業灯の点灯を示すインジケータランプが内蔵されています。



①作業灯（前）スイッチ　　Ⓐインジケータランプ
②作業灯（後）スイッチ

■作業灯



①作業灯（前）
②作業灯（後）

重　要

＊ バッテリがあがりますので，ヒータ・作業灯・ヘッドライトなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を1800rpm以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

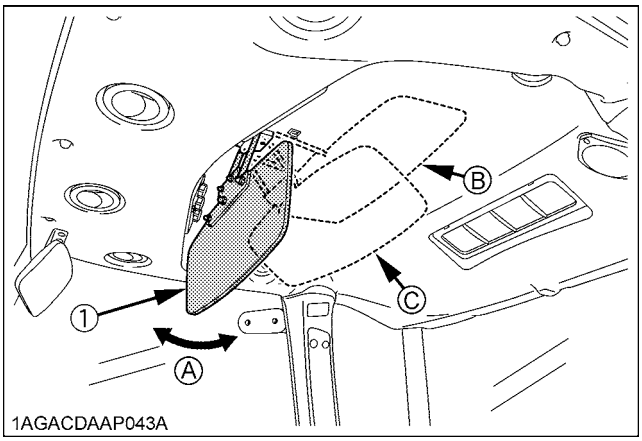
その他のアクセサリ

■サンバイザ

注　意

＊ サンバイザを適切な位置で使用しないと，前方視界がさえぎられたり，頭にあたったりするおそれがあります。
＊ サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。

直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは，収納位置より前へ押し下げて使用してください。
中間位置Ⓒでは頭に当るおそれがあるので使用しないでください。

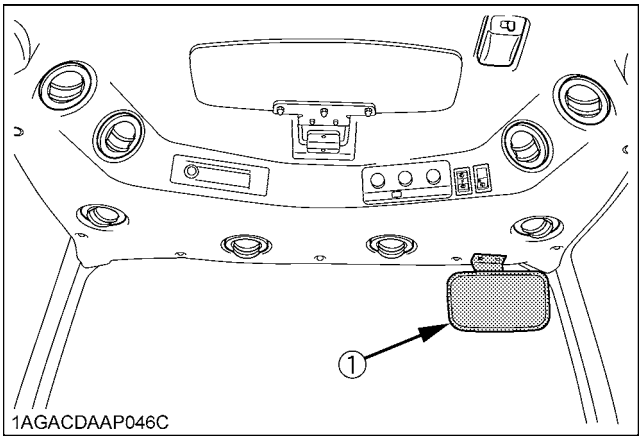


①サンバイザ

Ⓐ“使用位置”
Ⓑ“収納位置”
Ⓒ“中間位置”

■ルームミラー

ルームミラー全体を動かして，後方視界を確認しながら調節してください。
ルームミラーの調節は，必ずトラクタを運転する前に行ない，走行中には行なわないでください。



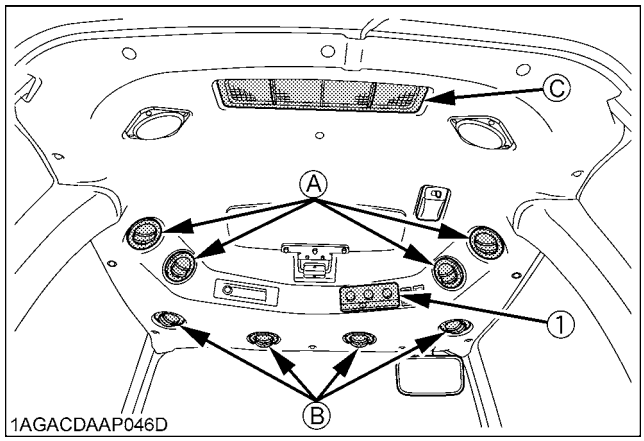
①ルームミラー

オートエアコン

このエアコンは，マイコン制御により風量調整，温度調整を自動的に行ないます。コントロールパネルのファンスイッチを【AUTO】位置に回すだけの操作でオールシーズン車内を快適に保ちます。

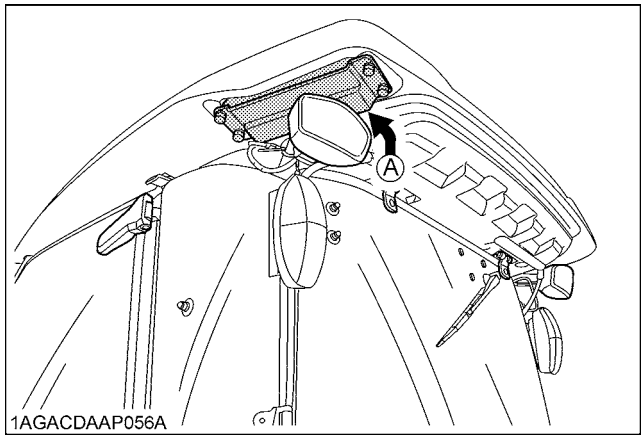
■空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
８カ所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



①コントロールパネル

Ⓐ“サイド吹出口（顔面）”
Ⓑ“フロント吹出口”
Ⓒ“内気循環導入口”



Ⓐ“外気導入口”

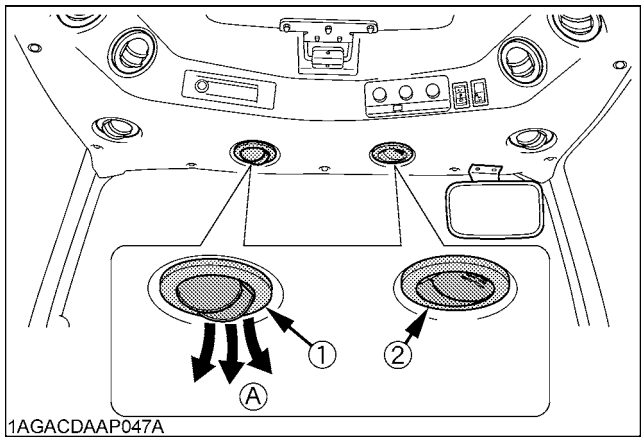
重　要

＊ 洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■風向調整

◆ フロント吹出口

1. 風の方向は，吹出口により自由に調整できます。
   デフロスタ（フロントガラスの曇り及び凍結除去）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。
2. サイド吹出口からの風量を増したいときは，**［閉］**にしてください。



1AGACDAAP047A

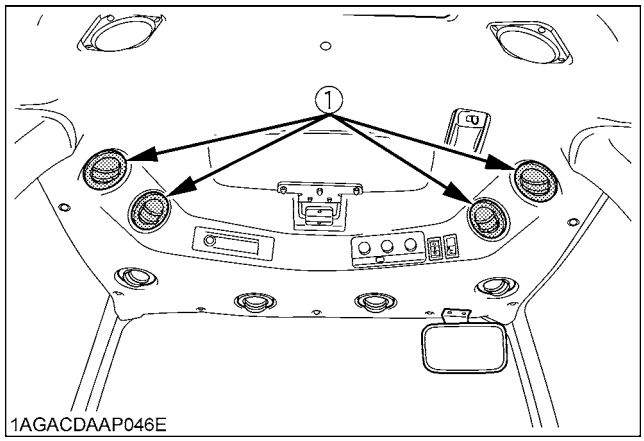
①フロント吹出口［開］　Ⓐ“フロントガラス（足元）”
②フロント吹出口［閉］

補　足

＊ フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，フロント吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらない様にしてください。

◆ サイド吹出口

風の方向は，吹出口により自由に調整できます。



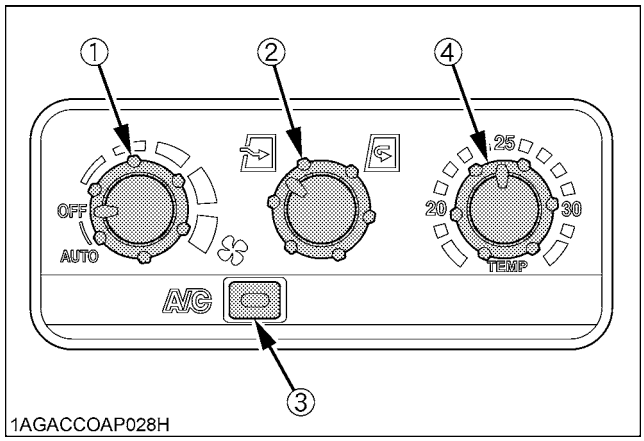
1AGACDAAP046E

①サイド吹出口

重　要

＊ ドアの曇り止めのため，ドアへの風量を増したいときは，サイド吹出口（顔面，背面）をドアガラスに向けてください。

■コントロールパネル



1AGACCOAP028H

①ファンスイッチ
②内外気切換スイッチ
③エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
④温度コントロールつまみ

◆ 内外気切換えスイッチ

外気導入…

1AGACCOAP028C

スイッチを**［外気］**位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

内気循環…

1AGACCOAP028D

スイッチを**［内気］**位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

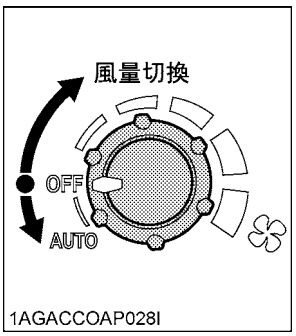
補　足

＊ 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
＊ ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

◆ 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。
設定温度は１℃刻みで調節できます。

◆ ファンスイッチ



【AUTO】位置：
オートエアコンが作動します。
【風量切換】位置：
風量を５段階に調節できます。
右端は最も風量の多い位置です。

補　足

＊ **【AUTO】**位置で暖房の際，エンジンが冷えているときは冷風が出るのを防ぐため，しばらくの間ファンが作動しないことがあります。

◆ A/C エアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して**【入】**にします。**【入】**のとき，インジケータランプが点灯します。

重　要

＊ トラクタを１週間以上，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングにしてA/Cエアコンスイッチを**【入】**にし，１分間運転してください。
エンジン回転が高いままで，A/Cエアコンスイッチを**【入】**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

◆ 暖房・冷房・除湿暖房

1. 内外気切換えスイッチを**【外気】**位置にします。早く冷暖房にしたいときは**【内気】**位置にします。
2. エアコンスイッチを押し**【入】**にします。
3. ファンスイッチを**【AUTO】**にします。
4. 温度コントロールつまみを調節し，快適な温度にします。

◆ デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. 必要に応じサイド吹出口を閉じます。
3. 内外気切換えスイッチを**【外気】**位置にします。
4. ファンスイッチを**右端**，温度コントロールつまみを**右端**にします。

■ヒータ使用上の注意

注　意

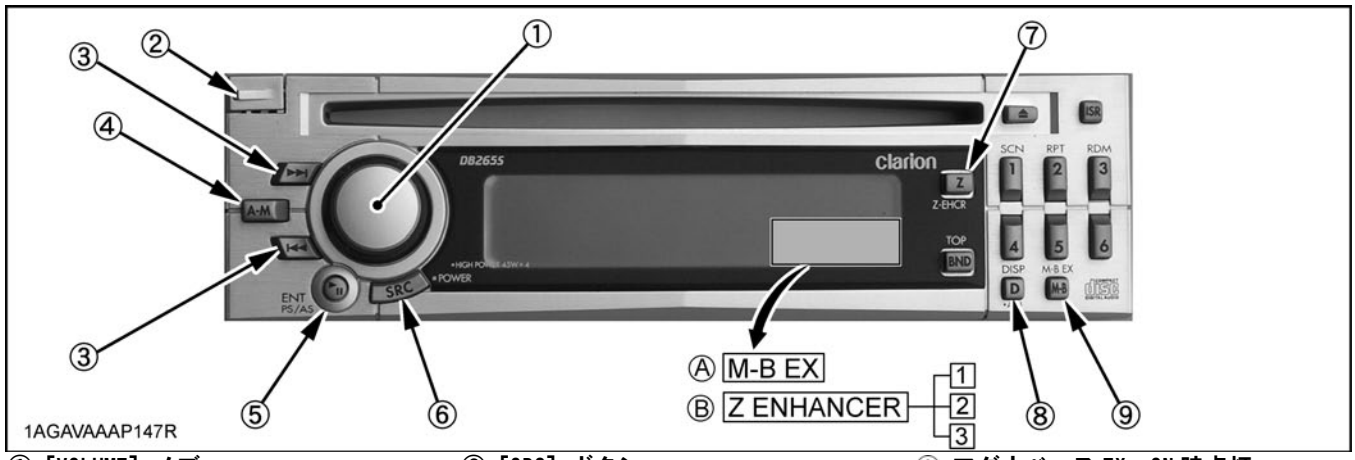
＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき，修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
(**【トラクタの簡単な手入れと処置】**の章の**【２年ごとの点検・整備】**の**【冷却水の交換】**の項を参照)
3. ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)

＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ

■共通部の操作のしかた



① [VOLUME] ノブ
② リリースボタン
③ サーチボタン
④ [A-M] ボタン
⑤ プレイ / ポーズボタン
⑥ [SRC] ボタン
⑦ [Z] ボタン
⑧ [D] ボタン
⑨ [M-B] ボタン
Ⓐ マグナベース EX　ON 時点灯
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

◆ 電源の入／切

1. **[SRC]** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**[NO DISC]** と表示されます。
3. **[SRC]** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補　足

＊ 電源が **[切]** 状態でも，キースイッチが **[ON]** または **[ACC]** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **[時計合わせ]** の項を参照)

◆ 音量調節

[VOLUME] ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

補　足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **[VOLUME 0]** ～ **[VOLUME 33]** の範囲内で表示されます。

◆ リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以上には取り外さないでください。また，頭上にあるので落さないように注意してください。

◆ 音質調整

音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯 (OFF)	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。（調整範囲は，－７～＋７です。）

4. **[A-M]**ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

◆ 重低音の増強

[M-B]ボタンを押すと，マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になり，重低音が増強されます。**[M-B]** ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

◆ 時計表示への切換え

[D]ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補　足

＊ 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
（**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照）
＊ 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

◆ 時計合わせ

1. キースイッチを **[ACC]** 又は **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**[CLOCK<E>]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
   調整時点（**[AM 10:16]** など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
   点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補　足

＊ 時計は 12 時間表示です。
＊ 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。

◆ 左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]**ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。
＊ FAD の調整はできません。
（出荷時の初期設定は 0 になっています。）

◆ スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

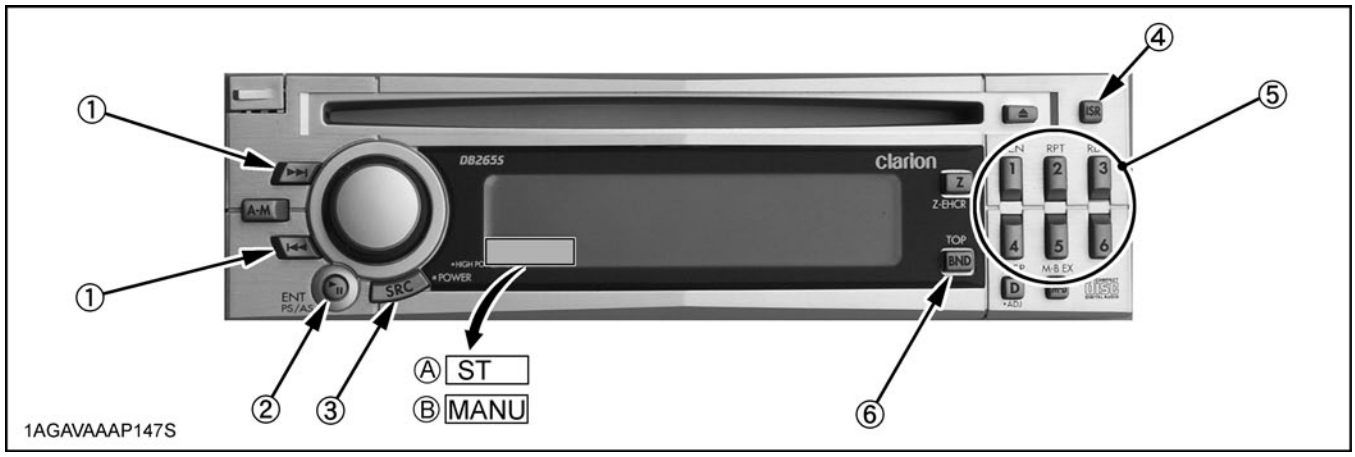
SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は**【SS ON】**です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**【SS OFF】**に設定しておいてください。

■ラジオを聴くには



① サーチボタン
② プレイ / ポーズボタン
③［SRC］ボタン
④［ISR］ボタン
⑤ ダイレクトボタン
⑥［BND］ボタン
Ⓐ ST：ステレオ放送受信時に点灯
Ⓑ MANU：手動選局モード時点灯

◆ ラジオの選択

1. **【SRC】**ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**【FM1 83.00】**など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **【SRC】**ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

◆ 受信バンドの選択

1. **【BND】**ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

◆ クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **【ISR】**ボタンを押すと，ディスプレイに**【ISR 1620】**が表示されます。
2. **【ISR】**ボタン又は**【SRC】**ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**【ISR】**ボタンを約２秒間押すと登録されます。

◆ プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（１～６）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは**【メモリ登録（自動選局）】**又は**【メモリ登録（手動選局）】**の項を参照）

◆ メモリ登録（自動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに６局ずつ，計 24 局です。

3. **【BND】**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを約２秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（１～６）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では６局すべて登録されない場合もあります。

◆ メモリ登録（手動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **【BND】**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（１～６）を約２秒間押すと登録されます。

◆ メモリ登録の確認

プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

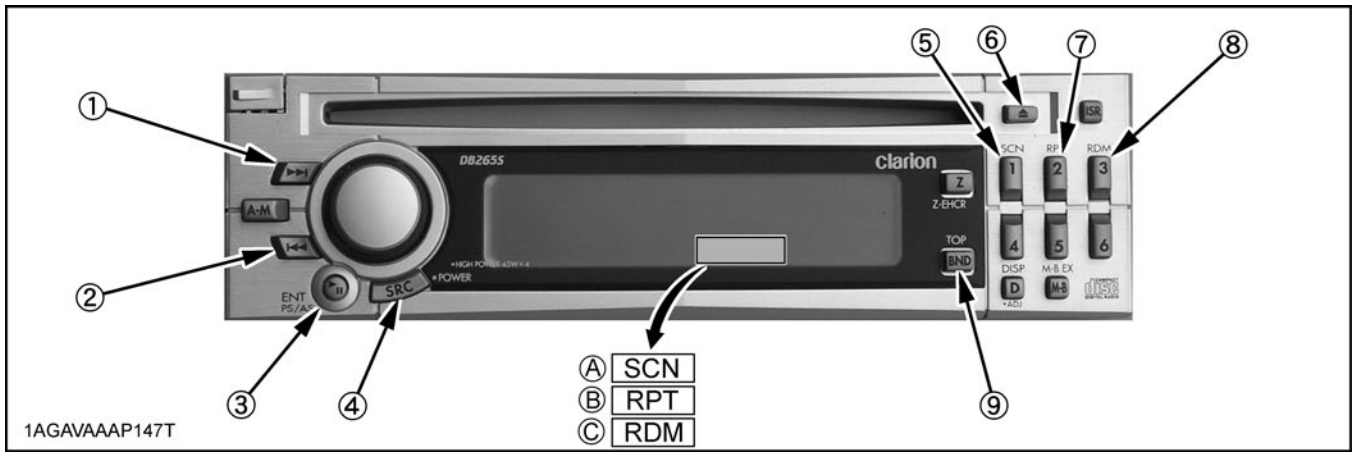
◆ 自動選局

1. ディスプレイに **【MANU】**が点灯しているときは，**【BND】**ボタンを約 1 秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

◆ 手動選局

1. ディスプレイに **【MANU】**が消灯しているときは，**【BND】**ボタンを約 1 秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

■ CD を聴くには



① **サーチボタン（上）**
② **サーチボタン（下）**
③ **プレイ / ポーズボタン**
④ **[SRC] ボタン**
⑤ **[SCN] ボタン**
⑥ **イジェクトボタン**
⑦ **[RPT] ボタン**
⑧ **[RDM] ボタン**
⑨ **[BND] ボタン**

Ⓐ **SCN：スキャン演奏時に点灯**
Ⓑ **RPT：リピート演奏時に点灯**
Ⓒ **RDM：ランダム演奏時に点灯**

◆ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると **【T01 00:00】**を表示し，自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，**【SRC】**ボタンを押して CD を選択すると，トラック No.（**【T01 00:00】**など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。
＊ CD-R/RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。

1AGAVAAAP1530

＊ CD は印刷面を上にして入れてください。

◆ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は，8cm CD を取出してください。

◆ 演奏の一時停止
プレイ / ポーズボタンを押すと **[PAUSE]** が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。

◆ 次の曲／前の曲選択
次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を 2 回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと，２つ前の曲へ戻ることがあります。

◆ 早送り／早戻し
早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

１秒以上押すと 5 倍速で，3 秒後には 30 倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

◆ トップ機能
[BND] ボタンを押すと，最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

◆ 曲を探す（スキャン演奏）
CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN] ボタンを押すと，ディスプレイの **[SCN]** が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

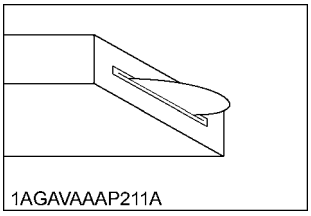
◆ 曲を繰り返し聴く（リピート演奏）
演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RPT]** が点灯して，リピート演奏します。

◆ ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）
CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RDM]** が点灯して，ランダム演奏します。

■取扱い上の注意

注 意

＊ 運転中は安全のため，車外の音が聞こえる音量にしてください。
＊ CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。


1AGAVAAAP211A

1. disc マークのついた CD をご使用ください。
   また，ハート形や八角形など，特殊形状の CD は使用しないでください。
   CD-R/CD-RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CD が曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**[不調と処置]** の章の **[エラー表示について]** の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気にじゅうぶんご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面から停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。

7. CD はディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CD は次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所
10. CD 表面にほこりが付着していると，CD の挿入や取出しができなくなることがあります。汚れた手で CD を扱ったり，ほこりが付着しやすい所に CD を放置したりしないでください。
    また，安全キャブ内にはできるだけほこりが入らないように，ドアや窓の開閉は最小限にしてください。

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製　CTC-007-210

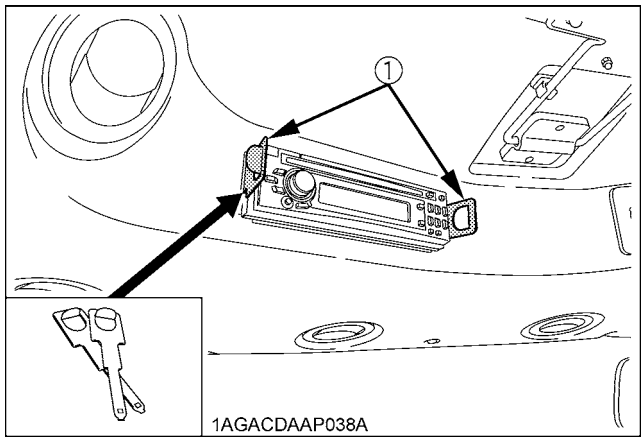
■お問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　PM1:00 ～ 5：00）

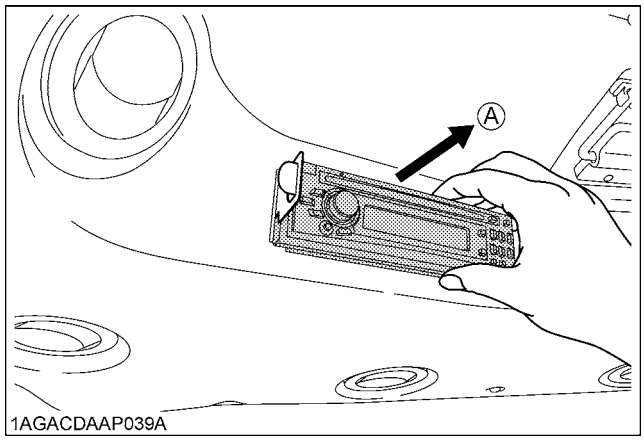
■ AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方

1. キースイッチのキーを**【切】**の位置にします。
2. 下図のようにCDプレーヤ本体横に取外し金具を差込みます。



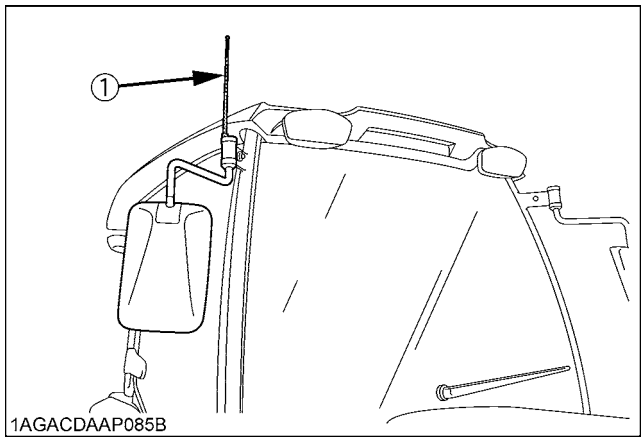
① CD プレーヤ取外し金具

3. 取外し金具を差込んだ状態で，落とさないようしっかりと握って取り外します。



Ⓐ“取外す”

■アンテナ



①アンテナ

重　要

＊ アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。

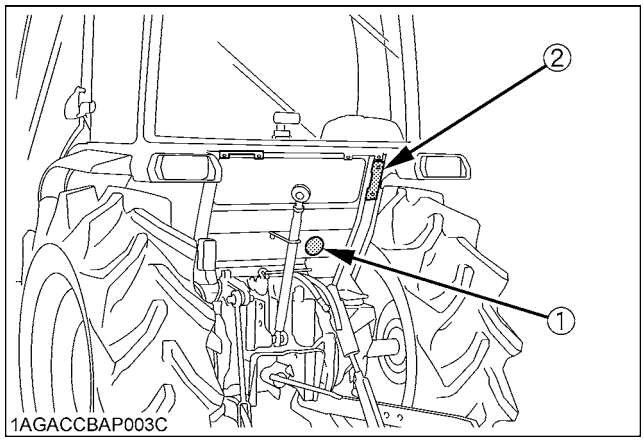
インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの取付

注　意

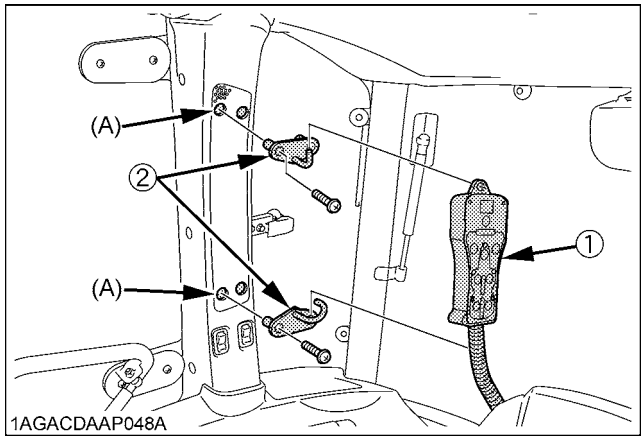
＊ コントローラを装着しない場合は，掛け金具を外してください。

ゴムキャップに穴又は切り込みを開けます。インプルメント用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



①ゴムキャップ
②外部取出し油圧バルブ取付け位置

(A) 部に操作ボックスなどを取付ける場合は，樹脂キャップを取外して，掛け金具を取付けます。作業機のコントローラなどを装着することができます。



①コントローラ
②掛け金具

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

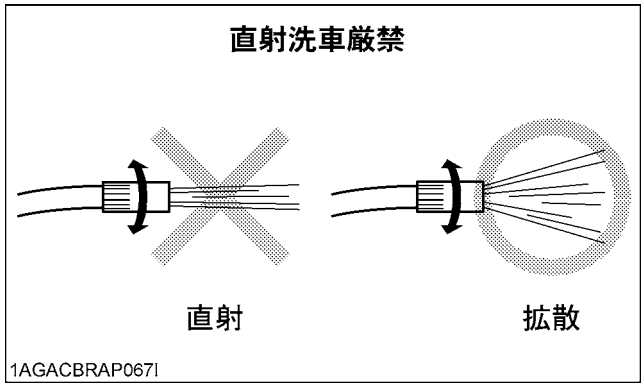
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

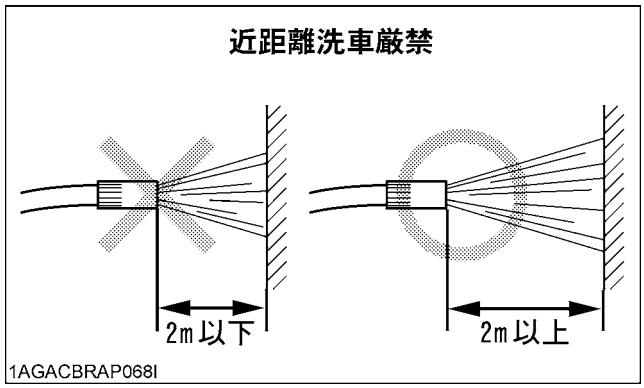
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

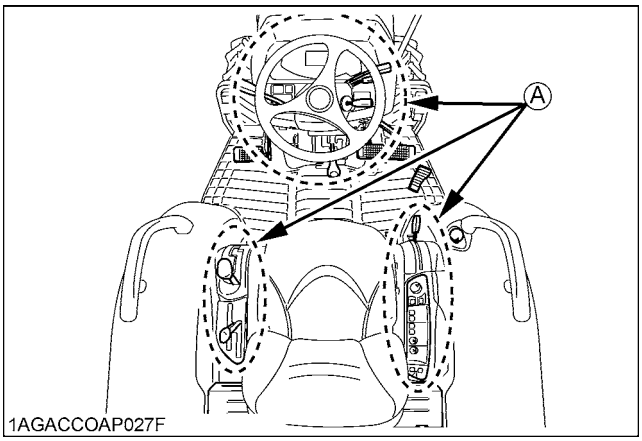
機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ





重　要

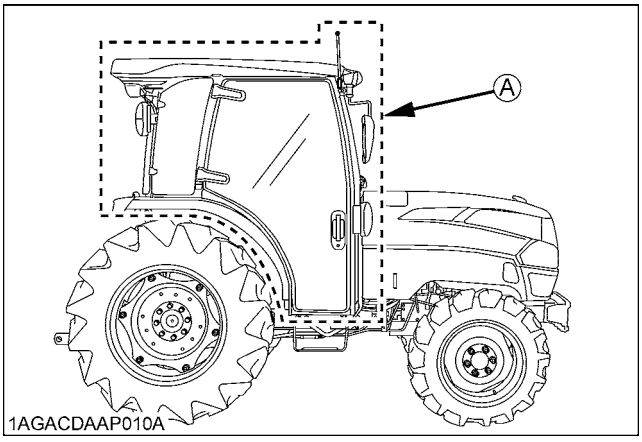
＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。



Ⓐ“高圧洗車禁止”

重　要

＊ 安全キャブのガラス部，ルーフ部の洗車の際には，圧力水をかけないでください。(圧力を下げるか水流を広げてください。)
安全キャブ室内の水もれ，電気部品の故障の原因になります。



Ⓐ“高圧洗車禁止”

補　足

＊ 市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形，割れ，曇りが発生する場合があります。特にメータパネルなどの透明樹脂部には ワックスを使用しないでください。

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後又は 100 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル **【KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC】**	交換	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	125
1	エンジンオイル **【KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC を除く】**	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	130
2	エンジンオイルフィルタ	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	131
3	トランスミッションオイルフィルタ **【デュアルシフト仕様】**	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	134
4	油圧オイルフィルタ **【デュアルシフト仕様】**	交換	◎				○				○				○		200 時間ごと	133
4	油圧オイルフィルタ **【U シフト仕様】**	交換		◎				○				○				○	200 時間ごと	133
5	ミッションオイル **【デュアルシフト仕様】**	交換	◎								○						400 時間ごと	139
5	ミッションオイル **【U シフト仕様】**	交換		◎								○					400 時間ごと	139
6	前車軸ケースオイル	交換						○						○			300 時間ごと	139
7	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	120
8	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	122
9	タイヤ取付ボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	122
10	クラッチハウジングの水抜き	排水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
11	パワーステアリングホース **【KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC を除く】**	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
		交換															２年ごと	144
12	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	123
		交換															２年ごと	145
13	クラッチペダル	調整	◎		○		○		○		○		○		○		100 時間ごと	129
14	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
15	ブレーキペダル	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	129
16	エキゾーストパイプ及びマフラの状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	129
17	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	126
18	エアクリーナエレメント	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	128
		交換															１年ごと	142
19	燃料フィルタエレメント **【KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC】**	交換								○							400 時間ごと	141
20	ステアリングジョイント部	点検				○				○				○			200 時間ごと	134
21	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	132
		交換															２年ごと	144

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
22	オイルクーラホース **[デュアルシフト仕様]**	点検				○				○				○			200 時間ごと	132
		交換															２年ごと	145
23	吸気ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	133
		交換															２年ごと	144
24	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	135
25	燃料フィルタカートリッジ **[KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC を除く]**	交換								○							400 時間ごと	140
26	セパレータ	清掃								○							400 時間ごと	141
27	前部デフケース前後遊び	調整												○			600 時間ごと	142
28	エンジンバルブクリアランス	点検															800 時間ごと	142
29	インジェクタ **[KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC を除く]**	点検															1500 時間ごと	142
30	サプライポンプ **[KL31Z(H)・34Z(H)・31Z(H)-PC を除く]**	点検															3000 時間ごと	142
31	ターボチャージャ **[KL53ZH・58ZH]**	点検															3000 時間ごと	142
32	ラジエータ（クーリングシステム）	洗浄															２年ごと	144
33	冷却水	交換															２年ごと	143
34	メインシリンダホース	交換															２年ごと	145
35	モンローシリンダホース	交換															２年ごと	145
36	燃料の空気抜きのしかた	—															必要に応じて	145, 146
37	ヒューズ類	交換															必要に応じて	147
38	ランプ類	交換															必要に応じて	148
39	ホーン接点のグリース塗布	—															必要に応じて	148

＊ 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

[安全キャブ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200時間ごと	136
2	外気フィルタの詰まり	清掃				○				○				○			200時間ごと	136
3	コンデンサの詰まり	清掃				○				○				○			200時間ごと	137
4	エアコンベルトの張り	調整				○				○				○			200時間ごと	137
5	ヒータ配管，ホース	点検															1年ごと	142
6	エアコン配管，ホース	点検															1年ごと	142
7	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	148
8	各部への注油	－															必要に応じて	148
9	冷媒（ガス）量	点検															必要に応じて	149

[パワクロ仕様]

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	揺動軸部のグリース注入	－	30時間ごと															119
2	転輪・遊輪のオイルシール	点検				○				○				○			200時間ごと	138
3	転輪・遊輪のグリース注入	－	30時間ごと															119
4	スプロケットの交換	－															必要に応じて	150
5	クローラの交換	－															必要に応じて	151

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油（水）項目</th><th colspan="5">容　　量（L）</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>KL31Z(H)
KL34Z(H)</th><th>KL37ZH</th><th>KL40Z(H)
KL44Z(H)</th><th>KL48ZH</th><th>KL53ZH
KL58ZH</th></tr>
<tr><td>1</td><td>燃　　料</td><td>40</td><td colspan="2">39</td><td colspan="2">48</td><td>ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">冷　却　水</td><td colspan="4">7.5</td><td>8.0</td><td rowspan="2">清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）</td></tr>
<tr><td colspan="5">リザーブタンク：1.0</td></tr>
<tr><td>3</td><td>エンジンオイル</td><td>5.7</td><td colspan="2">8.2</td><td colspan="2">8.5</td><td>クボタ純オイル
（詳細は次ページ参照）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">ミッションオイル
（油圧オイル）</td><td rowspan="2">40</td><td rowspan="2">44</td><td colspan="3">44（デュアルシフト仕様）</td><td rowspan="4">クボタ純オイル
スーパー UDT-2</td></tr>
<tr><td colspan="3">41（U シフト仕様）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>前車軸ケース</td><td>5.5</td><td colspan="4">6.5</td></tr>
<tr><td>6</td><td>各操作レバー
・ペダル支点</td><td colspan="5">注　　油</td></tr>
<tr><td>7</td><td>三点リンク</td><td colspan="5">注入・塗布</td><td rowspan="3">極圧（万能）グリース</td></tr>
<tr><td>8</td><td>バッテリ
ターミナル</td><td colspan="5">塗　　布</td></tr>
<tr><td>9</td><td>油圧シリンダ</td><td colspan="5">注　　入</td></tr>
<tr><td>10</td><td>ウォッシャ液
[安全キャブ仕様]</td><td colspan="5">2</td><td>自動車用ウォッシャ液</td></tr>
</table>

[パワクロ仕様]

下表以外の給油（水）は，同じエンジン出力のタイヤ仕様機種と同じです。

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油項目</th><th>容　　量（L）</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>KL31Z(H)-PC</th></tr>
<tr><td>1</td><td>転輪</td><td rowspan="3">注入</td><td rowspan="3">極圧（万能）グリース</td></tr>
<tr><td>2</td><td>前遊輪</td></tr>
<tr><td>3</td><td>後遊輪</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th rowspan="2">No.</th><th rowspan="2">給油項目</th><th>容　　量（L）</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>KL37ZH-PC・KL40ZH-PC・KL44ZH-PC・
KL48ZH-PC・KL53ZH-PC・KL58ZH-PC</th></tr>
<tr><td>1</td><td>転輪</td><td>0.1</td><td rowspan="3">クボタ純オイル
スーパー UDT-2</td></tr>
<tr><td>2</td><td>前遊輪</td><td>0.075</td></tr>
<tr><td>3</td><td>後遊輪</td><td>0.1</td></tr>
</table>

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

型式名	エンジンオイル	ミッションオイル・前車軸ケースオイル・各操作レバー支点
KL31Z(H) KL34Z(H)	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） D10W-30 又は スーパー CD D10W-30 又は スーパー CF D10W-30	クボタ純オイル　スーパー UDT-2
KL37Z(H) KL40Z(H) KL44Z(H) KL48ZH	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） スーパー CD D10W-30 又は スーパー CF D10W-30	
KL53ZH KL58ZH	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） スーパー CF D10W-30	

★エンジンオイルについて
クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)スーパーCF D10W-30 が入手できない場合は,API 分類 **CF** 又は **CI-4** クラスのエンジンオイルをご使用ください。
CF-4, CG-4, CH-4 又は CJ-4 クラスなどのオイルは使用できません

■グリース

極圧（万能）グリース	クボタ純グリースNo.2 ★入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 ・JX日鉱日石エネルギー:エピノックグリースAP2,リゾニックスEP2 ・コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックスNo.2 ・出光興産：ダフニーエポネックス SR2
ホーン接点用グリース	協同油脂　マルテンプ PS2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

注　意

＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

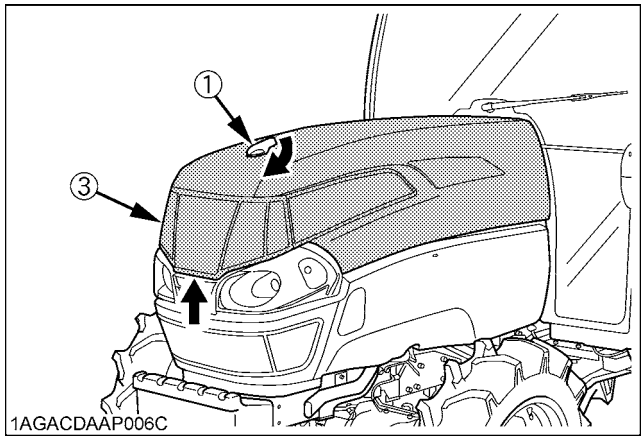
■ボンネットの開閉

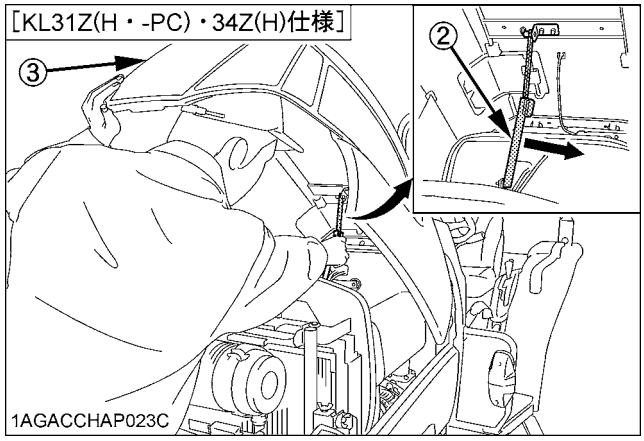
注　意

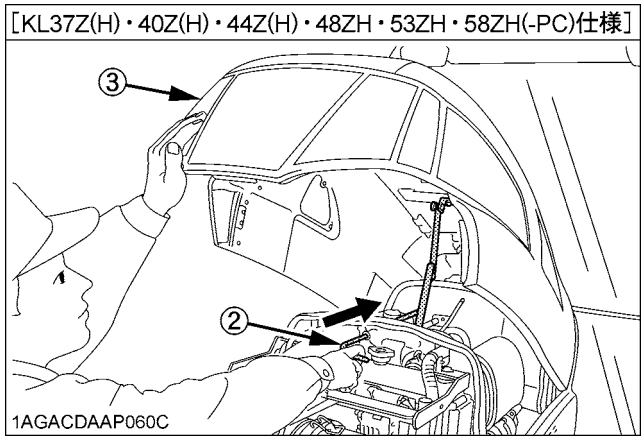
＊ ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

◆ ボンネットの開け方

1. マスコットを矢印方向にまわします。
2. ボンネットの先端を持上げます。
3. 固定金具を奥側に押してロックします。



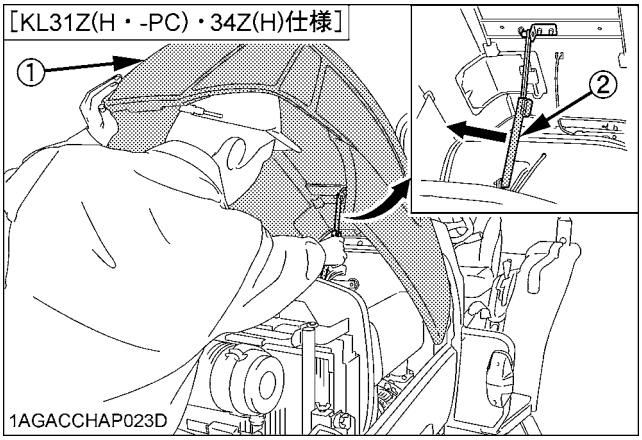


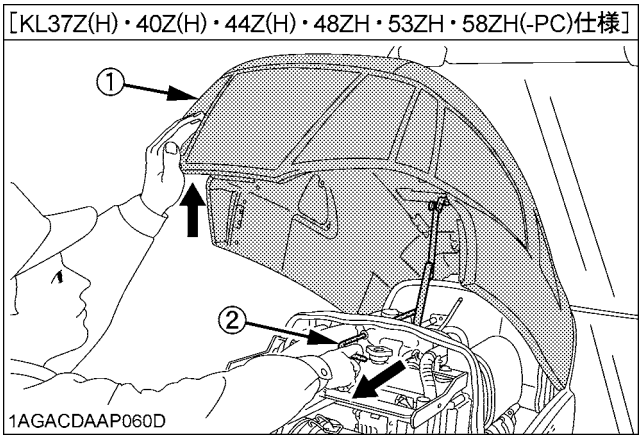


①マスコット
②固定金具
③ボンネット

◆ ボンネットの閉め方

1. ボンネットを少し持上げます。
2. 固定金具を手前に引きロックを解除します。
3. ボンネットを閉め上から押さえロックします。

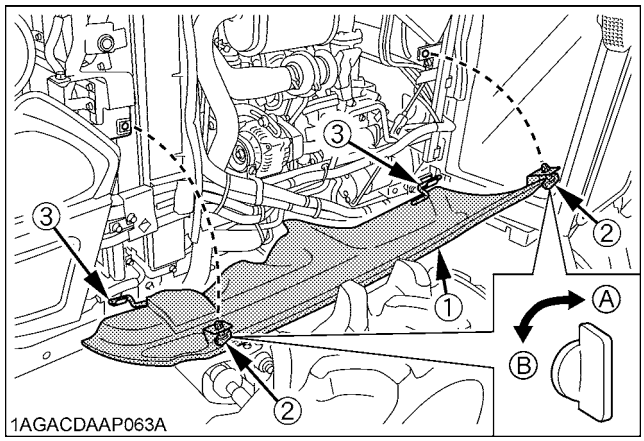




①ボンネット
②固定金具

■サイドカバーの取り外し

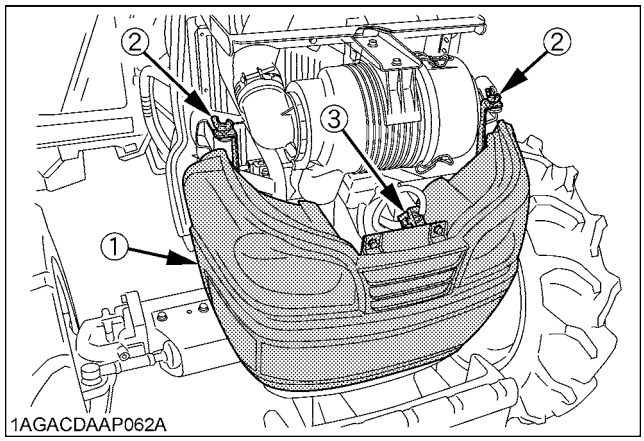
1. ロックネジ（2個）を左方向へ 90 度回し，カバーといっしょに外してください。
2. 取付け時は，カバー下側のピン部を合わし，ロックネジで固定してください。



①サイドカバー
②ロックネジ
③ピン
Ⓐ“ロック位置”
Ⓑ“解除位置”

■フロントカバーの取り外し

1. ヘッドライト用コネクタを外します。
2. 両側のボルトを外し，フロントカバーを外します。



①フロントカバー
②蝶ボルト
③コネクタ

日常点検

注　意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部がじゅうぶんに冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

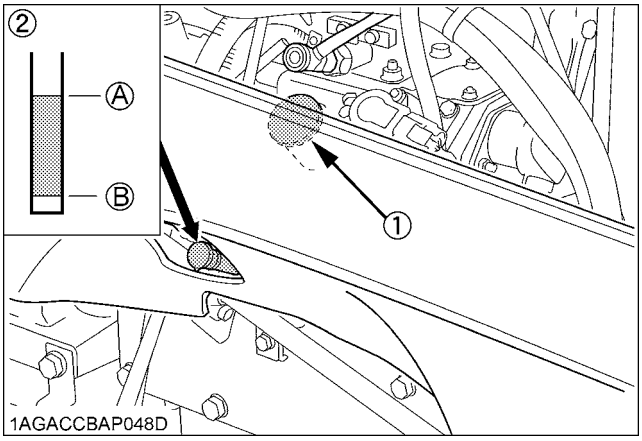
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重　要

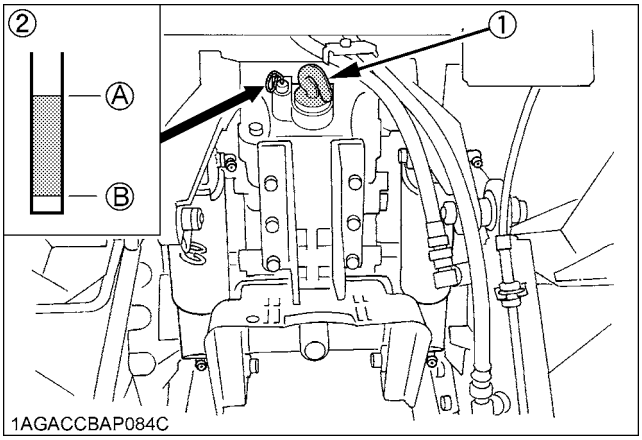
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

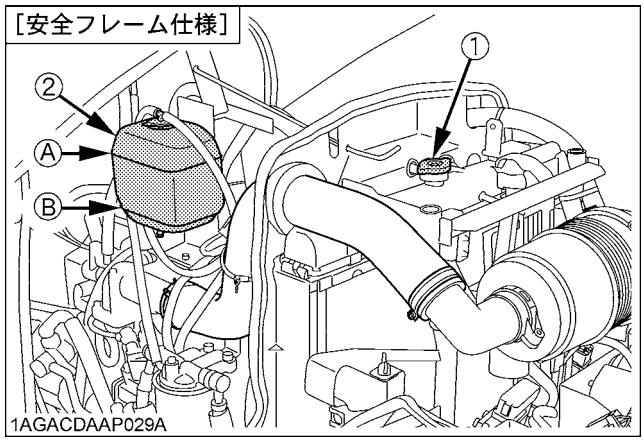
■冷却水の量

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

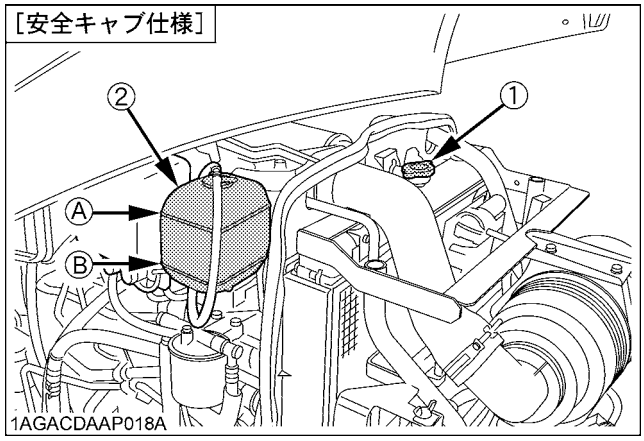
ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。
リザーブタンクの量が LOW 以下の場合は，ラジエータキャップを外してその口元まで冷却水が入っているか確認してください。少ない場合は口元まで補給してください。

［安全フレーム仕様］



①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”［FULL］**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”［LOW］**

［安全キャブ仕様］



①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”［FULL］**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”［LOW］**

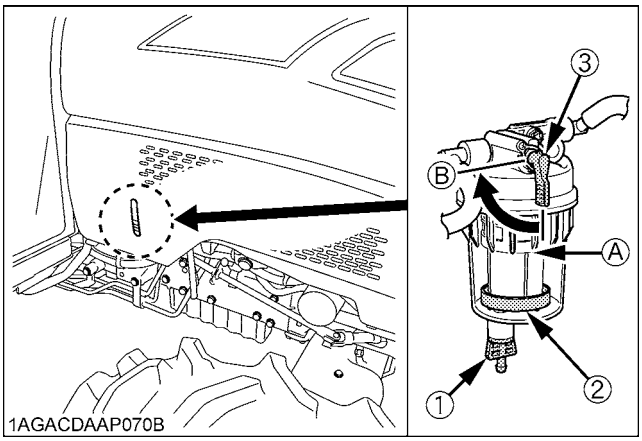
補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■セパレータの水の排出

[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様]

分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上がります。フロートが排出レベルに達したときは，燃料コックを閉め下部のドレーンプラグをゆるめて水を排出してください。
排出後は必ず空気抜きをしてください。
（**[必要に応じた点検・整備]**の**[燃料の空気抜きのしかた]**の項を参照）



①ドレーンプラグ
②フロート
③燃料コック
Ⓐ“排出レベル”
Ⓑ“閉”

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

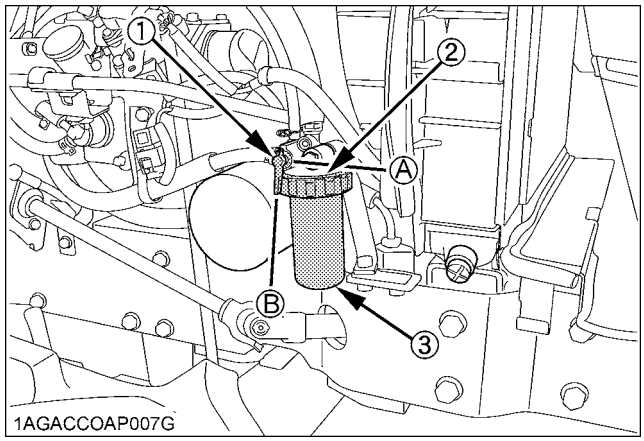
[KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様]

燃料中に含まれる水・ごみがフィルタ内に沈殿します。水・ごみがたまったら燃料フィルタコックを閉じ，フィルタを外し，水・ごみを取除いてください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。

1. 燃料フィルタコックを**[閉]**にしてください。
2. カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。

重　要

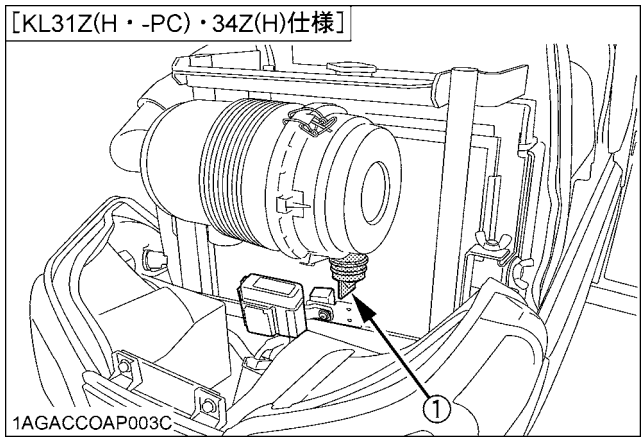
＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。
（**[トラクタの簡単な手入れと処置]**の章の**[燃料の空気抜きのしかた]**の項を参照）

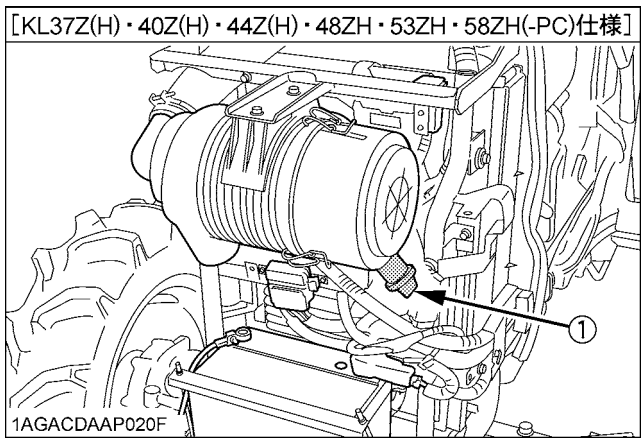


①燃料フィルタコック
②リテーナリング
③燃料フィルタ
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ごみを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。





①バキュエータバルブ

■ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点検・交換

注　意

＊ 配線の端子や接続部のゆるみ及び配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリ及び電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。
1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

重　要

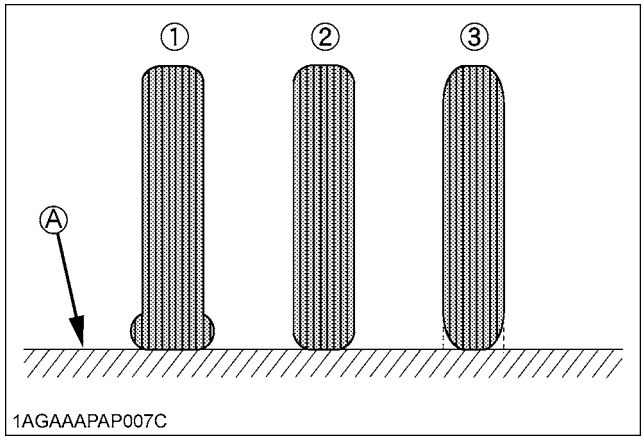
＊ 高圧洗車機などによる洗車の際には，メータパネル，ステアリングポスト周り，ポンパレバー，ホーンボタン周り，バッテリ，エンジン周りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には，圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
＊ １年に１回は，購入先で定期点検を受けてください。
＊ スローブローヒューズの点検，交換は必ず購入先で行なってください。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い
Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

[　]内はフロントローダ装着時

	空気圧 kPa(kgf/cm²)
前輪	157(1.6)　[196(2.0)]
	137(1.4)　[196(2.0)] タイヤサイズ 230/60-16 のみ
後輪	98(1.0)
	120(1.2) タイヤサイズ 12.4-28，12.4-32 のみ

■防虫網の清掃

注　意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

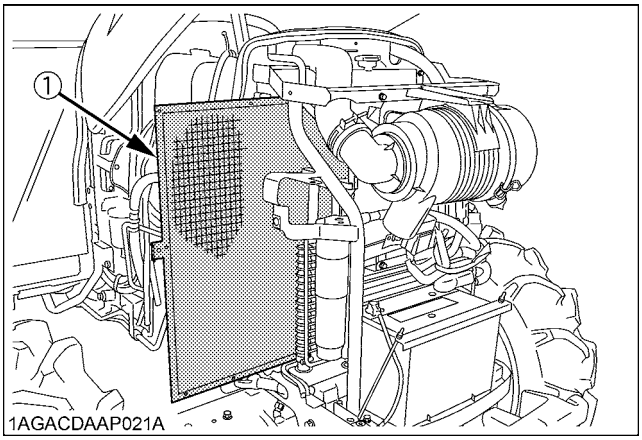
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。
目詰まりがないよう点検，清掃してください。
また，防虫網を外したとき，ラジエータ，コンデンサ等のフィンにごみが詰まっていれば，エアブロー又は水道水などで取除いてください。

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサ・ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように，注意してください。

◆ ラジエータ用防虫網

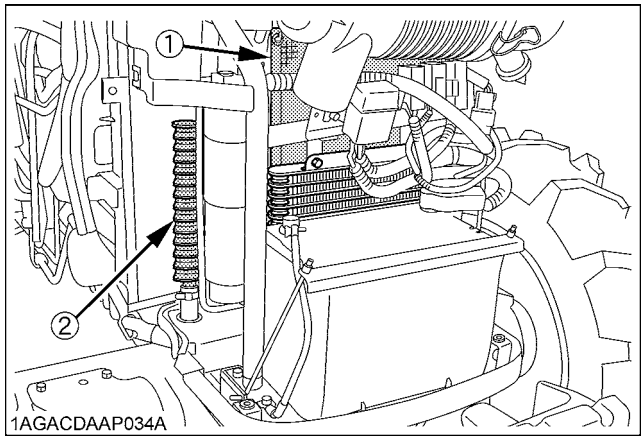
取外して清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網

◆ エアコンコンデンサ用防虫網
◆ オイルクーラ

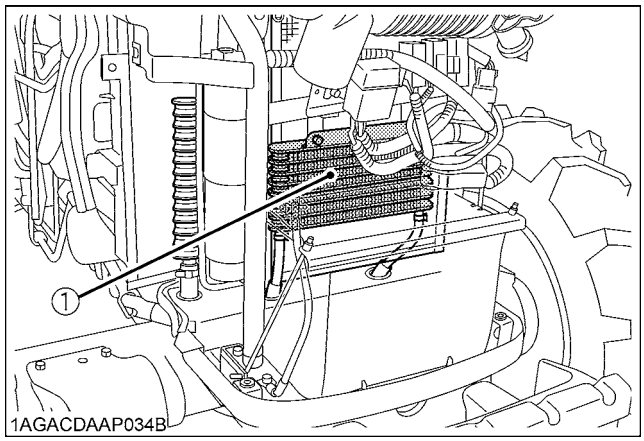
目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網（コンデンサ用）［安全キャブ仕様］
②オイルクーラ［デュアルシフト仕様］

◆ 燃料クーラ
[KL37Z (H) ・ 40Z (H) ・ 44Z (H) ・ 48ZH ・ 53ZH ・ 58ZH (-PC) 仕様のみ]

目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



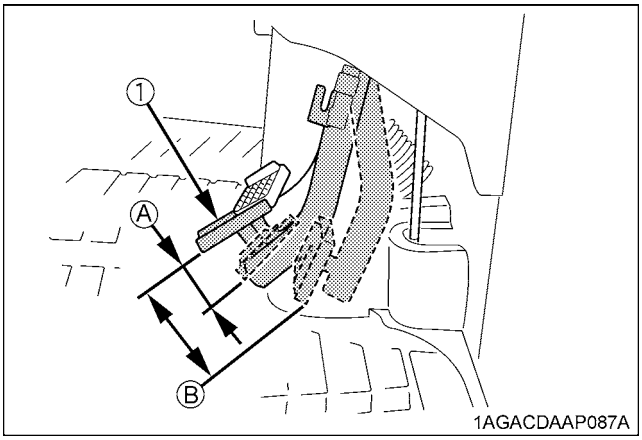
①燃料クーラ

■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

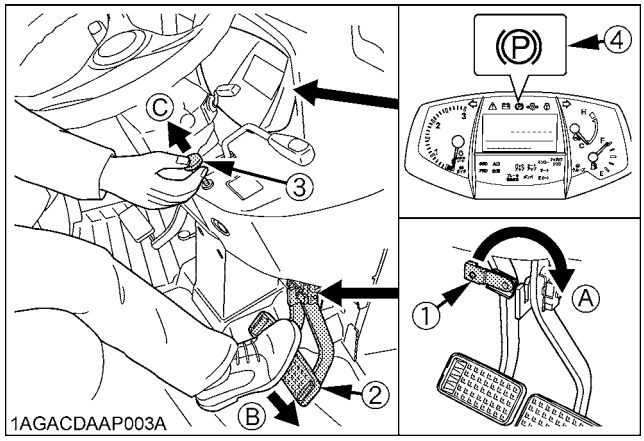
ペダルを踏んで遊び量が**［15 ～ 20mm］**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**5mm以内**かどうかを調べます。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照）



①ブレーキペダル　　Ⓐ“遊び”
Ⓑ“この位置での左右差 5mm 以内”（踏込み量）

■駐車ブレーキの作動点検

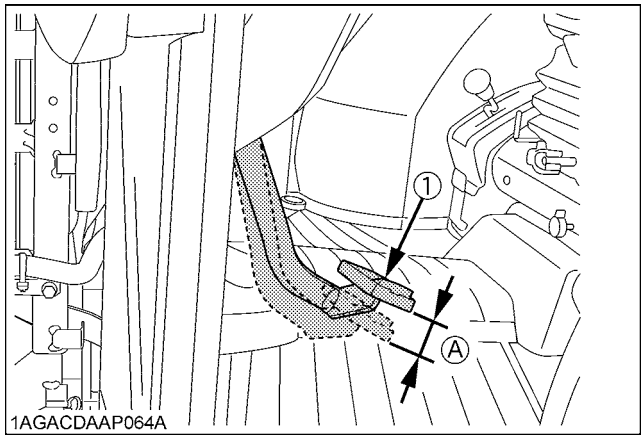
ブレーキペダルを左右連結して踏込み，グリップを**［引い］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。キースイッチ**［入］**時，駐車ブレーキを掛けると，メータパネル内の（Ⓟ）ランプが点灯します。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



①連結金具　　Ⓐ“連結（ロック）”
②ブレーキペダル　　Ⓑ“踏込む”
③駐車ブレーキグリップ　　Ⓒ“引く”
④駐車ブレーキランプ

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が**［20 ～ 30mm］**あるか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［100時間ごとの点検・整備］**の**［クラッチペダルの点検・調整］**の項を参照）



①クラッチペダル　　Ⓐ“遊び”

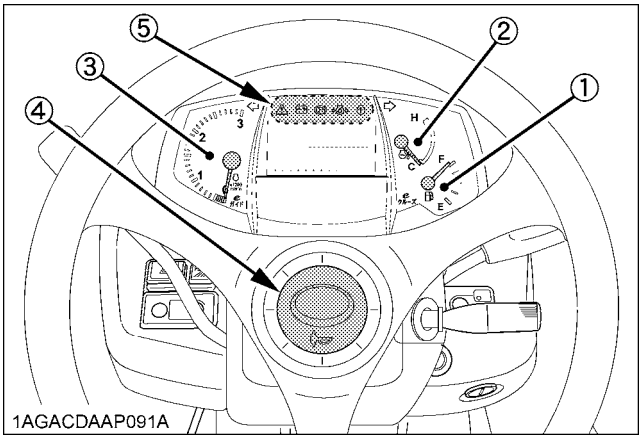
重　要

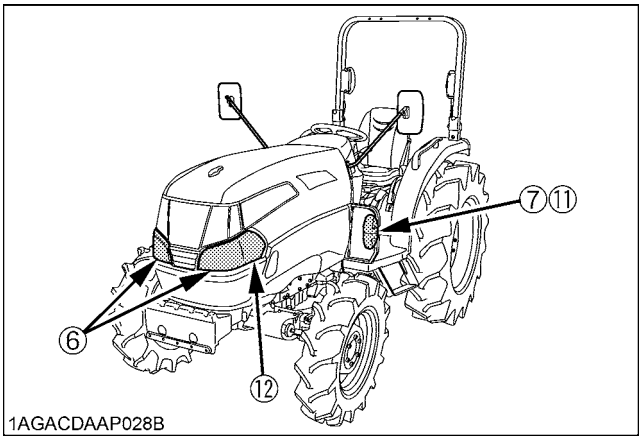
＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

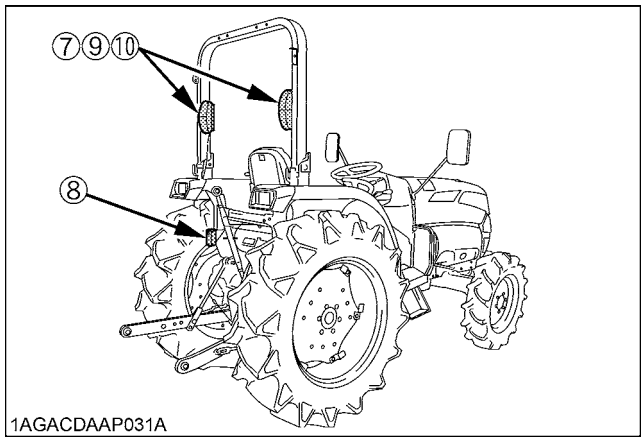
■メータ・ランプ類の作動

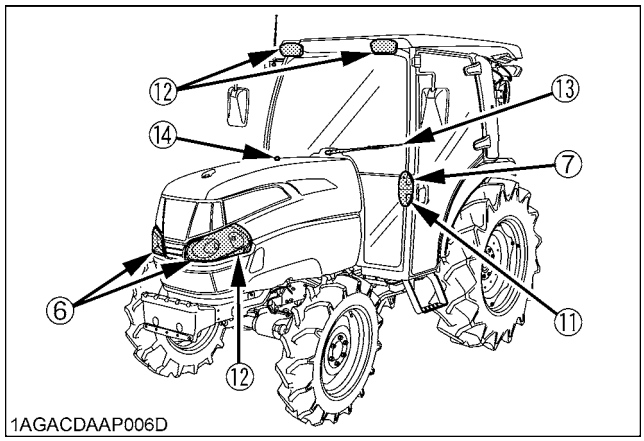
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

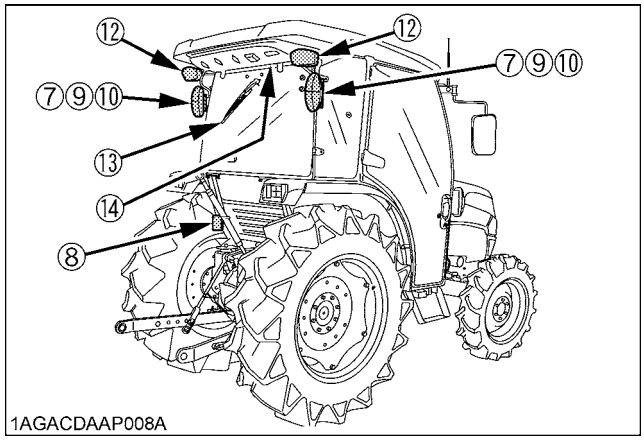
① 燃料計
② 水温計
③ エンジン回転計
④ ホーン
⑤ イージーチェッカ
⑥ ヘッドライト
⑦ ウインカ（前・後）
⑧ バックランプ
⑨ 尾灯
⑩ ブレーキランプ
⑪ 車幅灯
⑫ 作業灯
⑬ ワイパ
⑭ ウォッシャ











■燃料の補給

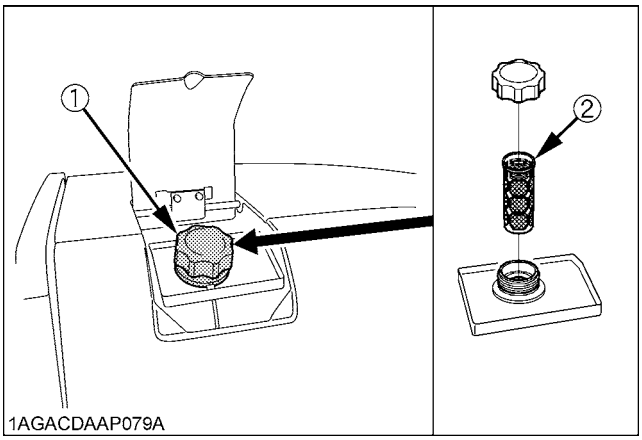
注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１　号	-2.5 以下
２　号	-7.5 以下
３　号	-20 以下
特３号	-30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①燃料給油口
②こし網

重　要

＊ コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，水や砂など異物が混入しないよう充分注意してください。
また補給時は，こし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

■エンジンの始動確認

エンジンを始動し，かかり具合，異音がないかを確認してください。

アクセルペダルを操作し，加速・減速がスムーズか確認してください。

■エンジンの排気の状態

エンジンを始動し，排気色に異常がないか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［エンジンの不調と処置］**の項を参照）

燃料給油時の便利な機能と装置

■満タンお知らせブザーの取扱い

燃料給油時，ブザーが下記のように作動します。

1. キースイッチを**【入】**にします。
   (エンジンは始動しないでください。)
2. 燃料を給油すると給油を検知して「ピ…ピ…」と電子メータパネルから断続音が作動します。
3. 燃料が満タンに近づくにつれ，断続音の間隔が短くなり，満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止してください。

補　足

＊ オーバーフローを防ぐため，満タン警報ブザーは満タンの手前で作動するように設定しています。

■カンタン給油台の使い方

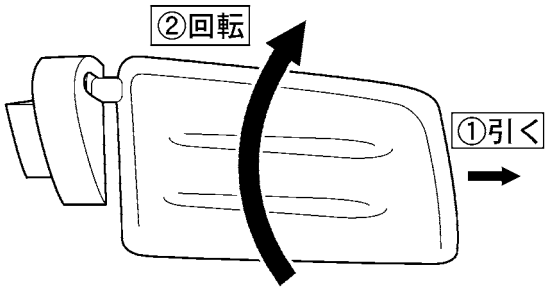
[KL31Z(H・-PC)・34Z(H) 仕様のみ]

注　意

＊ 燃料を給油するときはエンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。
＊ 給油台の上に乗らないでください（積載可能重量 20kg)。
＊ 給油台は燃料補給のタンクのせ台以外の目的で使用しないでください。
給油台をものの運搬などに使用しないでください。
＊ 走行するときは給油台を折りたたんで確実に固定してください。

1. 給油台を矢印の方向に引くとロックが解除されます。
2. 給油台を90°回転させるとバネの作用でロックされるので，固定されたことを確認します。

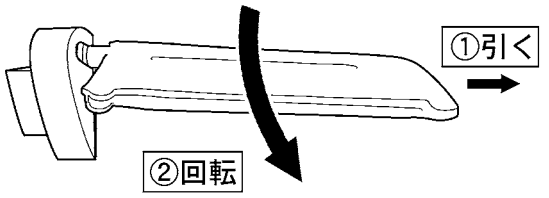
[使用時]



1AGACCBAP138A

3. 20kg までのポリタンクをのせて，市販の給油ポンプなどを使って給油します。
4. 満タンお知らせブザーを使うと，満量をブザーで警告してくれるので便利です。
5. 給油台を矢印の方向に引き，ロックを解除します。
6. 給油台を90°回転させてもとの位置に戻します。ロックされたことを確認してください。

[収納時]



1AGACCBAP138B

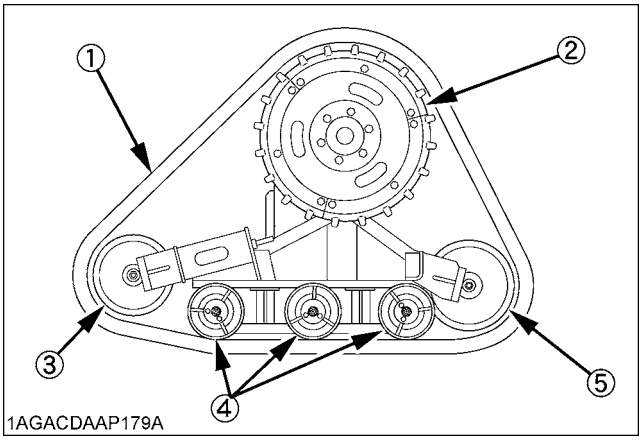
日常点検［パワクロ仕様］

メンテナンスを行なうことで，パワクロ機の寿命アップと当用機のトラブルを未然に防ぐことができます。下表に従ってメンテナンスを実施してください。
交換要領の詳細についてや，不具合があれば，購入先にご連絡ください。
また，パワクロ機を安心してご使用いただくため，１年に１度の入庫定期点検をおすすめします。

■日常点検箇所一覧

[KL37・40・44・48・53・58ZH-PC 仕様]

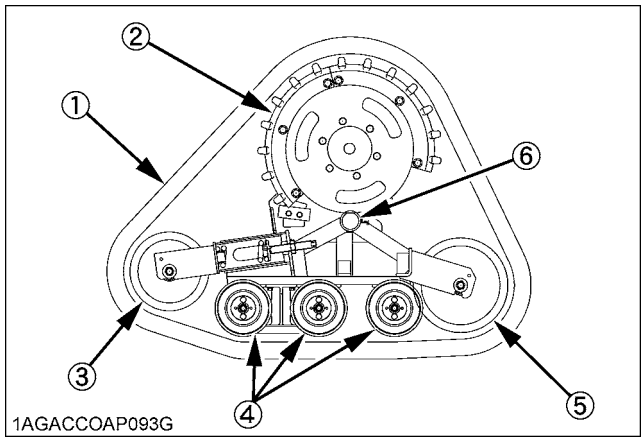
点検箇所	点検内容
転輪・遊輪	● オイルもれはありませんか。オイルもれがある場合は，購入先にて点検を受けてください。 ● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。 ● 極端な摩耗，偏摩耗はしていませんか。
スプロケット	● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。
ゴムクローラ	● クローラに大きな損傷はありませんか。 ● クローラの張りは適正ですか。



①ゴムクローラ　③前遊輪　⑤後遊輪
②スプロケット　④転輪

[KL31Z(H)-PC 仕様]

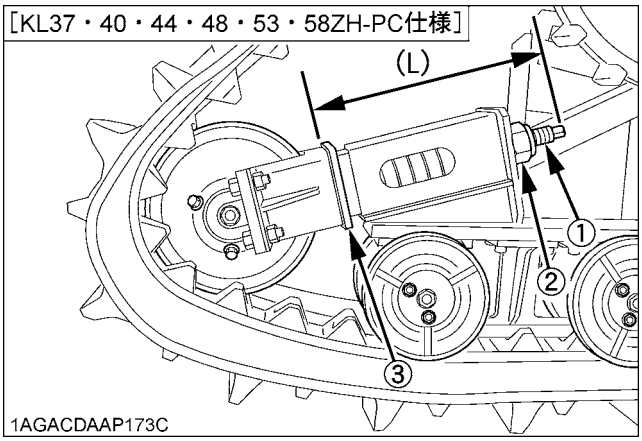
点検箇所	点検内容
転輪	● グリースアップを適宜行なってください。（目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後） ● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。
遊輪	● 極端な摩耗，偏摩耗はしていませんか。 ● グリースアップを適宜行なってください。（目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後）
スプロケット	● 草の巻付き，石のかみこみ，泥の付着はありませんか。
ゴムクローラ	● クローラに大きな損傷はありませんか。 ● クローラの張りは適正ですか。
揺動軸部	● グリースアップを適宜行なってください。（目安：30 時間使用ごと及びシーズン終了後）

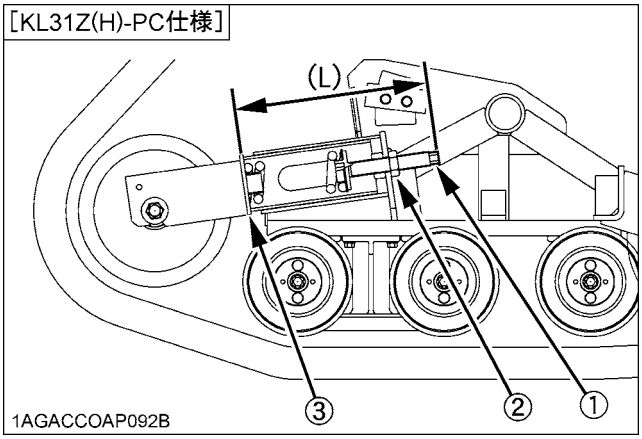


①ゴムクローラ　③前遊輪　⑤後遊輪
②スプロケット　④転輪　⑥揺動軸

■ゴムクローラの張り調整

1. ゴムクローラがゆるんだままで使用すると，走行中にクローラが外れるおそれがありますので，定期的に点検を行なってください。
2. ゴムクローラの張りの調整は，調整ボルトにて行なってください。調整後は確実にロックナットで固定してください。
3. ゴムクローラの張りは，図に示す（L）寸法を基準値に合わせます。





①調整ボルト
②ロックナット
③鉄板の前側
(L) =333mm

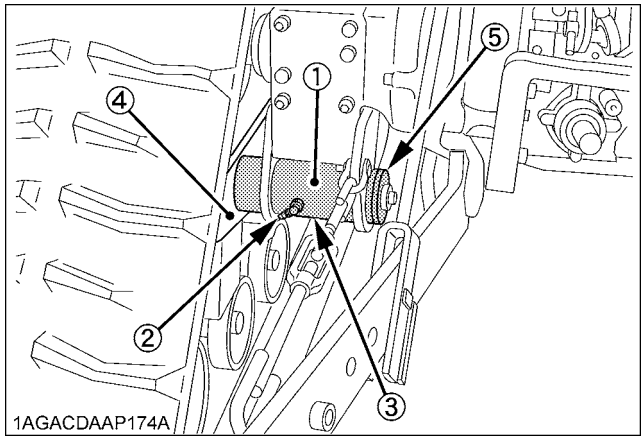
30 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**［クボタ推奨グリース］**を使用してください。

［KL37・40・44・48・53・58ZH-PC 仕様］

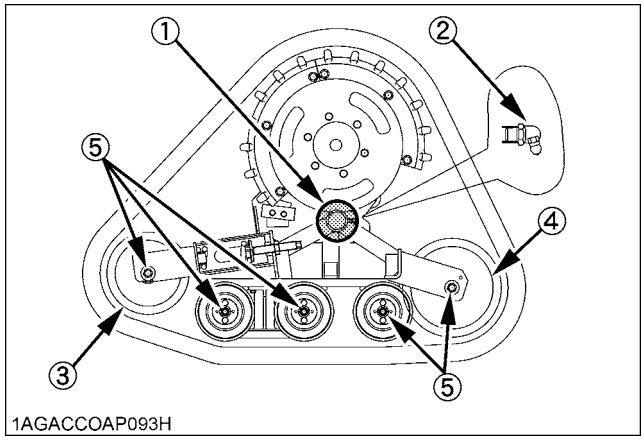
グリースの注入は，パイプとフレームあるいはパイプとザガネのすきまからグリースが出るまで行なってください。



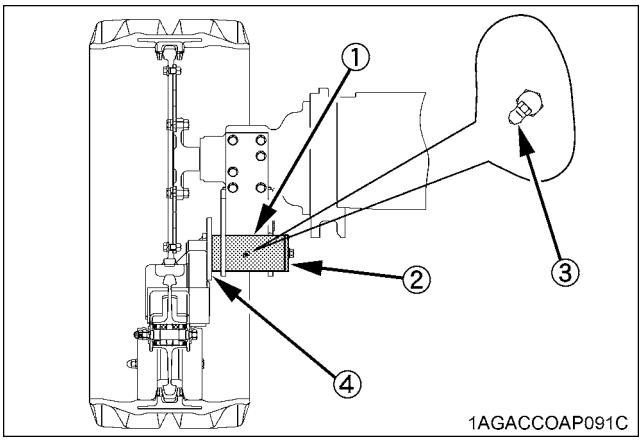
①揺動軸
②グリースニップル
③パイプ
④フレーム
⑤座金

［KL31Z (H) -PC 仕様］

グリースの注入は，パイプとフレームあるいはパイプとザガネのすきまからグリースが出るまで行なってください。
転輪及び遊輪部はフクロナットを外すとグリースニップルがあります。



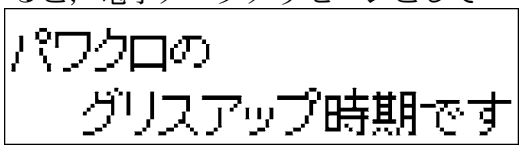
①揺動軸
②グリースニップル
③前遊輪
④後遊輪
⑤フクロナット（グリースニップル）



①パイプ　③グリースニップル
②ザガネ　④フレーム

◆ 電子メータメッセージのリセットについて

グリスアップ時，電子メータメッセージのグリスアップ後時間をゼロにリセットしてください。
リセットしておくと，次回のグリスアップ時間に達すると，電子メータメッセージとして

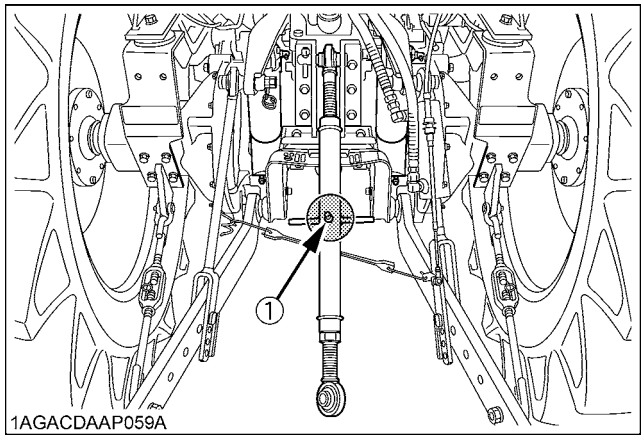


が表示されます。
また，リセットしないと，エンジン始動後 5 秒間，上記メッセージが表示されます。
（**[運転のしかた]** の章の **[電子メータパネル]** の **[電子メータメッセージのリセット法]** の項参照）

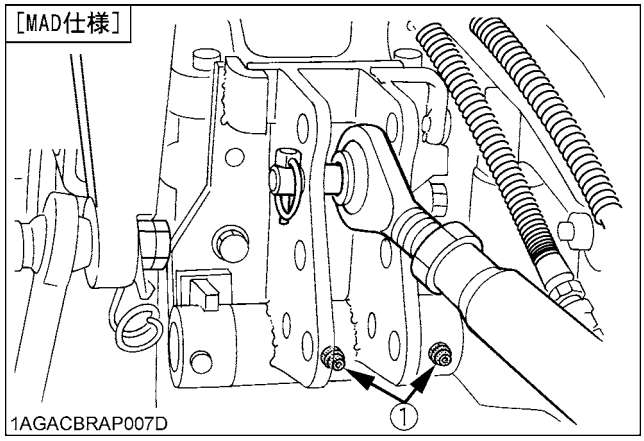
50 時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

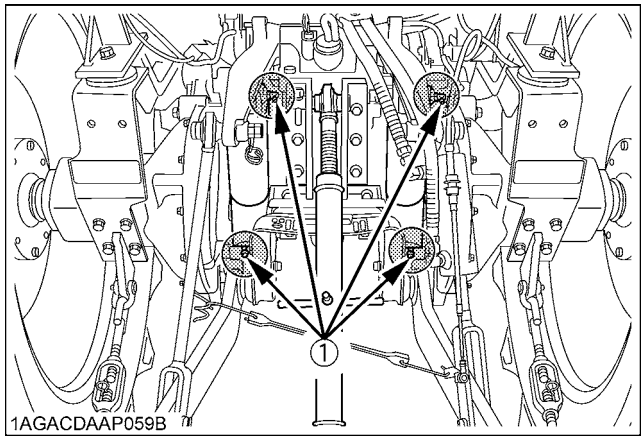
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**[クボタ推奨グリース]** を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。



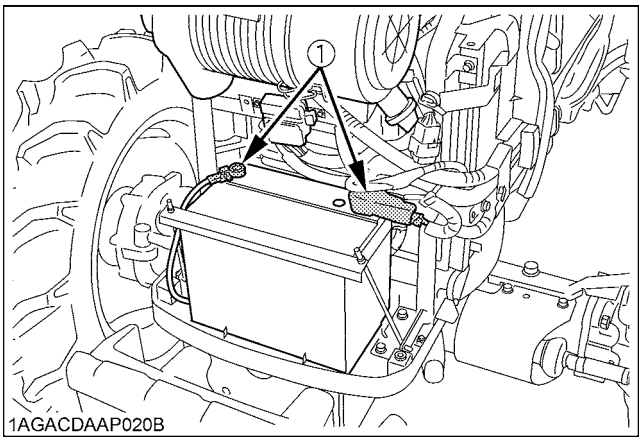
①トップリンク



①トップリンクブラケット

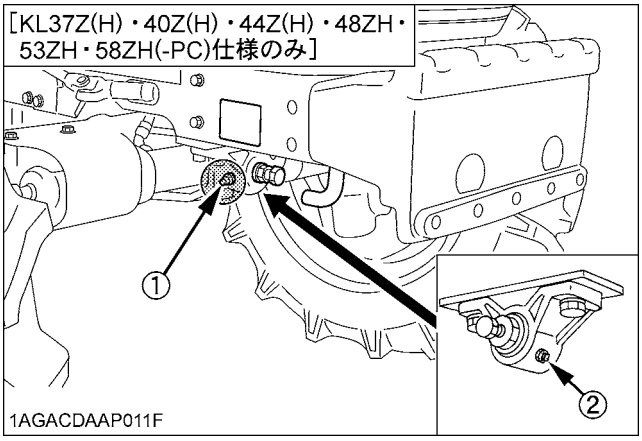


①油圧シリンダ



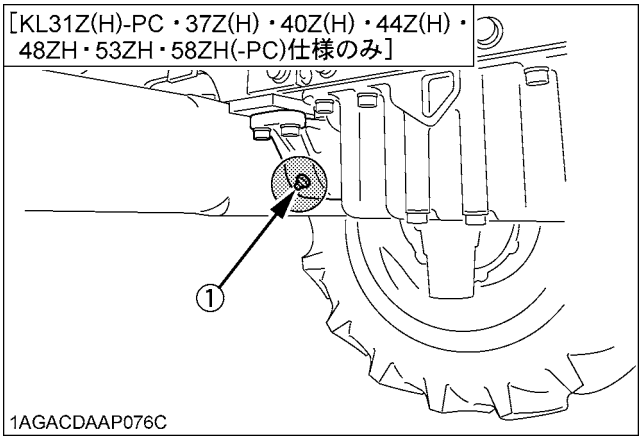
①バッテリターミナル

プラグを外し，グリースがにじみ出てくるまでグリースを注入してください。

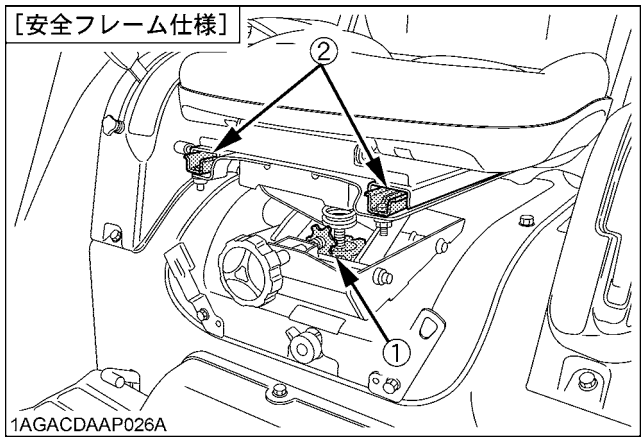


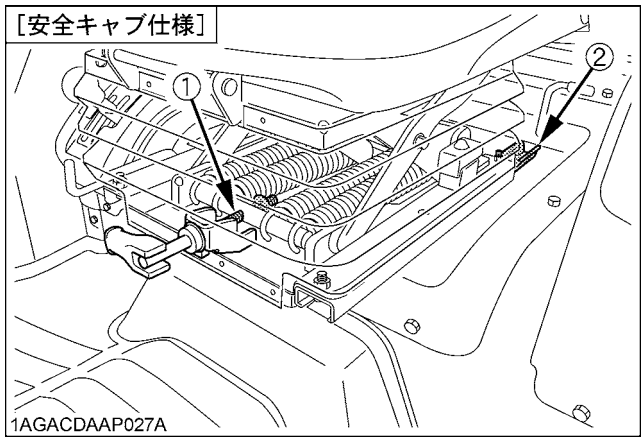
①前車軸受（前）
②プラグ

グリースガンで３～４回注入してください。



①前車軸受（後）





①サスペンション部
②スライド部

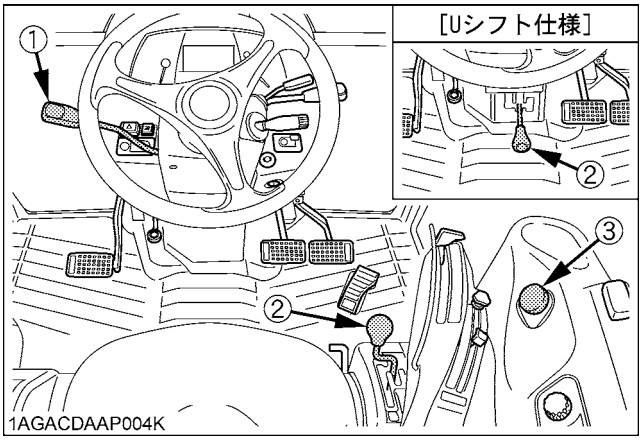
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

1. 運転席に座り，シャトル及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)**，PTO スイッチを**［切］**にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，クラッチペダルを一杯踏込んだままシャトルレバーを**［前進］**又は**［後進］**又は PTO スイッチを**［入］**に入れ，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

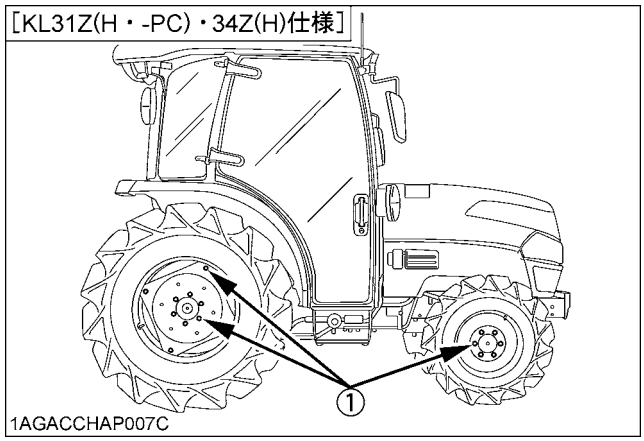


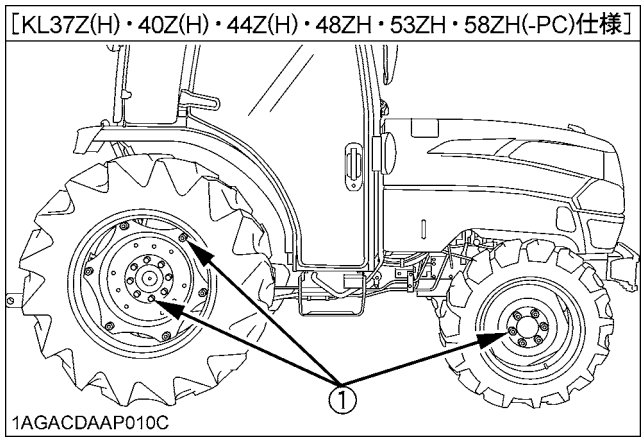
①シャトルレバー
② PTO 変速レバー
③あんしん PTO スイッチ

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

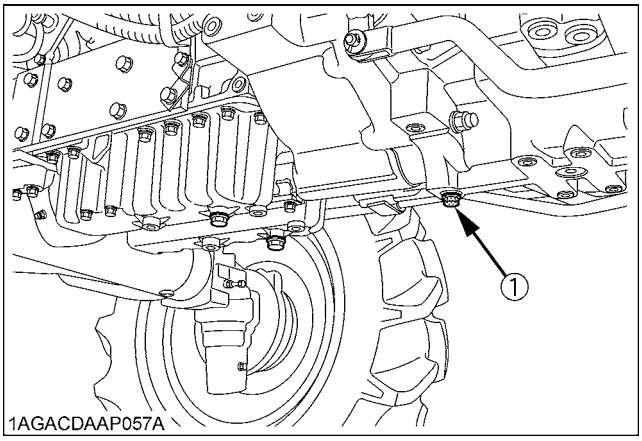




①ボルト，ナット

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



①ドレーンプラグ

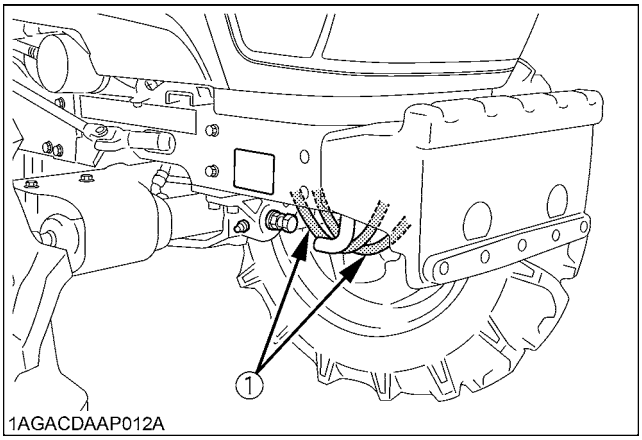
■パワーステアリングホースの点検

[KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ]

注 意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



①パワーステアリングホース

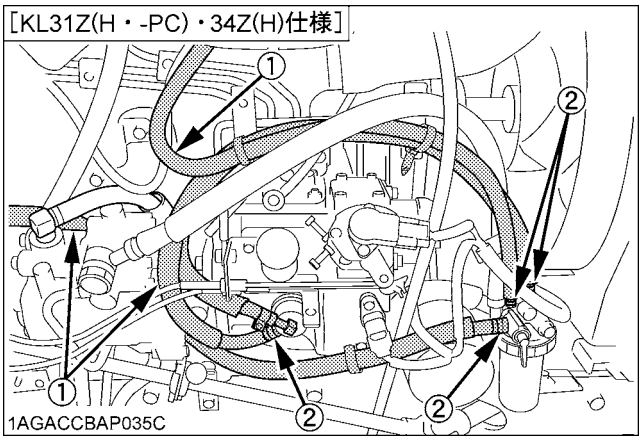
■燃料ホースの点検

注 意

**＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。**

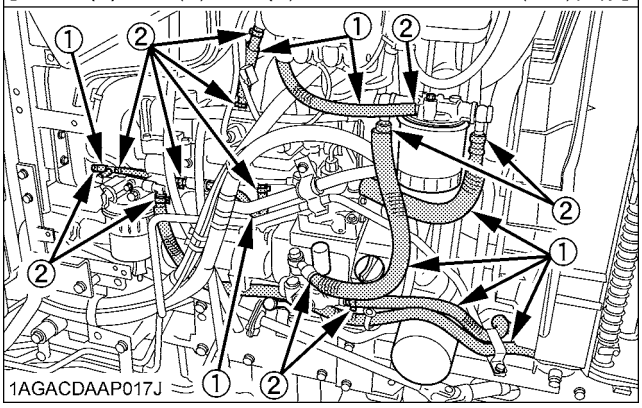
燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



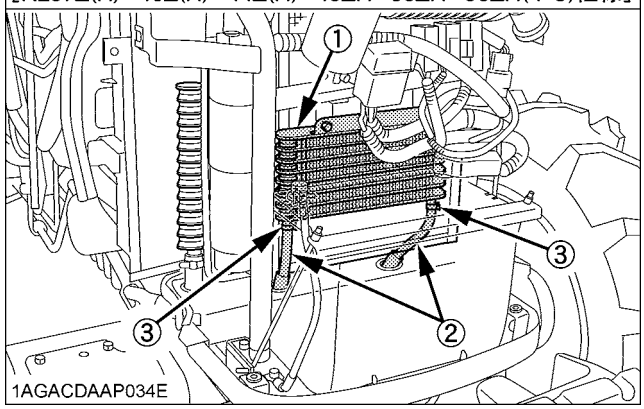
①燃料ホース
②締付けバンド

［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



①燃料ホース
②締付けバンド

［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



①燃料クーラ
②燃料ホース
③締付けバンド

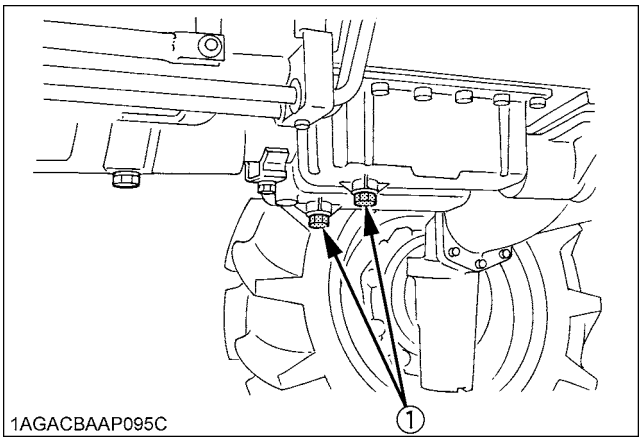
100 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換
[KL31Z(H・-PC)・34Z(H) 仕様]

注 意

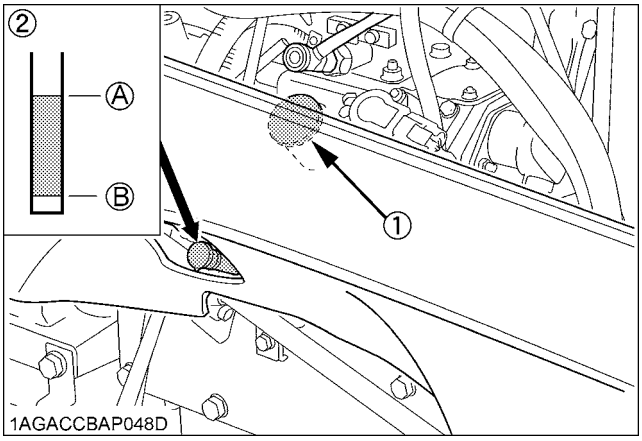
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグ（左右共）を外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

2. ドレーンプラグ（左右共）を締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重 要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ オイルはクボタ純オイルを使用してください。

D30 又は D10W-30 又はスーパー CD D10W-30 又はスーパー CF D10W-30

＊ D30 は 15 ℃以下では使用しないでください。
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。

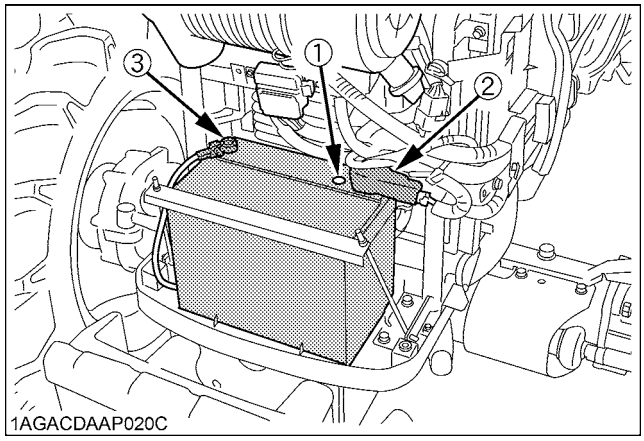
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。

＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



①インジケータ
②（+）コード
③（－）コード

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 ６～７ A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換が必要です。

◆ バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

バッテリ型式	80D26R 又は 85D26R

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。

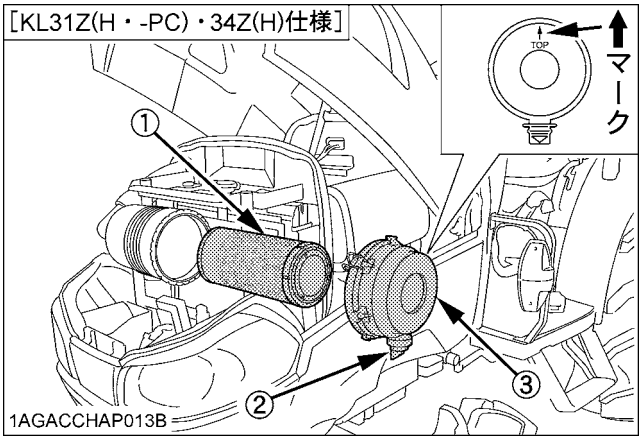
■エアクリーナエレメントの清掃

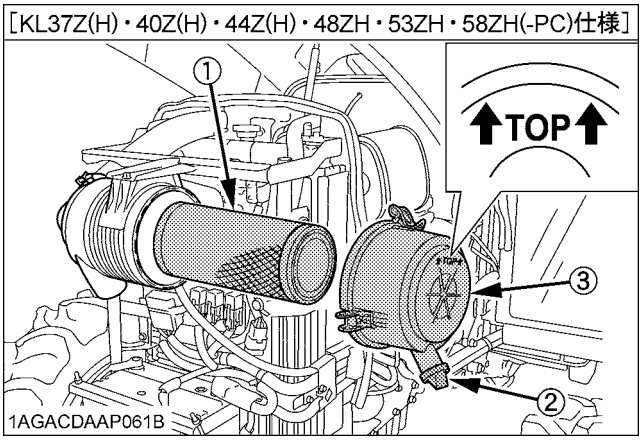
◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆ エレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。





①エレメント
②バキュエータバルブ
③ダストカップ

重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃

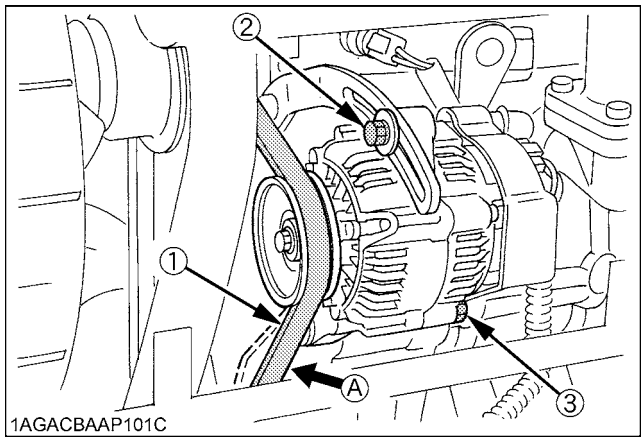
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 69N（7 kgf）の力で押さえて，約 12mm たわむ程度

◆ 調整方法

1. オルタネータを取付けているボルトをゆるめて，オルタネータを動かして調整します。
2. 調整後はボルトを確実に締付けてください。



①ファンベルト
②ボルト
③ボルト・ナット
Ⓐ“押す”

重　要

＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■ブレーキペダルの点検・調整

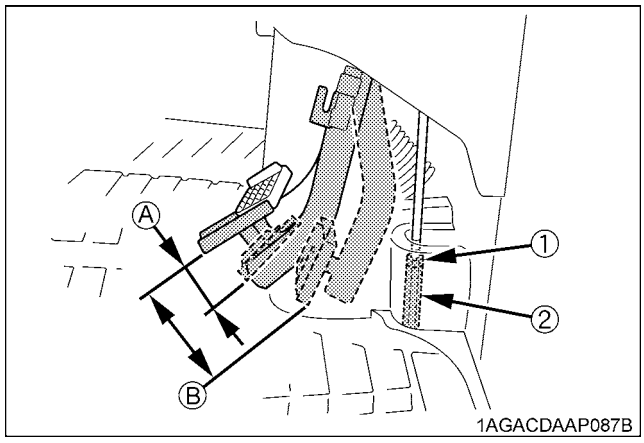
警　告

＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［5 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 15 ～ 20 mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
3. ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



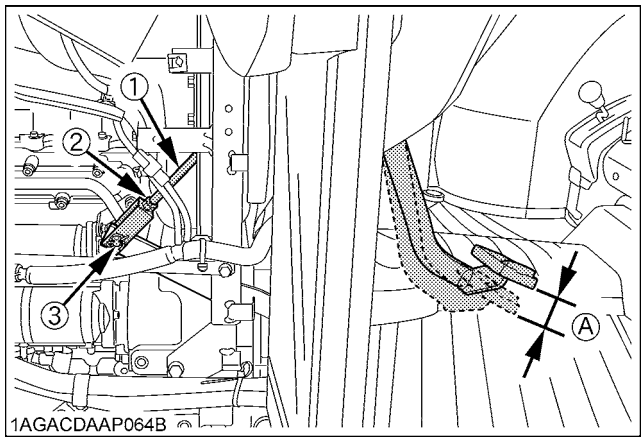
①ロックナット　　**Ⓐ“遊び”**
②ターンバックル　　**Ⓑ“この位置でのペダルの左右差 5 mm 以内”（踏込み量）**

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げてください。



①クラッチロッド　　**Ⓐ“遊び”**
②ロックナット
③頭付きピン

重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■エキゾーストパイプ及びマフラの状態

エキゾーストパイプ，マフラに破損，取付ボルトのゆるみなどがないか確認してください。
排気音に異常がないか確認してください。

200 時間ごとの点検・整備

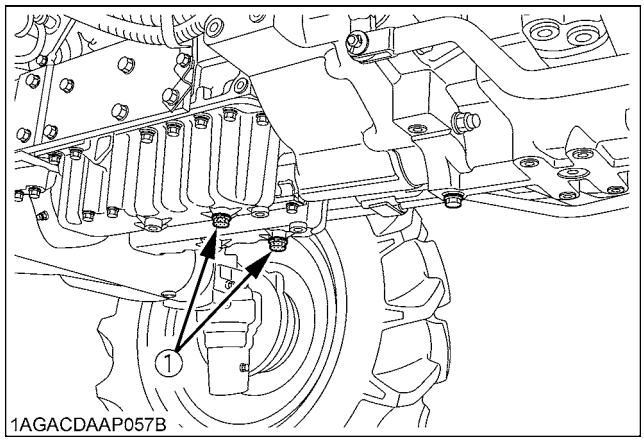
■エンジンオイルの交換

[KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ]

注 意

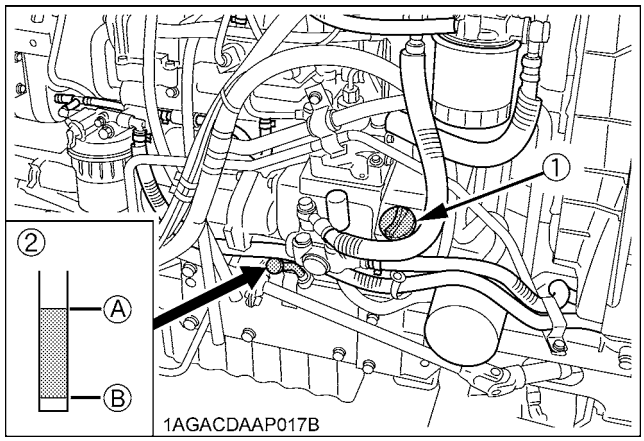
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
   このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。
   ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

2. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重 要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 NO. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
   注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ オイルは下記純正オイルを使用してください。

[KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH]
[KL40ZH-PC・44ZH-PC・48ZH-PC]

スーパー CD D10W-30 又はスーパー CF D10W-30

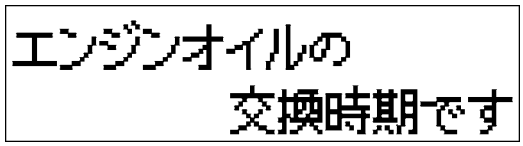
[KL53ZH・58ZH]
[KL53ZH-PC・58ZH-PC]

スーパー CF D10W-30

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆ 電子メータメッセージのリセットについて

エンジンオイル交換時，電子メータメッセージのエンジンオイル交換後時間をゼロにリセットしてください。
リセットしておくと，次回のエンジンオイル交換時間に達すると，電子メータメッセージとして



が表示されます。
また，リセットしないと，エンジン始動後５秒間，上記メッセージが表示されます。
（**[運転のしかた]** の章の **[電子メータパネル]** の **[電子メータメッセージのリセット法]** の項参照）

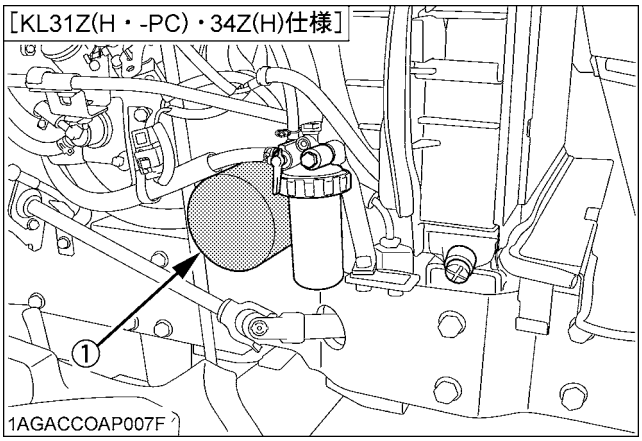
■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

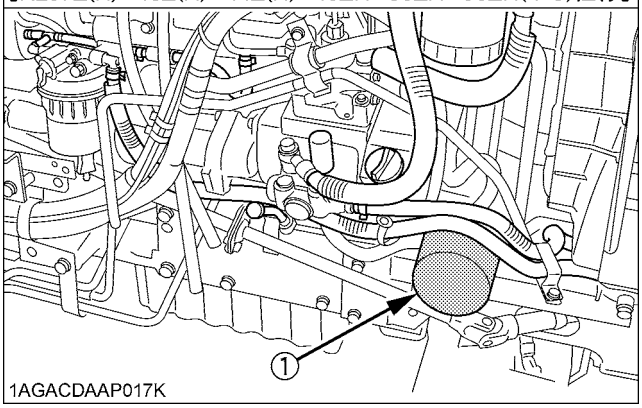
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

補　足

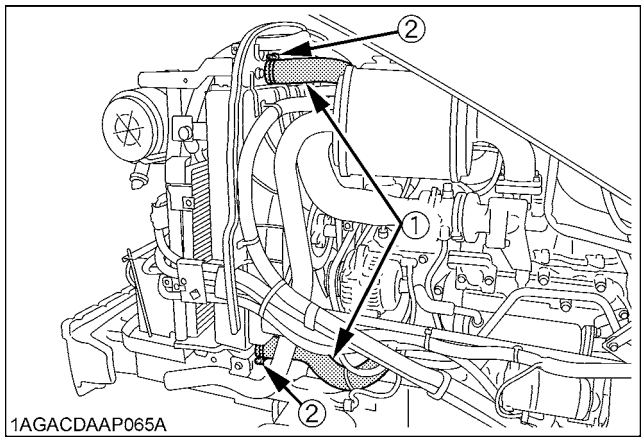
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■ラジエータホースの点検

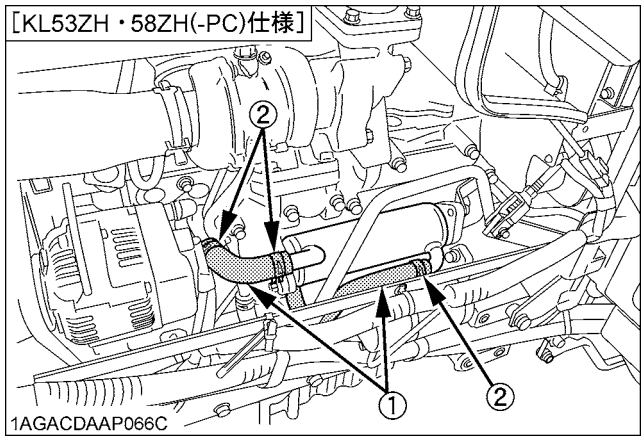
注　意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

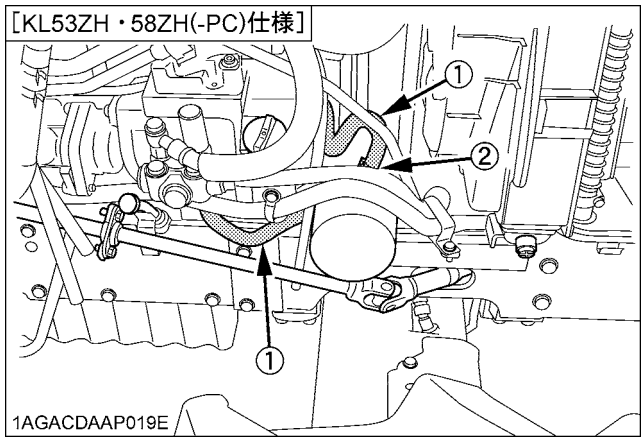
ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



①ラジエータホース
②締付けバンド



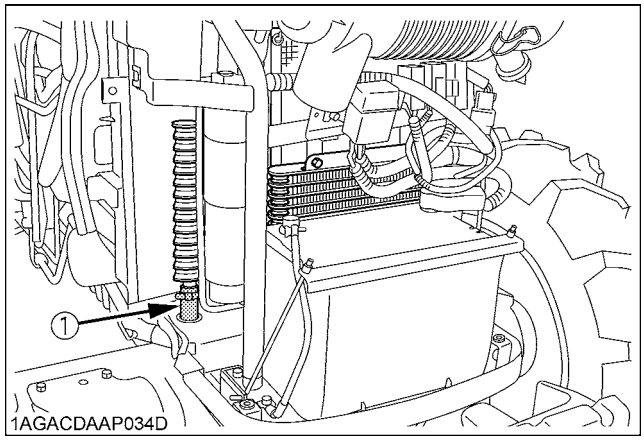
①ホース
②締付けバンド



①ラジエータホース
②締付けバンド

■オイルクーラホースの点検
[デュアルシフト仕様]

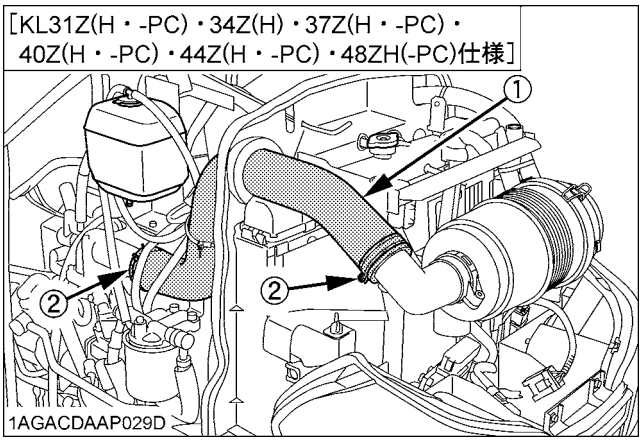
オイルクーラホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



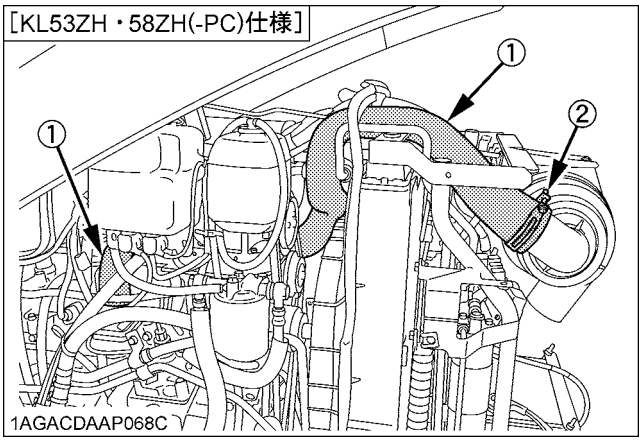
①オイルクーラホース

■吸気ホースの点検

吸気ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



①吸気ホース
②締付けバンド



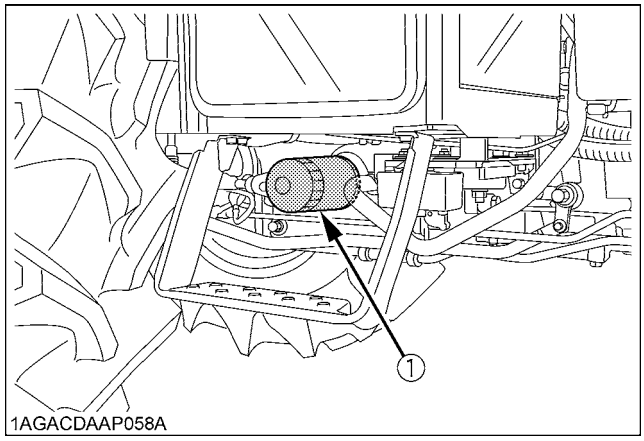
①吸気ホース
②締付けバンド

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。

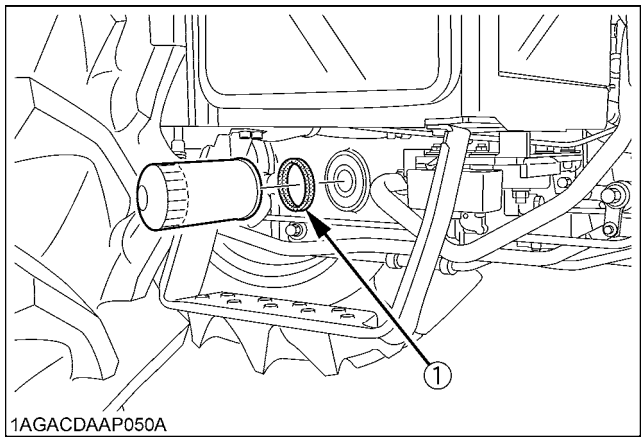


①油圧オイルフィルタカートリッジ

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. マグネットフィルタを清掃します。
4. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
7. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［400 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

◆ マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したごみをふき取ってください。



①マグネットフィルタ

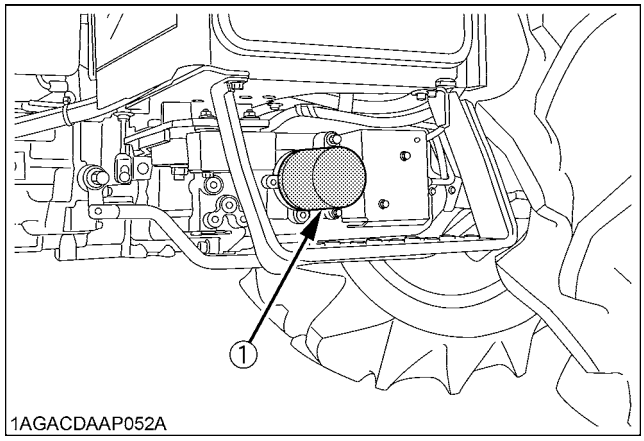
■トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換

[デュアルシフト仕様]

注 意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。



①トランスミッションオイルフィルタカートリッジ

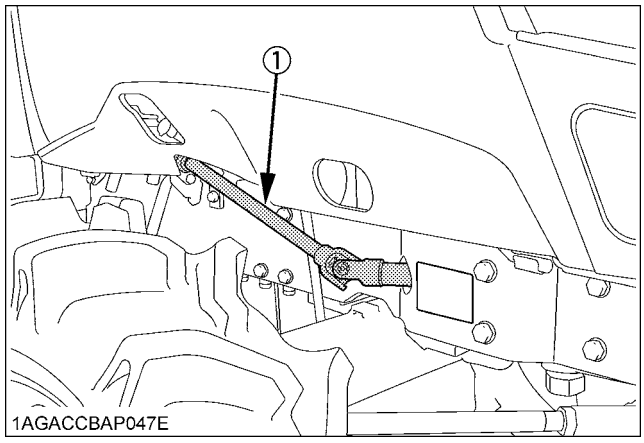
1. オイルフィルタの下部にオイルパン（容器）を受けます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
   (間違って油圧オイルフィルタを外さないでください。外すとトランスミッションオイルが流出します。)
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布します。
4. フィルタのＯリングが取付け面に接した位置から，フィルタレンチで更に約 3/5 回転増締めします。
5. エンジンを始動し，フィルタ取付け部より油漏れがないか確認してください。
6. エンジンを止め，オイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   (**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［400 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照)

重 要

＊ ミッションオイルやフィルタ交換後，すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し，各部にオイルが行き渡ってから発進してください。

■ステアリングジョイント部の点検

エンジンを停止して，ステアリングジョイントを手でさわって，ステアリングジョイントにガタや変形がないか点検してください。
もし，異常があれば購入先へ点検整備依頼してください。



①ステアリングジョイント

■トーイン調整・タイロッドの点検

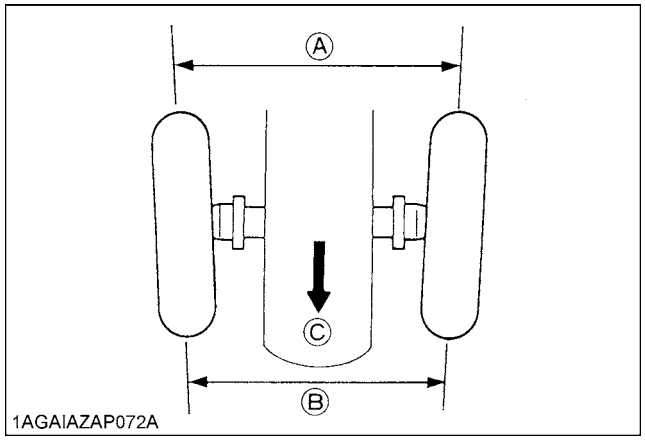
注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅Ⓑと後幅Ⓐを測り，Ⓐ－Ⓑ＝下記基準値になっているかを調べます。

2～8 mm

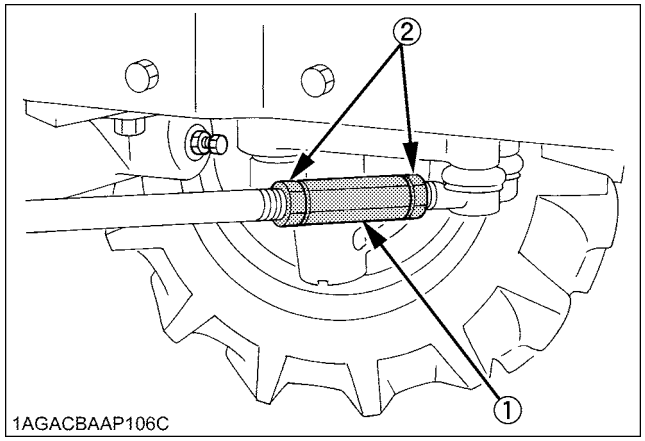


Ⓐ後幅
Ⓑ前幅
Ⓒ前

◆ 調整

[KL31Z (H・-PC)・34Z (H) 仕様]

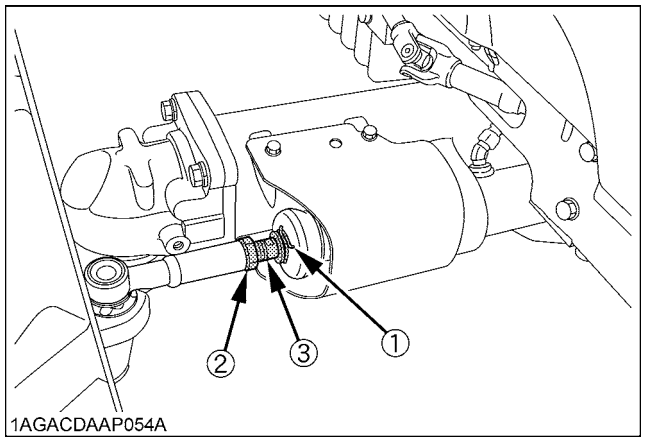
1. ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して (A)-(B)=2 ～ 8mm になるように調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けてください。



①ターンバックル
②ロックナット

[KL37Z (H)・40Z (H)・44Z (H)・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様]

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回して (A)-(B)=2 ～ 8mm になるように調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



①スナップストッパ
②ロックナット
③タイロッドジョイント

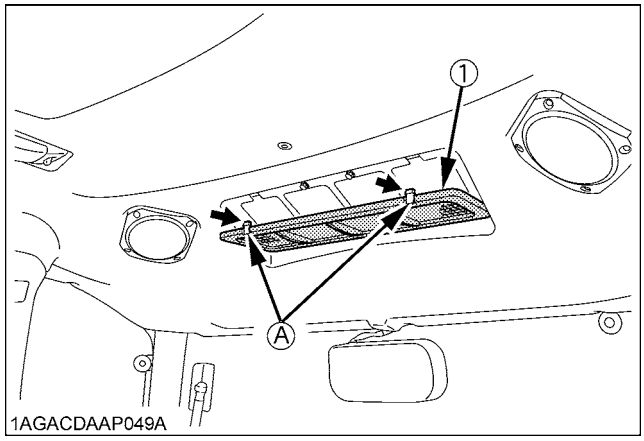
補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド (関節球) やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。
＊ 測定はタイヤ高さの 1/2，タイヤ幅の中央部間を測ります。

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。



①室内エアフィルタ　　Ⓐ“くぼみ”

◆ 室内エアフィルタの取付け，取外し

●「外し方」

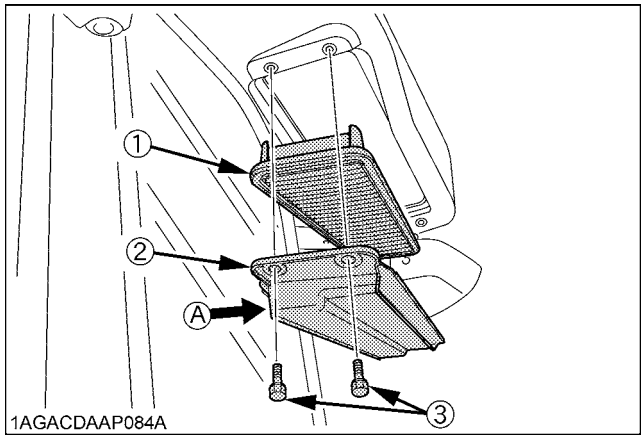
室内エアフィルタのくぼみを矢印方向に押さえながら外します。

●「取付け方」

差込むとワンタッチで取付けできます。

■外気フィルタの清掃

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



①外気フィルタ　　Ⓐ“空気導入口”
②カバー
③ノブボルト

補　足

＊ カバーの空気導入口を内側に向けて組付けてください。

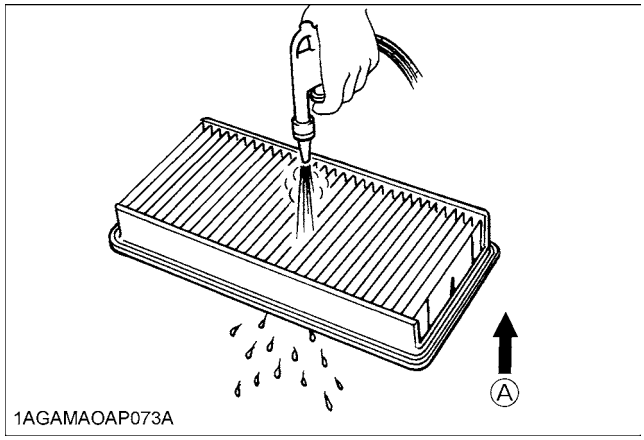
◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。



Ⓐ“風の流れ”

●「汚れが著しいとき」

家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

重　要

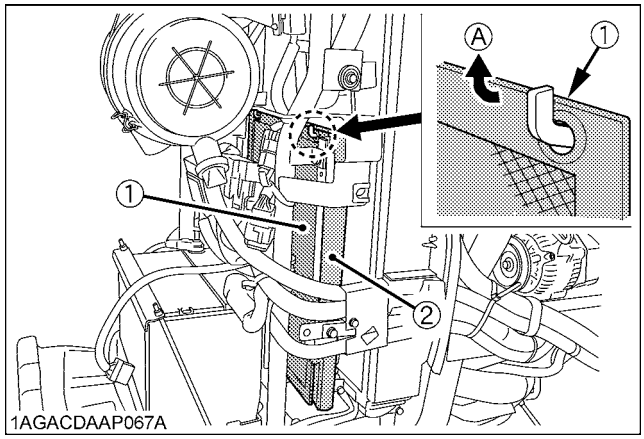
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

防虫網を外しコンデンサフィンにごみが詰まっていればエアブロー又は水道水などで取除いてください。



①防虫網　　**Ⓐ“外す”**
②コンデンサ

重　要

＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサのフィンを損傷させないように，注意してください。

■エアコンベルトの張り

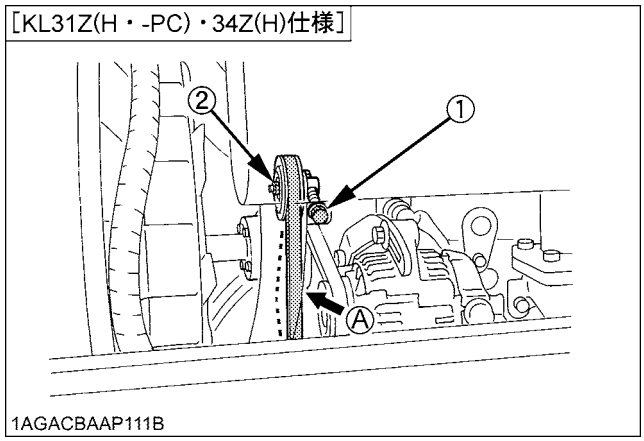
注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

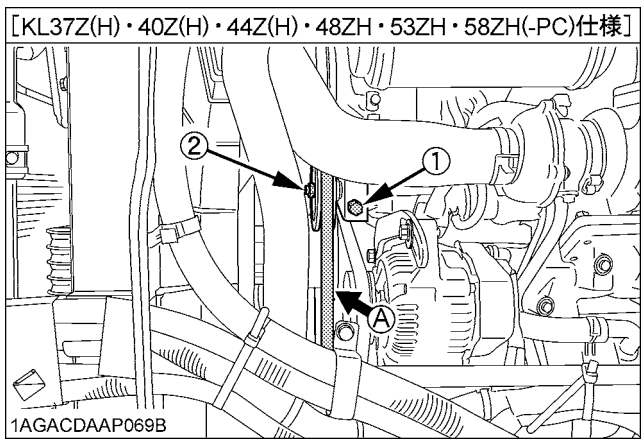
適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 98 N（10 kgf）の力で押えて，10 ～ 12 mm たわむ程度

調整はナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



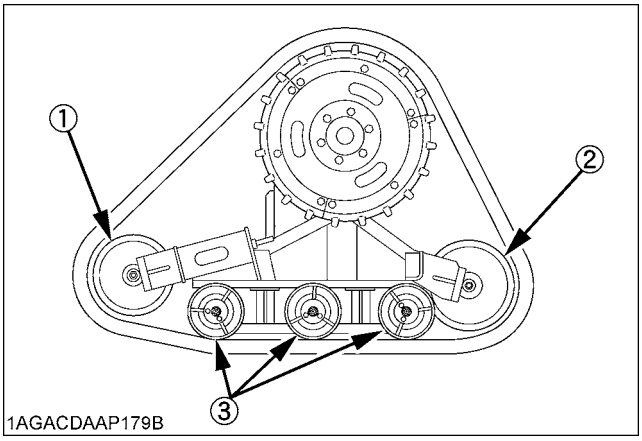
①調整ボルト　　**Ⓐ“押す”**
②テンションプーリ取付けナット

以下はパワクロ仕様のみの項目です。

■転輪・遊輪のオイルシール点検

[KL37・40・44・48・53・58ZH-PC 仕様]

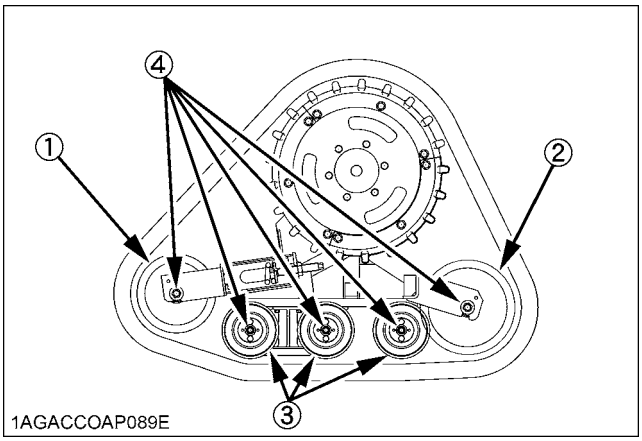
転輪・遊輪のオイルシール部よりオイル漏れがないか確認してください。



①前遊輪
②後遊輪
③転輪

[KL31Z(H)-PC 仕様]

転輪・遊輪部のグリース注入は，フクロナットを外すとグリースニップルがあります。パイプとフレームあるいは，パイプとザガネのすきまからグリースが出るまで行なってください。



①前遊輪 **③転輪**
②後遊輪 **④フクロナット（グリースニップル）**

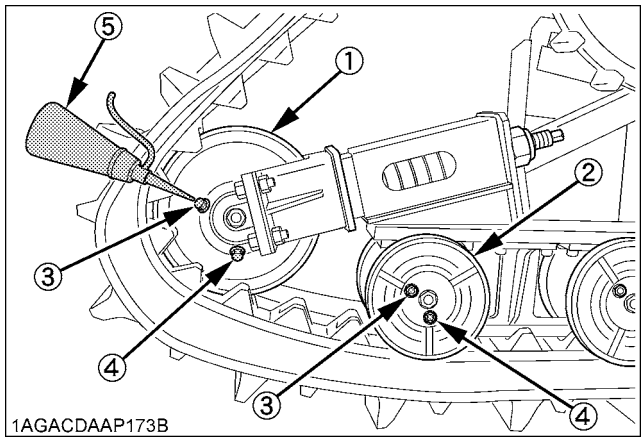
重　要

＊ 転輪・遊輪のオイルシール部よりオイル漏れがある場合は，購入先にて点検を受けてください。

◆ 転輪・遊輪のオイル量点検

[KL37・40・44・48・53・58ZH-PC 仕様]

1. 転輪又は，遊輪の２個のプラグ内、どちらかを真下に向けます。
2. 上側のプラグを外し，給油口位置までオイルが入っているか確認します。
3. 不足しているときは油さし等で補給してください。



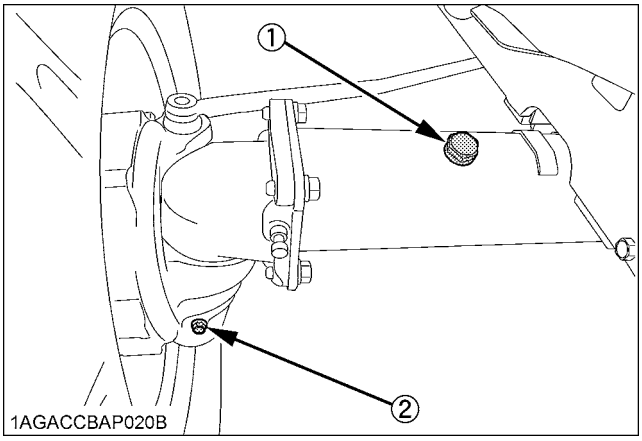
①遊輪 **④プラグ（ドレーン）**
②転輪 **⑤油さし**
③プラグ（給油）

300 時間ごとの点検・整備

■前車軸ケースオイルの交換

[KL31Z (H・-PC)・34Z (H) 仕様]

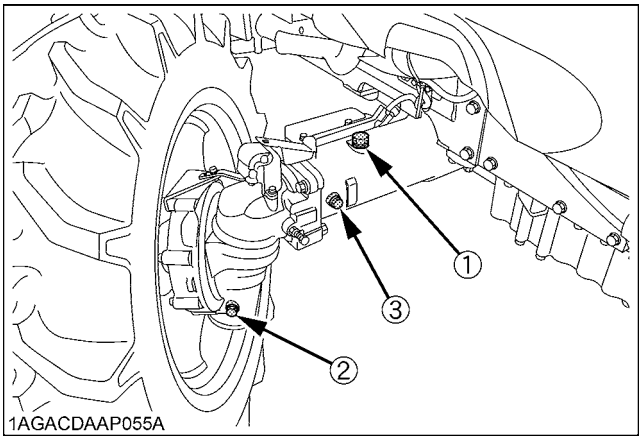
左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを（規定量）入れてください。



①給油プラグ
②ドレーンプラグ

[KL37Z (H)・40Z (H)・44Z (H)・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様]

左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜き，給油口から新しいオイルを（検油プラグ位置まで）入れてください。



①給油プラグ
②ドレーンプラグ
③検油プラグ

補　足

＊ 給油プラグを外さないと空気が入らないので，オイルの排出に時間がかかります。

400 時間ごとの点検・整備

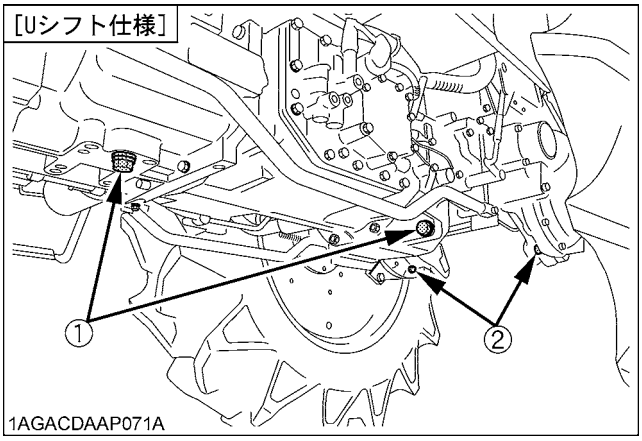
■ミッションオイルの交換

注　意

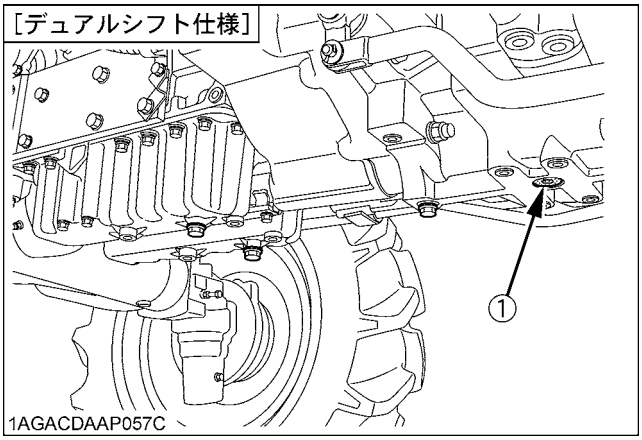
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

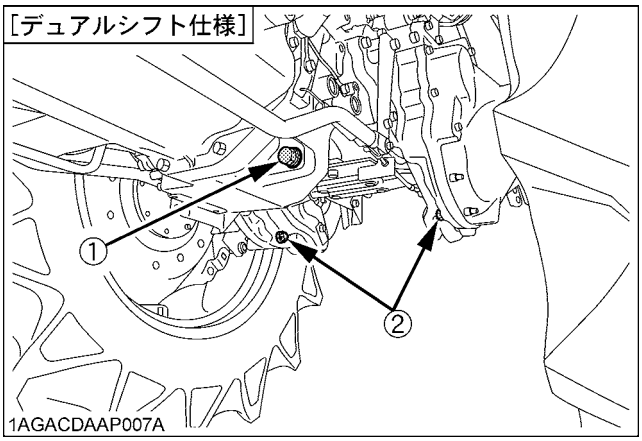
1. 給油プラグとドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

［Uシフト仕様］



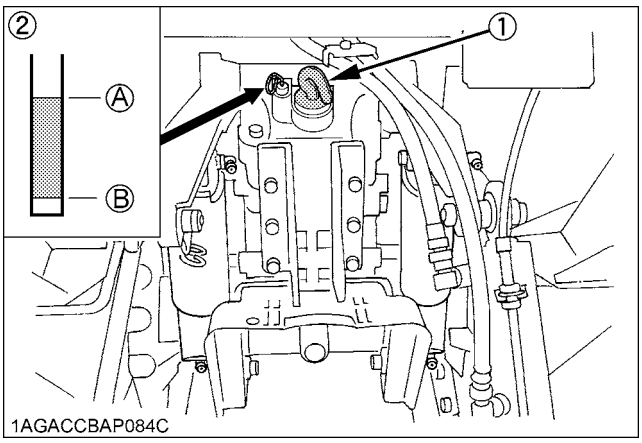
［デュアルシフト仕様］





①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ（左右）

2. ドレーンプラグを締めます。
3. ミッションオイルを給油口から，規定量入れてください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

4. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。
5. 一度オイルゲージの油をふき取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。

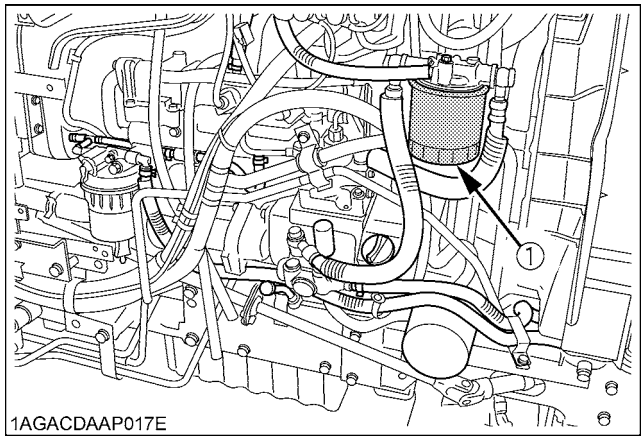
重　要

＊ ミッションオイルやフィルタ交換後，すぐに走行しないでください。数分間低速でエンジンを回し，各部にオイルが行き渡ってから発進してください。

■燃料フィルタカートリッジの交換

[KL37Z (H) ・ 40Z (H) ・ 44Z (H) ・ 48ZH ・ 53ZH ・ 58ZH (-PC) 仕様のみ]

1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）



①燃料フィルタカートリッジ

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。（詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください）

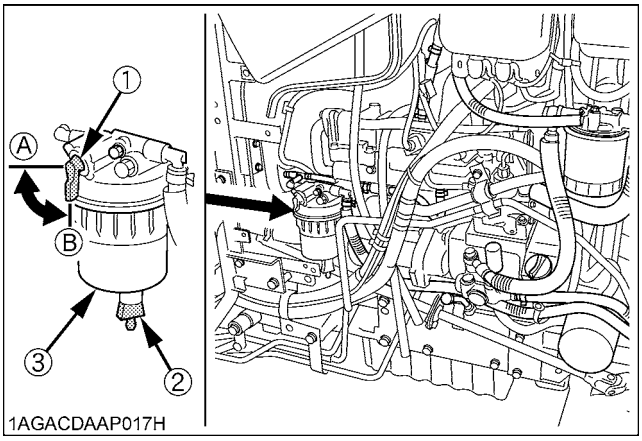
■セパレータの清掃

[KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ]

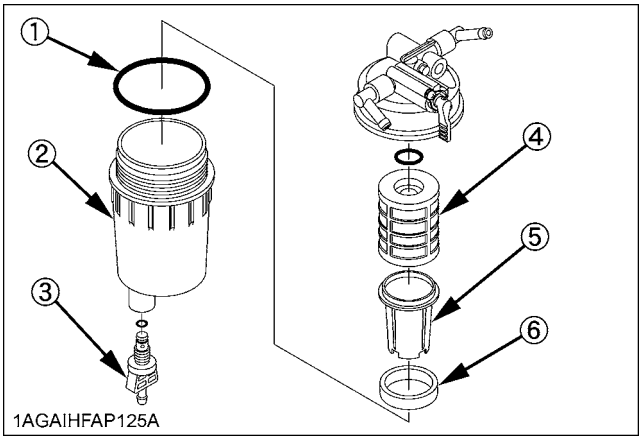
1. 燃料コックを**【閉】**にしてください。
2. 下部ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出後カップを外します。
3. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
4. 下図を参考に元通りに組付けてください。
5. 燃料コックを**【開】**にしてください。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意してください。
＊ 組付け後コックを**【開】**にし，必ず空気抜きをしてください。
（**【必要に応じた点検・整備】**の**【燃料の空気抜きのしかた】**の項を参照）



①燃料コック　　**Ⓐ“閉”**
②ドレーンプラグ　　**Ⓑ“開”**
③カップ



① O リング　　**④エレメント**
②カップ　　**⑤エレメントキャップ**
③ドレーンプラグ　　**⑥フロート**

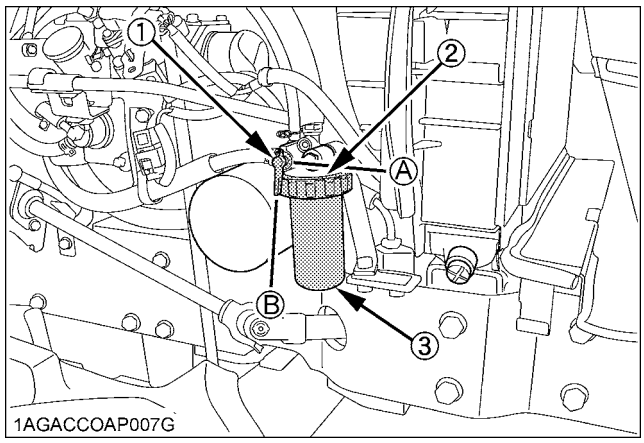
■燃料フィルタエレメントの清掃・交換

[KL31Z (H・-PC) ・34Z (H) 仕様のみ]

1. 燃料フィルタコックを**【閉】**にしてください。
2. カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
3. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。（**【トラクタの簡単な手入れと処置】**の章の**【燃料の空気抜きのしかた】**の項を参照）



①燃料フィルタコック　　**Ⓐ“閉”**
②リテーナリング　　**Ⓑ“開”**
③燃料フィルタ

600 時間ごとの点検・整備

■前部デフケースの前後遊びの調整

前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

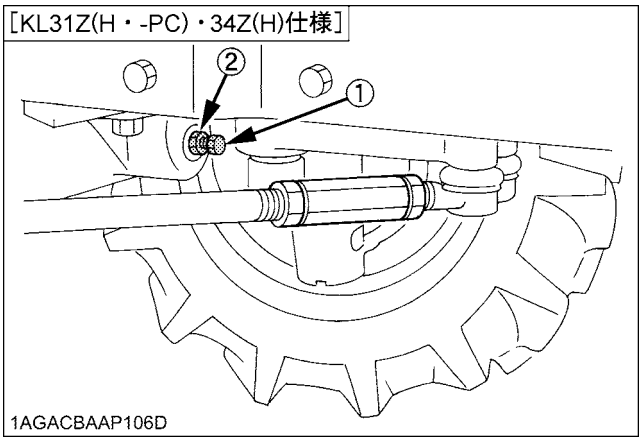
◆ 点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

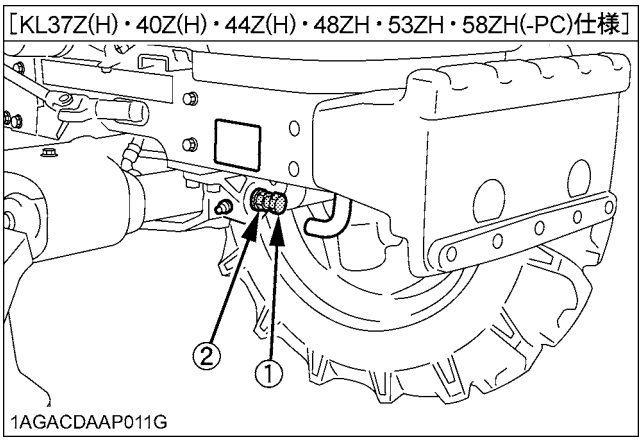
◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。

［KL31Z(H・-PC)・34Z(H)仕様］



［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様］



①調整ボルト
②ロックナット

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1500 時間ごとの点検・整備

■インジェクタの点検

［KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ］

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

3000 時間ごとの点検・整備

■ターボチャージャの点検

［KL53ZH・58ZH 仕様のみ］

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■サプライポンプの点検

［KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様のみ］

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。

（**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。）

■ヒータ配管，ウォータホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

■エアコン配管，ホースの点検

各配管及びホースの損傷を点検してください。

2年ごとの点検・整備

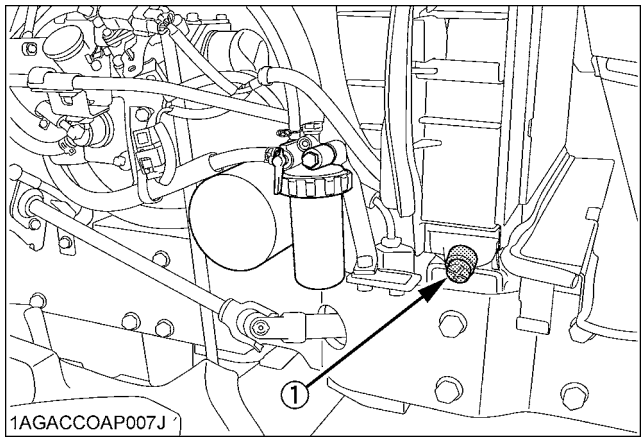
■冷却水の交換

注 意

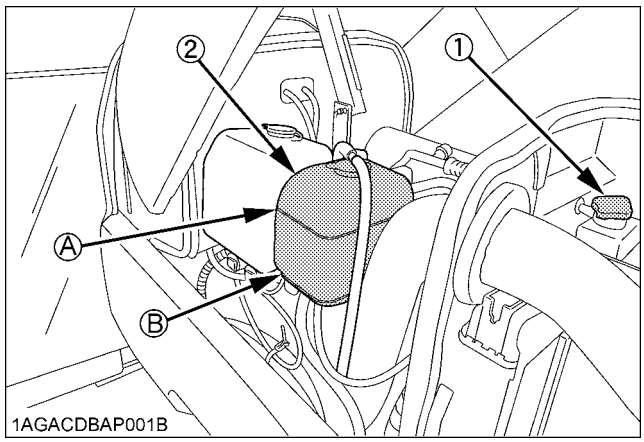
＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータのドレーンプラグとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. ポンプなどを用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，ドレーンプラグを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に閉めてください。
5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約 1.5L ヒータ部に必要となります。
   冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ**【ON】**（温度コントロールつまみを**【WARM】**（右端）に回す）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸込まれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。

[KL31Z (H・-PC) ・34Z (H) 仕様]

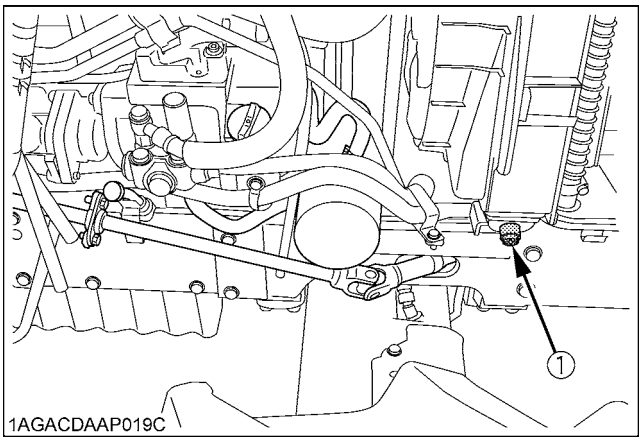


①ドレーンプラグ

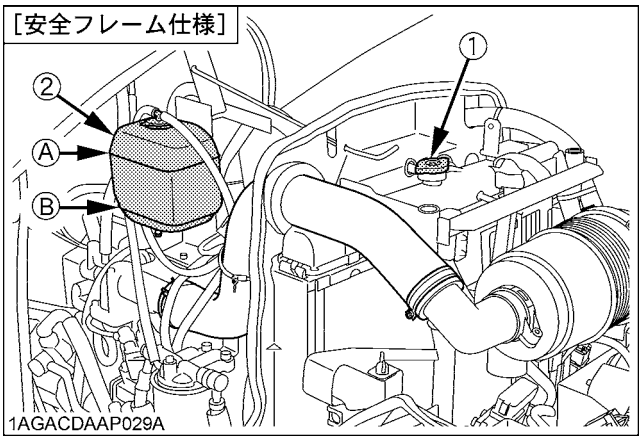


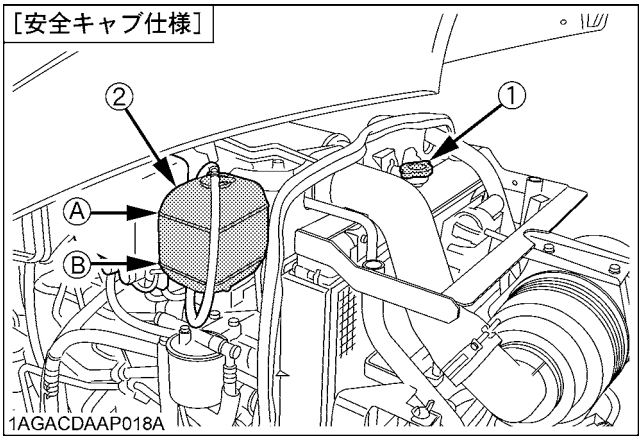
①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”**

[KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)仕様]



①ドレーンプラグ





①ラジエータキャップ
②リザーブタンク
Ⓐ"上限"
Ⓑ"下限"

重　要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。
＊ 冷却水交換作業では，エアかみをおこす可能性があります。交換時は，購入先にご相談ください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ 2年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■パワーステアリングホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■吸気ホースの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■燃料ホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■モンローシリンダホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■メインシリンダホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■オイルクーラホースの交換
[デュアルシフト仕様]
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

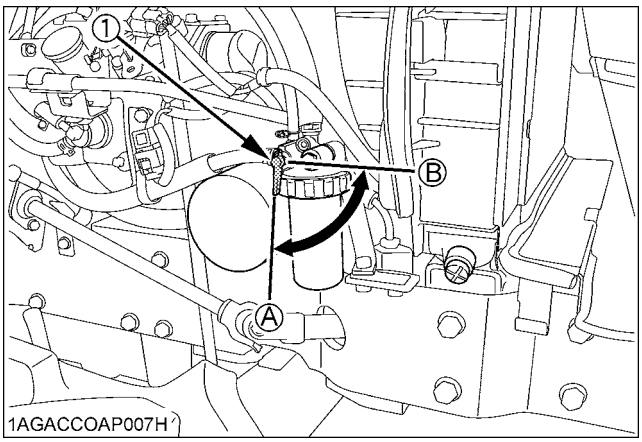
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた
[KL31Z (H・-PC)・34Z (H) 仕様]
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

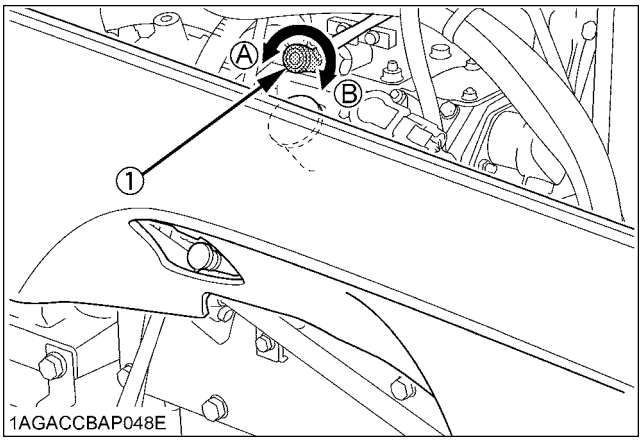
◆ 空気抜き手順

1. タンクに燃料を満たし，燃料コックを**【開】**にします。



①燃料フィルタコック　　**Ⓐ"開"**
Ⓑ"閉"

2. 燃料噴射ポンプ上のコックを**【開】**く。



①空気抜きコック　　**Ⓐ"開"**
Ⓑ"閉"

3. エンジンを始動し，約１分間運転後停止します。
4. 燃料噴射ポンプのコックを閉じます。

補　足

＊ 空気抜きするとき以外は燃料噴射ポンプのコックは，必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。

■燃料の空気抜きのしかた

[KL37Z (H) ・40Z (H) ・44Z (H) ・48ZH・53ZH・58ZH (-PC) 仕様]

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

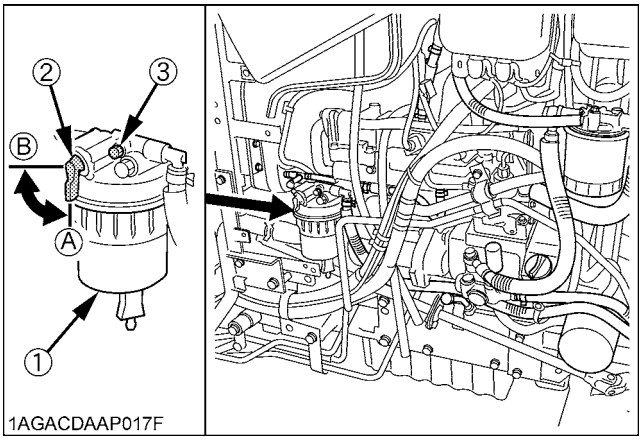
- セパレータより排水及び分解洗浄したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

◆ 空気抜き手順は下表を参考に行なってください。

セパレータより排水及び分解洗浄時 燃料切れによるエンスト及び燃料パイプ類を外したとき トラクタを長時間使用しなかったとき	手順１～７の順に行なう
燃料フィルタ交換時	手順１と４～７の順に行なう

◆ 空気抜き手順

1. タンクに燃料を満たし，燃料コックを**[開]**にします。
2. セパレータの空気抜きプラグを約２回転ゆるめます。
   空気抜きプラグ部から気泡の無い燃料がでてくれば，プラグを締付けます。

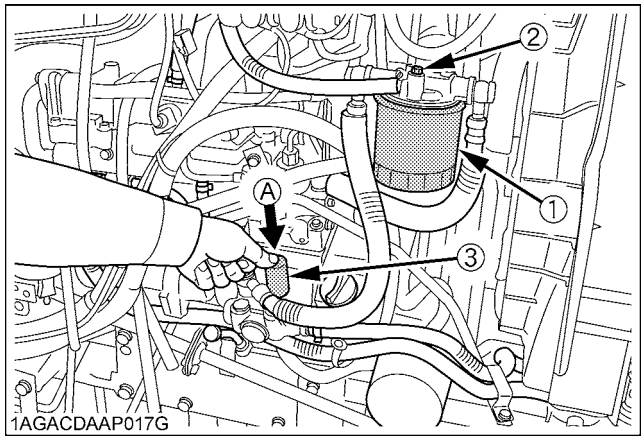


①セパレータ　　**Ⓐ“開”**
②燃料コック　　**Ⓑ“閉”**
③空気抜きプラグ

3. 燃料フィルタの空気抜きプラグを約２回転ゆるめます。
4. フィードポンプノブをゆっくり上下に動かし，燃料を圧送します。
   フィードポンプノブの操作荷重は，燃料パイプ内等の空気を圧送しているときは軽く，燃料の圧送を始めると重くなります。
   フィードポンプノブの操作回数は下表を目安に操作してください。

作業内容	操作回数
セパレータより排水及び分解洗浄時 トラクタを長時間使用しなかったとき	約 10 回
燃料切れによるエンスト及び燃料パイプ類を外したとき	約 60 回
燃料フィルタ交換時	

5. 燃料圧送後，燃料フィルタの空気抜きプラグをすぐに締付けます。
6. フィードポンプノブを４～５回再操作し，回路内を加圧します。



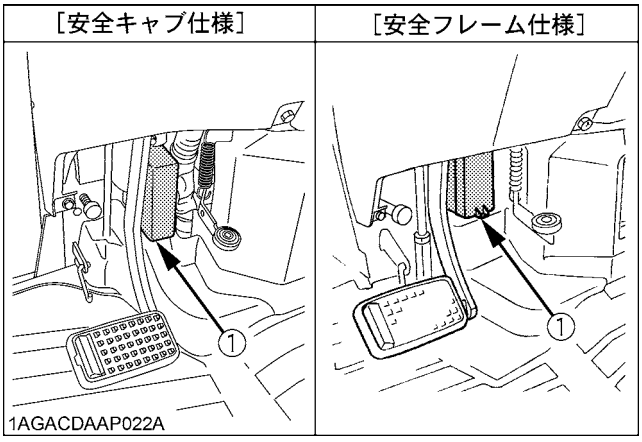
①燃料フィルタ　　**Ⓐ“押す”**
②空気抜きプラグ
③フィードポンプノブ

7. アクセルレバーを低速回転位置でエンジンを始動します。
   (スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は，30 秒間休み，この操作を再度１～２回繰返します)
8. エンジンが始動できたら，そのままで１分程度待ちます。その後エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
9. 以上の操作後，まだ空気が抜けずにエンストする場合は，再度空気抜きを行ないます。

重　要

＊ 燃料フィルタの空気抜きプラグをゆるめないで，フィードポンプの操作を行なわないでください。

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

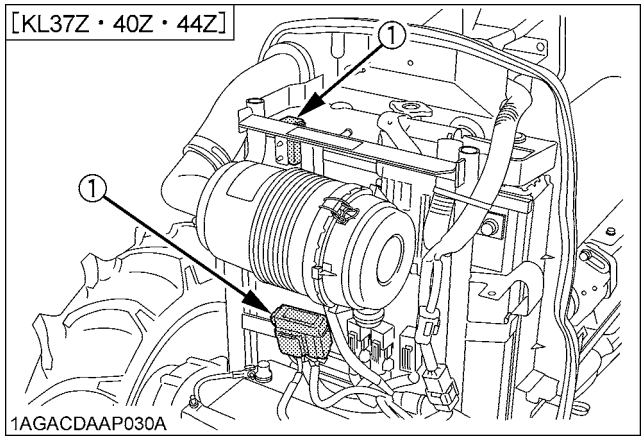
1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

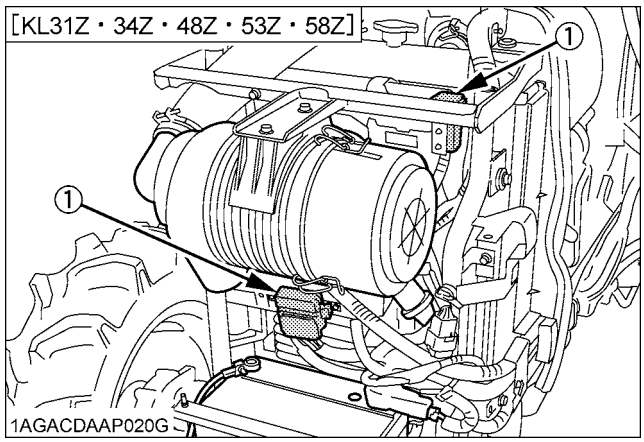
重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，購入先で点検，修理してください。





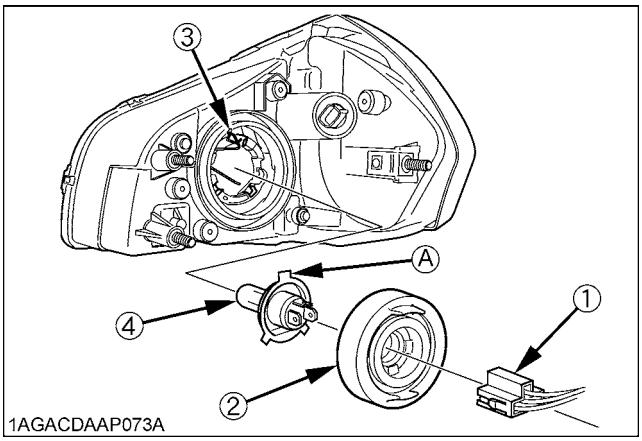
①スローブローヒューズ

■ヘッドランプの交換

注　意

＊ 電球を落としたり，キズをつけたりしないでください。破損した場合，ガラス片が飛散しケガの原因となります。
特にハロゲン電球は，ガラス内部の圧力が高いため，注意してください。
＊ 電球を交換する時は，じゅうぶん冷えてから行なってください。
ヤケドの原因となることがあります。

1. コネクタを抜き，ゴムブーツを外します。
2. 電球固定金具を解除し，電球を外します。



①コネクタ
②ゴムブーツ
③固定金具
④電球
Ⓐ“幅の広い突起部を上側に向け組み付ける”

重　要

＊ ワット数の大きい電球を取付けないこと。
＊ 素手でガラス面を触らないこと。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。

■ランプ一覧

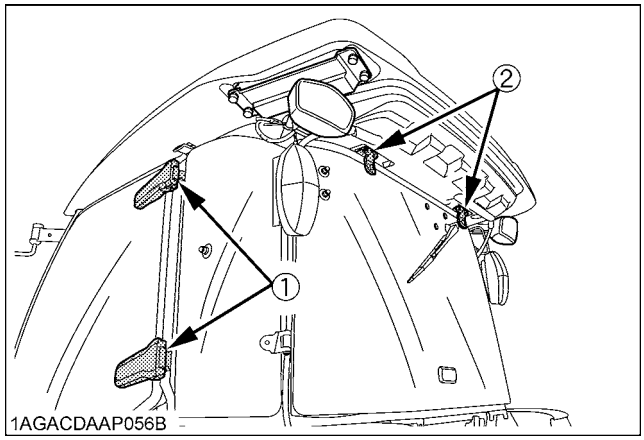
ヘッドランプ	60/55W	作業灯	35W
ウインカランプ(前)	21W	作業灯(ヘッドライト横)	21W
ウインカランプ(後)	21W	尾灯,ブレーキランプ	5W/21W
車幅灯	5W	バックランプ	21W

■ホーン接点のグリース塗布

ハンドルのホーン接点用グリースが切れると, ハンドルを回したときに音が鳴ります。もし音が鳴っている場合は, 購入先で点検及びグリースを塗布してもらってください。

以下は安全キャブ仕様のみの点検項目です。

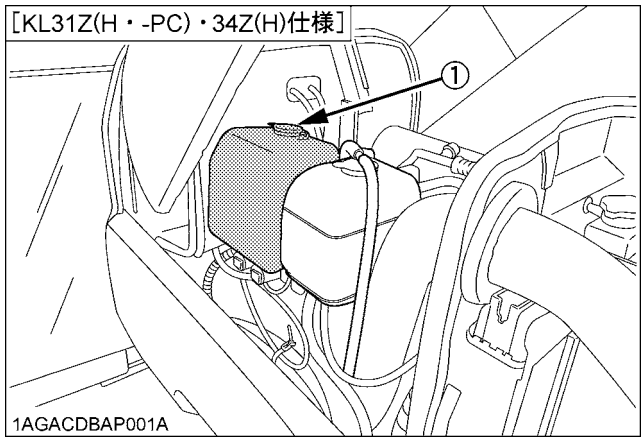
■注油

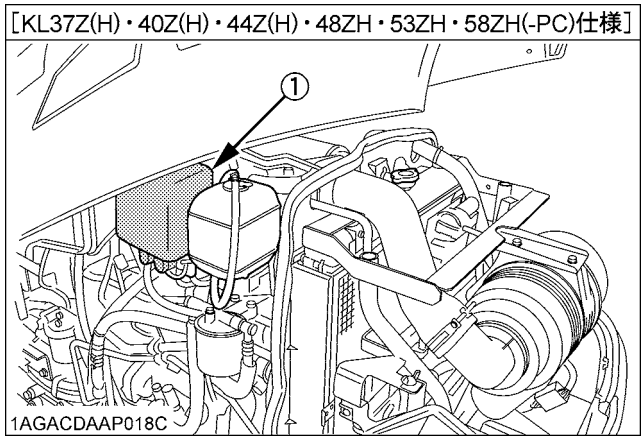


①ドアヒンジ部
②リヤウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。





①ウォッシャタンク

重　要

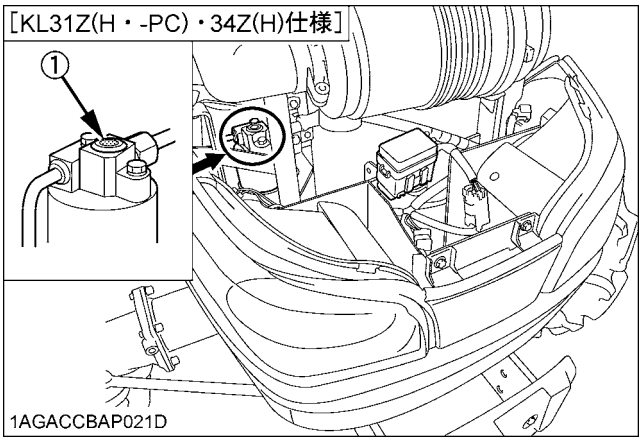
＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために，ごみが入らないようにしてください。

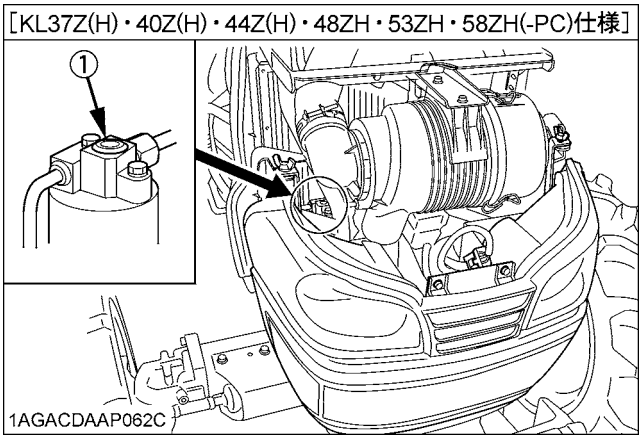
■冷媒（ガス）量の点検

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

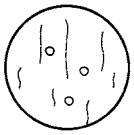
◆ 点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
＊ ドアの全開
＊ 周囲の空気温度　　：30 ～ 35 ℃
＊ エンジン回転数　　：約 1500rpm
＊ 温度コントロール　　：最強冷位置（左端）
＊ ファンスイッチ　　：最強風
＊ 内外気切換え　　：内気循環
＊ エアコンスイッチ　　：入（ランプ点灯）
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。

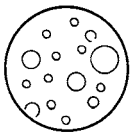




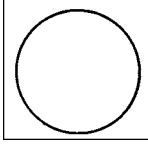
①サイトグラス



適正…流れの中にほとんど気泡が含まれていない。



不足…流れの中に気泡が含まれている。
（気泡が連続的に通過）



なし…無色透明

1AGALAFAP320A

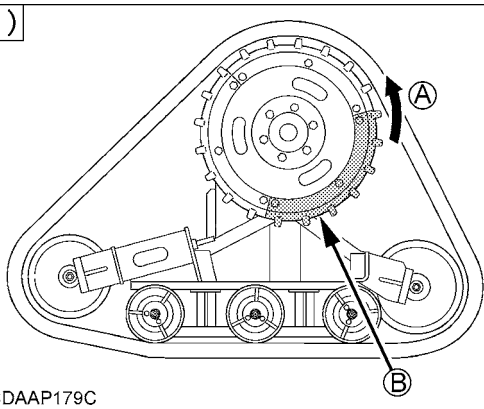
以下はパワクロ仕様のみの項目です。

■スプロケットの交換手順

スプロケットは３枚で構成されています。

1. まず　部で示した下側のスプロケットを新しいスプロケットに交換します。（図１）
2. 次に車軸をゆっくり回転させ，順次下側に来たスプロケットを交換します。
3. ３枚のスプロケットを交換した後，ゴムクローラの張り調整を行なってください。

（図１）



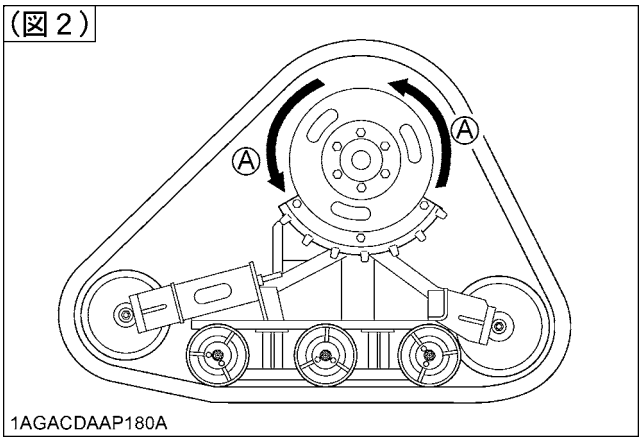
1AGACDAAP179C

Ⓐ“回転”
Ⓑこの位置で，一枚ずつスプロケットを交換する

■ゴムクローラの交換手順

1. 調整ボルトのロックナットを緩め，次に調整ボルトを回転させ，クローラの張りを緩めます。(**[日常点検［パワクロ仕様]]**の**［ゴムクローラの張り調整］**の項を参照)
2. 図１の　部に示した下側のスプロケットから順次２枚のスプロケットを外します。
3. 一枚のスプロケットを残したまま図２に示す位置まで車軸をゆっくり回転させ，古いゴムクローラを外します。
4. 新しいゴムクローラに置き換えた後，車軸を回転させ，スプロケットにゴムクローラを掛けます。
5. 外した２枚のスプロケットを取付け，ゴムクローラの張り調整を行なってください。

(図２)



Ⓐ**“回転”**

格納

■長期格納時の手入れ

注　意

＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

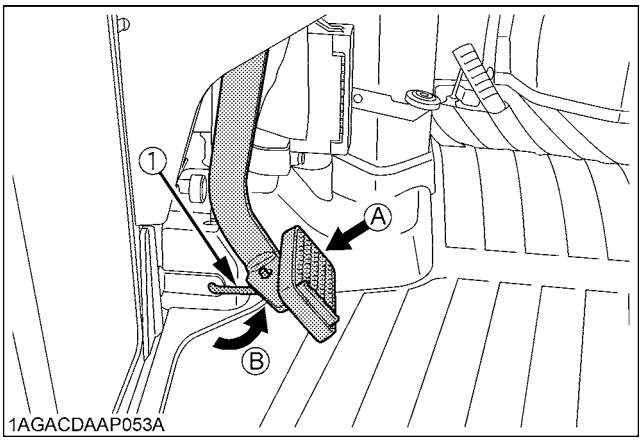
トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000rpm 以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ，各油圧シリンダの防錆運転を１～２ヶ月ごとに行なってください。
   (1) ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで１～２回まわす。
   (2) 油圧（ポジション）レバーで三点リンク(作業機)を最上昇位置まで１～２回上下させる。
   (3) モンロ手動スイッチ又は角度調整ダイヤルで，リフトシリンダ（右）を１～２回全ストローク伸縮させる。(作業機が装着されているときは作業機を上げてから行なってください)
6. 燃料コックを**［閉］**にしておいてください。
7. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
8. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

9. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
10. タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。
11. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(－側)を外してください。
12. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
13. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
14. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
15. 格納中バッテリは，１カ月に１回充電器で完全充電するようにしましょう。
16. 格納場所は，周囲にわらなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
17. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統の故障の原因になります。

◆ クラッチ［切］保持の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込み，**［ロック］**します。
(2) ロックしたまま，クラッチペダルから足を離します。これでクラッチは，**［切］**の状態で保持されます。
(3) 使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めば，**［ロック］**が外れ，**［切］**保持の状態が解除されます。



①ロック金具　　**Ⓐ“踏む”**
Ⓑ“ロック”

重　要

＊ クラッチペダルをロックせずに長期保管した場合，クラッチ板のさび付きにより，クラッチが切れなくなるだけでなくクラッチが損傷する場合があります。
＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。
(1) エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
(2) 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
(3) 三点リンク外部操作スイッチ，モンロー外部操作スイッチには直接水がかからないようにしてください。もし水が入ると故障の原因となります。
(4) 高圧洗車機を使用するときは，ノズルの先端をドア，リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため，室内に水が入るおそれがあります。**［安全キャブ仕様］**
＊ 格納時は，必ず**［切］**の位置でキーを抜いておいてください。
＊ バッテリの取付けの際には，(＋) と (－) をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタの電子機器類が破損する場合があります。

■長期格納後の運転

◆ エアコン

重　要

＊ オートエアコン付トラクタで長期放置（１ヶ月以上）後，オートエアコンを使用する場合は，コンプレッサ保護のため，必ず**エンジンアイドリング**にて風量切替スイッチ**［LO］**，A/C スイッチ**［ON］**にし，５分以上 A/C を作動させてください。
(AUTO スイッチでの起動ではコンプレッサが作動しない場合があります。)

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃，又は交換する。
水温計がH付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. インジェクタ不良	● インジェクタを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

現　象	原　因	処　置
エンジン異常警告灯が点灯する	—	● いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。 ● エンジンが再始動できない場合や警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。 ● 警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。 ＊ エンジンが突然止まった。 ＊ エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。 ＊ エンジン出力が充分でない。 ＊ エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。 ＊ エンジン回転がアイドリングから上がらない。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

■トラクタの故障と処置

異常が生じた場合，電子メータに異常箇所を示す下記メッセージが表示されます。
もし表示された場合，すぐ購入先に連絡して点検・整備を受けてください。
なお，故障箇所によっては緊急避難処置として一部使用制限をした使い方ができる場合もあります。詳細はメッセージと処置の欄を確認してください。

[コモンレール仕様エンジン]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
エンジン停止します　レール圧確認 購入先へ連絡して下さい	レール圧の異常	回転制限 3 分後エンジン停止します。
エンジン　水温センサ確認 購入先へ連絡して下さい	水温センサの異常	回転制限 EGR 停止します。
エンジン停止します レール圧センサ確認 購入先へ連絡して下さい	レール圧センサの異常	回転制限 3 分後エンジン停止します。
エンジン　インジェクタ確認 購入先へ連絡して下さい	インジェクタの異常	回転制限 レール圧制限（出力制限） (故障状態によって 3 分後エンジン停止)
エンジン　吸気圧センサ確認 購入先へ連絡して下さい	吸気圧センサの異常	出力不足
エンジン　グローリレー確認 購入先へ連絡して下さい	グローリレーの異常	グロー常時通電
エンジン EGR バルブ確認 購入先へ連絡して下さい	EGR バルブの異常 EGR DC モーターの異常 EGR リフトセンサの異常	回転制限 レール圧制限（出力制限）
バッテリ電圧確認 高電圧を検出	バッテリ電圧の異常	回転制限 レール圧制限（出力制限） EGR 停止
エンジン ECU 確認 購入先へ連絡して下さい	エンジン ECU の異常 エンジン ECU の通信異常	回転制限,またはエンジン停止
エンジン停止します エンジン SCV 確認 購入先へ連絡して下さい	SCV の異常	エンジン停止
エンジン メインリレー確認 購入先へ連絡して下さい	エンジンメインリレーの異常	
エンジン　PLV 確認 購入先へ連絡して下さい	PLV の異常	エンジン停止

[デュアルシフト仕様トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
主変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	変速レバーセンサの異常	最低速まで減速します。
副変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	副変速レバーセンサの異常	最低速まで減速します。
ブレーキセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	ブレーキセンサの異常	電子クラッチを切断します。
斜板センサ確認 購入先へ連絡して下さい	斜板センサの異常	電子クラッチを切断します。
DDT 増速ソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	DDT 増速ソレノイドの異常	電子クラッチを切断します。
バルブ（シャトル）確認 購入先へ連絡して下さい	シャトル圧力バルブの異常	電子クラッチを切断します。
シャトル前進ソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	シャトル前進ソレノイドの異常	前進できません。
シャトル後進ソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	シャトル後進ソレノイドの異常	後進できません。

[U シフト（前進 24 段仕様）トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
主変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。すみやかに停車し，購入先に連絡してください。
シフトソレノイド１確認 １，２，９速不可	ソレノイド１の異常	シフトソレノイド異常が発生すると，変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段，あるいはニュートラルに変速します。自動的に変速した変速段を表示しますので，変速段表示に注意して使用し，すみやかに購入先に連絡してください。
シフトソレノイド２確認 ３，４，10 速不可	ソレノイド２の異常	
シフトソレノイド３確認 ５，６，11 速不可	ソレノイド３の異常	
シフトソレノイド４確認 ７，８，12 速不可	ソレノイド４の異常	
副変速ソレノイド確認 １～８速不可	副変速ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 １，３，５，７速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
バルブ（GST，PRO）確認 購入先へ連絡して下さい	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡。

[U シフト（前進 30 段仕様）トランスミッション]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
主変速レバーセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	変速レバーセンサの異常	エンジン停止までは変速を保持します。すみやかに停車し，購入先に連絡してください。
シフトソレノイド 1 確認 1，2，9 速不可	ソレノイド 1 の異常	シフトソレノイド異常が発生すると，変速レバー位置はそのままでも自動的に使用可能な変速段，あるいはニュートラルに変速します。自動的に変速した変速段を表示しますので，変速段表示に注意して使用し，すみやかに購入先に連絡してください。
シフトソレノイド 2 確認 3，4，10 速不可	ソレノイド 2 の異常	
シフトソレノイド 3 確認 5，6，11 速不可	ソレノイド 3 の異常	
シフトソレノイド 4 確認 7，8，12 速不可	ソレノイド 4 の異常	
副変速ソレノイド確認 1～8 速不可	副変速ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 1，3，5，7 速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
OD ソレノイド確認 9～12 速不可	OD ソレノイドの異常	
H/L ソレノイド確認 3，5 速不可	Hi-Lo ソレノイドの異常	
シフトソレノイド 1 確認 1 速不可	ソレノイド 1 の異常	
シフトソレノイド 2 確認 2 速不可	ソレノイド 2 の異常	
シフトソレノイド 3 確認 3，4 速不可	ソレノイド 3 の異常	
シフトソレノイド 4 確認 5，6 速不可	ソレノイド 4 の異常	
バルブ（GST，PRO）確認 購入先へ連絡して下さい	U シフト圧力バルブの異常	購入先に連絡。

[モンローオート（ドラフト)]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
スイッチボックス確認 購入先へ連絡して下さい	MAスイッチボックス信号の異常	購入先に連絡。
リフトアームセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	リフトアームセンサの異常	高さ規制ダイヤルを**[3P 手動]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を操作する。
ポジションセンサ確認 3P 手動モードで操作できます	ポジションセンサの異常	
ストロークセンサ確認 モンロー手動スイッチで操作できます	ストロークセンサの異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
ドラフトセンサ確認 油圧レバーで操作できます	ドラフトセンサの異常	オートスイッチを**[切]**にし，油圧レバーで作業機を操作する。
カバーセンサ確認 E オートで使用できます	カバーセンサの異常	オートスイッチを**[E オート]**に切換えて使用する。
オートソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	3P ソレノイドの異常	購入先に連絡。 (作業機が昇降できない)
モンローソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	モンローソレノイドの異常	モンロスイッチを**[切]**にして使用する。
耕深調節確認 油圧レバーで操作できます	耕深調節の異常	オートスイッチを**[切]**にし，油圧レバーで作業機を操作する。
モンロー角度調節確認 モンロー手動スイッチで操作できます	モンロ角度調節の異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
ST センサ確認 購入先へ連絡して下さい	ST センサの異常	モンロスイッチを**[切]**にし，モンロ手動スイッチで作業機を平行にする。
高さ規制確認 購入先へ連絡して下さい	高さ規制の異常	購入先に連絡。
ポンパスイッチ確認 油圧レバーで操作できます	ポンパの異常	油圧レバーで作業機を操作する。
シャトルスイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	シャトルの異常	購入先に連絡。
PTO スイッチ確認 購入先へ連絡して下さい	PTO スイッチの異常	購入先に連絡。
アクセルセンサ確認 購入先へ連絡して下さい	アクセルセンサの異常	購入先に連絡。 (アイドリングになります)
エンジン回転センサ確認 オートで使用できます	エンジン回転センサの異常	オートスイッチを**「標準」**又は**「敏感」**に切換えて使用する。

[AD 倍速]

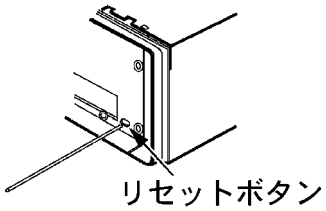
電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
切れ角センサ確認 AD倍速･オートアップが使用できません	切れ角センサの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD 又は 4WD]**に切換える。 オートアップスイッチを**[切]**にする。
2WD ソレノイド確認 2WD・倍速が使用できません	2WD ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[4WD]**に切換える。
倍速ソレノイド確認 倍速が使用できません	倍速ソレノイドの異常	走行モード切換スイッチを**[2WD 又は 4WD]**に切換える。
AD ソレノイド（右）確認 AD（右）が使用できません	AD ソレノイド（R）の異常	走行モード切換スイッチを**[2WD, 4WD 又は倍速]**に切換える。
AD ソレノイド（左）確認 AD（左）が使用できません	AD ソレノイド（L）の異常	

[その他]

電子メータメッセージの表示	原　因	処　置
PTO ソレノイド確認 購入先へ連絡して下さい	PTO 圧力バルブの異常	購入先に連絡。
通信確認 購入先へ連絡して下さい	通信回線の異常	表示切換スイッチで表示モードを切換える。購入先に連絡。
スイッチボックス確認 購入先へ連絡して下さい	MA スイッチボックス信号の異常	購入先に連絡。
ハーネス（赤白線）確認 購入先へ連絡して下さい	センサ電源ラインの異常	購入先に連絡。 (アイドリングになります)
ECU 確認 購入先へ連絡して下さい	ECU の異常	購入先に連絡。

■ AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　　象	原　　因	処　　置
電源が入らない (音が出ない)	ヒューズが切れている。	入っていたものと同じ容量のヒューズと交換する。 再度切れる場合は，購入先にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れる。
音飛びする ノイズなどが入る	CD が汚れている。	CD をやわらかい布でふく。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換する。
電源を入れた直後 音質が悪い	湿気の多いところに駐車すると，内部のレンズに水滴が付くことがあるため。	電源を入れた状態にして１時間乾燥させる。
ボタンを押しても動作しない ディスプレイが正確に表示されない	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約２秒間押す。リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリーなどが全て消えるので，もう一度設定し直す。  1AGAVAAAP148A

◆ エラー表示について

異常が生じたときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって障害を取除いてください。

表示エラーコード	原　　因	対処方法
ER 2	本機の CD デッキ内の CD が引っかかってイジェクトされないとき	引っかかる要素を取除く。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われるので，購入先にご相談ください。
ER 3	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき	傷やソリのない CD と交換する。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元
[デュアルシフト仕様]

型式名			KL31ZC	KL34ZC	KL37ZC
仕様			標準仕様／ハイスピード仕様		
駆動方式			４輪駆動		
機体寸法	全長 mm		3245		3385
	全幅 mm		1540		1525
	全高 mm		2235		2280
	軸距 mm		1805		1890
	輪距	前輪 mm	1130		1200
		後輪 mm	1205，1235（２段）		1210 ～ 1430
	最低地上高 mm		360		400
質量(重量) kg			1645〈1650〉		1810〈1815〉
エンジン	機関型式		D1803		V2203-CR
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル
	総排気量 L		1.826		2.197
	出力／回転速度 kW(PS)/rpm		22.8(31)/2600	25.0(34)/2700	27.2(37)/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 L		40		39
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）		
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R		
タイヤ	前輪		8-16		8-18
	後輪		13.6-24		12.4-28
車体	クラッチ方式		乾式単板		
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）		
	かじ取り方式		ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）		全油圧式パワーステアリング
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）		
	変速方式		デュアルシフト		
変速段数（段）			副変速：２段，主変速：無段 ＜副変速：３段，主変速：無段＞		
走行速度 (km/h)	前進		0.1 ～ 13.80 〈0.1 ～ 31.27〉	0.1 ～ 14.29 〈0.1 ～ 32.38〉	0.1 ～ 13.95 〈0.1 ～ 31.54〉
	後進		0.1 ～ 13.48 〈0.1 ～ 24.42〉	0.1 ～ 13.95 〈0.1 ～ 25.29〉	0.1 ～ 13.62 〈0.1 ～ 24.63〉
最小旋回半径（ブレーキ使用時） m			2.3		
PTO	回転速度／エンジン回転速度 rpm	正転	541，767，961，1288/2600	562，796，998，1337/2700	546，773，969，1298/2600
		逆転	764/2600	793/2700	770/2600
	軸寸法 mm		JIS 35		
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール		ポジションコントロール (MAD 仕様：ドラフトコントロール)
	装着方式		三点リンク　JIS　１形		

＜ ＞は KL31ZH，KL34ZH，KL37ZH ハイスピード仕様

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

[デュアルシフト仕様]

型式名			KL40ZC	KL44ZC	KL48ZC	KL53ZC	KL58ZC
仕様			標準仕様／ハイスピード仕様		ハイスピード仕様		
駆動方式			４輪駆動				
機体寸法	全長	mm	3385		3475		
	全幅	mm	1525	1550			
	全高	mm	2280		2300		
	軸距	mm	1890		1940		
	輪距 前輪	mm	1200		1215		
	輪距 後輪	mm	1210 ～ 1430	1210	1210 ～ 1430		
	最低地上高	mm	400		440		
質量（重量）		kg	1810 〈1815〉	1810 〈1815〉	1920		
エンジン	機関型式		V2203-CR	V2203-CR	V2403-CR	V2403-CR	V2403-CR
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				
	総排気量	L	2.197		2.434		
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	29.4(40) /2600	32.4(44) /2700	35.3(48) /2700	39.0(53) /2600	42.7(58) /2700
	使用燃料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量	L	39		48		
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）				
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R				
タイヤ	前輪		8-18		8.3-20		
	後輪		12.4-28	13.6-26	13.6-28		
車体	クラッチ方式		乾式単板				
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）				
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング				
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）				
	変速方式		デュアルシフト				
変速段数（段）			副変速：２段，主変速：無段 ＜副変速：３段，主変速：無段＞		副変速：３段，主変速：無段		
走行速度（km/h）	前進		0.1 ～ 13.95 〈0.1 ～ 31.54〉	0.1 ～ 14.46 〈0.1 ～ 32.70〉	0.1 ～ 32.73	0.1 ～ 31.52	0.1 ～ 32.73
	後進		0.1 ～ 13.62 〈0.1 ～ 24.63〉	0.1 ～ 14.12 〈0.1 ～ 25.54〉	0.1 ～ 25.56	0.1 ～ 24.61	0.1 ～ 25.56
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	2.3		2.4		
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm 正転	546，773 969，1298 /2600	566，802 1006，1348 /2700	561，795 997，1336 /2700	540，766 960，1286 /2600	561，795 997，1336 /2700
		逆転	770/2600	800/2700	792/2700	763/2600	792/2700
	軸寸法	mm	JIS 35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール（MAD 仕様：ドラフトコントロール）				
	装着方式		三点リンク　JIS　1 形				

＜　＞は KL40ZH，KL44ZH ハイスピード仕様

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

[U シフト仕様]

型式名			KL40ZF	KL44ZF	KL48ZF	KL53ZF	KL58ZF
仕様			標準仕様／ハイスピード仕様		ハイスピード仕様		
駆動方式			４輪駆動				
機体寸法	全長	mm	3385		3475		
	全幅	mm	1495 [1525]	1495 [1550]	1535 [1550]		[1550]
	全高	mm	2320 [2280]		2370 [2300]		[2300]
	軸距	mm	1890		1940		
	輪距 前輪	mm	1200		1215		
	輪距 後輪	mm	1140 ～ 1430 [1210 ～ 1430]	1140, 1210 [1210]	1140 ～ 1430 [1210 ～ 1430]		[1210 ～ 1430]
	最低地上高	mm	400		440		
質量（重量）		kg	1565 〈1570 [1760]〉	1565 〈1570 [1760]〉	1660 [1860]		[1860]
エンジン	機関型式		V2203-CR [V2203-CR]	V2203-CR [V2203-CR]	V2403-CR [V2403-CR]	V2403-CR [V2403-CR]	[V2403-CR]
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				
	総排気量	L	2.197		2.434		
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	29.4(40) /2600	32.4(44) /2700	35.3(48) /2700	39.0(53) /2600	42.7(58) /2700
	使用燃料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量	L	39		48		
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）				
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R				
タイヤ	前輪		8-18		8.3-20		
	後輪		12.4-28	13.6-26	13.6-28		
車体	クラッチ方式		乾式単板				
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）				
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング				
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）				
	変速方式		コンスタントメッシュ／U シフト				
変速段数（段）			前進：24 段，後進：16 段 ＜前進：30 段，後進：20 段＞		前進：30 段，後進：20 段		
走行速度（km/h）	前進		0.20 ～ 14.62 〈0.20 ～ 31.14〉	0.19 ～ 14.54 〈0.19 ～ 31.00〉	0.20 ～ 32.53	0.20 ～ 32.63	0.20 ～ 32.53
	後進		0.21 ～ 13.12 〈0.21 ～ 27.95〉	0.21 ～ 13.05 〈0.21 ～ 27.82〉	0.22 ～ 29.19	0.22 ～ 29.28	0.22 ～ 29.19
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	2.3		2.4		
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm 正転	549, 774 959, 1278 /2600	547, 772 956, 1274 /2700	557, 785 973, 1297 /2700	559, 788 976, 1301 /2600	557, 785 973, 1297 /2700
		逆転	959/2600	956/2700	973/2700	976/2600	973/2700
	軸寸法	mm	JIS 35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール（MAD 仕様：ドラフトコントロール）				
	装着方式		三点リンク　JIS　1 形				

[　] はキャブ仕様
〈　〉は KL40ZH, KL44ZH ハイスピード仕様

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

[デュアルシフト仕様]（パワクロ仕様）

型式名			KL31ZC-PC		KL37ZC-PC
仕様			標準仕様	ハイスピード仕様	
駆動方式			半装軌式（パワクロ）		
機体寸法	全長	mm	3210		3395
	全幅	mm	{1670}〈1450/1590〉		{1670}〈1590/1490〉
	全高	mm	2275		2320
	軸距	mm	1760		1890
	輪距 前輪	mm	1085		1200
	輪距 クローラ	mm	{1270}〈1200/1340〉		{1270}〈1340/1200〉
	最低地上高	mm	395		430
質量（重量）		kg	{1910}〈1885〉	{1920}〈1895〉	{2075}〈2050〉
エンジン	機関型式		D1803		V2203-CR
	形式		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル
	総排気量	L	1.826		2.197
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	22.8(31)/2700		27.2(37)/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量	L	40		39
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）		
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R		
タイヤ	前輪		8-16		8-18
	後輪		クローラタイプ		
車体	クラッチ方式		乾式単板		
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）		
	かじ取り方式		ボールスクリュ式（インテグラルパワーステアリング）		全油圧式パワーステアリング
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）		
	変速方式		デュアルシフト		
変速段数（段）			副変速：２段，主変速：無段	副変速：３段，主変速：無段	
走行速度（km/h）	前進		0.1 ～ 14.30	0.1 ～ 20.62	0.1 ～ 20.00
	後進		0.1 ～ 13.96	0.1 ～ 16.11	0.1 ～ 17.65
クローラ	幅×接地長	mm	{400 × 878}〈250 × 878〉		{400 × 1049}〈250 × 1049〉
	リンク数×ピッチ	mm	37 × 90		41 × 90
	接地面積	cm^2	{7024}〈4390〉		{8392}〈5245〉
	接地圧	kPa(kgf/cm^2)	{15.9(0.16)}〈25.5(0.26)〉		{14.1(0.14)}〈22.6(0.23)〉
	緩衝方式		揺動式（±９°）		
	遊輪／転輪		２／３		
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm 正転	562，796，998，1337/2700		546，773，969，1298/2600
		rpm 逆転	793/2700		770/2600
	軸寸法	mm	JIS 35		
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール（MAD 仕様：ドラフトコントロール）		
	装着方式		三点リンク　JIS　１形		

{　} は PC2 仕様，〈　〉は PC3 仕様
1. 接地面積＝接地長（前遊輪と後遊輪の中心間距離）×ゴムクローラ幅とする。
2. 後輪距はゴムクローラ中心間距離とする。
3. 揺動角度は車体に対する揺動角度とする。（車体の左側から見て時計回り方向を＋，反時計回り方向を－）

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

[デュアルシフト仕様]（パワクロ仕様）

型式名			KL40ZC-PC	KL44ZC-PC	KL48ZC-PC	KL53ZC-PC	KL58ZC-PC
仕様			ハイスピード仕様				
駆動方式			半装軌式（パワクロ）				
機体寸法	全長	mm	3395		3475		
	全幅	mm	{1670}〈1590/1490〉				
	全高	mm	2320		2335		
	軸距	mm	1890		1920		
	輪距 前輪	mm	1200		1215		
	輪距 クローラ	mm	{1270}〈1340/1200〉				
	最低地上高	mm	430		450		
質量（重量）		kg	{2075}〈2050〉	{2075}〈2050〉	{2145}〈2115〉		
エンジン	機関型式		V2203-CR	V2203-CR	V2403-CR	V2403-CR	V2403-CR
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル				
	総排気量	L	2.197		2.434		
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	29.4(40)/2600	32.4(44)/2700	35.3(48)/2700	39.0(53)/2600	42.7(58)/2700
	使用燃料		ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量	L	39		48		
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）				
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R				
タイヤ	前輪		8-18		8.3-20		
	後輪		クローラタイプ				
車体	クラッチ方式		乾式単板				
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）				
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング				
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）				
	変速方式		デュアルシフト				
変速段数（段）			副変速：３段，主変速：無段				
走行速度（km/h）	前進		0.1 ～ 22.60	0.1 ～ 23.47	0.1 ～ 25.22	0.1 ～ 24.28	0.1 ～ 25.22
	後進		0.1 ～ 17.65	0.1 ～ 18.33	0.1 ～ 19.69	0.1 ～ 18.96	0.1 ～ 19.69
クローラ	幅×接地長	mm	{400 × 1049}〈250 × 1049〉		{400 × 1079}〈250 × 1079〉		
	リンク数×ピッチ	mm	41 × 90		42 × 90		
	接地面積	cm^2	{8392}〈5245〉		{8632}〈5395〉		
	接地圧	kPa(kgf/cm^2)	{14.1(0.14)}〈22.6(0.23)〉	{14.3(0.15)}〈22.8(0.23)〉	{14.6(0.15)}〈23.3(0.24)〉		
	緩衝方式		揺動式（±９°）				
	遊輪／転輪		２／３				
PTO	回転速度／エンジン回転速度	rpm 正転	546，773 969，1298 /2600	567，803 1006，1348 /2700	562，796 997，1336 /2700	542，766 960，1286 /2600	562，796 997，1336 /2700
		rpm 逆転	770/2600	800/2700	793/2700	763/2600	793/2700
	軸寸法	mm	JIS 35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール（MAD 仕様：ドラフトコントロール）				
	装着方式		三点リンク　JIS　１形				

{ } は PC2 仕様，〈 〉は PC3 仕様
1. 接地面積＝接地長（前遊輪と後遊輪の中心間距離）×ゴムクローラ幅とする。
2. 後輪距はゴムクローラ中心間距離とする。
3. 揺動角度は車体に対する揺動角度とする。（車体の左側から見て時計回り方向を＋，反時計回り方向を－）

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

[U シフト仕様]（パワクロ仕様）

型式名			KL40ZF-PC	KL44ZF-PC	KL48ZF-PC	KL53ZF-PC
仕様			ハイスピード仕様			
駆動方式			半装軌式（パワクロ）			
機体寸法	全長	mm	3395		3475	
	全幅	mm	{1670}〈1590/1490〉			{1670}〈1590/1490〉 [{1550}〈1540/1440〉]
	全高	mm	2320		2335	2335 [2370]
	軸距	mm	1890		1920	
	輪距 前輪	mm	1200		1215	
	輪距 クローラ	mm	{1270}〈1340/1200〉			{1270}〈1340/1200〉 [{1150}〈1290/1150〉]
	最低地上高	mm	430		450	
質量（重量）		kg	{1960}〈1930〉	{1980}〈1950〉	{2085}〈2055〉	{2085}〈2055〉 [{1865}〈1835〉]
エンジン	機関型式		V2203-CR	V2203-CR	V2403-CR	V2403-CR [V2403-CR]
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル			
	総排気量	L	2.197		2.434	
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	29.4(40)/2600	32.4(44)/2700	35.3(48)/2700	39.0(53)/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量	L	39		48	
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ式）			
	バッテリ		80D26R 又は 85D26R			
タイヤ	前輪		8-18		8.3-20	
	後輪		クローラタイプ			
車体	クラッチ方式		乾式単板			
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）			
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング			
	差動方式		４ピニオンかさ歯車式（デフロック付）			
	変速方式		コンスタントメッシュ／Ｕシフト			
変速段数（段）			前進：30 段，後進：20 段			
走行速度（km/h）	前進		0.2 ～ 25.3	0.2 ～ 26.3		0.2 ～ 25.3
	後進		0.2 ～ 22.7	0.2 ～ 23.6		0.2 ～ 22.7
クローラ	幅×接地長	mm	{400 × 1049}〈250 × 1049〉		{400 × 1079}〈250 × 1079〉	
	リンク数×ピッチ	mm	41 × 90		42 × 90	
	接地面積	cm²	{8392}〈5245〉		{8632}〈5395〉	
	接地圧	kPa(kgf/cm²)	{13.7(0.14)} 〈21.9(0.22)〉	{13.8(0.14)} 〈22.2(0.23)〉	{14.2(0.14)}〈22.7(0.23)〉	
	緩衝方式		揺動式（±９°）			
	遊輪／転輪		２／３			
PTO	回転速度／エンジン回転速度 rpm	正転	536，756 937，1249 /2600	557，785 973，1297 /2700	557，785 973，1297 /2700	536，756 937，1249 /2600
		逆転	937/2600	973/2700	973/2700	937/2600
	軸寸法	mm	JIS 35			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール（MAD 仕様：ドラフトコントロール）			
	装着方式		三点リンク　JIS　１形			

[ ] は安全フレーム仕様，{ } は PC2 仕様，〈 〉は PC3 仕様
1. 接地面積＝接地長（前遊輪と後遊輪の中心間距離）×ゴムクローラ幅とする。
2. 後輪距はゴムクローラ中心間距離とする。
3. 揺動角度は車体に対する揺動角度とする。（車体の左側から見て時計回り方向を＋，反時計回り方向を－）

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

[デュアルシフト仕様]

(km/h)

デュアルシフト仕様		KL31Z		KL34Z		KL37Z		KL31ZH		KL34ZH		KL37ZH	
主変速レバー	副変速レバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
	低	0.1～6.09	0.1～5.95	0.1～6.31	0.1～6.16	0.1～5.77	0.1～5.63	0.1～6.09	0.1～5.95	0.1～6.31	0.1～6.16	0.1～5.77	0.1～5.63
	高	0.2～13.80	0.2～13.48	0.2～14.29	0.2～13.95	0.2～13.95	0.2～13.62	0.2～13.80	0.2～13.48	0.2～14.29	0.2～13.95	0.2～13.95	0.2～13.62
	高速走行	---	---	---	---	---	---	1.0～31.27	0.8～24.42	1.0～32.38	0.8～25.29	1.0～31.54	0.8～24.63

(km/h)

デュアルシフト仕様		KL40Z		KL44Z		KL40ZH		KL44ZH		KL53ZH		KL48ZH, KL58ZH	
主変速レバー	副変速レバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
	低	0.1～5.77	0.1～5.63	0.1～5.98	0.1～5.84	0.1～5.77	0.1～5.63	0.1～5.98	0.1～5.84	0.1～5.76	0.1～5.62	0.1～5.98	0.1～5.84
	高	0.2～13.95	0.2～13.62	0.2～14.46	0.2～14.12	0.2～13.95	0.2～13.62	0.2～14.46	0.2～14.12	0.2～13.94	0.2～13.61	0.2～14.48	0.2～14.13
	高速走行	---	---	---	---	1.0～31.54	0.8～24.63	1.0～32.70	0.8～25.54	1.0～31.52	0.8～24.61	1.0～32.73	0.8～25.56

※上記速度の値は,トラクタ単体状態における基準値であり,作業機の装着状態やほ場条件により,変化いたします。

［U シフト仕様］

(km/h)

U シフト仕様		KL40Z		KL44Z		KL40ZH		KL44ZH		KL53ZH		KL48ZH, KL58ZH	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	低	0.20	0.21	0.19	0.21	0.20	0.21	0.19	0.21	0.20	0.22	0.20	0.22
2		0.23	0.29	0.23	0.29	0.23	0.29	0.23	0.29	0.24	0.31	0.24	0.31
3		0.28	0.37	0.27	0.36	0.28	0.37	0.27	0.36	0.29	0.38	0.29	0.38
4		0.33	0.49	0.33	0.48	0.33	0.49	0.33	0.48	0.34	0.51	0.34	0.51
5		0.34	0.62	0.34	0.62	0.34	0.62	0.34	0.62	0.36	0.65	0.36	0.65
6		0.41	0.88	0.41	0.88	0.41	0.88	0.41	0.88	0.43	0.92	0.43	0.92
7		0.46	1.09	0.45	1.09	0.46	1.09	0.45	1.09	0.48	1.14	0.48	1.14
8		0.54	1.46	0.54	1.45	0.54	1.46	0.54	1.45	0.57	1.53	0.57	1.52
9		0.70	---	0.69	---	0.70	---	0.69	---	0.73	---	0.73	---
10		0.98		0.98		0.98		0.98		1.03		1.03	
11		1.22		1.21		1.22		1.21		1.27		1.27	
12		1.62		1.61		1.62		1.61		1.70		1.69	
1	高	1.74	1.86	1.73	1.85	1.74	1.86	1.73	1.85	1.82	1.95	1.82	1.95
2		2.08	2.63	2.07	2.61	2.08	2.63	2.07	2.61	2.17	2.75	2.17	2.74
3		2.46	3.25	2.44	3.24	2.46	3.25	2.44	3.24	2.57	3.41	2.56	3.40
4		2.93	4.34	2.91	4.32	2.93	4.34	2.91	4.32	3.07	4.54	3.06	4.53
5		3.04	5.57	3.03	5.54	3.04	5.57	3.03	5.54	3.19	5.83	3.18	5.81
6		3.63	7.85	3.61	7.81	3.63	7.85	3.61	7.81	3.80	8.22	3.79	8.20
7		4.06	9.73	4.04	9.68	4.06	9.73	4.04	9.68	4.25	10.19	4.24	10.16
8		4.83	13.12	4.81	13.05	4.83	12.97	4.81	12.91	5.06	13.59	5.05	13.54
9		6.20	---	6.17	---	6.20	---	6.17	---	6.50	---	6.48	---
10		8.75		8.71		8.75		8.71		9.16		9.14	
11		10.84		10.79		10.84		10.79		11.35		11.32	
12		14.62		14.54		14.45		14.38		15.14		15.09	
1	高速走行	---	---	---	---	13.37	12.00	13.31	11.94	14.01	12.57	13.96	12.53
2						18.85	16.92	18.77	16.84	19.75	17.73	19.69	17.67
3						19.60	20.96	19.51	20.86	20.54	21.96	20.47	21.89
4						23.36	27.95	23.25	27.82	24.47	29.28	24.40	29.19
5						26.13	---	26.01	---	27.38	---	27.30	---
6						31.14		31.00		32.63		32.53	

※上記速度の値は，トラクタ単体状態における基準値であり，作業機の装着状態やほ場条件により，変化いたします。

[デュアルシフト仕様]（パワクロ仕様）

(km/h)

デュアルシフト仕様		KL31Z-PC		KL31ZH-PC		KL37ZH-PC	
主変速レバー	副変速レバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進
	低	0.1 ～ 6.12	0.1 ～ 5.98	0.1 ～ 6.12	0.1 ～ 5.98	0.1 ～ 5.38	0.1 ～ 5.25
	高	0.2 ～ 14.30	0.2 ～ 13.96	0.2 ～ 14.30	0.2 ～ 13.96	0.2 ～ 13.02	0.2 ～ 12.71
	高速走行	---	---	1.0 ～ 20.62	0.8 ～ 16.11	1.0 ～ 20.00	0.8 ～ 17.65

(km/h)

デュアルシフト仕様		KL40ZC-PC		KL44ZC-PC		KL53ZC-PC		KL48ZC-PC, KL58ZC-PC	
主変速レバー	副変速レバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
	低	0.1 ～ 5.38	0.1 ～ 5.25	0.1 ～ 5.59	0.1 ～ 5.45	0.1 ～ 5.78	0.1 ～ 5.64	0.1 ～ 6.00	0.1 ～ 5.86
	高	0.2 ～ 13.02	0.2 ～ 12.71	0.2 ～ 13.52	0.2 ～ 13.19	0.2 ～ 13.99	0.2 ～ 13.65	0.2 ～ 14.53	0.2 ～ 14.18
	高速走行	1.0 ～ 22.60	0.8 ～ 17.65	1.0 ～ 23.47	0.8 ～ 18.33	1.0 ～ 24.28	0.8 ～ 18.96	1.0 ～ 25.22	0.8 ～ 19.69

※上記速度の値は，トラクタ単体状態における基準値であり，作業機の装着状態やほ場条件により，変化いたします。

［U シフト仕様］（パワクロ仕様）

(km/h)

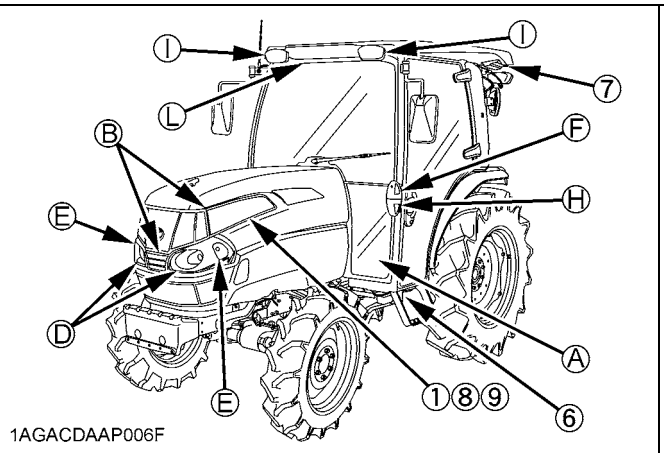
U シフト仕様		KL40ZF-PC		KL44ZF-PC		KL53ZF-PC		KL48ZF-PC	
主変速レバー	クリープレバー	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	低	0.20	0.21	0.20	0.22	0.20	0.21	0.20	0.22
2		0.24	0.30	0.24	0.31	0.24	0.30	0.24	0.31
3		0.28	0.37	0.29	0.38	0.28	0.37	0.29	0.38
4		0.33	0.49	0.34	0.51	0.33	0.49	0.34	0.51
5		0.34	0.63	0.36	0.65	0.34	0.63	0.36	0.65
6		0.41	0.89	0.43	0.92	0.41	0.89	0.43	0.92
7		0.46	1.10	0.48	1.14	0.46	1.10	0.48	1.14
8		0.55	1.47	0.57	1.53	0.55	1.47	0.57	1.53
9		0.70	---	0.73	---	0.70	---	0.73	---
10		0.99		1.03		0.99		1.03	
11		1.23		1.28		1.23		1.28	
12		1.64		1.70		1.64		1.70	
1	高	1.76	1.88	1.82	1.95	1.76	1.88	1.82	1.95
2		2.09	2.65	2.17	2.75	2.09	2.65	2.17	2.75
3		2.48	3.28	2.57	3.41	2.48	3.28	2.57	3.41
4		2.95	4.38	3.07	4.55	2.95	4.38	3.07	4.55
5		3.07	5.62	3.19	5.83	3.07	5.62	3.19	5.83
6		3.66	7.92	3.80	8.23	3.66	7.92	3.80	8.23
7		4.09	9.82	4.25	10.19	4.09	9.82	4.25	10.19
8		4.88	13.09	5.07	13.59	4.88	13.09	5.07	13.59
9		6.26	---	6.50	---	6.26	---	6.50	---
10		8.83		9.17		8.83		9.17	
11		10.94		11.36		10.94		11.36	
12		14.58		15.14		14.58		15.14	
1	高速走行	10.87	9.75	11.28	10.13	10.87	9.75	11.28	10.13
2		15.32	13.75	15.91	14.28	15.32	13.75	15.91	14.28
3		15.93	17.04	16.54	17.69	15.93	17.04	16.54	17.69
4		18.98	22.72	19.71	23.59	18.98	22.72	19.71	23.59
5		21.24	---	22.06	---	21.24	---	22.06	---
6		25.31		26.28		25.31		26.28	

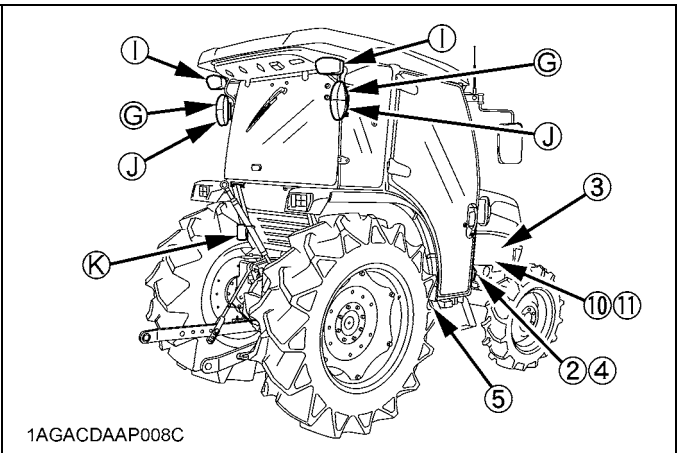
※上記速度の値は，トラクタ単体状態における基準値であり，作業機の装着状態やほ場条件により，変化いたします。

■標準付属品

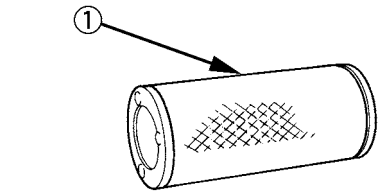
品　　名	数量 / 台	備　　考
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
メンテナンスブック	1	
取扱説明確認カード	1	
PTO 軸キャップ	1	
ボルト	1	PTO 軸キャップ用
取扱いのポイント	1	
e クルーズ運転ガイド	1	デュアルシフト仕様のみ （ただし，KL31Z(H・-PC)・KL34Z(H) 除く）
省エネ運転ガイド	1	U シフト仕様と一部デュアルシフト仕様（KL31Z(H・-PC)・KL34Z(H)） U シフト仕様とデュアルシフト仕様とで記載内容異なる。
CD プレーヤ取外し金具	1	安全キャブ仕様のみ（使用方法は 98 ページ参照）
ロータリ爪固定工具セット	1	工具２個，説明書１枚（U シフト仕様のみ）
インプルメント操作ボックス固定用金具セット	1	金具上下各１個，取付ネジ４個（安全キャブ仕様のみ）
パワクロメンテナンスシート	1	パワクロ仕様のみ

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

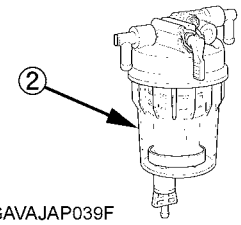




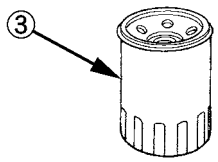
エアクリーナエレメント



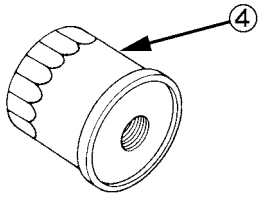
セパレータエレメント



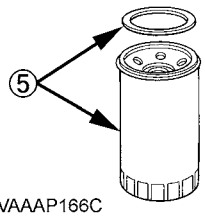
フューエルフィルタ



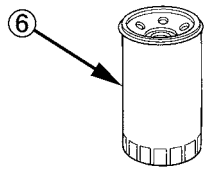
エンジンオイルフィルタ



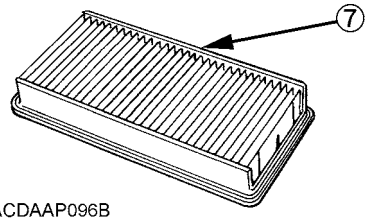
油圧オイルフィルタ



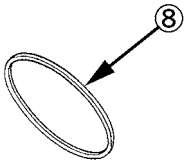
トランスミッションオイルフィルタ



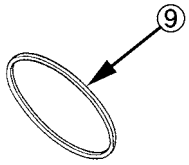
外気フィルタエレメント



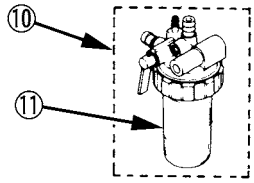
ファンベルト



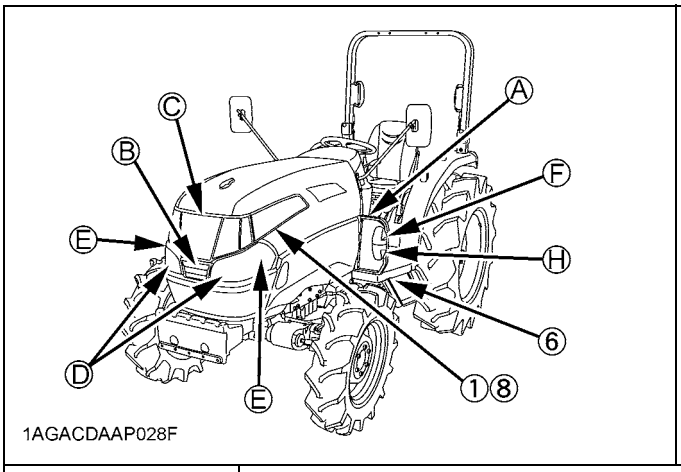
エアコンベルト



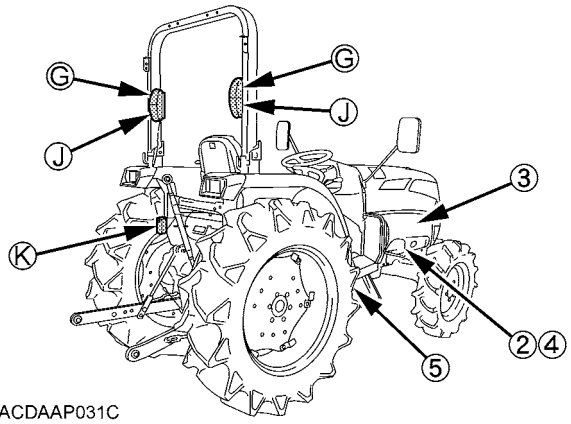
燃料フィルタ



図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
①	エアクリーナエレメント［KL31Z(H)・34Z(H)・37Z(H)・40Z(H)・44Z(H) 仕様 (-PC 含む)］	T1270-1632-0	⑦	外気フィルタエレメント［安全キャブ仕様］	T1855-7160-0
	エアクリーナエレメント［KL48ZH・53ZH・58ZH 仕様 (-PC 含む)］	R1401-4227-0	⑧	ファンベルト［KL31Z(H)・34Z(H)・37Z(H)・40Z(H)・44Z(H) 仕様 (-PC 含む)］	17265-9702-0
②	セパレータエレメント［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH 仕様 (-PC 含む)］	RD451-5194-0		ファンベルト［KL48ZH・53ZH・58ZH 仕様 (-PC 含む)］	T1420-1780-0
③	フューエルフィルタ［KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH 仕様 (-PC 含む)］	1J800-4317-0	⑨	エアコンベルト	T1065-7932-0
			⑩	フューエルフィルタアッシ［KL31Z(H)・34Z(H) 仕様 (-PC 含む)］	16271-4301-3
④	エンジンオイルフィルタ	16414-3243-0			
⑤	油圧オイルフィルタ	T0070-3771-4	⑪	フィルタエレメント［KL31Z(H)・34Z(H) 仕様 (-PC 含む)］	16271-4356-0
⑥	トランスミッションオイルフィルタ (HST)［デュアルシフト仕様］	TA240-5990-0			

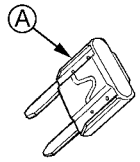


1AGACDAAP028F



1AGACDAAP031C

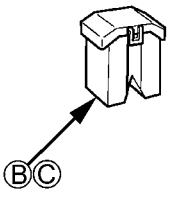
ヒューズ



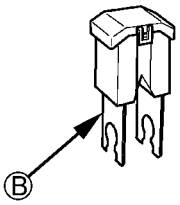
1AQAAAAAP033F

スローブローヒューズ

［プラグインタイプ］



［ネジ止めタイプ］



1AGADAPAP090F

電球

Ⓓ ヘッドライト
Ⓔ 作業灯（ヘッドライト横）
Ⓕ ウインカ前
Ⓖ ウインカ後
Ⓗ 車幅灯
Ⓘ 作業灯
Ⓙ 尾灯，ブレーキランプ
Ⓚ バックランプ
Ⓛ ルームランプ

1AQAAAAAP030N

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
Ⓐ	ヒューズ（ミニ 30A）	T1060-3047-0	Ⓓ	デンキュウ（H4,12V,60W/55W）	3C081-7581-0
	ヒューズ（ミニ 20A）	T1060-3046-0	Ⓔ	デンキュウ（21W）	3C081-7582-0
	ヒューズ（ミニ 15A）	T1060-3045-0	Ⓕ	デンキュウ（21W）	T1880-9911-0
	ヒューズ（ミニ 10A）	T1060-3044-0	Ⓖ	デンキュウ（21W）	T1880-9911-0
	ヒューズ（ミニ 7.5A）	T1150-3048-0	Ⓗ	デンキュウ（5W）	T1880-9914-0
	ヒューズ（ミニ 5A）	T1060-3043-0	Ⓘ	デンキュウ（12V,35W ハロゲン）	T1275-9106-0
Ⓑ	スローブローヒューズ（80A）（ネジ止めタイプ）	T1270-3058-0	Ⓙ	デンキュウ（5W/21W）	T1880-9912-0
			Ⓚ	デンキュウ（21W）	T2255-9912-0
	スローブローヒューズ（60A）（ネジ止めタイプ）	T1270-3050-0	Ⓛ	デンキュウ（5W）	3C581-5422-0
	スローブローヒューズ（50A）（プラグインタイプ）	T1060-3053-0			
	スローブローヒューズ（40A）（プラグインタイプ）	T1060-3052-0			
Ⓒ	電源取出ヒューズ（60A）（プラグインタイプ）	T1150-3050-0			

パワクロ仕様足回り交換部品一覧表

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様
クローラ			
T3512-8467-0	クローラ（ゴム 400*37*90WX）	KL31Z(H)-PC	PC2 仕様（ハイラグ）37 リンク
T3513-8467-0	クローラ（ゴム 250*37*90WX）		PC3 仕様（幅狭クローラ）37 リンク
T1822-8467-0	クローラ（ゴム 400*41*90WX）	KL37，40，44ZH-PC	PC2 仕様（ハイラグ）41 リンク
T1823-8467-0	クローラ（ゴム 250*41*90WX）		PC3 仕様（幅狭クローラ）41 リンク
T1842-8467-0	クローラ（ゴム 400*42*90WX）	KL48，53，58ZH-PC	PC2 仕様（ハイラグ）42 リンク
T1843-8467-0	クローラ（ゴム 250*42*90WX）		PC3 仕様（幅狭クローラ）42 リンク
転輪			
T3632-8402-0	トラックローラ，アッシ（F，S）	KL31Z(H)-PC	中転輪
T3632-8403-0	トラックローラ，アッシ（R，ヒダリ）		前・右転輪 後・左転輪
T3632-8503-0	トラックローラ，アッシ（R，ミギ）		前・左転輪 後・右転輪
T1842-8402-0	トラックローラ，アッシ（F，S）	KL37，40，44，48，53，58ZH-PC	KL37，40，44ZH-PC 中転輪 KL48，53，58ZH-PC 前・中転輪
T1842-8403-0	トラックローラ，アッシ（R，ヒダリ）		KL37，40，44ZH-PC 後・左転輪，前・右転輪 KL48，53，58ZH-PC 後・左転輪
T1842-8503-0	トラックローラ，アッシ（R，ミギ）		KL37，40，44ZH-PC 後・右転輪，前・左転輪 KL48，53，58ZH-PC 後・右転輪
遊輪			
T1680-8405-0	アイドラ，アッシ（250，グリースアップ）	KL31Z(H)-PC	前後遊輪
T1882-8406-0	アイドラ，アッシ（250）	KL37，40，44，48，53，58ZH-PC	前遊輪
T1884-8406-0	アイドラ，アッシ（310）		後遊輪
スプロケット			
T3632-8407-0	スプロケット	全型式	
ガイド			
T3632-8458-0	ガイド（クローラ）	KL31Z(H)-PC	
T1842-8458-0	ガイド（クローラ）	KL37，40，44，48，53，58ZH-PC	

アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
三点リンク				
T0050-3910-0	トップリンクアッシ	KL31Z(H)-PC	一般作業機用	
T0070-3910-0	トップリンクアッシ	KL31Z(H) KL34Z(H)	一般作業機用	
T1150-3910-0	トップリンクアッシ	KL37Z(H) KL40Z(H) KL44Z(H)	一般作業機用	
35080-7110-0	トップリンクアッシ	KL48ZH KL53ZH KL58ZH	一般作業機用	
ウエイト				
99891-1100-0	ウエイト，キット	全型式	前部フック式ウエイト（25kg）	標準装備のウエイト取付台に装着 ただし，KL31Z(H)，KL34Z(H) のみバンパ(20)(T3632-4976-0) が必要
99921-1700-0	ウエイト取付台アッシ	KL37Z(H,-PC) KL40Z(H,-PC) KL44Z(H,-PC) KL48ZH(-PC) KL53ZH(-PC) KL58ZH(-PC)	25kg ウエイト 10 枚まで 標準装備のウエイト取付台と交換	99891-1100-0 ウエイトキット (25kg)
T3632-4976-0	バンパ (20)	KL31Z(H) KL34Z(H) KL31Z(H)-PC	25kg ウエイト４枚まで (KL31Z(H)-PC は標準装備)	99891-1100-0 ウエイト，キット (25kg) ホイール仕様に装着する場合は，前車軸フレーム前部に取付けているバンパを取外して装着
99891-1700-0	ウエイト取付台アッシ (PC6)		25kg ウエイト６枚まで	99891-1100-0 ウエイト，キット (25kg)
99911-1700-0	ウエイト取付台アッシ (PC10)		25kg ウエイト 10 枚まで	99891-1100-0 ウエイト，キット (25kg)
99261-1100-2	前部ウエイト（25kg）	全型式	前部フック式ウエイト	取付台アッシ６，10 必要
99431-1700-0	ウエイト取付台アッシ６		25kg ウエイト６枚まで	99261-1100-0 前部ウエイト（25kg）
99591-1700-0	ウエイト取付台アッシ 10		25kg ウエイト 10 枚まで	99261-1100-0 前部ウエイト（25kg）

付表

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
T0070-4980-0	ウエイト（ホジョ）	KL31Z(H) KL34Z(H)	10kg × 2 個 前車軸フレームの前部内側の取付け	01133-51230…4 コ (ボルト)
99221-1200-2	前部ウエイトアッシ		28kg ウエイト 3 枚まで バンパの前部に取付け	
T1770-4974-0	バンパ (15)		15kg, 20kg, 30kg, 40kg 前車軸フレーム前部に取付けているバンパを取外して装着するウエイト	30400-44891…2 コ (ボルト) 02771-50100…2 コ (ナット)
T2250-4977-0	バンパ (20)			
T2250-4978-0	バンパ (30)			34070-49731…2 コ (ボルト) 02174-50120…2 コ (ナット) 04512-50120…2 コ (バネザガネ)
T1770-4980-0	バンパ (40)			01774-51275…2 コ (ボルト) 02174-50120…2 コ (ナット) 04512-50120…2 コ (バネザガネ)
99831-1500-0	後輪ウエイトアッシ	KL44Z(H)	33kg × 6 個	
99831-1511-0	後輪ウエイト		33kg (12.6-26, 13.6-26 用) 99831-15001 に必要に応じて追加	
99411-1500-0	後輪ウエイトアッシ	KL37Z(H) KL40Z(H) KL48ZH KL53ZH KL58ZH	35kg × 6 個	

品　番	品　名	適応型式	用途・仕様	併用アタッチメント
その他				
99563-8100-2	キャノピ（簡易型）	全型式	ホロ製日よけ。 安全キャブ仕様には装着できません。	
99571-9100-0	作業灯アッシ		12V27W　1個口 安全キャブ仕様には装着できません。	
96397-1510-0	洗車ポンプ		後部 PTO に取付け スーパージョイント付には取付けできません。	
99563-8500-0	キャノピアッシ		樹脂製折りたたみ日よけ。 安全キャブ仕様には装着できません。	
99233-7500-2	ヒッチアッシ	KL31Z(H) KL34Z(H) KL31Z(H)-PC		
99583-7500-2	スイングドローバアッシ	KL37Z(H) KL40Z(H) KL44Z(H) KL48ZH KL53ZH KL58ZH(-PC)		
99705-6700-2	燃料供給台 A アッシ		ボンネット右に取付け	フロントローダとの共着はできません

付表

インプルメント一覧表

注 意

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装着し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装着してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

◆ ロータリ・補助ユニット

品 番	品 名	適 応 型 式	
		KL31Z(H)	KL34Z(H)
7C117-02044	RL170R	○	○
7C117-00044	RL170R-B	○	○
7C117-05044	RL170R-C	○	○
7C117-02054	RL170R-V	○	○
7C117-00054	RL170R-VB	○	○
7C117-05054	RL170R-VC	○	○
7C118-02044	RL180R	○	○
7C118-05044	RL180R-C	○	○
7C118-02054	RL180R-V	○	○
7C118-05054	RL180R-VC	○	○
7C119-02044	RL190R	○	○
7C119-05044	RL190R-C	○	○
7C100-06000	U310Q-12RF 補助ユニット	○	○
7C100-08000	WU270Q-12RF 補助ユニット	○	○

品 番	品 名	適 応 型 式
		KL31Z(H)-PC
7C118-02044	RL180R	○
7C118-05044	RL180R-C	○
7C118-02054	RL180R-V	○
7C118-05054	RL180R-VC	○
7C119-02044	RL190R	○
7C119-05044	RL190R-C	○
7C100-03000	U260PCQ-12RF 補助ユニット	○
7C100-05000	U341PCQ-12RF 補助ユニット（※1）	○
7C100-08500	WU280PCQ-12RF 補助ユニット	○

補　足

＊ RL, RM:サイドドライブロータリ, R:センタドライブロータリ, X:正逆転ロータリ, K:シリーズ記号, F：細土用, B：後２輪付, C：４輪キャスタ付, V：Vカットカバー付, W2：200mm 延長付
＊ U：特殊 3P 式補助ユニット, WU：W3P 式補助ユニット
※１：トラクタ　ドラフト仕様用補助ユニット

◆ ロータリ・補助ユニット

品　番	品　　名	適　応　型　式		
		KL37Z(H) KL40Z(H) KL44Z(H)	KL48ZH KL53ZH	KL58ZH
7E117-00044	RM170Z-B	○	○	○
7E117-05044	RM170Z-C	○	○	○
7E117-00644	RM170Z-LB	○	○	○
7E117-05644	RM170Z-LC	○	○	○
7E118-00044	RM180Z-B	○	○	○
7E118-05044	RM180Z-C	○	○	○
7E118-00644	RM180Z-LB	○	○	○
7E118-05644	RM180Z-LC	○	○	○
7E119-00044	RM190Z-B	○	○	○
7E119-05044	RM190Z-C	○	○	○
7E119-00644	RM190Z-LB	○	○	○
7E119-05644	RM190Z-LC	○	○	○
7E120-00044	RM200Z-B		○	○
7E120-05044	RM200Z-C		○	○
7E120-00644	RM200Z-LB		○	○
7E120-05644	RM200Z-LC		○	○
7E122-00044	RM220Z-B		○	○
7E122-05044	RM220Z-C		○	○
7E122-00644	RM220Z-LB		○	○
7E122-05644	RM220Z-LC		○	○
7E124-05044	RM240Z-C			○
7E124-05644	RM240Z-LC			○
7E100-02000	U400Q-12RF 補助ユニット	○		
7E100-03000	U481Q-12RF 補助ユニット（※１）		○	
7E100-04000	U480Q-12RF 補助ユニット		○	
7E100-08000	WU400Q-12RF 補助ユニット	○	○	○

付表

品　番	品　　名	適　応　型　式		
		KL37ZH-PC KL40ZH-PC KL44ZH-PC	KL48ZH-PC KL53ZH-PC	KL58ZH-PC
7E117-00044	RM170Z-B	○（※２）		
7E117-05044	RM170Z-C	○（※２）		
7E117-00644	RM170Z-LB	○（※２）		
7E117-05644	RM170Z-LC	○（※２）		
7E118-00044	RM180Z-B	○（※２）		
7E118-05044	RM180Z-C	○（※２）		
7E118-00644	RM180Z-LB	○（※２）		
7E118-05644	RM180Z-LC	○（※２）		
7E119-00044	RM190Z-B	○	○	○
7E119-05044	RM190Z-C	○	○	○
7E119-00644	RM190Z-LB	○	○	○
7E119-05644	RM190Z-LC	○	○	○
7E120-00044	RM200Z-B	○	○	○
7E120-05044	RM200Z-C	○	○	○
7E120-00644	RM200Z-LB	○	○	○
7E120-05644	RM200Z-LC	○	○	○
7E122-00044	RM220Z-B		○	○
7E122-05044	RM220Z-C		○	○
7E122-00644	RM220Z-LB		○	○
7E122-05644	RM220Z-LC		○	○
7E124-05044	RM240Z-C			○
7E124-05644	RM240Z-LC			○
7E100-08000	WU400Q-12RF 補助ユニット	○	○	○

補　足

＊ RM：サイドドライブロータリ，Z：シリーズ記号，B：後２輪付，C：４輪キャスタ付，
　L：１枚カバー仕様
＊ U：特殊 3P 式補助ユニット，WU：W3P 式補助ユニット
※１：ドラフト仕様用補助ユニット
※２：PC3 のみ適応

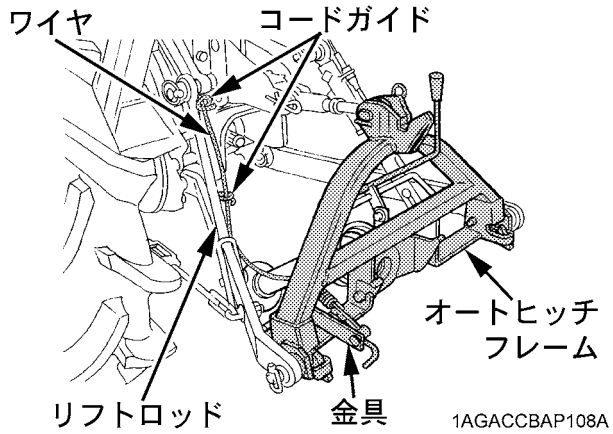
センサリンク取付要領

トラクタの出荷部品に入っているセンサリンクをオートヒッチフレーム及びロータリに取付ける場合は，以下の要領で行なってください。
また，作業機を取付けない時は，オートワイヤを収納してください。(**[作業のしかた]**の章の**[オートワイヤ]** の項を参照)

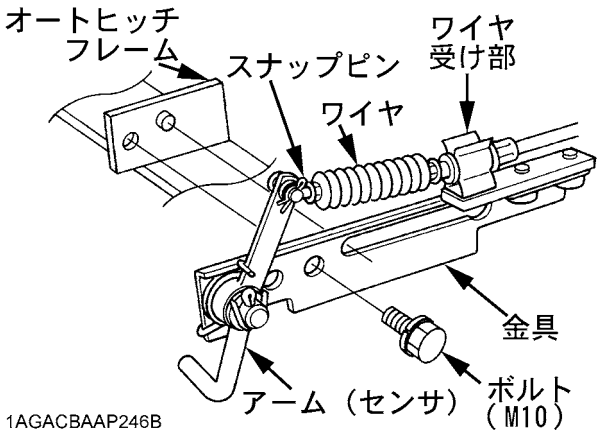
◆ オートヒッチフレーム側

[特殊 3P 仕様]

1. リフトロッドの上下にあるコードガイドにワイヤを通します。
2. 金具をオートヒッチフレームにボルト（M10）で取付けます。
3. 仮付けしてあるスナップピンを外し，ワイヤをアーム（センサ）に取付け，スナップピンでセットします。
4. ワイヤを金具のワイヤ受け部に取付けます。



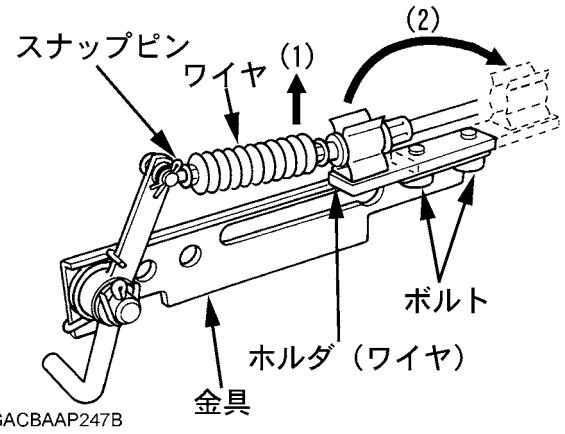
1AGACCBAP108A



1AGACBAAP246B

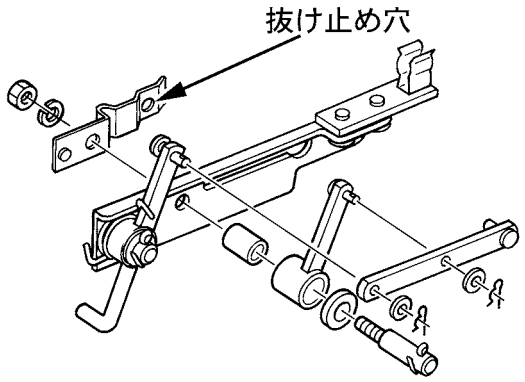
[W3P 仕様]

1. 特殊 3P 仕様の金具を組替えてください。
   (1) スナップピンを外し，金具とホルダ（ワイヤ）からワイヤを取外します。
   (2) ボルトを外しホルダ（ワイヤ）を逆向きに組替えます。



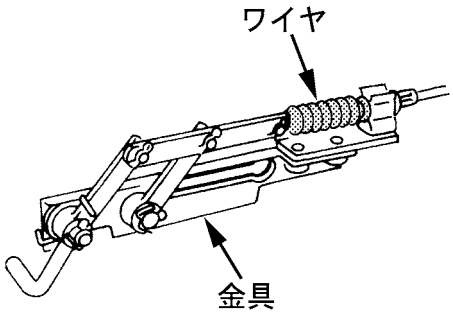
1AGACBAAP247B

2. 付属の部品を下図の様に取付けてください。
   (付属の部品は「W3P」用補助ユニットに入っています。)



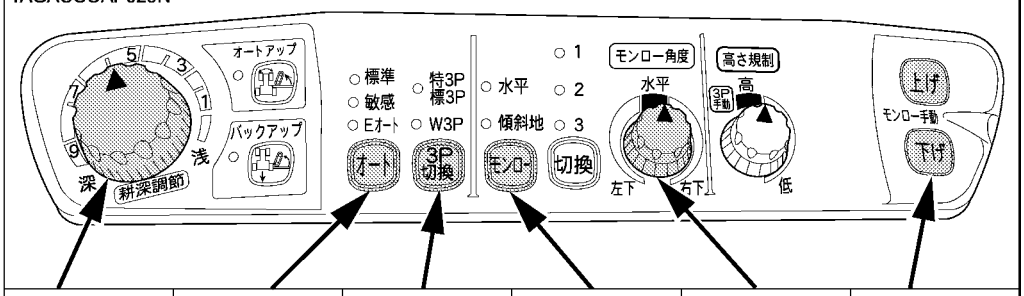
1AHACAEAP034B

3. ワイヤを金具に組付けます。



1AGACBAAP249A

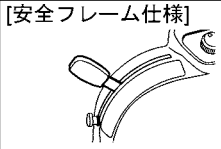
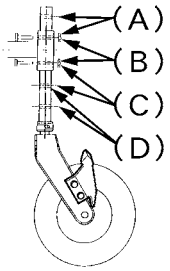
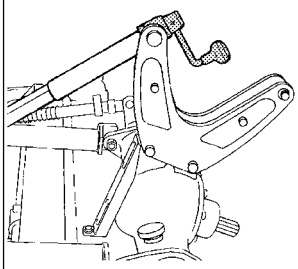
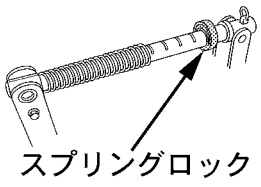
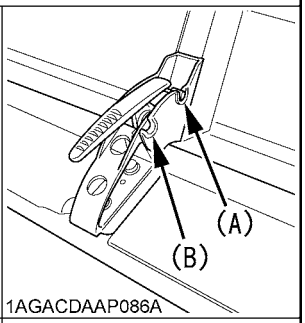
作業ごとの一般的な調整要領

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="3">作業内容</th><th colspan="6">操作調整箇所</th></tr>
<tr><td colspan="6">1AGACCOAP029N
 
</td></tr>
<tr><td>耕深調節
ダイヤル</td><td>オート
スイッチ</td><td>３Ｐ切換
スイッチ</td><td>モンロ
スイッチ</td><td>モンロ角度
ダイヤル</td><td>モンロ手動
スイッチ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">モンロー
マチック・
オート
［入］
(MA・MAD仕様)</td><td>浅起こし
(5～8cm)</td><td rowspan="6">希望耕深になるよう調節</td><td rowspan="3">標　準
又は
敏　感</td><td rowspan="6">特３Ｐ仕様は，特３Ｐ
標３Ｐ

Ｗ３Ｐ仕様は，Ｗ３Ｐ</td><td rowspan="5">水平</td><td rowspan="5">水平</td><td rowspan="5">－</td></tr>
<tr><td>一般耕うん
(8～15cm)</td></tr>
<tr><td>深起こし
(15cm以上)</td></tr>
<tr><td>代かき
湿　田</td><td>敏　感
又は
標　準</td></tr>
<tr><td>カバーを
上げての
耕うん</td><td rowspan="2">Ｅオート</td></tr>
<tr><td>傾斜地の
耕うん</td><td>標　準
又は
敏　感</td><td>傾斜地</td><td>タイヤ沈下量に応じ調整</td></tr>
<tr><td rowspan="6">モンロー
マチック・
オート
［切］</td><td>浅起こし
(5～8cm)</td><td rowspan="6">－</td><td rowspan="6">切
(全ランプ
消灯)</td><td rowspan="6">－</td><td rowspan="6">切
(全ランプ
消灯)</td><td rowspan="6">－</td><td rowspan="6">－</td></tr>
<tr><td>一般耕うん
(8～15cm)</td></tr>
<tr><td>深起こし
(15cm以上)</td></tr>
<tr><td>代かき</td></tr>
<tr><td>うね立て</td></tr>
<tr><td>傾斜地の
耕うん</td></tr>
</table>

補　足

＊ ワンタッチ耕うんモードスイッチを**［入］**にすると，モンロ水平，オート標準，AD 倍速，オートアップ，バックアップが**［入］**になります。（**［作業のしかた］**の章の**［ワンタッチ耕うんモードスイッチ］**の項を参照）

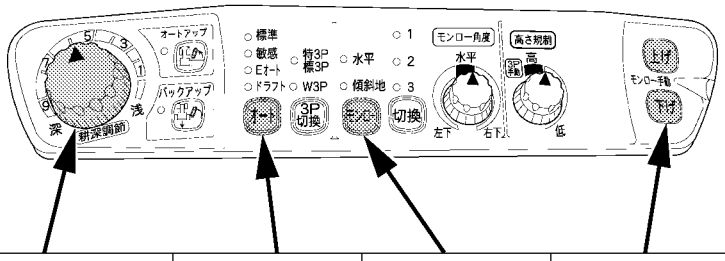
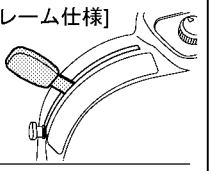
操作調整箇所				
[安全フレーム仕様]  [安全キャブ仕様] 1AGACDAAP002D	 1AHACAGAP016C	 1AHAEABAP057C	 1AHADACAP018D	 1AGACDAAP086A
油圧(ポジション)レバー	後2輪上下調節	後2輪ハンドル	スプリングロック	フラップカバー
最下位置	後2輪を外す	−	ロータリカバー2を下げる スプリングロックを接地圧条件に合せてセット	(B)の位置
				(A)の位置
				(B)の位置
				任意調整
				耕うん深さに応じ任意調整
最下位置	(A)又は(B)の位置	希望耕深になるよう調整 (うね立て時は後2輪ハンドルで，うね高さを調整する)	ロータリカバー2を下げる スプリングロックを接地圧条件に合せてセット	(B)の位置
	(B)の位置 (必要に応じて(C)の位置)			(A)の位置
	(D)の位置			
	(A)の位置			(B)の位置
	後2輪を外す			フラップカバーを外す
	耕うん深さに応じ任意調整			耕うん深さに応じ任意調整

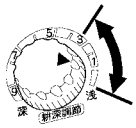
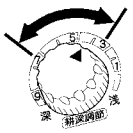
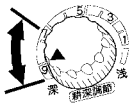
補　足

＊ 主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件にあわせ適宜調整してください。

＊ 高さ規制・オートアップ・バックアップスイッチなどは，作業に応じて使用してください。

オートドラフトコントロールによる作業要領［MAD 仕様］

<table>
<tr><td rowspan="2" colspan="2">作業内容</td><td colspan="4">操　作　調　整　箇　所</td></tr>
<tr><td colspan="3">1AGACCOAP030K
 
</td><td>[安全フレーム仕様]
 
[安全キャブ仕様]

1AGACDAAP002E</td></tr>
<tr><td>耕深調節
ダイヤル</td><td>オート
スイッチ</td><td>モンロ
スイッチ</td><td>モンロ手動
スイッチ</td><td>油圧(ポジション)レバー</td></tr>
<tr><td rowspan="4">オート
ドラフト
［入］</td><td>浅起こし</td><td>  </td><td rowspan="4">［ドラフト］用
スイッチ
ランプ
点灯位置</td><td rowspan="4">操作不要</td><td rowspan="4">任意の角度に
作業機を傾斜
させる</td><td rowspan="3">
［最下位置］</td></tr>
<tr><td>一般耕うん</td><td>  </td></tr>
<tr><td>深起こし</td><td>  </td></tr>
<tr><td>ミックス
コントロール
(軟弱他)</td><td>任意の位置</td><td>作業機の最下位置を
油圧(ポジション)
レバーで決める</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オート
ドラフト
［切］</td><td>浅起こし</td><td rowspan="3">操作不要</td><td rowspan="3">［ドラフト］用
スイッチ
ランプ
消灯位置</td><td rowspan="3">［水平, 傾斜地］
用スイッチ
ランプ
消灯位置</td><td rowspan="3">任意の角度に
作業機を傾斜
させる</td><td>
［最下位置］
耕深はトップリンク
と作業機のゲージ輪
で調節する
作業機の機構に
よっては油圧レバーで
耕深を調節する
ものもあります。</td></tr>
<tr><td>一般耕うん</td></tr>
<tr><td>深起こし</td></tr>
</table>

補　足

＊ トップリンク取付位置により，ドラフト感度を調整することができ，トップリンクブラケットの上穴を使用するほど感度が敏感となります。

インプルメントの大きさの上限について

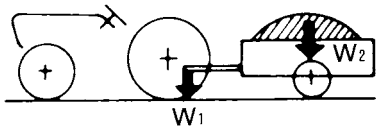
注 意

＊ トラクタの後部にインプルメントを装着する場合，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。前車軸にかかる重量は総重量の 20％以上になるようにしてください。それ以下になると，前輪のステアリング操作が難しくなったり，前が浮いて転倒事故につながる場合があります。

トラクタに装着するインプルメントは適正な大きさのものを使用してください。大きすぎるインプルメントの使用はトラクタの故障につながります。特にトレーラについては下表にもとづいて適正なインプルメントを選択してください。

インプルメントの大きさの上限

	けん引ヒッチ又はドローバにかけることができる最大の重量 W1	使用可能なトレーラの最大積載荷重 W2
KL31Z(H・-PC)・34Z(H)	500kg	1500kg
KL37Z(H)・40Z(H)・44Z(H)・48ZH・53ZH・58ZH(-PC)	650kg	2000kg



1AGACBAAP291A

検査成績表

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成24年度 農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ44ZC

合格番号：212022

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ KL44ZC　クボタ KL40ZC　クボタ KL37ZC

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ KL44ZC
■種類		：	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	1815
■軸距	mm	：	1890
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	32.4{44}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	150.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	103.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	87.0 cm
	（下部）	：	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	138.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	46.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	228.0 cm
■キャブの全幅		：	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	39.0 cm

※1．クボタ KL44ZC（タイヤサイズ：前輪 8-18 4PR 後輪 13.6-26 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの認証型式：しげる工業，T3630-47711C
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKM 11 A，STKR 400，SGD 400-D，SS 400，SPHC，SPLY，SPCE，SPHE，SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量		：	1815 kg
■所要吸収エネルギー	後部負荷	：	2.54 kJ {259 kgf·m}
	側部負荷		3.18 kJ {324 kgf·m}
■圧壊力		：	36.30 kN {3702 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側	1.0 cm	左側	9.0 cm
■前部（前方へ）	：	右側	1.5 cm	左側	9.0 cm
■側部（左側方へ）	：	前部	7.0 cm	後部	13.5 cm
■上部（下方へ）	：	前部 右側	-0.5 cm	左側	2.5 cm
	：	後部 右側	1.0 cm	左側	0.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.5 cm

2．騒音 ※
■79.0 dB(A) [クボタ KL44ZC]
※7.5km/hに近い速度で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本キャブは，既合格機（合格番号 211004）であり，装着トラクター1型式（クボタ KL37ZC）の追加にともなって受検したものである。強度試験については，元の型式検査の試験成績を転用した。
本成績表のⅡの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度 農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ44ZF

合格番号：211005

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名
クボタ KL44ZF　クボタ KL40ZF

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ KL44ZF
■種類		：	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	1760
■軸距	mm	：	1890
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	32.4{44}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備
シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	150.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	103.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	87.0 cm
	（下部）	：	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	138.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	46.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	228.0 cm
■キャブの全幅		：	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	39.0 cm

※1．クボタ KL44ZF（タイヤサイズ：前輪 8-18 4PR 後輪 13.6-26 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの認証型式：しげる工業，T3630-47711C
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STKM 11 A，STKR 400，SGD 400-D，SS 400，SPHC，SPLY，SPCE，SPHE，SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量		：	1760 kg
■所要吸収エネルギー	後部負荷	：	2.46 kJ {251 kgf·m}
	側部負荷		3.08 kJ {314 kgf·m}
■圧壊力		：	35.20 kN {3589 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側	1.0 cm	左側	8.0 cm
■前部（前方へ）	：	右側	1.0 cm	左側	8.0 cm
■側部（左側方へ）	：	前部	7.5 cm	後部	13.0 cm
■上部（下方へ）	：	前部 右側	-0.5 cm	左側	2.0 cm
	：	後部 右側	0.5 cm	左側	0.0 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 11.5 cm

2．騒音 ※
■78.5 dB(A) [クボタ KL44ZF]
※7.5km/hに近い速度で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本フレームは，任意鑑定受験機（平22任鑑26号，コード1）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。
本成績表のⅡの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度 農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ58ZC

合格番号：211006

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL58ZC　　クボタ KL53ZC　　クボタ KL48ZC

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名			クボタ KL58ZC
■種類			4輪駆動
■質量（キャブ付き）		kg	1925
■軸距		mm	1940
■機関出力/回転速度	kW[PS]/rpm		42.7[58]/2700

II 構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		:	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		:	150.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		:	99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		:	102.5 cm
■戸口の幅	（上部）	:	66.0 cm
	（中部）	:	87.0 cm
	（下部）	:	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	:	138.5 cm
■最低位ステップの高さ		:	49.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	:	230.5 cm
■キャブの全幅		:	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		:	39.5 cm

※1．クボタ KL58ZC（タイヤサイズ：前輪8-20 4PR 後輪13.6-28 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの識別型式：しげる工業 T3630-97711(G)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム：STKM 11 A, STKR 400, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPLY, SPCE, SPHE, SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

III 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量		1925 kg
■所要吸収エネルギー	後部負荷	2.70 kJ {275 kgf·m}
	側部負荷	3.37 kJ {344 kgf·m}
■圧壊力		38.50 kN {3926 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：右側	1.5 cm	左側	10.0 cm
■前部（前方へ）	：右側	2.0 cm	左側	10.0 cm
■側部（左側方へ）	：前部	8.0 cm	後部	14.0 cm
■上部（下方へ）	：前部 右側	0.5 cm	左側	2.5 cm
	：後部 右側	1.0 cm	左側	0.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：11.5 cm

2．騒音※

■79.5 dB(A)［クボタ KL58ZC］

※7.5m/hに近い速度で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

IV 付記

本フレームは，任意鑑定受験機（平22任鑑27号，コードI）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

本成績表のIIの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度 農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ58ZF

合格番号：211007

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

I 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL58ZF　　クボタ KL53ZF　　クボタ KL48ZF

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名			クボタ KL58ZF
■種類			4輪駆動
■質量（キャブ付き）		kg	1860
■軸距		mm	1940
■機関出力/回転速度	kW[PS]/rpm		42.7[58]/2700

II 構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		:	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		:	150.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		:	99.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		:	102.5 cm
■戸口の幅	（上部）	:	66.0 cm
	（中部）	:	87.0 cm
	（下部）	:	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	:	138.5 cm
■最低位ステップの高さ		:	49.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	:	230.5 cm
■キャブの全幅		:	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		:	40.0 cm

※1．クボタ KL58ZF（タイヤサイズ：前輪8.3-20 4PR 後輪13.6-28 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの識別型式：しげる工業 T3630-97711(G)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム：STKM 11 A, STKR 400, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPLY, SPCE, SPHE, SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

III 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量		1860 kg
■所要吸収エネルギー	後部負荷	2.60 kJ {265 kgf·m}
	側部負荷	3.26 kJ {332 kgf·m}
■圧壊力		37.20 kN {3793 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：右側	1.5 cm	左側	8.5 cm
■前部（前方へ）	：右側	1.5 cm	左側	8.5 cm
■側部（左側方へ）	：前部	8.0 cm	後部	11.0 cm
■上部（下方へ）	：前部 右側	−0.5 cm	左側	2.5 cm
	：後部 右側	1.0 cm	左側	0.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：11.0 cm

2．騒音※

■81.0 dB(A)［クボタ KL58ZF］

※7.5km/hに近い速度で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

IV 付記

本フレームは，任意鑑定受験機（平22任鑑28号，コードI）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

本成績表のIIの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSF41

合格番号：211008

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ L465HD	クボタ KL442F	クボタ KL435H	クボタ KL435G
クボタ KL415H	クボタ KL415	クボタ KL410H	クボタ KL41H
クボタ KL402F	クボタ KL395H	クボタ KL395G	クボタ KL385H
クボタ KL385	クボタ KL380H	クボタ KL38H	

2．主要諸元（最大トラクター）
- 型式名：クボタ L465HD
- 種類：4輪駆動
- 質量（フレーム付き）：1550 kg
- 軸距：1890 mm
- 機関出力/回転速度：33.8[46]/2700 kW[PS]/rpm

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（2点式）

3．主要寸法　※
- 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ：119.0 cm
- フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ：158.5 cm
- 座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅：97.5 cm
- ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅：－ cm
- 戸口の幅（上部）：－ cm
  （中部）：－ cm
  （下部）：－ cm
- 戸口の高さ（フートプレートから）：－ cm
- 最低位ステップの高さ：47.0 cm
- フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）：232.0 cm
- フレームの全幅（フェンダーを含む）：119.0 cm
- 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離：34.5 cm

※1．クボタ L465HD（タイヤサイズ：前輪 8-18 4PR 後輪 13.6-28 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの脱着型式：しげる工業，T1060-47712
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調整。

4．主要材料
- 主フレーム：STKR 400, STK 400, SS 400, SPLY, SPCC, SPHC, SPHE, SPCE
- 装着ブラケット：SS 400
- 組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C, SGD 400-D

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，前部左側，側部左側に対して実施。
- 基準質量：1530 kg
- 基準軸距：1890 mm
- 所要吸収エネルギー：後部負荷 1.18 kJ {120 kgf·m}
  前部負荷 1.27 kJ {130 kgf·m}
  側部負荷 2.68 kJ {273 kgf·m}
- 圧壊力：30.60 kN {3120 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位
- 後部（前方へ）：右側 0.0 cm　左側 −2.5 cm
- 側部（右側方へ）：16.0 cm
- 上部（下方へ）：右側 2.0 cm　左側 −1.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：10.5 cm

2．騒音 ※
- 90.5 dB(A) ［クボタ L465HD］

※7.5km/hに近い速度で，けん引装置をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 209018）であり，装着トラクター2型式（クボタ KL44ZF，クボタ KL40ZF）の追加にともなって受検したものである。強度試験については，元の型式検査の試験成績を転用した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSF50

合格番号：211009

種　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL532F	クボタ KL530H	クボタ KL505H	クボタ KL500H
クボタ KL501H	クボタ KL482F	クボタ KL475OH	クボタ KL465H
クボタ KL460H	クボタ KL46H		

2．主要諸元（最大トラクター）
- 型式名：クボタ KL532F
- 種類：4輪駆動
- 質量（フレーム付き）：1650 kg
- 軸距：1940 mm
- 機関出力/回転速度：39.0[53]/2600 kW[PS]/rpm

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（2点式）

3．主要寸法　※
- 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ：118.0 cm
- フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ：158.0 cm
- 座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅：97.5 cm
- ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅：－ cm
- 戸口の幅（上部）：－ cm
  （中部）：－ cm
  （下部）：－ cm
- 戸口の高さ（フートプレートから）：－ cm
- 最低位ステップの高さ：52.0 cm
- フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）：237.0 cm
- フレームの全幅（フェンダーを含む）：118.5 cm
- 座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離：35.0 cm

※1．クボタ KL532F（タイヤサイズ：前輪 8.3-20 4PR 後輪 13.6-28 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの脱着型式：しげる工業，T3630-47711(D)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調整。

4．主要材料
- 主フレーム：STKR 400, STK 400, SS 400, SPHC, SPHE, SPCC, SPCE, SPLY, SGD 400-D
- 装着ブラケット：SS 400
- 組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C, SGD 400-D

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，前部左側，側部左側に対して実施。
- 基準質量：1630 kg
- 基準軸距：1940 mm
- 所要吸収エネルギー：後部負荷 1.33 kJ {135 kgf·m}
  前部負荷 1.32 kJ {135 kgf·m}
  側部負荷 2.85 kJ {291 kgf·m}
- 圧壊力：32.60 kN {3324 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位
- 後部（前方へ）：右側 −1.0 cm　左側 −2.0 cm
- 側部（右側方へ）：17.0 cm
- 上部（下方へ）：右側 3.0 cm　左側 0.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：11.0 cm

2．騒音 ※
- 87.0 dB(A) ［クボタ KL537F］

※7.5km/hに近い速度で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本フレームは，既合格機（合格番号 209019）であり，装着トラクター2型式（クボタ KL537F，クボタ KL482F）の追加にともなって受検したものである。強度試験については，元の型式検査の試験成績を転用した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成24年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ58ZC-PC

合格番号：212023

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL58ZC-PC　クボタ KL53ZC-PC　クボタ KL48ZC-PC　クボタ KL44ZC-PC
クボタ KL40ZC-PC　クボタ KL37ZC-PC　クボタ KL31ZC-PC

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ KL58ZC-PC
■種類		：	半装軌式
■質量（キャブ付き）	kg	：	2145
■軸距	mm	：	1920
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	42.7{58}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部，プレーキケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	103.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	150.5 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	100.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	102.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	87.0 cm
	（下部）	：	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	138.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	52.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	234.5 cm
■キャブの全幅		：	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	38.0 cm

※1．クボタ KL582C-PC（タイヤサイズ：前輪 8.3-20 4PR　履帯 400W×42L×90P）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：しげる工業，T3630-47711(C)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム：STKM 11 A, STKR 400, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPLY, SPCE, SPHE, SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量	：	2140 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷 3.00 kJ {306 kgf·m}
		側部負荷 3.75 kJ {382 kgf·m}
■圧壊力	：	42.80 kN {4364 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側 2.5 cm	左側	10.0 cm
■前部（前方へ）	：	右側 3.0 cm	左側	10.5 cm
■側部（左側方へ）	：	前部 12.0 cm	後部	14.5 cm
■上部（下方へ）	：	前部 右側 1.5 cm	左側	2.5 cm
		後部 右側 0.0 cm	左側	2.0 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 13.0 cm

2．騒音 ※

■79.0 dB(A) ［クボタ KL582C-PC］

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本キャブは，既合格機（合格番号 212015）であり，装着トラクター1型式（クボタ KL37ZC-PC）の追加にともなって受検したものである。強度試験については，元の型式検査の試験成績を転用した。
本成績表のⅡの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成23年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ58ZF-PC

合格番号：211017

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL532F-PC　クボタ KL482F-PC　クボタ KL447F-PC　クボタ KL402F-PC

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ KL532F-PC
■種類		：	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	2085
■軸距	mm	：	1920
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	39.0{53}/2600

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部，プレーキケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	150.5 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	100.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	102.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	87.0 cm
	（下部）	：	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	138.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	52.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	234.5 cm
■キャブの全幅		：	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	37.5 cm

※1．クボタ KL532F-PC（タイヤサイズ：前輪 8.3-20 4PR　履帯 400W×42L×90P）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：しげる工業，T3630-47711(C)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム：STKM 11 A, STKR 400, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPLY, SPCE, SPHE, SPCC
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S 40 C～S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量	：	2080 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷 2.91 kJ {297 kgf·m}
		側部負荷 3.64 kJ {371 kgf·m}
■圧壊力	：	41.60 kN {4242 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側 2.5 cm	左側	9.5 cm
■前部（前方へ）	：	右側 3.0 cm	左側	9.5 cm
■側部（左側方へ）	：	前部 11.0 cm	後部	15.5 cm
■上部（下方へ）	：	前部 右側 0.5 cm	左側	3.5 cm
		後部 右側 0.0 cm	左側	1.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 13.0 cm

2．騒音 ※

■81.0 dB(A) ［クボタ KL532F-PC］

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付記

本フレームは，任意認定受験機（平23任鑑5号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意認定の試験成績を転用した。
本成績表のⅡの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

付表

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成24年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ KSQ34ZC

合格番号：212014

種　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社 クボタ
住　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型式名

クボタ KL342C　　クボタ KL31ZC

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名			クボタ KL342C
■種類			4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	1650
■軸距	mm	：	1805
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	25.0 {34}/2700

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部，ブレーキケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

2．主な装備

シートベルト（2点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	102.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	149.5 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	98.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	104.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	66.0 cm
	（中部）	：	87.0 cm
	（下部）	：	32.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	138.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	41.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	222.5 cm
■キャブの全幅		：	131.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	39.0 cm

※1．クボタ KL342C（タイヤサイズ：前輪 9-16 4PR 後輪 13.6-24 4PR）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：しげる工業，T3630-47711(C)
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料

■主フレーム	： STKM 11 A, STKR 400, SGD 400-D, SS 400, SPHC, SPLY, SPCE, SPHE, SPCC
■装着ブラケット	： SS 400
■組立・装着ボルト	： S 40 C～S 45 C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量	：	1650 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷　2.31 kJ {236 kgf·m}
		側部負荷　2.89 kJ {295 kgf·m}
■圧壊力	：	33.00 kN {3365 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側	1.0 cm	左側	8.0 cm
■前部（前方へ）	：	右側	1.5 cm	左側	8.0 cm
■側部（左側方へ）	：	前部	7.5 cm	後部	11.5 cm
■上部（下方へ）	：	前部 右側	0.0 cm	左側	2.0 cm
	：	後部 右側	0.0 cm	左側	0.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差　：　11.5 cm

2．騒音　※

■77.0 dB(A)　[クボタ KL342C]

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付記

本キャブは，任意鑑定受験機（平24任鑑5号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

本成績表のⅡの3．主要寸法における座席基準点は，平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

索引

英数字

100 時間ごとの点検・整備 125
1500 時間ごとの点検・整備 142
１年ごとの点検・整備 142
200 時間ごとの点検・整備 130
２年ごとの点検・整備 143
30 時間ごとの点検・整備 119
3000 時間ごとの点検・整備 142
300 時間ごとの点検・整備 139
3P 切換スイッチ［MA・MAD 仕様］ 61
3P 切換スイッチ［MAD 仕様］ 70
三点リンク 72
三点リンク高さ規制ダイヤル 54
400 時間ごとの点検・整備 139
50 時間ごとの点検・整備 120
600 時間ごとの点検・整備 142
800 時間ごとの点検・整備 142
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ 93
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置 160
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方 98
CD を聴くには 96
PTO 78
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 80
PTO 変速レバー 80

あ行

アクセルレバーとアクセルペダル 31
アタッチメント一覧表 175
あんしん PTO スイッチ 78
安全キャブ・安全フレームとシートベルト .. 14
アンテナ 98
イージーチェッカ 46
一般的な耕うん要領 85
インジェクタの点検 142
インプルメント一覧表 178
インプルメントの大きさの上限について 185
インプルメントの装着 99
インプルメント用操作ボックスの取付 99
ウインカスイッチ 16
ウエイト（オプション） 84
ウォッシャ液の補充 148
運転席周りの調節 13
運転中の作動確認 46
運転前の点検 5
運転免許 4
エアクリーナエレメントの交換 142
エアクリーナエレメントの清掃 128
エアコンコンデンサの詰まり 137
エアコンベルトの張り 137
エアコン配管，ホースの点検 142
液晶表示 38
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 129
エンジンオイル・ミッションオイル 106
エンジンオイルの交換［KL31Z(H) ～ 34Z(H)］ 125
エンジンオイルの交換［KL40Z(H) ～ 58ZH］. 130
エンジンオイルの量及び汚れ 109
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 131
エンジンの始動と停止 5
エンジンの始動確認 116
エンジンの排気の状態 116
エンジンの不調と処置 153
エンジンバルブクリアランスの点検 142
エンジン回転計 47
エンジン始動システムの点検 122
オイルクーラホースの交換 145
オイルクーラホースの点検 132
オートアップスイッチ 56
オートエアコン 90
オートスイッチ 69
オートスイッチ［MAD 仕様］ 66
オートスイッチ［MA 仕様］ 65
オートドラフト［MAD 仕様］ 68
オートドラフトコントロールによる作業要領［MAD 仕様］ 184
オートワイヤ 73
お問合わせ（AM/FM ラジオ付 CD プレーヤ）.. 98
主な消耗部品一覧表 172

か行

外気フィルタの清掃 136
外部電源・信号取出端子 18
外部電源取出端子 18
格納 151
各部の名称［MA・MAD 仕様］ 59
各部の名称［MAD 仕様］ 68
各部の名称 72
カンタン給油台の使い方 117
寒冷時のワイパの使用 89
寒冷時の暖機運転 12
吸気ホースの交換 144
吸気ホースの点検 133
給油（水）一覧表 105
共通部の操作のしかた（AM/FM ラジオ付 CD プレーヤ） 93
切換スイッチ［MA・MAD 仕様］ 64
切換スイッチ［MAD 仕様］ 71
空気の流れ 90
クォータウインド 87
クラッチハウジングの水抜き 123
クラッチペダル 24
クラッチペダルの点検・調整 129
クラッチペダルの遊び・点検 114
グリース 106
グリースの注入（30 時間ごと） 119

グリースの注入（50 時間ごと）..... 120
クリープレバー..... 28
けん引ヒッチ（別売）..... 77
けん引フック..... 77
検査成績表..... 186
耕深調節ダイヤル［MA・MAD 仕様］..... 66
耕深調節ダイヤル［MAD 仕様］..... 70
後輪..... 81
後輪ウエイト（オプション）..... 84
後輪輪距..... 82
小型特殊自動車としての取扱い..... 4
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け..... 4
ご相談窓口..... 1
ゴムクローラの交換手順..... 151
ゴムクローラの張り調整..... 119
コントロールパネル..... 91

さ行

サービスと保証..... 1
サイドカバーの取り外し..... 108
坂道での運転..... 48
作業機の取扱い..... 67
作業機落下速度の調整..... 58
作業機を取付けないときの注意..... 76
作業機昇降装置..... 54
作業機落下速度の調整..... 58
作業ごとの一般的な調整要領..... 182
作業条件メモ..... 45
作業灯..... 89
作業灯スイッチ..... 89
サプライポンプの点検..... 142
サンバイザ..... 89
シート..... 13
時刻合わせと表示・非表示の設定..... 45
室内エアフィルタの清掃..... 136
始動のしかた..... 6
シャトルレバー..... 28
車幅灯・尾灯..... 18
主変速レバー［デュアルシフト仕様］..... 25
主変速レバー［U シフト仕様］..... 25
主要諸元..... 161
省エネ運転のしかた..... 33
省エネ運転操作［デュアルシフト仕様(KL31Z(H) ～ 34Z(H))］..... 35
省エネ運転操作［デュアルシフト仕様(KL40Z(H) ～ 58ZH)］..... 34
省エネ運転操作［U シフト仕様］..... 36
状況に応じた操作..... 48
水温計..... 47
推奨オイル・グリース一覧表..... 106
ステアリングジョイント部の点検..... 134
スプロケットの交換手順..... 150
スローブローヒューズの交換..... 147
セパレータの水の排出..... 111
セパレータの清掃..... 141
旋回のしかた..... 48
センサリンク取付要領..... 181
前日の異常箇所..... 109
前車軸ケースオイルの交換..... 139
洗車時の注意..... 100
前部ウエイト（オプション）..... 84
前部デフケース前後遊びの調整..... 142
前輪..... 81
走行モード切換スイッチ..... 29
走行速度表..... 167
その他のアクセサリ..... 89
損害賠償保険について..... 4

た行

ターボチャージャの点検..... 142
タイヤ..... 81
タイヤの空気圧..... 81
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷..... 112
タイヤ取付けボルトの点検..... 122
チェックチェーン..... 76
駐車ブレーキ..... 31
駐車ブレーキの作動点検..... 114
注油..... 148
長期格納後の運転..... 152
長期格納時の手入れ..... 151
チルトステアリングハンドル..... 15
定期点検箇所一覧表..... 102
停止のしかた..... 11
停車・駐車..... 32
デフロックの使い方..... 48
電子メータ..... 37
電子メータパネル..... 37
電子メータパネル（その他表示）..... 43
電子メータメッセージのリセット法..... 42
転輪・遊輪のオイルシール点検..... 138
ドア..... 86
ドア・窓の開閉とロック..... 86
灯火類の操作..... 16
道路走行中の注意..... 49
トーイン調整・タイロッドの点検..... 135
トップリンク..... 75
トラクタの給油（水）..... 105
トラクタの故障と処置..... 155
トラクタの主要諸元..... 161
トラクタの周りを歩いて..... 109
トラクタの方向転換のしかた..... 85
トラックへの積み・降ろし..... 50
ドラフトストッパピン..... 69
トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換..... 134
取扱い上の注意(AM/FM ラジオ付 CD プレーヤ)..... 97

取扱説明書の収納 2
トレーラカプラ電源 19

な行

ならし運転（最初の約 50 時間） 13
日常点検 109
日常点検［パワクロ仕様］ 118
燃料給油時の便利な機能と装置 117
燃料計 47
燃料の空気抜きのしかた
［KL31Z(H) ～ 34Z(H)］ 145
燃料の空気抜きのしかた
［KL40Z(H) ～ 58ZH］ 146
燃料の補給 116
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 141
燃料フィルタカートリッジの交換 140
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 111
燃料ホースの交換 145
燃料ホースの点検 123

は行

廃棄物の処理について 100
バキュエータバルブの清掃 111
ハザードスイッチ 17
バックアップスイッチ 57
バックミラー 16
バックランプ 18
発進・走行 19
発進・走行手順［U シフト仕様］ 22
発進・走行手順［デュアルシフト仕様］ 20
バッテリあがりの処置 12
バッテリ電解液の点検 126
パワーステアリングの取扱い 51
パワーステアリングホースの交換 144
パワーステアリングホースの点検 123
パワクロ仕様足回り交換部品一覧表 174
パワクロ仕様の運転のしかた 52
ヒータ使用上の注意 92
ヒータ配管，ウォータホースの点検 142
必要に応じた点検・整備 145
一うねおき耕うんのしかた 85
ヒューズの交換 147
表示の切換え（液晶表示部） 41
標準付属品 171
ファンベルトの点検・調整 128
風向調整 91
副変速レバー 27
不調と処置 153
ブレーキペダル 24
ブレーキペダルの点検・調整 129
ブレーキペダルの遊び・点検 114
ブレーキランプ 18
フロントカバーの取り外し 108
フロントサイド作業灯 17
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 88
ヘッドライトスイッチ 16
ヘッドランプの交換 147
防虫網の清掃 113
ホーンボタン 17
ホーン接点のグリース塗布 148
補修用部品の供給年限について 2
ほ場への出入り時の注意 48
ボンネットの開閉 107
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 107
ポンパレバー 55

ま行

満タンお知らせブザーの取扱い 117
ミッションオイルの交換 139
ミッションオイルの量及び汚れ 110
メインシリンダホースの交換 145
メータ・ランプ類の作動 115
メータパネル表示 33
メンテナンス表示 44
モンローシリンダホースの交換 145
モンローマチックオート［MA・MAD 仕様］.... 59
モンロー外部操作スイッチ 75
モンロスイッチ［MA・MAD 仕様］ 62
モンロスイッチ［MAD 仕様］ 70
モンロ角度調節ダイヤル［MA・MAD 仕様］.... 65
モンロ角度調節ダイヤル［MAD 仕様］ 71
モンロ手動スイッチ［MA・MAD 仕様］ 67
モンロ手動スイッチ［MAD 仕様］ 69

や行

油圧（ポジションコントロール）レバー 54
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 133

ら行

ラジエータの洗浄 144
ラジエータホースの交換 144
ラジエータホースの点検 132
ラジオを聴くには 95
ランプ一覧 148
リヤウインド 87
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 88
輪距の調整 81
隣接耕うんのしかた 85
ルームミラー 90
ルームランプ 88
冷却水の交換 143
冷却水の量 110
冷媒（ガス）量の点検 149
ロアーリンク取付け穴の選択
［KL31Z(H) ～ 34Z(H)］ 73

ロアーリンク取付け穴の選択
[KL40Z(H) ～ 58ZH] 74
ローダ作業 53

わ行

ワイパ 88
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの
点検・交換 112
ワンタッチ耕うんモードスイッチ
[MA・MAD 仕様] 60
ワンタッチ耕うんモードスイッチ [MAD 仕様] 71

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田事務所：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182-1
東京事務所：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市桜区西堀５-２-36
新潟事務所：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956-1
名古屋事務所：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町１-１
大阪事務所：電(06)6470-5850　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜１-１-１
岡山事務所：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘１-７-３
熊本事務所：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市南区富合町廻江846-1
株式会社北海道クボタ本社：電(011)661-2491　〒063-0061　北海道札幌市西区西町北16-１-１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64

KL シリーズ
AT. G. 7-8. 5 . K

Kubota

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　T3838-1920-5